

科 目 名	健康管理論		担当教員名	塚原 高広		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	食品衛生：科目 B
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 医療の分野において、傷病者に対する療養のために必要な臨床栄養管理を行う力および食事療法の実践を行うために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	<p>本学の健康サポートセンター長・学校医として、学校保健、産業保健に関する実務経験がある。国際協力機構（JICA）の専門家として開発途上国における感染症対策に関する活動経験がある。</p>					
学習到達目標	<p>健康の概念、健康を規定する要因、健康に関する統計データ、健康管理に関する制度・法規の基礎が理解できる。</p>					
授業の概要	<p>管理栄養士として求められる必要最小限の「社会・環境と健康」分野に関する基礎的な知識と、専門職として求められる健康管理についてのリテラシーを養うことを目的とする。前半では、健康管理活動に必要な基本的な概念や手法を学ぶ。後半では、具体的なテーマに沿った健康管理対策について、統計、法規、制度の側面から歴史と現状を理解することを目指す。すでに公衆衛生学で学修した内容と関連しているが、とくに健康管理計画の策定、数量的データの分析、評価について重点的に学ぶ。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 健康・公衆衛生の概念</li> <li>2 環境と健康・国際保健</li> <li>3 疫学・統計学 1</li> <li>4 疫学・統計学 2</li> <li>5 疫学・統計学 3</li> <li>6 人口静態統計・保健統計指標</li> <li>7 生活習慣の現状と対策 1</li> <li>8 生活習慣の現状と対策 2</li> <li>9 主要疾患の疫学と予防対策 1</li> <li>10 主要疾患の疫学と予防対策 2・地域の保健予防システム</li> <li>11 社会保障制度</li> <li>12 高齢者・成人の健康管理</li> <li>13 母子の健康管理</li> <li>14 学校の健康管理</li> <li>15 職場の健康管理</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	該当する学修項目について、1 年次に使用した公衆衛生学の教科書を再読して知識を確認しておくこと。			90 分	
	復習	健康管理論の教科書を通読して知識を整理しておくこと。			90 分	
授業の留意点	<p>公衆衛生学、保健医療福祉連携論、臨床医学など関連科目の内容との関連を考えながら学修すること。理解できない部分については講義後やムードルで質問すること。</p>					
学生に対する評価	<p>定期試験（100 点）により評価する。定期試験の成績が不良の場合、課題の提出状況を最終評価に加える場合がある。</p>					
教科書（購入必須）	<p>尾島俊之・堤明純編『基礎から学ぶ健康管理概論 改訂第 5 版』南江堂（2020 年） 清水忠彦・佐藤拓代編『わかりやすい公衆衛生学 第 4 版』ヌーベルヒロカワ 1 年次に購入済みのもの 厚生統計協会編『厚生指標・国民衛生の動向』厚生統計協会 1 年次に購入済みのもの</p>					
参考書（購入任意）	<p>辻一郎・吉池信男編『社会・環境と健康 改訂第 6 版』南江堂</p>					

科 目 名	健康管理論実習		担当教員名	塚原 高広		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	食品衛生：科目B
対応するディプロマ・ポリシー	1. 医療の分野において、傷病者に対する療養のために必要な臨床栄養管理を行う力および食事療法の実践を行うために必要な力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	本学の健康サポートセンター長・学校医として、学校保健、産業保健に関する実務経験がある。国際協力機構（JICA）の専門家として開発途上国における感染症対策に関する活動経験がある。					
学 習 到 達 目 標	具体的な健康情報に基づいて、行動変容プログラムを組み立てることができる。 健康に関する実際の数値データを統計ソフトを使って分析し、得られた結果を解釈できる。					
授 業 の 概 要	ヒトの健康を観察し、改善を図るために必要な手法を学ぶことがこの実習の目的である。 前半：グループで行動変容プログラムを作成することを目的とする。個別のプロフィールを持つ健康に問題のある対象者について実行可能な行動変容プログラムを立案し、口頭発表（ロールプレイを含む）を行う。 後半：専門職として健康情報から対象の健康課題を科学的に把握する手法を習得する。まず、EasyR（EZR）というフリー統計ソフトの使い方を習得するとともに、統計学の基本的手法に関する知識を学ぶ。さらに、公開されている健康に関する既存データから自らテーマを抽出し、分析および考察を行いレポートを作成する。					
授 業 の 計 画	1 グループワーク 1：行動療法（イントロダクション） 2 グループワーク 2：行動療法（行動技法） 3 グループワーク 3：行動療法（行動分析） 4 グループワーク 4：動機づけ面接（イントロダクション・開かれた質問・是認） 5 グループワーク 5：動機づけ面接（聞き返し・要約）・行動変容プログラムの発表準備 6 グループワーク 6：動機づけ面接（チェンジトーク）・行動変容プログラムの発表準備 7 グループワーク 7：行動変容プログラムの口頭発表 8 統計演習 1：データの要約 9 統計演習 2：比率の比較 10 統計演習 3：連続変数の比較（1） 11 統計演習 4：連続変数の比較（2）・相関と回帰（1） 12 統計演習 5：相関と回帰（2）・既存データの読み込み・データの要約 13 統計演習 6：レポートの説明・データ分析 14 統計演習 7：データ分析・統計レポート作成 15 統計演習 8：レポート作成・統計レポート提出					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の該当部分を読んでおくこと。			30分	
	復習	図書館の文献を利用するなどして、ディスカッションで出てきた不明な点を解決しておくこと。			30分	
授 業 の 留 意 点	前半はグループワークで作業をすすめるが、毎回、グループでディスカッションした内容をまとめて提出すること。解決できない点は次回の実習で教員に確認すること。後半の統計ソフトを使った演習では、毎回異なる課題に取り組むので、すべての例題を実際に自分で解くことが必要である。					
学 生 に 対 す る 価 値	提出物（グループ単位）25点（25%）、口頭発表（グループ単位）25点（25%）、統計レポート（個人単位）50点（50%）の合計点で評価する。					
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	新たに購入の必要はない。 前半：すでに購入済みの教科書（栄養教育論）を使用する。丸山千寿子、足達淑子、武見ゆかり編『栄養教育論 改訂第5版』南江堂（2021年） 後半：必要な資料をそのつど配布する。					
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	後半：神田善伸『初心者でもすぐにできるフリー統計ソフト EZR で誰でも簡単統計解析』南江堂（2015年）					

科 目 名	医学概論		担当教員名	塚原 高広		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 医療の分野において、傷病者に対する療養のために必要な臨床栄養管理を行う力および食事療法の実践を行うために必要な力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	大学病院（2年）、地域の基幹病院（3年）、クリニック・在宅医療（1年）の実務経験（臨床医）がある。					
学 習 到 達 目 標	生体としての人の解剖生理学的な仕組み、重要な疾病・障害の病態生理、症状、診断治療についての基礎的な医学的知識を習得し、医学的な説明ができることを目標とする。					
授 業 の 概 要	疾病について学ぶためには、正常の人体の構造と機能の理解が不可欠である。そのため、前半では人体の解剖生理の基本的な知識を学ぶ。後半では、前半で学んだ知識を応用して、疾病や障害の原因、発症機序、病態生理、症状・合併症、検査・診断法、治療法について習得する。さらに、リハビリテーションの概要および国際生活機能分類を理解する。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ライフステージにおける心身の特徴</li> <li>2 心身の加齢・老化、ライフステージ別の健康課題</li> <li>3 健康と疾病の概念、捉え方、国際生活機能分類、身体構造と心身機能（1）器官</li> <li>4 身体構造と心身機能（2）体液、循環器</li> <li>5 身体構造と心身機能（3）泌尿器・呼吸器</li> <li>6 身体構造と心身の機能（4）消化器・神経</li> <li>7 身体構造と心身の機能（5）内分泌・生殖器</li> <li>8 身体構造と心身の機能（6）筋・骨格・皮膚</li> <li>9 身体構造と心身機能（7）免疫・感覚器</li> <li>10 疾病と障害（1）疾病の発生原因と成立機序・リハビリテーション、感染症</li> <li>11 疾病と障害（2）神経疾患、脳血管疾患、心疾患</li> <li>12 疾病と障害（3）内分泌・代謝疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患</li> <li>13 疾病と障害（4）消化器疾患、骨・関節疾患、血液疾患</li> <li>14 疾病と障害（5）免疫・アレルギー疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患、口腔疾患、産婦人科疾患</li> <li>15 疾病と障害（6）精神疾患、小児疾患、高齢者疾患、緩和ケア</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の該当部分を読んでおくこと。			90分	
	復習	構造と機能の関連に注意しながら配布資料を通読し、理解できない部分をはっきりさせること。復習の際は、図書館での参考書や関連図書の利用を勧める。			90分	
授 業 の 留 意 点	教科書、参考書、講義資料を中心に授業を進める。復習しても理解できない部分は、次回の講義やムードルで担当教員に質問すること。					
学 生 に 対 す る 価 値	定期試験（100点）により評価する。 定期試験の成績が不良の場合には、課題の提出状況と内容を最終評価に加える場合がある。					
教 科 書 （購入必須）	社会福祉士養成講座編集委員会編『医学概論』中央法規出版（2021年）					
参 考 書 （購入任意）	エレイン N. マリーブ『人体の構造と機能 第4版』医学書院（2015年）					

科 目 名	病理学		担当教員名	塚原 高広		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	食品衛生：科目B
対応するディプロマ・ポリシー	1. 医療の分野において、傷病者に対する療養のために必要な臨床栄養管理を行う力および食事療法の実践を行うために必要な力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	大学病院（2年）、地域の基幹病院（3年）、クリニック・在宅医療（1年）の実務経験（臨床医）がある。					
学習到達目標	人体の構造と機能についての知識（生理学、解剖学、生化学）をベースに、人はなぜ、どのように病を得、老い、死に至るかの過程を医学用語で説明できる。					
授業の概要	病理学で学ぶ事項は、臨床医学、臨床栄養学を学修する際に必要不可欠な内容を含んでいる。病理学の総論を学び、病気になるメカニズムや過程について全体的な概念を理解することが重要である。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 病気、老化、死</li> <li>2 細胞障害・再生</li> <li>3 炎症</li> <li>4 免疫</li> <li>5 循環障害</li> <li>6 先天異常・遺伝性疾患</li> <li>7 感染症</li> <li>8 環境因子・栄養</li> <li>9 腫瘍（1）：腫瘍の名称・形態・種類・増殖</li> <li>10 腫瘍（2）：病態・病期・原因・メカニズム</li> <li>11 生活習慣病</li> <li>12 難治性炎症性疾患</li> <li>13 代謝性疾患</li> <li>14 老年症候群</li> <li>15 様々な臓器の疾患と病態</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の各章の最後にある「まとめ」を読み、わからない部分は本文の該当部分を探して読んでおくこと。			90分	
	復習	配布資料を参考にしながら教科書を通読し、理解できない部分がないか確認すること。			90分	
授業の留意点	教科書を中心に授業を進める。これまで学んだ生理学、解剖学、生化学をベースに説明するので、これらの科目の教科書や配布資料も参考にすること。復習しても理解できない部分は、次回の講義後またはムードルで質問すること。					
学生に対する評価	定期試験（100点）により評価する。 定期試験の成績が不良の場合には、課題の提出状況と内容を最終評価に加える場合がある。					
教科書（購入必須）	深山正久編『はじめの一步の病理学 第2版』羊土社（2017年）					
参考書（購入任意）	豊国伸哉・高橋雅英監訳『ロビンス基礎病理学』丸善出版 下正宗・長嶋洋治編『正常画像と比べてわかる病理学アトラス改訂版』羊土社					

科 目 名	感染微生物学		担当教員名	塚原 高広		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	食品衛生：科目A
対応するディプロマ・ポリシー	1. 医療の分野において、傷病者に対する療養のために必要な臨床栄養管理を行う力および食事療法の実践を行うために必要な力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	大学病院（2年）、地域の基幹病院（3年）、クリニック・在宅医療（1年）の実務経験（臨床医）がある。					
学習到達目標	感染とは何か、感染成立の3要素、検査、化学療法について説明できる。 感染制御、感染対策について説明できる。 主要な感染症について、原因となる病原体、感染経路、感染臓器、臨床経過、予防・治療法を説明できる。					
授業の概要	微生物学・感染症学の総論を学ぶことを重視し、将来どのような保健・福祉分野に進むにせよ必要な知識を習得する。各論では、臓器・器官別の感染症を理解することを中心とし、あわせて重要な病原体の性質について学ぶ。					
授業の計画	1 微生物総論 2 細菌総論 3 ウイルス総論 4 真菌・寄生虫総論 5 免疫とアレルギー 6 感染症総論 7 全身性ウイルス感染症・発熱性感染症 8 呼吸器感染症 9 消化器感染症・食中毒 10 血液媒介感染症・ウイルス性肝炎 11 尿路感染症・神経系感染症 12 皮膚・眼感染症 13 性感染症・高齢者の感染症・日和見感染症 14 その他の感染症 15 感染制御					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の該当部分を読んでおくこと。			90分	
	復習	配布資料や自分がとったノートを参考にして教科書を再読して知識を確認すること。			90分	
授業の留意点	教科書を中心に授業を進めるので、予習、復習を通じて必ず通読して欲しい。単に知識を暗記するのではなく、考え方を習得することを目指す。復習しても理解できない事項は、講義後やムードルで担当教員に質問すること。					
学生に対する評価	定期試験（100点）により評価する。 定期試験の成績が不良の場合には、課題の提出状況と内容を最終評価に加える場合がある。					
教科書（購入必須）	中野隆史編『看護学テキスト 微生物学・感染症学』南江堂（2020年）					
参考書（購入任意）	神谷茂監修『標準微生物学 第14版』医学書院 中込治著『ウォームアップ微生物学』医学書院					

科 目 名	薬理学		担当教員名	長多 好恵・山端 孝司		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	臨床において調剤、医薬品の供給その他薬事衛生に従事する薬剤師が薬の作用機序、薬物動態等薬物療法の基礎となるメカニズムを教授する科目					
学習到達目標	薬物治療の基礎となるメカニズムを理解する。					
授 業 の 概 要	総論では、薬の作用機序と生体内情報伝達、薬物動態、薬効に影響を与える各種の要因、薬の作用・副作用が現れる原理、アドヒアランスなどについて解説する。また、医薬品添付文書の読み方を習得するとともに関連する法律の概要を解説する。各論では実際の臨床治療で使われている各種薬物（自律神経作用薬、筋弛緩薬、麻酔薬、麻薬、向精神薬、抗てんかん薬、抗不安薬、抗うつ薬、パーキンソン症候群治療薬、解熱鎮痛薬、副腎皮質ステロイド、抗高血圧薬、狭心症治療薬、強心薬、抗不整脈薬、利尿薬、高脂血症治療薬、貧血治療薬、喘息治療薬、糖尿病治療薬、抗感染症薬、消毒薬、抗がん薬など）の作用および作用メカニズムと副作用について解説する。					
授 業 の 計 画	1 総論： アドヒアランス、医薬品医療機器等法、医薬品添付文書の読み方 2 総論： 薬の作用機序、薬物動態 3 各論： 末梢神経活動作用薬Ⅰ 4 各論： 末梢神経活動作用薬Ⅱ 5 各論： 中枢神経活動作用薬Ⅰ 6 各論： 中枢神経活動作用薬Ⅱ、免疫治療薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬 7 各論： 心・血管系に作用する薬物Ⅰ 8 各論： 心・血管系に作用する薬物Ⅱ、呼吸器に作用する薬物 9 各論： 高脂血症治療薬、貧血治療薬、血液凝固・線溶系に作用する薬物 10 各論： 消化器・生殖器に作用する薬物 11 各論： 物質代謝に作用する薬物 12 各論： 生物学的製剤、皮膚・眼科用薬 13 各論： 抗感染症薬 14 各論： 消毒薬、抗がん薬 15 各論： 生薬、漢方薬					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする。			90 分/回	
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する。			90 分/回	
授 業 の 留 意 点	生理学（人体機能学）、生化学、病態生理学（臨床治療学）、微生物学など関連科目の内容との関連を考えながら履修する。内容が膨大であるので、受講後必ずテキストや参考書を読む、図書館やインターネットで詳しく調べるなど復習をして、そのつど整理しておくこと。					
学 生 に 対 す る 評 価	筆記試験（マークシート方式、配点 100 点）により評価する。					
教 科 書 （購入必須）	吉岡充弘編『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学 第 14 版』医学書院（2021 年） 浦部晶夫ら編『今日の治療薬 2018』南江堂（2021 年）					
参 考 書 （購入任意）	MJ Neal、佐藤俊明訳『一目でわかる薬理学 第 5 版』メディカル・サイエンス・インターナショナル（2007 年） 鈴木正彦 パワーアップ問題演習 薬理学 新訂版 サイオ出版（2013 年）					

科 目 名	臨床医学		担当教員名	塚原 高広		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 医療の分野において、傷病者に対する療養のために必要な臨床栄養管理を行う力および食事療法の実践を行うために必要な力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	大学病院（2年）、地域の基幹病院（3年）、クリニック・在宅医療（1年）の実務経験（臨床医）がある。					
学習到達目標	主要な疾病の原因、病態生理、症状、診断治療の基礎的な医学知識を習得し、医学用語を使って説明できることを目標とする。					
授業の概要	管理栄養士として実地臨床で役割を果たすためには、各種疾病（管理栄養士国家試験出題基準に掲載されている疾病）の原因・発症機序、病態生理、症状・合併症、検査・診断法、治療法を理解しておく必要がある。とくに臨床栄養学、栄養管理、栄養指導を学ぶ際に必要不可欠な基礎的な医学的知識をこの講義で学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 診断のための身体診察と検査・疾患の治療</li> <li>2 栄養・代謝系疾患（1）栄養障害・糖尿病</li> <li>3 栄養・代謝系疾患（2）脂質異常症・肥満・高尿酸血症</li> <li>4 栄養・代謝系疾患（3）その他の代謝異常</li> <li>5 内分泌系疾患</li> <li>6 消化管疾患</li> <li>7 肝・胆・膵疾患</li> <li>8 循環器系疾患</li> <li>9 腎・尿路系疾患</li> <li>10 神経・精神系疾患</li> <li>11 呼吸器系疾患</li> <li>12 血液・造血器系疾患</li> <li>13 運動器（骨格系）疾患</li> <li>14 皮膚・免疫・アレルギー疾患</li> <li>15 婦人科・生殖器・その他の疾患</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	すでに学修した事項のうち、次回の講義内容で関連すると思われるものについて、予習の段階で再確認しておくこと。			90分	
	復習	配布資料や自分のノートを参考にしながら、教科書を通読して理解できない部分を明らかにしておくこと。			90分	
授業の留意点	これまで学んだ解剖学、生理学、病理学、感染微生物学の知識、とくに病理学の知識が重要である。まずはこれらの知識を再確認し、それでも理解できない部分があれば、次回の講義後またはモデルで質問すること。					
学生に対する評価	定期試験（100点）により評価する。定期試験の成績が不良の場合には、課題の提出状況と内容を最終評価に加える場合がある。					
教科書（購入必須）	田中明・宮坂京子・藤岡由夫編『栄養学科イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち 第3版』羊土社（2021年）					
参考書（購入任意）	羽生大記・河手久弥編『臨床医学 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち』南江堂（2019年）					

科 目 名	食品学総論		担当教員名	加藤 淳		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	食品衛生：科目A
対応するディプロマ・ポリシー	2. 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 3. 地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	これまでに約 30 年間にわたり、北海道立（平成 22 年 4 月より北海道立総合研究機構に改組）中央農業試験場、十勝農業試験場、道南農業試験場において、農産物の品質・調理加工適性・健康機能性に関する研究に携わってきた。そこで得られた知見を授業の中で紹介している。					
学習到達目標	「食品学総論」では次の 6 項目を学習到達目標とする。1. 食品の定義を説明できる。2. 食品成分表について、食品の分類、食品のエネルギー測定法、エネルギー換算係数等を説明できる。3. 食品の主要成分と嗜好成分について、種類、構造、性質を説明できる。4. 各種要因による食品成分の変化を説明できる。5. 保健機能食品と特別用途食品の違いを説明できる。6. 食品の機能性成分と効果について説明できる。					
授業の概要	「食品学総論」では、食品の歴史の変遷や食物連鎖、食環境問題、食品の分類、食品成分表の使用上の注意点や分析法、食品中の水、栄養成分（炭水化物・たんぱく質・脂質・ビタミン・ミネラル）、嗜好成分（色・味・香り）、生体調節成分等に関する基礎知識を身につける。また食品成分の化学変化、食品のレオロジー、保健機能食品、アレルギー表示義務食品等についても学び、食品学各論への足掛かりとなる知識を得る。					
授業の計画	1 食料と環境問題 2 食品成分表：変遷、特徴、利用 3 食品成分の化学（1）：水分 4 食品成分の化学（2）：炭水化物（分類、構造、性質） 5 食品成分の化学（3）：炭水化物（多糖類、でん粉の糊化と老化） 6 食品成分の化学（4）：アミノ酸、ペプチド 7 食品成分の化学（5）：たんぱく質（構造、分類、変性） 8 食品成分の化学（6）：脂質（分類） 9 食品成分の化学（7）：脂質（性質、加工、自動酸化） 10 食品成分の化学（8）：無機質 11 食品成分の化学（9）：ビタミン 12 食品成分の化学（10）：嗜好性成分 13 食品の物性 14 食品の機能性 15 健康食品に関わる制度					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の関係する章を読み込む。			90分	
	復習	講義内容をノートにまとめる。			90分	
授業の留意点	「食品学総論」の授業では、食品学全般の知識を習得することに努め、テキストや配布資料による予習・復習を行うこと。 本講義は対面授業で行う。					
学生に対する評価	小テスト（30点）および定期試験（70点）で評価する。					
教科書（購入必須）	小関正道・鍋谷浩志編著「食べ物と健康 三訂マスター食品学Ⅰ」建帛社					
参考書（購入任意）	開講時に参考資料等を配布する。					



科 目 名	食品学各論		担当教員名	加藤 淳		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	食品衛生：科目B
対応するディプロマ・ポリシー	2. 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 3. 地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	これまでに約 30 年間にわたり、北海道立（平成 22 年 4 月より北海道立総合研究機構に改組）中央農業試験場、十勝農業試験場、道南農業試験場において、農産物の品質・調理加工適性・健康機能性に関する研究に携わってきた。そこで得られた知見を授業の中で紹介している。					
学習到達目標	「食品学各論」では次の 3 項目を学習到達目標とする。1. 食品成分表における食品の分類を理解し、各分類ごとの食品の栄養特性を説明できる。2. 生産様式や主要栄養素による食品の分類を行うことができる。3. 食品ごとの栄養特性、すなわち含有される化学成分とその機能性について説明できる。					
授業の概要	「食品学総論」で学んだ食品成分に関する化学的な基礎知識をベースとして、種々の食品の具体的な特徴について、生産状況、栄養性、嗜好性、機能性、利用性などの面からの知識を身につける。また、食品成分表に記載されている食品群に沿って、含有成分の特徴と機能性などについての知識を得る。					
授業の計画	1 食品の分類と食品成分表 2 植物性食品（1）穀類、いも類 3 植物性食品（2）豆類 4 植物性食品（3）野菜類 5 植物性食品（4）種実類、果実類 6 植物性食品（5）きのこ類、藻類 7 動物性食品（1）食肉類 8 動物性食品（2）乳類 9 動物性食品（3）卵類 10 動物性食品（4）魚介類 11 油糧食品 12 甘味料、調味料、香辛料 13 嗜好飲料、アルコール飲料 14 発酵食品、バイオ食品 15 食品の生産・加工・流通					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の関係する章を読み込む。			90分	
	復習	講義内容をノートにまとめる。			90分	
授業の留意点	「食品学総論」の内容をよく理解した上で受講し、テキストや配布資料により予習・復習を行うこと。 本講義は対面授業で行う。					
学生に対する評価	小テスト（30点）および定期試験（70点）で評価する。					
教科書（購入必須）	和泉秀彦・熊澤茂則編「食品学Ⅱ 改訂第4版」南江堂					
参考書（購入任意）	船津保浩・竹田保之・加藤淳編著「食べ物と健康Ⅲ 第3版 食品加工と栄養」三共出版 また、必要に応じて開講時に参考資料等を配布する。					

科 目 名	食品学実験 I		担当教員名	加藤 淳		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	実験
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	食品衛生：科目 A
対応するディプロマ・ポリシー	2. 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 3. 地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	これまでに約 30 年間にわたり、北海道立（平成 22 年 4 月より北海道立総合研究機構に改組）中央農業試験場、十勝農業試験場、道南農業試験場において、農産物の品質・調理加工適性・健康機能性に関する研究に携わってきた。そこで得られた知見を授業の中で紹介している。					
学習到達目標	食品学実験 I では、「食品学総論」で学んだ食品成分の特徴について、実験を通して理解することを目標とする。					
授 業 の 概 要	食品成分分析における基礎知識および技術を習得し、食品の一般成分（水分、灰分、粗脂肪、粗たんぱく質）を重量分析と容量分析によって定量し、食品成分の特徴を理解する。また、食品中のビタミン C に関する分析も行う。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 食品分析を始めるに当たって（実験器具の確認・使用法）</li> <li>2 一般成分の分析：水分・灰分の定量①</li> <li>3 一般成分の分析：水分・灰分の定量②</li> <li>4 一般成分の分析：水分・灰分の定量③</li> <li>5 一般成分の分析：水分・灰分の定量④</li> <li>6 一般成分の分析：粗脂肪の定量（ソックスレー法）①</li> <li>7 一般成分の分析：粗脂肪の定量（ソックスレー法）②</li> <li>8 一般成分の分析：粗たんぱく質の定量（各種試薬調製）①</li> <li>9 一般成分の分析：粗たんぱく質の定量（試薬濃度の決定）②</li> <li>10 一般成分の分析：粗たんぱく質の定量（ケルダール法）③</li> <li>11 一般成分の分析：粗たんぱく質の定量（ケルダール法）④</li> <li>12 アスコルビン酸（ビタミン C）の定量（市販飲料）①</li> <li>13 アスコルビン酸（ビタミン C）の定量（茶）②</li> <li>14 酸化酵素によるビタミン C の損失</li> <li>15 TLC による脂質成分の分離</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	関係するテキスト内容を読み込み、実験手順を確認する。				
	復習	実験内容をノートにまとめ、レポート作成の資料とする。				
授 業 の 留 意 点	「化学」または「有機化学」、「食品学総論」をよく理解し、「食品学実験 I」を受講すること。実験テキストによる事前の予習により実験内容をよく理解したうえで実験に参加すること。また、怪我をしないように細心の注意を払って実験を行うこと。 本講義は対面授業で行う。					
学生に対する評価	実験に対する取り組み状況（30 点）とレポート（70 点）で評価する。					
教 科 書 （購入必須）	実験テキスト（プリント資料）を配布する。					
参 考 書 （購入任意）	「図解 食品学実験」アイ・ケイ コーポレーション					

科 目 名	食品学実験Ⅱ		担当教員名	加藤 淳		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	実験
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	食品衛生：科目A
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。</p> <p>3. 地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	<p>これまでに約 30 年間にわたり、北海道立（平成 22 年 4 月より北海道立総合研究機構に改組）中央農業試験場、十勝農業試験場、道南農業試験場において、農産物の品質・調理加工適性・健康機能性に関する研究に携わってきた。そこで得られた知見を授業の中で紹介している。</p>					
学習到達目標	<p>個々の食品がどのような成分で構成され、どのような特性を有しているかについて、実験を通じて理解することを目標とする。</p>					
授業の概要	<p>「食品学各論」で学んだ内容について、特に植物性食品と動物性食品に含まれている様々な成分の分離、定性、定量を行い、個々の食品がどのような成分で構成され、どのような特性を有しているのかを理解する。また、食品成分の変化とその関連因子（成分間の反応、pH、温度など）についても学ぶ。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 実験概要の説明</li> <li>2 米の種類と特性</li> <li>3 デンプンの種類とヨウ素デンプン反応</li> <li>4 小麦粉中のグルテンの分離</li> <li>5 大豆グロブリン（豆乳）の凝固特性</li> <li>6 各種醤油の食塩定量</li> <li>7 味噌の食塩定量</li> <li>8 非酵素的褐変反応（アミノカルボニル反応）</li> <li>9 酵素的褐変反応（ポリフェノールオキシダーゼ）</li> <li>10 緑茶中のポリフェノールの定量</li> <li>11 緑茶（カテキン類）の抗酸化力</li> <li>12 アントシアニン色素の色調変化</li> <li>13 寒天・ゼラチンのゲル化特性</li> <li>14 乳たんぱく質の凝固特性</li> <li>15 卵の特性と品質判定</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	関係するテキスト内容を読み込み、実験手順を確認する。				
	復習	実験内容をノートにまとめ、レポート作成の資料とする。				
授業の留意点	<p>試薬等の調製も行うため、物質（濃度）の基礎的な学習（化学、有機化学）をしておくこと。「食品学実験Ⅰ」の内容を十分に理解し、実験テキストによる予習をして実験に参加すること。また、使用する実験器具・機器等の扱いを理解しておくこと。</p> <p>本講義は対面授業で行う。</p>					
学生に対する評価	<p>実験に対する取り組み状況（30点）とレポート（70点）で評価する。</p>					
教科書（購入必須）	<p>実験テキスト（プリント資料）を配布する。</p>					
参考書（購入任意）	<p>「図解 食品学実験」アイ・ケイ コーポレーション</p>					

科 目 名	食品有機化学		担当教員名	加藤 淳		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	食品衛生：科目A
対応するディプロマ・ポリシー	2. 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 3. 地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	これまでに約 30 年間にわたり、北海道立（平成 22 年 4 月より北海道立総合研究機構に改組）中央農業試験場、十勝農業試験場、道南農業試験場において、農産物の品質・調理加工適性・健康機能性に関する研究に携わってきた。そこで得られた知見を授業の中で紹介している。					
学習到達目標	管理栄養士に必要な専門基礎科目である食品学、栄養学、生化学などを学修するためには、食品や生体に含まれている有機化合物である糖質、脂質、たんぱく質、核酸などの構成成分やそれらの化学構造を理解する必要がある。これら有機化合物の基本的な構造や性質について、学生が自ら説明することのできる知識を習得することを目標とする。					
授業の概要	有機化合物の官能基の特徴を学習した上で、食品や生体中に存在する糖質、脂質、たんぱく質等の基礎知識を理解する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 有機化学の定義と基本</li> <li>2 飽和炭化水素（アルカン）</li> <li>3 不飽和炭化水素（アルケン、アルキン）</li> <li>4 環式炭化水素（シクロアルカン、シクロアルケン）</li> <li>5 アルコールとエーテル</li> <li>6 アルデヒド</li> <li>7 ケトン</li> <li>8 カルボン酸</li> <li>9 エステル</li> <li>10 アミンとアミド</li> <li>11 芳香族化合物</li> <li>12 糖類の化学</li> <li>13 脂質の化学</li> <li>14 アミノ酸の化学</li> <li>15 食品と有機化合物</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の関係する章を読み込む。			90分	
	復習	講義内容をノートにまとめる。			90分	
授業の留意点	テキストや配布資料により予習・復習を行うこと。また、小テスト等の復習を通して有機化学の基礎を身につけること。					
学生に対する評価	小テスト（30点）および課題に対する提出解答（70点）で評価する。					
教科書（購入必須）	山田恭正編「栄養科学イラストレイテッド 有機化学」羊土社					
参考書（購入任意）	小関正道編著「食べ物と健康 三訂マスター食品学Ⅰ」建帛社（食品学総論での使用教科書）					

科 目 名	調理学		担当教員名	福士 一恵		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	2. 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 3. 地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	福祉施設での管理栄養士としての実務経験をもとに、管理栄養士として必要な調理学の知識について講義を行う。					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康な食生活のための食事づくりに不可欠な調理の基本的な知識を修得する。</li> <li>調理による栄養や嗜好性の変化をふまえた食事設計を行うことができる。</li> </ul>					
授業の概要	調理学では、必要な栄養を確保しながら、おいしく食するための食事づくりをするために、調理法の種類、調理による食品の栄養や嗜好性の変化を学ぶ。さらに、食べ物の特性をふまえた食事設計、調理の役割について学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>調理の目的と意義、調理と環境・衛生</li> <li>非加熱調理法：調理操作、食品の特徴に応じた調理の特性</li> <li>加熱調理法：調理操作、食品の特徴に応じた調理の特性</li> <li>調理操作と栄養（1）：米、小麦、いも</li> <li>調理操作と栄養（2）：野菜、果物、海藻、きのこ</li> <li>調理操作と栄養（3）：肉、魚</li> <li>調理操作と栄養（4）：卵、牛乳・乳製品</li> <li>調理操作と栄養（5）：成分抽出素材</li> <li>調理操作による食品の組織・物性と栄養成分の変化</li> <li>摂食機能に対応した調理</li> <li>食事設計（1） 供食、食卓構成、食事環境、ガイドライン</li> <li>食事設計（2） 嗜好性：嗜好性の主観的評価・客観的評価</li> <li>食事設計（3） 食品成分表の構成と内容、栄養価計算</li> <li>食事設計（4） 献立作成手順</li> <li>食事設計（5） 献立作成演習</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の授業内容に関連する章を読み、理解を深める。			90分	
	復習	授業内容を振り返り教科書、参考書、参考資料を活用しノートにまとめる。			90分	
授業の留意点	対面授業を基本とするが、状況により遠隔授業で実施する場合もある。 授業前に必ず教科書の該当ページに目を通しておくこと。復習は授業内容を整理し、調理学実習や自身の食生活と結びつけながら知識の定着を図る。					
学生に対する評価	課題・レポート（30点）と定期試験（70点）の総合的評価					
教科書（購入必須）	中嶋加代子・山田志麻編著「調理学の基本 第五版」同文書院 香川明夫監修「八訂食品成分表 2023」女子栄養大学出版部 松本仲子監修「調理のためのベーシックデータ 第6版」女子栄養大学出版部					
参考書（購入任意）	山崎清子他「NEW 調理と理論第二版」同文書院					

科 目 名	基礎調理学実習		担当教員名	福士 一恵		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。</p> <p>3. 地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉施設での管理栄養士としての実務経験をもとに、管理栄養士として必要な調理学の知識について講義を行う。</li> </ul>					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な調理操作、調理技術を修得する。</li> <li>・基本的な調理器具について、適切な使用方法を理解する。</li> <li>・衛生、安全を考慮した調理作業を理解する。</li> </ul>					
授業の概要	<p>基礎調理学実習では、下処理から調理、盛りつけまでのすべての工程をできるかぎり一人で行い、基本的な調理操作、調理技術、食品の扱い方、衛生管理を学ぶ。また、修得した知識や技術を日常生活で実践できる力を養う。</p>					
授業の計画	<p>1 ガイダンス、調理実習室の使い方</p> <p>2-3 包丁の持ち方、切り方</p> <p>4-5 調理操作①（計量、炊く、だしの取り方）</p> <p>6-7 調理操作②（煮る、和える、寄せる）</p> <p>8-9 調理操作③（焼く、漬ける）</p> <p>10-11 調理操作④（蒸す、炒める）</p> <p>12-13 調理操作⑤（揚げる、混ねつ）</p> <p>14-15 調理操作⑥（焼く、寄せる）</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	配布資料を読み、調理法や手順などを確認し理解する。			90分	
	復習	実習で学んだ内容をレポートにまとめ、自身の食生活で実践し知識と技術の定着を図る。			90分	
授業の留意点	<p>対面授業を基本とし、状況により遠隔授業で実施する場合もある。</p> <p>体調不良の場合は実習に参加できないことがあるので、体調管理に十分留意する。</p> <p>清潔な白衣、帽子、実習用シューズを着用する。</p> <p>爪は短く切り、アクセサリはつけない。</p>					
学生に対する評価	課題・レポート（80点）、実習の取組状況（20点）					
教科書（購入必須）	<p>山崎清子他「NEW 調理と理論第二版」同文書院</p> <p>香川明夫監修「八訂食品成分表 2023」女子栄養大学出版社</p> <p>松本仲子監修「調理のためのベーシックデータ第6版」女子栄養大学出版社</p>					
参考書（購入任意）						

科 目 名	応用調理学実習		担当教員名	福士 一恵		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。</p> <p>3. 地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉施設での管理栄養士としての実務経験をもとに、管理栄養士として必要な調理学の知識について講義を行う。</li> </ul>					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習を通して、食品の調理性を理解する。</li> <li>喫食時刻にあわせて調理工程・作業工程を組み立てることができる。</li> <li>衛生、安全を考慮して調理をすることができる。</li> </ul>					
授業の概要	<p>基礎調理学実習で学んだ調理操作を用いて、主食、主菜、副菜等を構成する食品の調理性について学ぶ。また、安全で美味しい状態で喫食できるよう、調理工程・作業工程の組み立てを学ぶ。</p>					
授業の計画	<p>1-2 ガイダンス、肉類の調理、災害時の調理</p> <p>3-4 じゃがいもの調理、ゼラチンの調理</p> <p>5-6 穀類の調理、魚介類の調理、乾物の調理</p> <p>7-8 摂食機能に対応した調理</p> <p>9-10 小麦粉、でんぷんの調理、牛乳の調理</p> <p>11-12 ひき肉の調理、卵の調理、砂糖の調理</p> <p>13-14 もち米の調理、豆類の調理</p> <p>15 郷土料理</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	基礎調理学実習で学んだ知識をもとに、配布資料を読み手順などを確認する。			90分	
	復習	実習で学んだ内容をレポートにまとめ、自身の食生活で実践し知識と技術の定着を図る。			90分	
授業の留意点	<p>対面授業を基本とするが、状況により遠隔授業で実施する場合もある。</p> <p>体調不良の場合は実習に参加できないことがあるので、体調管理に十分留意する。</p> <p>清潔な白衣、帽子、実習用シューズを着用する。</p> <p>爪は短く切り、アクセサリーはつけない。</p>					
学生に対する評価	課題・レポート（80点）、実習の取組状況（20点）					
教科書（購入必須）	<p>山崎清子他「NEW 調理と理論第二版」同文書院</p> <p>香川明夫監修「八訂食品成分表 2023」女子栄養大学出版社</p> <p>松本仲子監修「調理のためのベーシックデータ第6版」女子栄養大学出版社</p>					
参考書（購入任意）						

科 目 名	公衆栄養学 I		担当教員名	笠井 寛和		
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	食品衛生：科目 B
対応するディプロマ・ポリシー	2. 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	道立保健所及び道本庁の管理栄養士として行政経験を持つ教員が、公衆栄養の概念、健康・栄養問題の現状と課題及び栄養政策について、指導する科目					
学習到達目標	人間の食生活は、社会水準・社会環境などさまざまな影響を受けて営まれ、食に関わる行動が地域の健康水準を規定している。地域や集団における人間の栄養・食生活を自然的・社会的・経済的・歴史的観点から問題点を取り上げ、それらを左右している要因について多角的視点から理解し、公衆栄養学の概念について学習し、我が国及び諸外国の健康・栄養の現状、課題に対応した栄養政策について説明できることを到達目標とする。					
授業の概要	国際、国、都道府県、市町村の各レベルにおける住民の健康・栄養問題及びそれらの問題を予防・改善するためのさまざまな栄養政策について、講義により学習する。					
授業の計画	1 公衆栄養の概念 1 公衆栄養の概念 2 公衆栄養の概念 2 公衆栄養活動 3 健康・栄養問題の現状と課題 1 健康状態の変化 4 健康・栄養問題の現状と課題 2 食事の変化 5 健康・栄養問題の現状と課題 3 食生活の変化 6 健康・栄養問題の現状と課題 4 食環境の変化 7 健康・栄養問題の現状と課題 5 諸外国の健康・栄養問題の現状 8 栄養政策 1 わが国の公衆栄養活動と関連法規 9 栄養政策 2 公衆栄養活動と組織・人材育成 10 栄養政策 3 国民健康・栄養調査 11 栄養政策 4 実施に関する指針、ツール 1 12 栄養政策 5 実施に関する指針、ツール 2 13 栄養政策 6 実施に関する指針、ツール 3 14 栄養政策 7 わが国の健康増進基本方針と地方計画 15 栄養政策 8 諸外国の健康・栄養政策					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の関係する章を読み込む。			90 分	
	復習	授業内容を再度思い出し、ノートに必要事項を追加記載する。			90 分	
授業の留意点	公衆栄養学では、自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・推進する能力を養う。予習としては、報道等に接し国内外の健康・栄養に関する動向をつかんでおくこと。復習としては、ノートの記載内容の見直し、追加記載を行うこと。					
学生に対する評価	ノート (30 点)、レポート (20 点)、試験 (50 点) で評価する。					
教科書 (購入必須)	公衆栄養学 改訂第 7 版 (編集吉池信男/林宏一、南江堂)					
参考書 (購入任意)						



科 目 名	公衆栄養学Ⅱ	担当教員名	笠井 寛和
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位
開 講 時 期	前期	必修選択	必修
		開 講 形 態	講義
		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	2. 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。		
実務経験及びそれに関わる授業内容	道立保健所及び道本庁の管理栄養士として行政経験を持つ教員が、栄養疫学、公衆栄養マネジメント及び公衆栄養プログラムについて、指導する科目		
学習到達目標	公衆栄養学Ⅰをふまえ、地域や住民の生活の質の向上ならびに健康状態の改善のために、公衆栄養マネジメントに必要な栄養疫学の基本的知識と技術を説明できる。また、食生活・栄養アセスメントに基づく事業計画の作成、実施、評価について、各方法論の基本を説明できる。加えて、以上のことを効果的に進めるために重要とされる住民参加、地域の資源の活用、コミュニケーション管理などについて、国内外の事例を通して国、都道府県、市町村などにおける公衆栄養マネジメントを説明できる。以上のことを到達目標とする。		
授業の概要	栄養疫学の方法及び公衆栄養マネジメントの計画、実施、評価の具体的な手順や方法について、講義により学習する。		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 栄養疫学1 栄養疫学の概要</li> <li>2 栄養疫学2 栄養疫学の指標</li> <li>3 栄養疫学3 栄養疫学の方法</li> <li>4 栄養疫学4 栄養疫学のための食事調査法</li> <li>5 栄養疫学5 食事摂取量の測定方法</li> <li>6 栄養疫学6 食事摂取量の評価方法</li> <li>7 公衆栄養マネジメント1 公衆栄養マネジメントの概念とプロセス</li> <li>8 公衆栄養マネジメント2 公衆栄養アセスメント</li> <li>9 公衆栄養マネジメント3 公衆栄養プログラムの目標設定</li> <li>10 公衆栄養マネジメント4 公衆栄養プログラムの計画</li> <li>11 公衆栄養マネジメント5 公衆栄養プログラムの実施</li> <li>12 公衆栄養マネジメント6 公衆栄養プログラムの評価</li> <li>13 公衆栄養プログラムの展開1 地域特性に応じたプログラムの展開</li> <li>14 公衆栄養プログラムの展開2 食環境づくりのためのプログラムの展開</li> <li>15 公衆栄養プログラムの展開3 地域集団の特性別プログラムの展開</li> </ol>		
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の関係する章を読み込む。	90分
	復習	授業内容を再度思い出し、ノートに必要事項を追加記載する。	90分
授業の留意点	公衆栄養プログラム立案の方法論と関連する理論を行っていくので、予習としては、日頃から公衆栄養に関する報道等に接しておくこと。復習としては、ノートの記載内容の見直し、追加記載を行うこと。		
学生に対する評価	ノート（30点）、レポート（20点）、試験（50点）で評価する。		
教科書（購入必須）	公衆栄養学 改訂第7版（編集吉池信男／林宏一、南江堂）		
参考書（購入任意）			

科 目 名	公衆栄養学実習	担当教員名	笠井 寛和
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位
開 講 時 期	後期	必修選択	必修
開 講 時 期			資格要件
対応するディプロマ・ポリシー	2. 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。		
実務経験及びそれに関わる授業内容	道立保健所及び道本庁の管理栄養士として行政経験を持つ教員が、公衆栄養マネジメントについて、指導する科目		
学習到達目標	公衆栄養学Ⅰ及び公衆栄養学Ⅱで習得した知識と技術を実践的に活用できる力の形成をねらいとする。地域において、住民主体でQOLを高める公衆栄養プログラムの特徴や役割を説明できる。国民健康・栄養調査や北海道健康増進計画、名寄市健康増進計画など既存の資料を活用しながらグループで学習し、総合的に公衆栄養マネジメントの理解を深め、管理栄養士の役割を説明できることを到達目標とする。		
授業の概要	総論として理解した公衆栄養プログラムの計画、実施、評価について具体的な手順や方法を学習し、理解を深める。特に、アセスメント及び計画策定については、国、道、市町村等のホームページから情報収集を行い、パワーポイントのスライドにより資料を作成し、プレゼンテーションをするなどして理論と実践を結びつける方法やその具体的スキルについて実習を行う。		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 公衆栄養学臨地実習報告会 1</li> <li>2 公衆栄養学臨地実習報告会 2</li> <li>3 地域における公衆栄養プログラムの対象及び関連する機関の役割と連携</li> <li>4 地域における公衆栄養プログラム 1</li> <li>5 地域における公衆栄養プログラム 2</li> <li>6 地域における公衆栄養プログラム 3</li> <li>7 地域における公衆栄養プログラム 4</li> <li>8 地域における公衆栄養プログラム 5</li> <li>9 地域における公衆栄養プログラム 6</li> <li>10 栄養・食生活支援と食を通じた社会環境の整備</li> <li>11 公衆栄養アセスメント 1</li> <li>12 公衆栄養アセスメント 2</li> <li>13 公衆栄養プログラムの計画策定</li> <li>14 公衆栄養プログラムの実施</li> <li>15 公衆栄養プログラムの評価</li> </ol>		
授業の予習・復習の内容と時間	予習		
	復習		
授業の留意点	小グループで学習するので、各自積極的な姿勢で臨むこと。予習としては、アセスメントする地域の概要を調べておくこと。復習としては、作成した資料を適宜見直すこと。		
学生に対する評価	各授業における作成資料（50点）、地域における公衆栄養プログラムへの取組状況（50点）で評価する。		
教科書（購入必須）	公衆栄養学実習 第二版～事例から学ぶ公衆栄養プログラムの展開～（手嶋哲子・田中久子編集、同文書院）		
参考書（購入任意）			

科 目 名	総合演習Ⅱ		担当教員名	栄養学科教員		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療の分野において、傷病者に対する療養のために必要な臨床栄養管理を行う力および食事療法の実践を行うために必要な力を身につけている。</li> <li>2. 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。</li> <li>3. 地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。</li> <li>4. 児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている。</li> <li>5. 保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。</li> </ol>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	道立保健所及び道本庁の管理栄養士として行政経験を持つ教員が、公衆栄養学臨地実習実施に向けた課題作成、事後評価及び報告会により、公衆栄養アセスメント及び公衆栄養プログラムについて、指導する科目					
学習到達目標	公衆栄養学、臨床栄養学、栄養教育論、給食経営管理論、応用栄養学などで学んだ知識と理論をふまえ、臨地実習及び学内演習をとおして、地域住民の栄養状態の把握、栄養改善活動の効果判定、傷病者の栄養状態の評価および給食の提供、栄養教育、栄養管理を行うための実践的能力を身につけることを到達目標とする。					
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 公衆栄養学臨地実習の準備及び課題作成、事後評価、報告会をふまえて、地域住民の栄養管理、栄養改善活動について理解を深める。</li> <li>2 前年度に実施した臨床栄養学臨地実習を振り返り、医療機関における管理栄養士の役割について理解を深める。</li> <li>3 専門基礎・専門各科目を振り返り、管理栄養士各業務について理解を深める。</li> </ol> 上記のために、情報の整理、資料の作成などについて演習を行う。					
授業の計画	1-15 公衆栄養分野 16-22 臨床栄養分野 23-30 専門基礎・専門分野					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の関係する章を読み込む。			22.5分	
	復習	演習内容を振り返り、ノートにまとめる。			22.5分	
授業の留意点	専門基礎分野科目、専門分野科目で学んだ内容を管理栄養士業務との関連を考慮しながら、総合的に予習及び復習を行うこと。授業には積極的な姿勢で取り組むこと。					
学生に対する評価	課題取組（70点）、報告書（30点）により総合的に評価する。					
教科書（購入必須）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆栄養学 改訂第7版（編集吉池信男／林宏一、南江堂）</li> <li>・公衆栄養学実習 第二版～事例から学ぶ公衆栄養学プログラムの展開～（手嶋哲子、田中久子編集、同文書院） 他</li> </ul>					
参考書（購入任意）						

科 目 名	給食経営管理論実習Ⅱ		担当教員名	沼口 晶子		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>3. 地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。</p> <p>5. 保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特定給食施設において、施設の管理栄養士の指導のもと給食業務を行うために必要な知識及び技術を学ぶ。					
学習到達目標	給食業務を行うために必要な、食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する知識および技術を修得する。					
授 業 の 概 要	<p>実習施設の組織・運営の特徴、目的、目標などについて理解する。</p> <p>対象者の把握、献立作成、調理、品質管理、衛生管理、施設・設備管理などの給食実務を実地に体験する。</p> <p>利用者の身体機能や栄養状態などに対応した食事サービスについて学ぶ。</p> <p>利用者への対応や他職種との連携をはかるための方法について学ぶ。</p> <p>食堂等、利用者の適切な食環境について学ぶ。</p>					
授 業 の 計 画	<p>以下の内容を中心に、各実習施設の実習プログラムに基づいて実施される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 実習施設の組織・運営について</li> <li>2 特定給食施設の目的、役割、特性について</li> <li>3 給食経営管理システムについて <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 栄養・食事管理、経営管理について</li> <li>2) 食材管理、調理作業管理について</li> <li>3) 衛生管理、安全管理、品質管理について</li> <li>4) 施設、設備管理について</li> <li>5) 原価管理について</li> <li>6) 栄養教育について</li> </ol> </li> <li>4 実習課題への取り組み</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	関連する科目を復習し知識定着を図る。実習施設から提示された課題の取り組み、自身で設定した課題の準備を確実にを行う。			60 分	
	復習	一日ごとに体験したこと、学んだことを実習日誌にまとめ、理解を深めるとともに自身の課題を検討する。			60 分	
授 業 の 留 意 点	学外実習は、実習施設の指導者・職員・施設利用者の方々に様々な協力をいただくことによって成り立っていることを理解して臨むこと。					
学 生 に 対 す る 評 価	実習施設指導者からの評価 (50 点) 事前事後学習 (50 点)					
教 科 書 ( 購 入 必 須 )						
参 考 書 ( 購 入 任 意 )	松崎政三・名倉秀子『全施設における臨地実習マニュアル (給食経営管理・給食の運営)』建帛社					

科 目 名	臨床栄養学臨地実習 I		担当教員名	中村 育子		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 医療の分野において、傷病者に対する療養のために必要な臨床栄養管理を行う力および食事療法の実践を行うために必要な力を身につけている。 2. 地域及び職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 3. 地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。 5. 保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	医療施設において管理栄養士の指導のもと、実践活動について学ぶ。					
学習到達目標	I 医療における管理栄養士の役割を理解する。 1. 対象者の療養生活を支援する管理栄養士の役割と機能について説明できる。 II 医療施設における栄養過程の展開および食事療養に必要な基本的知識、技術を理解する。 1. 対象者の特性に応じた栄養過程の展開を理解する。 2. 入院時食事療養の実際を説明できる。 III 管理栄養士を目指す学生として、自覚と責任を行動で示すことができる。					
授業の概要	1. 医療施設において、管理栄養士の実践活動について学ぶ。 2. 患者、家族や多職種との関係を円滑に進めることの重要性について学ぶ。 3. 実習での経験を通して、適切な栄養ケアの実施に必要な専門的知識および技術の統合・発展を図る。					
授業の計画	実習 臨床栄養学臨地実習 I プログラムに沿って、各実習施設において、実習指導者の指示のもと実施する。					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	臨地実習先をよく調べ、実習に必要な勉強をする。			90 分	
	復習	臨地実習で学んだことを振り返り、実習ノートにまとめる。			90 分	
授業の留意点	3 年前期までの学習を統合する重要な実習です。管理栄養士としての自己課題を明確にし、実習に臨むこと。 また、臨地実習は事前の準備が重要です。既習の各科目を単に振り返るのではなく、栄養ケアへ活かすことを考えながら準備をすること。					
学生に対する評価	実習先指導者からの評価 (80 点) 臨地実習に関わる書類作成 (20 点)					
教科書 (購入必須)	別途、指示する。					
参考書 (購入任意)						

科 目 名	臨床栄養学臨地実習Ⅱ	担当教員名	中村 育子
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位
開 講 時 期	前期	必修選択	選択
		開 講 形 態	実習
		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 医療の分野において、傷病者に対する療養のために必要な臨床栄養管理を行う力および食事療法の実践を行うために必要な力を身につけている。 2. 地域及び職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 3. 地域における生活を理解し、乳幼児、要介護者、単身高齢者等の個々に対する食事援助、栄養補給の開発等を行うために必要な力を身につけている。 5. 保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。		
実務経験及びそれに関わる授業内容	臨床栄養学臨地実習Ⅰを踏まえ、医療施設において管理栄養士の指導のもと、実践活動について学ぶ。		
学習到達目標	臨床栄養学領域で習得した知識・技術・態度の統合・発展をはかり、医療現場で実践されている栄養管理について理解する。 1. 医療における管理栄養士の専門性について理解し説明できる。 2. 栄養ケアマネジメントの実際を理解する。 3. 傷病者に対する栄養学的課題を抽出し、栄養ケアプランが作成できる。 4. チーム医療、NSTの実際を理解し、患者および医療スタッフと適切なコミュニケーションがとれる。		
授業の概要	三年次の臨床栄養学臨地実習Ⅰを踏まえ、臨床現場におけるより実践的な知識・スキルを学び取る。 臨地実習の事前学習に十分な時間をかけ準備する。 自主研究テーマを設定し、テーマに特化した学びを深める。		
授業の計画	実習 実習施設での実習プログラムに基づき、実習指導者の指導のもとに実施される。		
授業の予習・復習の内容と時間	予習	臨地実習先をよく調べ、実習に必要な勉強をする。	90 分
	復習	臨地実習で学んだことを振り返り、実習ノートにまとめる。	90 分
授業の留意点	臨床領域の管理栄養士を目指す学生向けのプログラムである。 三年次までに学んだ知識・スキルを統合し実践的に学習する。 実習に向けての目標を明確化し、主体的な取り組みを期待する。		
学生に対する評価	実習施設指導者からの評価（80 点）および事前事後準備に関わる書類作成（20 点）		
教科書（購入必須）	特に指定しない。		
参考書（購入任意）			

科目名	公衆栄養学臨地実習		担当教員名	笠井 寛和		
学年配当	4年	単位数	1単位		開講形態	実習
開講時期	前期	必修選択	必修		資格要件	
対応するディプロマ・ポリシー	2. 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	道立保健所及び道本庁の管理栄養士として行政経験を持つ教員が、臨地実習で行う公衆栄養マネジメントについて、指導する科目					
学習到達目標	保健所または保健センターなどにおいて、地域における QOL の向上や生活習慣の改善を考えた健康づくりの推進や公衆栄養活動を理解し、管理栄養士の役割および業務について実習できる。また、健康づくり・栄養・食生活情報を収集・分析し、総合的な評価・判定について実習できる。さらに、地域の特性をふまえた事業内容や方法の実際、地域住民に応じた公衆栄養プログラムの作成・実施・評価および総合的なマネジメントが実習できる。以上を到達目標とする。					
授業の概要	実習先での学習を中心に、事前の書類作成、自らの課題設定、実習地域の健康課題について実習を行う。					
授業の計画	各実習施設での実習プログラムに沿って、実習指導者の指示のもと実施					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	実習先において、対象の視点に立った支援について考え、他職種との連携や社会人としての責任ある行動をとることについて理解を深めるために、予習として地域アセスメントを行い、復習として実習終了後のふりかえりと自己評価を行う。					
学生に対する評価	臨地実習に関わる書類作成（20点）及び臨地実習先の評価（80点）で評価する。					
教科書（購入必須）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆栄養学 改訂第7版（編集吉池信男／林宏一、南江堂）</li> <li>・公衆栄養学実習 第二版～事例から学ぶ公衆栄養学プログラムの展開～（手嶋哲子、田中久子編集、同文書院）</li> </ul>					
参考書（購入任意）						

科 目 名	栄養教諭論		担当教員名	黒河 あおい	
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(栄養)：必修	資 格 要 件	教職(栄養)：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 4. 児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている。				
実務経験及びそれに関わる授業内容	栄養教諭として食に関する指導・給食管理の経験を持つ教員が、栄養教諭の職務である「学校給食の管理」および「食に関する指導」について理解を深め、栄養教諭としての基礎的な知識を修得させる科目				
学 習 到 達 目 標	1. 児童生徒の現状、課題を踏まえ、職に関する指導の必要性、学校給食の意義、役割等を説明できる。 2. 栄養教諭の職務である学校給食の管理および食に関する指導について理解を深め、栄養教諭としての使命、役割や職務内容を理解し、教育に関する専門性および栄養に関する専門性を横断的に身に付け、児童、生徒への指導ができる力を活用できる。				
授 業 の 概 要	①学校給食および食に関する指導の対象となる児童生徒の成長・発達、食生活習慣などについて理解し、学校における食に関する指導の現状、課題の抽出、分析を行い、偏食や食物アレルギー、さらに肥満、糖尿病などの生活習慣病を予防する上で、児童生徒、保護者に対する有効な食に関する指導のあり方について論じる。 ②学校給食および食に関する指導にかかわる法令を理解する。 ③食に関する指導と各教科および給食管理のかかわりについて理解する。 ④教材となる献立作成が「食に関する指導の全体計画」に結びつき指導案の作成に繋がることを理解する。				
授 業 の 計 画	1 栄養教諭の現状、児童生徒の成長、発達 2 児童生徒の生活状況 3 学校給食、食に関する指導の歴史 4 学校給食、食に関する指導にかかわる法令 5 「食に関する指導」(1)－全体計画 ①必要性 ②作成手順 ③留意点 6 「食に関する指導」(2)－指導計画・成果・評価 7 「食に関する指導」(3)－①給食の時間 ②発達段階に応じた内容 8 「食に関する指導」(4)－教科「総合的な学習の時間」「特別活動」 9 「食に関する指導」(5)－教科「家庭科、技術・家庭科」「体育科、保健体育科」 10 「食に関する指導」(6)－教科「道徳」「生活科」 11 「食に関する指導」(7)－個別栄養相談指導 家庭・地域との連携 12 給食管理における栄養教諭の役割(1)献立作成、食品構成 13 給食管理における栄養教諭の役割(2)学校給食摂取標準 14 給食管理における栄養教諭の役割(3)衛生管理 15 給食管理における栄養教諭の役割(4)施設設備				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業計画に沿って「食に関する指導の手引き」を読み込んでおく。			90分
	復習	配布資料に沿って教科書・学習指導要領・「食に関する指導の手引き」で確認する。			90分
授業の留意点	栄養教諭は栄養士職と教育職を兼ね備える職種であり、全ての基本は「給食管理」であることを認識し、自らの課題を持ち意欲的に授業に臨んでほしい。				
学生に対する評価	小テスト(20点)、レポート(20点)、試験(60点)により総合的に評価する。				
教科書(購入必須)	『栄養教諭論－理論と実際－4訂版』 金田雅代編著 建帛社 『食に関する指導の手引-第Ⅱ次改訂版-i』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領(平成29年3月告示)』 文部科学省 東京書籍 『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領解説 総則編(平成29年7月)』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 総則編(平成29年7月)』 文部科学省 ぎょうせい 『小学校学習指導要領解説 家庭編(平成29年7月)』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編(平成29年7月)』 文部科学省 教育図書 『小学校学習指導要領解説 体育編(平成29年7月)』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 保健体育編(平成29年7月)』 文部科学省 東山書房 『小学校学習指導要領解説 特別活動編(平成29年7月)』 文部科学省 東洋館出版社 『中学校学習指導要領解説 特別活動編(平成29年7月)』 文部科学省 ぎょうせい 『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成29年7月－平成29年告示』 文部科学省 廣済堂あかつき 『中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成29年7月』 文部科学省 教育出版				
参考書(購入任意)					



科 目 名	食生活・食文化論		担当教員名	黒河 あおい		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(栄養)：必修		資 格 要 件	教職(栄養)：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。 4. 児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	栄養教諭として食に関する指導・給食管理の経験を持つ教員が、小中学生の生活環境に適した食教育の実践および学校給食の教育効果を引き出すために、食生活の変遷や現状について理解を深め、食文化に関する知識を修得させる科目					
学習到達目標	小中学生の生活環境に適した食教育の実践および学校給食の教育的効果を引き出すために、食生活の変遷や現状について理解を深め、食文化に関する知識を修得し、児童生徒へ食に関する指導ができる。					
授業の概要	前半は既存資料をもとに食生活の変遷と現状および児童生徒の栄養・食生活状況を把握し、家庭の食事や学校給食の変遷を確認する。後半は日本における食文化を概観し、地域の食文化の礎となる地場産物について演習をし、食文化継承、行事食、地場産物を活用することの意義について理解する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本における食生活の変遷</li> <li>2 日本における食生活の現状</li> <li>3 全国調査にみる児童生徒の栄養・食生活状況</li> <li>4 地域における児童生徒の栄養・食生活状況</li> <li>5 家庭食の変遷</li> <li>6 学校給食の変遷</li> <li>7 日本の食文化</li> <li>8 地域の食文化</li> <li>9 地場産物と食に関する指導</li> <li>10 地場産物と学校給食①北海道の地場産物</li> <li>11 地場産物と学校給食②出身地別の地場産物</li> <li>12 演習①関心のある地域の地場産物を調べる</li> <li>13 演習②給食における地場産物の活用を考える</li> <li>14 演習③食に関する指導における地場産物の活用を考える</li> <li>15 演習④地場産物についての発表、レポート提出</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業計画に沿って「食に関する指導の手引き」を読み込んでおく。			90分	
	復習	配布資料から関連する新聞記事などを読み、食と地域について関心を深める。			90分	
授業の留意点	食生活と食文化および地域について広く関心を持ち、栄養教諭を目指すものとしての自覚と自らの課題を持ち授業に臨んでほしい。					
学生に対する評価	発表内容(30点)、試験(70点)により総合的に評価する。					
教科書(購入必須)	金田雅代編著『栄養教諭論－理論と実際－3訂』建帛社、2009年 文部科学省『食に関する指導の手引－第二次改訂版－』東山書房、2019年 文部科学省『小学校学習指導要領(平成20年3月告示)』東京書籍、2008年 文部科学省『中学校学習指導要領(平成20年3月告示)』東京書籍、2008年					
参考書(購入任意)						

科 目 名	食教育指導論		担当教員名	黒河 あおい		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(栄養)：必修		資 格 要 件	教職(栄養)：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。</p> <p>4. 児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている。</p> <p>5. 保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	<p>栄養教諭として食に関する指導・給食管理の経験を持つ教員が、食に関する指導の目標および必要性を理解し、食に関する指導に係る全体計画の作成、教科等との関連、および個別的な相談指導等、学校内における様々な場面での指導、あるいは、家庭、地域との連携・調整の重要性を広く横断的に見る力を修得させ、学習指導案の作成、発表、模擬授業などの演習を通し、栄養教諭としての指導法、技法等を修得させる科目</p>					
学習到達目標	<p>食に関する指導の目標および必要性を理解し、食に関する指導に係る全体計画の作成・教科等との関連および個別的な相談指導等、学校内における様々な場面での指導、さらに家庭・地域との連携、調整の重要性を広く横断的に見る力を養う。</p> <p>学習指導案の作成・発表・模擬授業などの演習を通し、栄養教諭としての指導法・技法等を修得する。</p>					
授業の概要	<p>栄養教諭として各自のテーマをもつことができるように知識を凝集していき、各自のテーマに対して広い視野から問題を把握し、指導計画案を作成・実行・評価することを学ぶ。</p> <p>学校給食を「生きた教材」として活用する食に関する指導についての理解を深めるために、現役栄養教諭に実際の職務についての講義をしていただき、栄養教育実習先を想定して学校給食を教材とした「食に関する指導」の指導案作成・模擬授業などを行う。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス：「食教育指導論」で何を学ぶか、学校における食育の推進の必要性、食に関する指導の目標・必要性</li> <li>食に関する指導に係る全体計画の作成、各教科等における食に関する指導の展開</li> <li>学校給食を生きた教材とした食育の推進、学校・家庭・地域が連携した食育の推進</li> <li>個別的な相談指導の進め方、学校における食育の推進の評価</li> <li>食に関する指導の教育理論と技術</li> <li>教材研究、指導案づくり</li> <li>食に関する指導と学校給食の管理を一体のもとで行う職務の実際</li> <li>給食時間における食に関する指導の指導案づくり</li> <li>給食における食に関する指導の模擬授業 (1) 発表会 (前半グループ)</li> <li>給食における食に関する指導の模擬授業 (2) 発表会 (後半グループ)</li> <li>栄養教諭の職務の実際 (1) 学校における職務内容</li> <li>栄養教諭の職務の実際 (2) 調理場における職務内容</li> <li>給食を教材として活用する授業の指導案作成 (1) 教科目標と会に関する指導</li> <li>給食を教材として活用する授業の指導案作成 (2)</li> <li>まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業計画に沿って「食に関する指導の手引き」・学修指導要領を読み込む。			90分	
	復習	配布資料に沿って「食に関する指導の手引き」・学修指導要領を関連付け授業作りを構想する。			90分	
授業の留意点	<p>栄養教育実習で実施する研究授業につながる科目であり課題が多い科目であるため、予習復習を充分に行い、積極的に取り組んでほしい。</p>					
学生に対する評価	<p>提出物提出状況 (30点)、試験 (70点) により総合的に行う。</p>					
教科書 (購入必須)	<p>文部科学省『食に関する指導の手引-第二次改訂版-』(東山書房)</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領』(東京書籍)</p>					
参考書 (購入任意)						

科 目 名	栄養教育実習事前事後指導		担当教員名	黒河 あおい		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(栄養)：必修		資 格 要 件	教職(栄養)：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 地域および職域における栄養改善の推進、栄養評価計画への参画等を通じて、地域住民の健康と生活の向上に貢献する力を身につけている。</p> <p>4. 児童・生徒に対する「食」の指導はもとより、保護者を啓発し、「食」のあり方をともに考え、改善に寄与する力を身につけている。</p> <p>5. 保健・医療・福祉の概念と、これらの職種間の連携・協働の意義を理解し、チームとしての業務に参画できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	<p>栄養教諭としての経験を持つ教員が、事前指導では、栄養教育実習の意義や目的を理解し実習に必要な知識や技術を確実なものにできるように指導し、事後指導では、自分の課題を明確化し、今後さらに修得する必要がある知識・技術、コミュニケーション能力などについて明らかにできるように指導する科目</p>					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前指導では、栄養教育実習の意義や目的を理解し、実習に必要な知識や技術を確実なものにすることができる。</li> <li>事後指導では、自分の課題を明確化し、今後さらに修得する必要がある知識・技術、コミュニケーション能力などについて明らかにすることができる。</li> </ul>					
授業の概要	<p>事前指導では、栄養教育実習の意義や目的を理解し、実習心得を確認する。 また、児童・生徒についての食に関する課題を明確にし、実習日誌や実習報告書の作成方法等を通じ実習効果を高める方法を学ぶ。 実習校での研究授業の準備を行う。 事後指導では、実習の問題点を整理し、実習内容および研究課題などをまとめ、報告会で発表する。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 栄養教育実習の意義、目的、内容</li> <li>2 栄養教育実習のための準備と心得</li> <li>3-6 模擬授業</li> <li>7-8 栄養教育実習報告会</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	実習日誌作成、教育実習の手引きを読み込む。研究授業準備（指導案・板書計画・媒体作成等）。			90 分	
	復習	実習日誌完成、研究授業の振り返り、お礼状送付、実習報告会。			90 分	
授業の留意点	<p>栄養教諭の職務は、食に関する指導と学校給食の管理を一体的に展開することであるため、学校給食の管理についての復習をしてから授業に臨んでほしい。 また、栄養教育実習の意味を十分に理解し、その準備に真剣に取り組み、実習後には課題を明確化して将来につなげてほしい。</p>					
学生に対する評価	<p>提出物（50点）、模擬授業（50点）の内容などから総合的に評価する。</p>					
教科書（購入必須）	<p>栄養教育実習日誌（担当教員作成） 教育実習の手引き（第6版）学術図書出版社 教職課程で使用したすべてのテキストを参考書として使用する。</p>					
参考書（購入任意）						

科 目 名	病理学		担当教員名	和泉 裕一・室野 晃一・藤田 智・眞岸 克明・立川 夏夫		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	臨床において当該疾患等の診断・治療に従事する専門医等が講義を行う。					
学習到達目標	病気の原因、発生機序、発症・進展の過程や患者に対する影響について理解し、臨床の現場でその知識を応用して、科学的根拠に基づく看護が出来ることを目指す。					
授業の概要	<p>いろいろな疾病は、細胞障害、感染症・炎症・免疫、循環障害、遺伝子異常、腫瘍、代謝異常、環境因子の複合的な関与、蓄積により引き起こされる。総論では、疾病の成り立ちを臓器の違いを超えて解説する。</p> <p>各論では、臓器別に各種疾病の病因・症状・治療について臓器特異性の視点から解説する。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 総論1：病理学とは何か、組織・細胞の障害と修復</li> <li>2 総論2：循環障害</li> <li>3 総論3：炎症と免疫、移植と再生医療</li> <li>4 総論4：感染症</li> <li>5 総論5：代謝障害</li> <li>6 総論6：先天異常と遺伝子異常、老化と死</li> <li>7 総論7：腫瘍</li> <li>8 各論1：循環器疾患（先天性、心不全、虚血性、心筋症、心内膜と血管の疾患）</li> <li>9 各論2：血液・造血器系の疾患</li> <li>10 各論3：呼吸器系疾患（鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺、胸膜と縦隔の疾患）</li> <li>11 各論4：消化器系疾患（口腔・食道、胃、腸、腹膜、肝臓、胆管、胆のう、膵臓の疾患）</li> <li>12 各論5：腎、泌尿器、生殖器および乳腺の疾患</li> <li>13 各論6：内分泌系の疾患</li> <li>14 各論7：脳、神経系の疾患</li> <li>15 各論8：骨、関節、筋肉系の疾患、眼・耳・皮膚の疾患</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする。			90分	
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する。			90分	
授業の留意点	講義を受ける前に各臓器の解剖・生理を復習しておく。 講義の要点を講義資料で把握し、教科書で補足する。					
学生に対する評価	試験（90点）と授業態度を評価（10点）					
教科書（購入必須）	病理学「疾病のなりたちと回復の促進 1」医学書院					
参考書（購入任意）						

科 目 名	臨床治療学 I		担当教員名	長谷部 佳子・南山 祥子・中谷 美紀子	
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>				
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師としての実務経験を有する教員が、病院など医療の現場で求められる病態生理・検査・治療等の医学的専門知識に関して、看護師の視点も踏まえながら教授する科目である。				
学習到達目標	本講義では、器官系統別[消化器系、呼吸器系、循環器系、腎・泌尿器系、血液・造血器系、脳神経系、骨関節筋肉系、免疫系、内分泌・代謝系]の高頻度に見られる疾患について、その原因・病態・診断のための検査・治療について理解し、ケアにつなげるための基礎的知識を学ぶことを目標とする。				
授業の概要	健康障害をもつ患者を看護するためには、健康障害についてアセスメントを行うことが必要である。すなわち、健康障害を引き起こしている疾患を理解し、その疾患が患者の身体的、精神的、社会的側面にどのような影響を与えているかを分析・判断することが看護職には求められる。この講義科目では器官系統別[消化器系、呼吸器系、循環器系、腎・泌尿器系、血液・造血器系、脳神経系、骨関節筋肉系、免疫系、内分泌・代謝系]の疾患についてその原因・病態・診断のための検査・治療について学ぶ。治療は、内科的治療法と外科的治療法について学ぶ。				
授業の計画	<p>1-6 消化器疾患（主に食道がん、胃がん、大腸がん、イレウス、クローン病、胃・十二指腸潰瘍、膵炎、肝炎、食道静脈瘤、肝がん、肝硬変）の原因・病態・診断のための検査・治療</p> <p>7-10 呼吸器疾患（主に肺がん、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、呼吸不全）の原因・病態・診断のための検査・治療</p> <p>11-14 循環器疾患（主に虚血性心疾患、心不全、大血管疾患、末梢血管疾患）の原因・病態・診断のための検査・治療</p> <p>15-17 腎・泌尿器疾患（主に腎不全、腎腫瘍、膀胱がん、前立腺がん、前立腺肥大症）の原因・病態・診断のための検査・治療</p> <p>18 血液・造血器疾患（主に白血病、悪性リンパ腫、再生不良性貧血）の原因・病態・診断のための検査・治療</p> <p>19-22 脳神経疾患（主に脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、神経難病）の原因・病態・診断のための検査・治療</p> <p>23-26 骨関節筋肉疾患（主に骨折、椎間板ヘルニア、脊髄損傷、変形性関節症）の原因・病態・診断のための検査・治療</p> <p>27-28 内分泌・代謝疾患（主に糖尿病、高脂血症、高尿酸血症）の原因・病態・診断のための検査・治療</p> <p>29-30 免疫疾患（主に関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症、AIDS）の原因・病態・診断のための検査・治療</p>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各章に関連する教科書を読み込んでおく。			30分
	復習	講義内容を振り返りノートにまとめる。			150分
授業の留意点	すでに履修済みの人体形態学、人体機能学を復習しておくことが望ましい。				
学生に対する評価	<p>&lt;試験の採点と再試験について&gt;</p> <p>1) 循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、脳神経疾患、骨関節筋肉疾患、腎・泌尿器疾患、内分泌・代謝疾患、血液・造血器疾患、免疫疾患の9つの領域を3つのグループに分けて3回の試験を行う。各グループは100点満点とし、1つのグループで60点未満の場合はそのグループの領域分が再試となる。再試験となった場合は、再試験の点数が60点以上でも「60点」として計算される。小テストの点数は、領域①では循環器10点、呼吸器10点、領域③では消化器15点満点で換算する。</p> <p>2) 「臨床治療学Ⅰ」の成績評価は、300点満点で判定（3つの試験の合計点）。最終成績評価は、100点に換算する。</p> <p>例：270～300点⇒秀、240～269点⇒優、210～239点⇒良、180～209点⇒可、180点未満⇒不可</p> <p>1つのグループでも再試験となった場合は、合格しても最終評価は「可」となる。</p>				
教科書（購入必須）	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4] 血液・造血器、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7] 脳神経、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8] 腎・泌尿器、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [10] 運動器、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症、医学書院</p> <p>今日の治療薬 2022 解説と便覧、 南江堂</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論、医学書院</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論、医学書院</p>				
参考書（購入任意）					

科 目 名	臨床治療学Ⅱ		担当教員名	市立病院医師		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	臨床において当該疾患等の診断・治療に従事する専門医等が講義を行う。					
学習到達目標	本講義は、成人期に高頻度に見られる疾患の原因・病態・診断・治療についての基礎的知識を学ぶことを目標とする。					
授 業 の 概 要	健康障害のある患者を看護するためには、健康障害についてアセスメントを行う必要がある。すなわち、健康障害を引き起こしている疾患を理解し、その疾患が患者の身体的、精神的、社会的側面にどのような影響を与えているかを分析・判断することが看護職に求められている。ここでは、感覚器系・女性生殖器系・歯科口腔系で高頻度に見られる疾患についてその原因・病態・診断・治療について学ぶ。					
授 業 の 計 画	1-2 主な皮膚疾患の原因・病態・診断・治療 3-4 主な眼疾患の原因・病態・診断・治療 5-6 主な歯・口腔疾患の原因・病態・診断・治療 7-8 主な耳鼻咽喉疾患の原因・病態・診断・治療 9-15 主な女性生殖器系疾患の原因・病態・診断・治療					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする。			90分	
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する。			90分	
授業の留意点	人体形態学、人体機能学、病理学を復習しておくこと。					
学生に対する評価	①歯科疾患について、試験もしくはレポート課題（20点） ②皮膚疾患について、試験もしくはレポート課題（20点） ③眼疾患について、試験もしくはレポート課題（20点） ④耳鼻咽喉科疾患について、試験もしくはレポート課題（20点） ⑤女性生殖器系疾患について、試験もしくはレポート課題（70点） 合計150点満点で評価する。 各領域で6割未満の場合はその領域分が再試となる。					
教科書（購入必須）	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	[9]	女性生殖器、医学書院	
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	[12]	皮膚、医学書院	
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	[13]	眼、医学書院	
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	[14]	耳鼻咽喉、医学書院	
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学	[15]	歯・口腔、医学書院	
参考書（購入任意）	必要時、指示する。					

科 目 名	臨床治療学Ⅲ		担当教員名	市立病院医師		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	臨床において当該疾患等の診断・治療に従事する専門医等が講義を行う。					
学 習 到 達 目 標	本講義は、母性および小児看護に必要な医学の基礎知識を学ぶことを目的とする。周産期ではハイリスクおよび異常と治療、小児では小児に特有な疾病の症状・治療・予後を中心に学修する。					
授 業 の 概 要	母性および小児の健康状態をアセスメントするためには、対象の解剖学的・生理学的特徴に関する知識の活用が不可欠である。また、母性および小児看護においてはウェルネスからハイリスク・健康障害の各ステージに応じた看護が要求される。そのため、妊娠・分娩・産褥の生殖生理、周産期母子の病態とハイリスク、周産期および小児期に高頻度に見られる疾病の原因・病態・診断・治療・予後などに関する基礎的知識を学ぶ。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 妊娠・分娩・産褥期の生殖生理（1）妊娠の成立、胎児、胎児付属物</li> <li>2 妊娠・分娩・産褥期の生殖生理（2）妊娠による母体・胎児の変化</li> <li>3 妊娠期の病態と異常（1）ハイリスク妊娠と妊娠合併症</li> <li>4 妊娠期の病態と異常（2）異常妊娠</li> <li>5 分娩期の病態と異常（1）産道・娩出力・胎児・胎児付属物の異常、新生児仮死</li> <li>6 分娩期の病態と異常（2）分娩時の損傷、異常出血、産科処置と産科手術</li> <li>7 産褥期の病態と異常（子宮復古不全、産褥熱、乳腺炎、産褥血栓症、マタニティブルーズ）</li> <li>8 新生児とその疾患、小児の神経・筋疾患</li> <li>9 染色体異常・先天異常</li> <li>10 小児の感染症</li> <li>11 小児のアレルギー疾患</li> <li>12 小児の循環器疾患、川崎病</li> <li>13 小児の呼吸器・消化器疾患、血液疾患</li> <li>14 小児の免疫疾患、膠原病</li> <li>15 小児の内分泌・代謝疾患、腎疾患</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする。			90分	
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する。			90分	
授 業 の 留 意 点	人体形態学、人体機能学、病理学を復習しておくこと。					
学 生 に 対 す る 価	①妊娠・分娩・産褥期について、試験もしくはレポート課題（100点） ②小児期について、試験もしくはレポート課題（100点） 合計200点満点で評価する。 教員領域ごとの試験で60点未満の場合はその領域分が再試となる。					
教 科 書 （購入必須）	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論、医学書院					
参 考 書 （購入任意）	必要時、指示する。					

科 目 名	感染微生物学		担当教員名	塚原 高広		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	大学病院（2年）、地域の基幹病院（3年）、クリニック・在宅医療（1年）の実務経験（臨床医）がある。					
学習到達目標	感染とは何か、感染成立の3要素、検査、化学療法について説明できる。 感染制御、感染対策について説明できる。 主要な感染症について、原因となる病原体、感染経路、感染臓器、臨床経過、予防・治療法を説明できる。					
授業の概要	微生物学・感染症学の総論を学ぶことを重視し、将来どのような保健・福祉分野に進むにせよ必要な知識を習得する。各論では、臓器・器官別の感染症を理解することを中心とし、あわせて重要な病原体の性質について学ぶ。					
授業の計画	1 微生物総論 2 細菌総論 3 ウイルス総論 4 真菌・寄生虫総論 5 免疫とアレルギー 6 感染症総論 7 全身性ウイルス感染症・発熱性感染症 8 呼吸器感染症 9 消化器感染症・食中毒 10 血液媒介感染症・ウイルス性肝炎 11 尿路感染症・神経系感染症 12 皮膚・眼感染症 13 性感染症・高齢者の感染症・日和見感染症 14 その他の感染症 15 感染制御					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の該当部分を読んでおくこと。			90分	
	復習	配布資料や自分がとったノートを参考にして教科書を再読して知識を確認すること。			90分	
授業の留意点	教科書を中心に授業を進めるので、予習、復習を通じて必ず通読して欲しい。単に知識を暗記するのではなく、考え方を習得することを目指す。復習しても理解できない事項は、講義後やムードルで担当教員に質問すること。					
学生に対する評価	定期試験（100点）により評価する。 定期試験の成績が不良の場合には、課題の提出状況と内容を最終評価に加える場合がある。					
教科書（購入必須）	中野隆史編『看護学テキスト 微生物学・感染症学』南江堂（2020年）					
参考書（購入任意）	神谷茂監修『標準微生物学 第14版』医学書院 中込治著『ウォームアップ微生物学』医学書院					



科 目 名	薬理学		担当教員名	長多 好恵・山端 孝司・結城 幸一		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	臨床において調剤、医薬品の供給その他薬事衛生に従事する薬剤師が薬の作用機序、薬物動態等薬物療法の基礎となるメカニズムを教授する科目					
学習到達目標	薬物治療の基礎となるメカニズムを理解する。					
授 業 の 概 要	総論では、薬の作用機序と生体内情報伝達、薬物動態、薬効に影響を与える各種の要因、薬の作用・副作用が現れる原理、アドヒアランスなどについて解説する。また、医薬品添付文書の読み方を習得するとともに関連する法律の概要を解説する。各論では実際の臨床治療で使われている各種薬物（自律神経作用薬、筋弛緩薬、麻酔薬、麻薬、向精神薬、抗てんかん薬、抗不安薬、抗うつ薬、パーキンソン症候群治療薬、解熱鎮痛薬、副腎皮質ステロイド、抗高血圧薬、狭心症治療薬、強心薬、抗不整脈薬、利尿薬、高脂血症治療薬、貧血治療薬、喘息治療薬、糖尿病治療薬、抗感染症薬、消毒薬、抗がん薬など）の作用および作用メカニズムと副作用について解説する。					
授 業 の 計 画	1 総論： アドヒアランス、医薬品医療機器等法、医薬品添付文書の読み方 2 総論： 薬の作用機序、薬物動態 3 各論： 末梢神経活動作用薬Ⅰ 4 各論： 末梢神経活動作用薬Ⅱ 5 各論： 中枢神経活動作用薬Ⅰ 6 各論： 中枢神経活動作用薬Ⅱ、免疫治療薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬 7 各論： 心・血管系に作用する薬物Ⅰ 8 各論： 心・血管系に作用する薬物Ⅱ、呼吸器に作用する薬物 9 各論： 高脂血症治療薬、貧血治療薬、血液凝固・線溶系に作用する薬物 10 各論： 消化器・生殖器に作用する薬物 11 各論： 物質代謝に作用する薬物 12 各論： 生物学的製剤、皮膚・眼科用薬 13 各論： 抗感染症薬 14 各論： 消毒薬、抗がん薬 15 各論： 生薬、漢方薬					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする。			90分	
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する。			90分	
授 業 の 留 意 点	生理学（人体機能学）、生化学、病態生理学（臨床治療学）、微生物学など関連科目の内容との関連を考えながら履修する。内容が膨大であるので、受講後必ずテキストや参考書を読む、図書館やインターネットで詳しく調べるなど復習をして、そのつど整理しておくこと。					
学 生 に 対 す る 評 価	筆記試験（マークシート方式、配点100点）により評価する。					
教 科 書 （購入必須）	吉岡充弘編『系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学 第14版』医学書院（2021年） 浦部晶夫ら編『今日の治療薬 2018』南江堂（2021年）					
参 考 書 （購入任意）	MJ Neal、佐藤俊明訳『一目でわかる薬理学 第5版』メディカル・サイエンス・インターナショナル（2007年） 鈴木正彦 パワーアップ問題演習 薬理学 新訂版 サイオ出版（2013年）					

科 目 名	臨床薬理学		担当教員名	本郷 文教																									
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	講義																							
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件																								
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。																												
実務経験及びそれに関わる授業内容	臨床において調剤、医薬品の供給その他薬事衛生に従事する薬剤師が、薬物療法の施行過程及び医薬品の取り扱いに必要な知識、薬剤師及び看護師の役割等を教授する科目																												
学習到達目標	適正な薬物療法を遂行するための基礎知識を習得する。																												
授 業 の 概 要	総論では、薬剤師の役割と業務内容を解説する。また医薬品を取り扱う上で必要となる法律の概要を解説し、服薬アドヒアランスの重要性を理解する。各論では、患者に薬が届けられるまでのプロセスから薬物療法の施行過程を解説し、その中で看護師として医薬品を取り扱う際に必要な知識を解説する。主な項目としては患者への与薬時に注意すべき点と服薬指導、注射薬の混注業務と輸液療法、血液製剤の取り扱い、病棟・処置室等における麻薬・向精神薬・ハイリスク薬の管理、感染症治療薬等が挙げられる。																												
授 業 の 計 画	<table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>総論</td> <td>薬剤師の役割と業務内容及び医薬品を扱う上で遵守すべき法律等</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>総論</td> <td>薬物療法の施行過程、医薬品の作用原理と有害作用</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>各論</td> <td>医薬品管理と麻薬・向精神薬・ハイリスク薬の取り扱い</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各論</td> <td>がんを使用する薬、および血管外漏出について</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各論</td> <td>輸液療法とその他の注射薬、血液製剤の取り扱いについて</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各論</td> <td>感染症に使用する薬について</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各論</td> <td>薬物血中濃度モニタリングの有用性と医薬品情報の利用の仕方</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各論</td> <td>生活習慣病治療薬の種類と使い方</td> </tr> </table>					1	総論	薬剤師の役割と業務内容及び医薬品を扱う上で遵守すべき法律等	2	総論	薬物療法の施行過程、医薬品の作用原理と有害作用	3	各論	医薬品管理と麻薬・向精神薬・ハイリスク薬の取り扱い	4	各論	がんを使用する薬、および血管外漏出について	5	各論	輸液療法とその他の注射薬、血液製剤の取り扱いについて	6	各論	感染症に使用する薬について	7	各論	薬物血中濃度モニタリングの有用性と医薬品情報の利用の仕方	8	各論	生活習慣病治療薬の種類と使い方
1	総論	薬剤師の役割と業務内容及び医薬品を扱う上で遵守すべき法律等																											
2	総論	薬物療法の施行過程、医薬品の作用原理と有害作用																											
3	各論	医薬品管理と麻薬・向精神薬・ハイリスク薬の取り扱い																											
4	各論	がんを使用する薬、および血管外漏出について																											
5	各論	輸液療法とその他の注射薬、血液製剤の取り扱いについて																											
6	各論	感染症に使用する薬について																											
7	各論	薬物血中濃度モニタリングの有用性と医薬品情報の利用の仕方																											
8	各論	生活習慣病治療薬の種類と使い方																											
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする。			90 分																								
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する。			90 分																								
授 業 の 留 意 点	臨床薬理学で学ぶ薬物療法の内容は基礎となる生理学、病態生理学、薬理学、微生物学、栄養学など関連科目を理解しておく必要がある。特に受講に際して薬理学のテキストを十分に読み、各々の医薬品の作用、副作用を整理しておくことが重要である。																												
学 生 に 対 す る 価	選択式・論述式の試験により評価（90 点）するが、場合によって授業態度（10 点）を加味する。必要によりレポートの提出を求めることがある。																												
教 科 書 （購入必須）	古川裕之、赤瀬智子、林正健二編 ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち② 臨床薬理学 メディカ出版 2021 年（第 5 版）																												
参 考 書 （購入任意）	河合眞一、島田和幸、浦部晶夫編 今日の治療薬 2021 南江堂 高久史麿、矢崎義雄 監修 治療薬マニュアル 2021 医学書院																												

科 目 名	生涯発達論		担当教員名	結城 佳子		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師等として出生から看取りまでの心のケアを実践した経験を有する教員が、対人援助において必須である生涯発達に関する基本的知識と考え方を指導する科目					
学 習 到 達 目 標	<p>生涯発達とは、胎生期から死に至る人の生涯において、より適切な適応のあり方を期待する包括的な概念である。保健・医療・福祉、教育等の領域で対象者を支援しようとするとき、生涯発達についての理解は不可欠である。生涯発達についての基本的考え方、人の生涯発達とその過程における危機的状況について理解することを目標とする。</p> <p>1. 生涯発達とは何か、基本的な考え方を述べることができる。</p> <p>2. 主な生涯発達理論について、説明できる。</p> <p>3. 各発達段階における危機について、発達段階の特徴、背景となる社会のありようと関連付けて具体的に述べることができる。</p>					
授 業 の 概 要	E. H. エリクソンの生涯発達理論にそって、各発達段階にある人々のありよう、達成すべき発達課題について学ぶ。また、発達課題への取り組みにおいて、危機的な状況にある人々等のありようを学ぶ。生涯発達の理解をふまえ、人を理解する上で生涯発達への視点がなぜ必要なのか、多様化・複雑化する社会の中での課題を検討する。					
授 業 の 計 画	<p>1 生涯発達とは 発達段階と発達課題</p> <p>2 生涯発達の基本的理解 E. H. エリクソンの考え方を中心に</p> <p>3 胎生期から乳児期前期 信頼 対 不信</p> <p>4 乳児期後期 信頼 対 不信</p> <p>5 幼児期前期 自律性 対 恥・疑惑</p> <p>6 幼児期後期 積極性 対 罪悪感</p> <p>7 学童期 勤勉性 対 劣等感</p> <p>8 中間まとめ 子どもという存在と重要他者</p> <p>9 思春期・青年期 同一性 対 拡散 (1) 思春期・青年期のからだところの変化</p> <p>10 思春期・青年期 同一性 対 拡散 (2) アイデンティティとその危機</p> <p>11 思春期・青年期 同一性 対 拡散 (3) 成年期へ</p> <p>12 成年前期 親密性 対 孤独感</p> <p>13 成年期 生成継承性 対 停滞</p> <p>14 成熟期 統合 対 絶望</p> <p>15 まとめ 人が生きるということ</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回でテーマとする発達段階について調べ、疑問点等を明らかにする。			90分	
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理し、関連する研究論文等を1編以上読む。			90分	
授 業 の 留 意 点	少人数でのグループワークを取り入れた講義であるため、与えられた課題に対して自ら考えたことを積極的に発信し、他者と協力して取り組む姿勢が期待される。					
学 生 に 対 す る 価 値	<p>レポート課題：中間、最終各50点、計100点</p> <p>以下の5段階で評価する。</p> <p>S：素点90点以上、A：素点80～89点、B：素点70～79点、C：素点60～69点、D：素点59点以下</p> <p>C以上の評価について単位を認定する。D評価の者は課題再提出とし、再提出は素点69点までとする。</p>					
教 科 書 (購入必須)	テキストは使用せず、資料を配布する。					
参 考 書 (購入任意)	必要時指示する。					

科目名	人間関係論		担当教員名	結城 佳子・中島 泰葉		
学年配当	1年	単位数	2単位		開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	必修		資格要件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師等として多様な場面での心のケアを実践した経験を有する教員が、対人援助の基盤となる人間関係に関する基本的知識と考え方を指導する科目					
学習到達目標	<p>看護の担い手は、対人援助専門職として対象者との間に援助の人間関係を構築し、維持することが求められる。人の発達、成長、成熟に深く関わる人間関係の基礎的理論を学び、自己理解・他者理解を通じて、看護実践の基礎となる人間関係について理解を深めることを目標とする。</p> <p>1. 自己理解及び他者理解の基本的な考え方を説明することができる。</p> <p>2. 人の各発達段階における人間関係の様相について、要点を述べることができる。</p> <p>3. 集団における人間関係の様相について、要点を述べることができる。</p> <p>4. チームワーク、メンバーシップ、リーダーシップについて、基本的な考え方を説明できる。</p>					
授業の概要	講義とともに小課題、ワークなどに取り組み、体験を通して人間関係について理解を深める。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション/人間関係の基礎① 人間関係の基本的視点</li> <li>2 人間関係の基礎② 自己理解</li> <li>3 人間関係の基礎③ 他者理解</li> <li>4 自己と他者のコミュニケーション① 話す/聴く</li> <li>5 自己と他者のコミュニケーション② 観る/感じる</li> <li>6 人間関係の生涯発達① 乳幼児期～学童期</li> <li>7 人間関係の生涯発達② 思春期・青年期～老年期</li> <li>8 人間関係の諸相① 家庭</li> <li>9 人間関係の諸相② 学校/職場</li> <li>10 集団の人間関係① 支配と権威</li> <li>11 集団の人間関係② 親和と同調</li> <li>12 集団の人間関係③ 攻撃と敵対</li> <li>13 集団の人間関係④ 援助と協調</li> <li>14 対人援助における人間関係① 医療チームにおける人間関係</li> <li>15 対人援助における人間関係② 患者一看護師関係</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回のテーマについて調べ、疑問点等を明確にしておく。			90分	
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理し、関連する研究論文等を1編以上読む。			90分	
授業の留意点	少人数でのグループワークを積極的に取り入れた講義であるため、与えられた課題に対して自ら考えたことを積極的に発信し、他者と協力して取り組む姿勢が期待される。					
学生に対する評価	<p>レポート課題：中間、最終各50点、計100点 以下の5段階で評価する。</p> <p>S：素点90点以上、A：素点80～89点、B：素点70～79点、C：素点60～69点、D：素点59点以下 C以上の評価について単位を認定する。D評価の者は課題再提出とし、再提出は素点69点までとする。</p>					
教科書（購入必須）	テキストは使用せず、資料を配布する。					
参考書（購入任意）	必要時指示する。					

科 目 名	保健医療福祉行政論 I		担当教員名	播本 雅津子・野村 陽子・室矢 剛志		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	行政機関での実務経験を有する教員が担当する。保健医療福祉行政で必要とされる法律や制度について解説する。					
学習到達目標	<p>保健・医療・福祉に関する法律や制度などを理解できる。</p> <p>さまざまな対象者の健康と生活を支える保健医療福祉行政の役割について理解できる。</p>					
授業の概要	保健医療福祉行政に関する理念や仕組みを学んだ上で、あらゆる対象者の健康を支えるための根拠となる法律や制度について理解する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保健医療福祉行政の理念</li> <li>2 保健医療行政の仕組み</li> <li>3 社会情勢の変化と保健医療福祉行政の変遷</li> <li>4 社会保障制度の理念と仕組み</li> <li>5 医療法と医療提供体制</li> <li>6 母子保健に関する法律と制度</li> <li>7 成人保健に関する法律と制度</li> <li>8 高齢者保健に関する法律と制度</li> <li>9 地域包括ケアシステムにおける保健師の役割</li> <li>10 精神保健に関する法律と制度</li> <li>11 難病保健に関する法律と制度</li> <li>12 障害者福祉に関する法律と制度</li> <li>13 感染症対策に関する法律と制度</li> <li>14 健康危機管理に関する法律と制度</li> <li>15 保健医療福祉計画と根拠法</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと。			90 分	
	復習	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること。			90 分	
授業の留意点	これまで学んだ科目の内容との関連を考えながら履修すること。受講後には必ず教科書等を読み、そのつど知識を整理しておくこと。詳細は、開講時に配布するスケジュールを確認すること。					
学生に対する評価	筆記試験（70 点）・レポート課題（30 点）により評価する。いずれも 6 割以上の評価を必要とする。					
教科書（購入必須）	野村陽子編『最新保健学講座 7 保健医療福祉行政論』メヂカルフレンド社					
参考書（購入任意）	<p>藤内修二他編『標準保健師講座別巻 1・保健医療福祉行政論 第 5 版』医学書院</p> <p>厚生統計協会編『厚生指標・国民衛生の動向』厚生統計協会</p>					

科 目 名	保健医療福祉行政論Ⅱ		担当教員名	播本 雅津子・室矢 剛志		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	行政機関での実務経験を有する教員が担当する。保健師が実践している保健医療福祉行政での活動の実際について解説する。					
学習到達目標	保健・医療・福祉に関する法律や制度などを活用して健康課題に応じた活動を実践するプロセスを学習し、保健医療福祉行政における保健師の役割を理解できる。					
授業の概要	保健医療福祉行政の立場から、さまざまな健康課題に応じた活動を展開するために必要な制度や保健医療福祉サービスの立案・実施・評価の流れについて学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域保健行政と地方自治の理念</li> <li>2 地域保健行政の体系</li> <li>3 地域保健行政の予算の仕組み</li> <li>4 地域保健行政における保健師の役割(1)-都道府県の保健師活動</li> <li>5 地域保健行政における保健師の役割(2)-市町村の保健師活動</li> <li>6 保健医療福祉システムを踏まえた保健師活動の実際(1)-母子保健</li> <li>7 保健医療福祉システムを踏まえた保健師活動の実際(2)-成人・高齢者保健</li> <li>8 保健医療福祉システムを踏まえた保健師活動の実際(3)-感染症対策</li> <li>9 保健医療福祉システムを踏まえた保健師活動の実際(4)-健康危機管理</li> <li>10 保健医療福祉計画の策定と評価</li> <li>11 保健事業の立案と評価(1)-健康課題の検討</li> <li>12 保健事業の立案と評価(2)-事業内容の検討（企画の全体像）</li> <li>13 保健事業の立案と評価(3)-事業内容の検討（保健指導方法）</li> <li>14 保健事業の立案と評価(4)-評価方法の検討</li> <li>15 保健事業の立案と評価(5)-立案内容の報告と共有</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと。			90 分	
	復習	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること。			90 分	
授業の留意点	これまで学んだ科目の内容との関連を考えながら履修すること。受講後には必ず教科書等を読み、そのつど知識を整理しておくこと。詳細は、開講時に配布するスケジュールを確認すること。					
学生に対する評価	筆記試験（70 点）・レポート課題（30 点）により評価する。いずれも 6 割以上の評価を必要とする。					
教科書（購入必須）	野村陽子編『最新保健学講座 7 保健医療福祉行政論』メヂカルフレンド社					
参考書（購入任意）	藤内修二他編『標準保健師講座別巻 1・保健医療福祉行政論 第 5 版』医学書院 厚生統計協会編『厚生指針・国民衛生の動向』厚生統計協会					

科 目 名	医療福祉論		担当教員名	榊原 次郎		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保健医療分野の社会福祉士・ケアマネジャーとして、病院 22 年、診療所 4 年の実務経験がある。その経験を通して、医療ソーシャルワーカーの援助技術および地域を基盤とする多職種・多機関の連携・協働について授業を行う。					
学習到達目標	①医療福祉領域のソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を学び、保健医療に係る政策、制度、サービスについて、福祉との関係性を含め理解し習得する。 ②保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働について理解し、保健医療の中で疾病や疾病に伴う課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援の実践方法を習得することを到達目標とする。					
授業の概要	医療現場における医療ソーシャルワーカー（MSW）の業務理解を通して、活用できるフォーマル・インフォーマルな社会資源やその連携方法を学ぶ。 病院だけでなく、診療所（クリニック）や在宅医療等地域の中で機能を発揮する MSW の具体的実践内容を知り、各種実習や社会生活で活用できるコミュニケーションスキル・面接技術を学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割</li> <li>2 疾病構造の変化に伴う保健医療の動向</li> <li>3 保健医療における福祉的課題</li> <li>4 保健医療の課題を持つ人（病者および家族）の理解</li> <li>5 医療倫理と保健医療に係る倫理的課題</li> <li>6 患者の権利と保健医療における意思決定支援</li> <li>7 保健医療サービスを提供する施設とシステム（地域医療計画・医療施設・保健所の役割）</li> <li>8 保健医療に係る政策・制度（医療保険制度・診療報酬制度）</li> <li>9 介護保険制度と地域包括ケア</li> <li>10 保健医療における社会福祉士の役割</li> <li>11 医療ソーシャルワーカー業務指針（業務の範囲と方法）</li> <li>12 保健医療における専門職と多職種連携実践（IPW）</li> <li>13 地域の関係機関との連携・協働</li> <li>14 医療ソーシャルワーカーの支援事例（入院中・退院時・災害現場における支援）</li> <li>15 医療ソーシャルワーカーの支援事例（外来・在宅医療・終末期ケアにおける支援）</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業計画の項目に沿った医療福祉に関する資料を読み込む。			90 分	
	復習	授業内容やその日の学びを振り返りノートにまとめる。講義の疑問点、感じたこと等をリアクションペーパーにて提出する。			90 分	
授業の留意点	保健医療福祉領域の広がりや連携に重要な役割を果たす医療ソーシャルワークの業務について、保健医療サービスの現状について関心を持ち、各種資料や報道される内容を分析し、予習・復習に努めること。 毎回授業終了時にリアクションペーパーの提出を求める。					
学生に対する評価	各回のリアクションペーパー（30 点）、定期試験（70 点）によって、総合的に評価する。					
教科書（購入必須）	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 5、保健医療と福祉』（中央法規）					
参考書（購入任意）	参考書については別途指示する。					

科 目 名	看護学概論		担当教員名	畑瀬 智恵美		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として実務経験を持つ教員が、看護の本質、看護学の学問特性、職業的看護の歴史的経緯・法的基礎、社会のニーズと看護の機能など、実践学を成立させる基本的要素について教授する科目					
学習到達目標	<p>1. 看護とは何かについて説明できる。</p> <p>2. 看護学の構成要素である看護、人間、健康、環境の概念および概念間の関連性について説明できる。</p> <p>3. 看護理論の複数のキーワードについて説明できる。</p> <p>4. 保健医療福祉分野における看護の役割について説明できる。</p> <p>5. 看護における倫理の重要性について説明できる。</p>					
授業の概要	看護の本質、看護学の学問特性、職業的看護の歴史的経緯・法的基礎、社会のニーズと看護の機能など、実践学を成立させる基本的要素について理解する。そのために中心的な看護概念を把握し、主な看護理論を学ぶ。また、近年の保健医療福祉分野における看護職の役割と機能を理解する。さらに、看護の対象者である人間を理解するための倫理的態度やケアリングを学び、看護職としての看護観を培う。					
授業の計画	<p>1 オリエンテーション、看護の変遷ー看護の原点、看護の語源</p> <p>2 看護の変遷ー看護の歴史</p> <p>3 「看護覚え書」からナイチンゲールの述べる看護について グループでまとめる</p> <p>4 看護学の主要概念 看護とは</p> <p>5 看護学の主要概念 看護の対象である人間</p> <p>6 看護学の主要概念 看護における健康、人間と環境の関係</p> <p>7 ナイチンゲール「看護覚え書」講読の発表</p> <p>8 看護理論の変遷と概要</p> <p>9 看護理論の講読（グループワーク）</p> <p>10 職業的看護の発展</p> <p>11 看護の役割と機能</p> <p>12 看護制度と政策、看護サービス</p> <p>13 看護における倫理・法</p> <p>14 看護理論の講読（グループワーク） 発表資料作成</p> <p>15 看護理論の講読（グループ発表）</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	看護覚え書や看護理論の講読および事前課題として提示するものを読み込んだり調べる。			90分	
	復習	講義内容を振り返りノートにまとめるなどして復習する。			90分	
授業の留意点	看護に関するさまざまな文献を読むなど積極的に学習し、「看護とは何か」について、主体的に考えていきましょう。また、グループワークの際は協力しましょう。事前課題に示したものは、授業までにまとめましょう。授業で配布した資料やグループでまとめた資料は、ファイリングしてください。					
学生に対する評価	定期試験 80点と提出物 20点の合計点で評価します。尚、試験 6割（48点）以上、提出物 6割（12点）以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は厳守すること。以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。					
教科書（購入必須）	<p>①茂野香おる代表：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1] 看護学概論、第 17 版、医学書院</p> <p>②フローレンス・ナイチンゲール著『看護覚え書』（改訳第 7 版）現代社</p> <p>③ヘンダーソン.V（湯楨ます・小玉香津子訳）：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会</p>					
参考書（購入任意）	・城ヶ端初子編：新訂版 実践に生かす看護理論 19、サイオ出版					



科 目 名	看護技術論		担当教員名	畑瀬 智恵美		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的に、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として臨床経験を持つ教員が、看護の対象となる人々へ安全で、安楽な、そして自立を促すことを目指した目的意識的な行為である看護技術の特徴について教授する科目					
学習到達目標	<p>1. 看護技術の特徴について説明することができる。</p> <p>2. 看護技術における安全性・安楽性・自立支援について説明することができる。</p> <p>3. 科学的根拠に基づいた看護を展開する技術について説明することができる。</p> <p>4. 看護の専門性と看護技術の発展について説明することができる。</p> <p>5. 看護技術の修得過程における課題を述べるることができる。</p>					
授業の概要	看護の対象となる人々へ安全で、安楽な、そして自立を促すことを目指した目的意識的な行為である看護技術の特徴について理解する。看護技術は、科学的根拠に基づいて、個性性を重視して実践されること、看護技術の修得過程における課題について考察していく。					
授業の計画	<p>1 看護技術の特徴</p> <p>2 看護技術の特徴：サイエンスでありアートであるという意味について</p> <p>3 看護技術の要素：安全性、安楽性、自立支援</p> <p>4 看護技術の要素：グループワーク</p> <p>5 看護技術の要素：グループワークの発表</p> <p>6 看護技術と看護過程</p> <p>7 看護技術と看護理論</p> <p>8 看護の専門性と看護技術の発展</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	事前に提示した課題について調べてまとめる。			90分	
	復習	講義内容を振り返りノートにまとめるなどして復習する。			90分	
授業の留意点	<p>授業で提示した参考資料は熟読しましょう。</p> <p>事前課題に示したものは、授業までにまとめましょう。</p> <p>授業で配布した資料やグループでまとめた資料は、ファイリングしてください。</p> <p>グループワークでは、メンバーの考えをきいて、学習を深めてください。</p>					
学生に対する評価	定期試験 80 点と提出物 20 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（48 点）以上、提出物 6 割（12 点）以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は厳守すること。以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。					
教科書（購入必須）	深井喜代子編：基礎看護技術 I、メヂカルフレンド社					
参考書（購入任意）	授業中に提示する。					

科 目 名	看護共通技術 I		担当教員名	鈴木 朋子・岩田 直美		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として臨床経験を持つ教員が、看護実践に必要な感染予防技術、安全管理技術、安楽促進技術を教授する科目					
学習到達目標	<p>1. 看護実践の基本となる感染予防技術、安全管理技術、安楽促進技術について、科学的根拠を踏まえて説明することができる。</p> <p>2. 看護実践に共通する感染予防技術、安楽促進技術に関する基本的な看護技術を実施できる。</p>					
授業の概要	看護の目的を達成させるための看護技術は、専門職としての能力の中核を成す。本講義においては、看護実践に共通して必要な感染予防技術、安全管理技術、安楽促進技術の目的・方法・留意点・科学的根拠を学ぶ。その技術が提供される対象の臨床判断ができるよう、基礎を学習する。同時にそれらに伴う倫理的判断についても学ぶ。					
授業の計画	<p>1 オリエンテーション、感染予防技術（感染予防の原則、スタンダードプリコーション）</p> <p>2 感染予防技術（感染経路別予防策、感染源対策、無菌操作）</p> <p>3 感染予防技術の実際：手洗い、個人防護用具の装着①</p> <p>4 感染予防技術・スタンダードプリコーション（認定看護師）</p> <p>5 安楽促進技術（安楽の概念、体位保持、ボディメカニクス）</p> <p>6 安楽促進技術（安楽をもたらす看護技術）</p> <p>7-8 安楽促進技術の実際：ボディメカニクスの基本、安楽な体位、体位変換</p> <p>9 安楽促進技術の実際：温罨法、冷罨法</p> <p>10-11 病院見学</p> <p>12-13 感染予防技術の実際：消毒、滅菌、個人防護用具の装着②</p> <p>14 安全管理技術（看護における安全、ヒューマンエラー）</p> <p>15 安全管理技術（転倒転落事故、誤薬、患者誤認）</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の該当部分を予習する。事前課題として提示されたものを行う。			20分	
	復習	講義・演習内容を振り返り、リフレクションするとともに、ノートにまとめるなどして復習する。			25分	
授業の留意点	<p>この科目は講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって講義を受けた上で、事前学習を個々に行い、演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行ってください。</p> <p>学生個々が主体的な学習を繰り返して、看護技術を習得していく必要があります。</p> <p>授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。</p> <p>看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉遣いや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。</p> <p>提示された課題について個人学習をして授業に臨みましょう。</p> <p>また、グループワークなどを通して、自分自身の考えを深めていけるようにしましょう。</p>					
学生に対する評価	定期試験 80 点と提出物 20 点の合計点で評価します。なお、試験 6 割（48 点）以上、提出物 6 割（12 点）以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は厳守すること。以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。					
教科書（購入必須）	<p>①深井喜代子編：基礎看護技術 I、メヂカルフレンド社</p> <p>②任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、第3版、医学書院</p>					
参考書（購入任意）	・吉田みつ子・本庄恵子監修：写真でわかる基礎看護技術、インターメディカ					

科 目 名	看護共通技術Ⅱ		担当教員名	鈴木 朋子・齋藤 千秋	
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>				
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として臨床経験を持つ教員が、看護実践に必要なコミュニケーション技術、終末期における援助を教授する科目				
学習到達目標	<p>1. コミュニケーションについて説明できる。</p> <p>2. 看護場面における効果的なコミュニケーション技法について実施できる。</p> <p>3. 援助的なコミュニケーションについて自己の課題を説明できる。</p> <p>4. 死の看取りにおける技術の目的、留意点、方法について説明できる。</p>				
授業の概要	<p>1. 看護の基本となる援助的人間関係の構築について学ぶ。コミュニケーション理論を基礎に、コミュニケーションに必要な技法を体験的に学ぶ。ロールプレイングを通して、自己のコミュニケーションの傾向や援助者としてのコミュニケーションスキルをリフレクションし、自己の課題を見出す。</p> <p>2. 終末期における援助を学ぶ。</p>				
授業の計画	<p>1 オリエンテーション、コミュニケーション技術</p> <p>2 看護職として必要な接遇・マナー</p> <p>3 看護職として必要な接遇・マナーの実際</p> <p>4 コミュニケーション技術（看護師と患者の関係、対人関係の成立に不可欠な要素）</p> <p>5 コミュニケーション技術（コミュニケーションの構成要素と成立過程）</p> <p>6 コミュニケーション技術（効果的なコミュニケーションの実際）</p> <p>7 コミュニケーション技術の実際（自身のコミュニケーションを振り返る）</p> <p>8 コミュニケーション技術の実際（伝える・伝わる経験）</p> <p>9 コミュニケーション技術の実際（ロールプレイ）</p> <p>10 コミュニケーション技術の実際（動画を視聴し、グループワーク）</p> <p>11 コミュニケーション技術の実際（看護場面の再構成）</p> <p>12 コミュニケーション技術の実際（看護場面の再構成をもとにグループワーク）</p> <p>13 コミュニケーション技術（自己課題の明確化）</p> <p>14 死の看取りの技術（悲嘆へのケア）</p> <p>15 死の看取りの技術（死後のケア）</p>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の該当部分を予習する。事前課題として提示されたものを行う。			20分
	復習	講義・演習内容を振り返り、リフレクションするとともに、ノートにまとめるなどして復習する。			25分
授業の留意点	<p>この科目は講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって講義を受けた上で、事前学習を個々に行い、演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行ってください。</p> <p>学生個々が主体的な学習を繰り返して、看護技術を習得していく必要があります。</p> <p>授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。</p> <p>看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉遣いや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。</p> <p>提示された課題について個人学習をして授業に臨みましょう。</p> <p>また、グループワークなどを通して、自分自身の考えを深めていけるようにしましょう。</p>				
学生に対する評価	定期試験 50 点と提出物 50 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（30 点）以上、提出物 6 割（30 点）以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は厳守すること。以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				
教科書（購入必須）	<p>①深井喜代子編：基礎看護技術Ⅰ、メヂカルフレンド社</p> <p>②任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、第2版、医学書院</p>				
参考書（購入任意）					

科 目 名	基礎看護技術 I		担当教員名	岩田 直美・畑瀬 智恵美・齋藤 千秋	
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>				
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として臨床経験を持つ教員が、基本的な生活援助技術である環境調整、活動と休息、栄養と食生活の根拠を考えるとともに、その技術が提供される対象の臨床経過を考慮した援助方法を考え実践できるための基盤を教授する科目				
学習到達目標	<p>1. 看護における環境調整の意義およびその援助方法について説明できる。</p> <p>2. 人間にとっての活動と休息の意義とアセスメントの視点およびその援助方法について説明できる。</p> <p>3. 人間にとっての栄養と食事の意義とアセスメントの視点およびその援助方法について説明できる。</p> <p>4. 環境調整、活動と休息、栄養と食事に関する基本的な看護技術を実施できる。</p>				
授業の概要	看護の目的を達成させるための看護技術は、専門職としての能力の中核を成す。本講義においては、基本的な生活援助技術である環境調整、活動と休息、栄養と食生活の援助技術の目的・方法・留意点・科学的根拠を学ぶ。その技術が提供される対象の臨床判断ができるように、実践できるための基盤を学習する。				
授業の計画	<p>1 オリエンテーション、環境調整技術</p> <p>2 環境調整技術</p> <p>3 活動・休息援助技術</p> <p>4 活動・休息援助技術・廃用症候群の予防（認定看護師）</p> <p>5-6 環境調整技術の実際：ベッドメイキング</p> <p>7 食生活と栄養摂取の技術</p> <p>8-9 食生活と栄養摂取の技術の実際：食事の援助・口腔ケア</p> <p>10-11 技術試験（ベッドメイキング）</p> <p>12-13 環境調整技術の実際：リネン交換</p> <p>14-15 活動・休息援助技術の実際：車椅子・ストレッチャーの移乗・移送</p>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	指定した教科書の該当する単元を読み込み、教員から動画視聴の指示があった場合はイメージが付くまで視聴する。技術項目に対して看護技術実践ノート（目的、実施内容、手順、根拠、留意点他）を作成する。			20 分
	復習	授業内容を教科書やレジュメを使用し振り返る。教員から指示があった場合はリフレクションシートを作成する。			25 分
授業の留意点	<p>この科目は講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって講義を受けた上で、事前学習を個々に行い、演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行ってください。</p> <p>学生個々が主体的な学習を繰り返して、看護技術を修得していく必要があります。自己学習として、看護技術項目に対して看護技術実践ノート（目的、実施内容、手順、根拠、留意点他）を作成して、演習に臨んで下さい。</p> <p>授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。</p> <p>看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。</p>				
学生に対する評価	<p>定期試験 60 点、技術試験 20 点、提出物 20 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（36 点）以上、技術試験 6 割（12 点）以上、提出物 6 割（12 点）以上を取得した場合に合格となります。</p> <p>提出物の期限は厳守すること。</p> <p>以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。</p>				
教科書（購入必須）	<p>①深井喜代子編：基礎看護技術 I、メヂカルフレンド社</p> <p>②深井喜代子編：基礎看護技術 II、メヂカルフレンド社</p> <p>③任和子・井川順子編：基礎・臨床看護技術、第 3 版、医学書院</p>				
参考書（購入任意）	・吉田みつ子・本庄恵子監修：写真でわかる基礎看護技術、インターメディカ				

科 目 名	基礎看護技術Ⅱ		担当教員名	齋藤 千秋・岩田 直美		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として臨床経験を持つ教員が、基本的な生活援助技術である排泄、清潔の根拠を考えるとともに、その技術が提供される対象の臨床経過を考慮した援助方法を考え実践できるための基盤を教授する科目					
学 習 到 達 目 標	<p>1. 人間にとっての清潔・衣生活の意義とアセスメントの視点およびその援助方法について説明できる。</p> <p>2. 人間にとっての排泄の意義とアセスメントの視点およびその援助方法について説明できる。</p> <p>3. 清潔、排泄に関する基本的な看護技術を実施できる。</p>					
授 業 の 概 要	看護の目的を達成させるための看護技術は、専門職としての能力の中核を成す。本講義においては、基本的な生活援助技術である排泄、清潔の援助技術の目的・方法・留意点・科学的根拠を学ぶ。その技術が提供される対象の臨床判断ができるように、実践できるための基盤を学習する。					
授 業 の 計 画	<p>1 オリエンテーション、清潔・衣生活の援助技術：清潔の意義、入浴</p> <p>2-3 清潔・衣生活の援助技術の実際：足浴</p> <p>4 清潔・衣生活の援助技術：部分浴、清拭、洗髪</p> <p>5-6 清潔・衣生活の援助技術の実際：全身清拭・寝衣交換</p> <p>7-8 清潔・衣生活の援助技術の実際：洗髪</p> <p>9 排泄援助技術：排泄の意義、尊厳を踏まえた援助の基本</p> <p>10 技術試験</p> <p>11-12 排泄援助技術の実際：ベッド上の排泄介助・おむつ交換・陰部洗浄</p> <p>13 排泄援助技術：排泄障害と、処置が必要な患者への援助</p> <p>14-15 排泄援助技術の実際：導尿・浣腸</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の該当部分を予習する。教科書を参照し、看護技術実践ノートを作成する。			20分	
	復習	教科書や講義資料を振り返り、授業内容をまとめる。リフレクションシートを作成して、演習内容を振り返る。			25分	
授 業 の 留 意 点	<p>この科目は講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって講義を受けた上で、事前学習を個々に行い、演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行ってください。</p> <p>学生個々が主体的な学習を繰り返して、看護技術を修得していく必要があります。自己学習として、看護技術項目に対して看護技術実践ノート（目的、実施内容・手順、根拠、留意点他）を作成して、演習に臨んで下さい。</p> <p>授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。</p> <p>看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。</p>					
学 生 に 対 す る 評 価	<p>定期試験 70 点、技術試験 20 点、提出物 10 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（42 点）以上、技術試験 6 割（12 点）以上、提出物 6 割（6 点）以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は厳守すること。</p> <p>以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。</p>					
教 科 書 (購入必須)	<p>①深井喜代子編：基礎看護技術Ⅰ、メヂカルフレンド社</p> <p>②深井喜代子編：基礎看護技術Ⅱ、メヂカルフレンド社</p> <p>③任和子・井川順子・秋山弥弥編：基礎・臨床看護技術、第2版、医学書院</p>					
参 考 書 (購入任意)	・吉田みつ子・本庄恵子監修：写真でわかる基礎看護技術、インターメディカ					

科 目 名	基礎看護技術Ⅲ		担当教員名	鈴木 朋子・齋藤 千秋・岩田 直美		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として臨床経験を持つ教員が、検査・診療を受ける看護の対象に、身体侵襲の大きい援助技術を教授する科目					
学習到達目標	<p>1. 診療に伴う援助技術における看護師の役割を説明できる。</p> <p>2. 栄養、呼吸・循環、創傷管理 に関する看護技術について、安全・安楽を配慮した援助方法について説明できる。</p> <p>3. 栄養、呼吸・循環、創傷管理 に関する看護技術を安全・安楽で確実に実施できる。</p> <p>4. 紙上事例を用いて、看護過程を展開することができる。</p>					
授業の概要	検査、診療を受ける看護の対象に、必要な基本的知識と援助技術、支援・相談的技術を講義・演習により修得する。基本的な援助技術の目的・方法・留意点・科学的根拠を学ぶ。その技術が提供される対象の臨床判断ができるよう、基礎を学習する。同時にそれらに伴う倫理的判断についても学ぶ。					
授業の計画	<p>1 オリエンテーション、栄養摂取の援助技術</p> <p>2-3 栄養摂取の援助技術の実際：経鼻胃チューブ経管栄養法</p> <p>4 栄養摂取の援助技術・摂食嚥下障害看護（認定看護師）</p> <p>5 呼吸・循環を整える技術（姿勢・呼吸法、酸素吸入療法、吸入療法、気道分泌物排出の方法）</p> <p>6 呼吸・循環を整える技術（胸腔ドレナージ、人工呼吸療法、末梢循環促進の援助）</p> <p>7-8 呼吸・循環を整える技術の実際：酸素吸入、気道内加湿法、口腔内・鼻腔内吸引、弾性ストッキング</p> <p>9 創傷管理技術</p> <p>10 創傷管理技術の実際：創傷処置、包帯法</p> <p>11 創傷管理技術・褥瘡予防のためのケア（認定看護師）</p> <p>12 看護過程演習：アセスメント</p> <p>13 看護過程演習：看護上の問題の特定</p> <p>14 看護過程演習：計画立案</p> <p>15 看護過程演習：実施・評価</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の該当部分を予習する。事前課題として提示されたものを行う。			20分	
	復習	講義・演習内容を振り返り、リフレクションするとともに、ノートにまとめるなどして復習する。			25分	
授業の留意点	<p>この科目は講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって講義を受けた上で、事前学習を個々に行い、演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行ってください。</p> <p>学生個々が主体的な練習を繰り返して、看護技術を修得していく必要があります。自己学習として、看護技術項目に対して、看護技術実践ノート（目的、実施内容・手順、根拠、留意点他）を作成して、演習に臨んでください。</p> <p>授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。</p> <p>看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。</p> <p>事例検討では、提示された課題について個人学習をして授業に臨み、グループワークなどを通して学びを深めましょう。</p>					
学生に対する評価	定期試験 70 点、看護過程レポート 20 点、提出物 10 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（42 点）以上、看護過程レポート 6 割（12 点）以上、提出物 6 割（6 点）以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は厳守すること。以上、試験、看護過程レポート、提出物のすべての合格により単位は認定されます。					
教科書（購入必須）	<p>①深井喜代子編：基礎看護技術Ⅱ、メヂカルフレンド社</p> <p>②任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、医学書院</p>					
参考書（購入任意）	<p>・本庄恵子・吉田みつ子監修：写真でわかる臨床看護技術Ⅰ、インターメディカ</p> <p>・高木永子監修：看護過程に沿った対象看護、第4版、学研</p> <p>・松尾ミヨ子・志自岐康子・城生弘美編：ヘルスアセスメント、メディカ出版</p>					

科 目 名	基礎看護技術Ⅳ		担当教員名	鈴木 朋子・畑瀬 智恵美・岩田 直美	
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>				
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として臨床経験を持つ教員が、検査、診療を受ける看護の対象に、身体侵襲の大きい援助技術を教授する科目				
学習到達目標	<p>1. 生命の危機状態と救命救急処置の意義および看護師の役割を説明できる。</p> <p>2. 救命救急処置を確実に実施できる。</p> <p>3. 検査の基本的な知識および看護師の役割と検査時の看護における留意事項について説明できる。</p> <p>4. 血液検査の静脈血採血の基本的な知識を踏まえ、安全で確実に実施できる。</p> <p>5. 与薬に関する基本的な知識および看護師の役割、留意事項について説明できる。</p> <p>6. 注射法の基本的な知識を踏まえ、安全で確実に実施できる。</p> <p>7. 輸血法に関する基本的な知識および留意事項について説明できる。</p>				
授業の概要	検査、診療を受ける看護の対象に、必要な基本的知識と援助技術を講義・演習により修得する。基本的な援助技術の目的・方法・留意点・科学的根拠を学ぶ。その技術が提供される対象の臨床判断ができるよう、基礎を学習する。同時にそれらに伴う倫理的判断についても学ぶ。				
授業の計画	<p>1 オリエンテーション、救命救急処置</p> <p>2 救命救急処置の実際：名寄消防署救急隊員</p> <p>3 検査・治療に関わる技術（検体の採取と扱い方、尿・便検査 他）</p> <p>4 検査・治療に関わる技術（血液検査、血液検体の取り扱い）</p> <p>5-6 検査・治療に関わる技術の実際：静脈血採血</p> <p>7 与薬の技術（薬理作用、薬物療法、経口与薬）</p> <p>8 与薬の技術（外用薬の与薬法）</p> <p>9 与薬の技術（皮下・皮内・筋肉内注射）</p> <p>10 与薬の技術の実際：注射器・注射針の取り扱い、薬剤の準備</p> <p>11-12 与薬の技術の実際：皮下・筋肉内注射</p> <p>13 与薬の技術（静脈内注射・点滴静脈注射、輸血療法）</p> <p>14-15 与薬の技術の実際：静脈内注射・点滴静脈注射</p>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の該当部分を予習する。事前課題として提示されたものを行う。			20分
	復習	講義・演習内容を振り返り、リフレクションするとともに、ノートにまとめるなどして復習する。			25分
授業の留意点	<p>この科目は講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって講義を受けた上で、事前学習を個々に行い、演習に臨み、事後学習としてリフレクションを行ってください。</p> <p>学生個々が主体的な学習を繰り返して、看護技術を習得していく必要があります。</p> <p>授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。</p> <p>看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉遣いや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。</p> <p>提示された課題について個人学習をして授業に臨みましょう。</p> <p>また、グループワークなどを通して、自分自身の考えを深めていけるようにしましょう。</p>				
学生に対する評価	定期試験 90点と提出物 10点の合計点で評価します。尚、試験 6割（54点）以上、提出物 6割（6点）以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は厳守すること。以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				
教科書（購入必須）	<p>①深井喜代子編：基礎看護技術Ⅱ、メヂカルフレンド社</p> <p>②任和子・井川順子・秋山智弥編：基礎・臨床看護技術、医学書院</p>				
参考書（購入任意）	<p>・本庄恵子・吉田みつ子監修：写真でわかる臨床看護技術Ⅰ、インターメディカ</p> <p>・高木永子監修：看護過程に沿った対象看護、第4版、学研</p> <p>・松尾ミヨ子・志自岐康子・城生弘美編：ヘルスアセスメント、メディカ出版</p>				

科 目 名	ヘルスアセスメント		担当教員名	岩田 直美・畑瀬 智恵美	
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>				
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として実務経験を持つ教員が、フィジカルアセスメントの基本技術と系統的な知識と技術を身につけるための、具体的な看護援助を教授する科目				
学習到達目標	<p>1. ヘルスアセスメントの概念と意義について説明できる。</p> <p>2. ヘルスアセスメントの一つであるフィジカルアセスメントの基本技術（問診・視診・触診・打診・聴診）について説明できる。</p> <p>3. バイタルサインの基本的な知識と正確な測定方法について説明できる。</p> <p>4. バイタルサイン測定を正確に実施できる。</p> <p>5. 系統的フィジカルアセスメントの基本的な知識と方法について説明できる。</p> <p>6. 系統的フィジカルアセスメントの方法を実施できる。</p>				
授業の概要	ヘルスアセスメントとは、対象者が身体的に、心理・社会的に健康であるといえるかどうか、健康問題があるとすればその要因は何かを明らかにする行為である。フィジカルアセスメントの基本技術（問診・打診・聴診・視診・触診）と系統的な知識と技術を身につけ、臨床判断やコミュニケーション技術を用い具体的な看護援助を見出ししていく。				
授業の計画	<p>1 オリエンテーション、ヘルスアセスメントとは、フィジカルアセスメントにおける技術（問診・視診・触診・打診・聴診）</p> <p>2 バイタルサイン測定（体温、脈拍、呼吸、血圧、意識）</p> <p>3 バイタルサイン測定の実際：体温、脈拍、呼吸、血圧</p> <p>4-5 技術試験：バイタルサイン測定</p> <p>6 系統的フィジカルアセスメント：呼吸器系</p> <p>7 系統的フィジカルアセスメントの実際：呼吸器系 問診・視診・触診・打診・聴診</p> <p>8 系統的フィジカルアセスメント：循環器系</p> <p>9 系統的フィジカルアセスメント：腹部</p> <p>10-11 系統的フィジカルアセスメントの実際：循環器系・腹部 問診・視診・触診・打診・聴診</p> <p>12 系統的フィジカルアセスメントの実際：事例についてのアセスメント演習</p> <p>13 系統的フィジカルアセスメント：皮膚・リンパ系、排泄系（認定看護師）</p> <p>14 系統的フィジカルアセスメント：運動系・脳神経系（認定看護師）</p> <p>15 系統的フィジカルアセスメント：感覚器系（認定看護師）</p>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	指定した教科書の該当する単元を読み込み、教員から動画視聴の指示があった場合はイメージが付くまで視聴する。技術項目に対して看護技術実践ノート（目的、実施内容、手順、根拠、留意点他）を作成する。			20分
	復習	授業内容を教科書やレジュメを使用し振り返り、教員から指示があった場合はリフレクションシートを作成する。			25分
授業の留意点	<p>この科目は、講義、事前学習、演習、事後学習で構成されています。したがって、講義を受けた上で、事前学習、演習に臨み、事後学習として、リフレクションを行ってください。</p> <p>学生個々が主体的に練習を繰り返して看護技術を修得していく必要があります。</p> <p>自己学習として、看護技術実践ノート（目的、実施内容・手順、根拠、留意点他）を作成して、演習に臨んで下さい。</p> <p>授業で配布した資料や自己学習したものは、ファイリングしてください。</p> <p>看護技術演習は、実習室を病室・療養の場として設定していますので、主体的な参加とともに、援助にふさわしい言葉づかいや身だしなみを整えることも学び、少しずつ看護職者に近づいていきましょう。</p>				
学生に対する評価	定期試験 70 点、技術試験 20 点、提出物 10 点の合計点で評価します。尚、試験 6 割（42 点）以上、技術試験 6 割（12 点）以上、提出物 6 割（6 点）以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は厳守すること。以上、試験、提出物のすべての合格により単位は認定されます。				
教科書（購入必須）	<p>①深井喜代子編：基礎看護技術 I</p> <p>②横山美樹：はじめてのフィジカルアセスメント、メヂカルフレンド社</p> <p>③任和子・井川順子編：基礎・臨床看護技術、第 3 版、医学書院</p>				
参考書（購入任意）	<p>・田中裕二編：わかって身につくバイタルサイン、学研</p> <p>・藤野智子監修：基礎と臨床をつなげるバイタルサイン、学研</p> <p>・松尾ミヨ子・志自岐康子・城生弘美編：ヘルスアセスメント、メディカ出版</p> <p>・守田美奈子監修：写真わかる看護のためのフィジカルアセスメント、インターメディカ</p>				



科 目 名	看護過程演習		担当教員名	齋藤 千秋		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として実務経験を持つ教員が看護実践に必要な看護過程の展開技術を教授する科目					
学習到達目標	<p>1. 看護実践における看護過程の意義および看護過程の構成要素を説明できる。</p> <p>2. 紙上事例を用いて、科学的根拠・臨床判断を基に、対象者のニーズや看護上の問題を明らかにし、対象者の目標とそれを達成するための看護ケアを具体的に立案できる。</p> <p>3. 対象者の安全・安楽・自立を考慮した個別的な看護ケアを模擬実施し、評価できる。</p> <p>4. 計画立案・看護ケア実施において、コミュニケーション技術、倫理的判断や行動についてリフレクションできる。</p>					
授業の概要	看護における看護過程の意義を理解し、クリティカルシンキングとリフレクションを用いながら、看護上の問題を解決するために論理的看護実践ツールとしての看護課程を学ぶ。紙上事例を用いて、科学的根拠・臨床判断に基づくアセスメントを行い、看護上の問題の特定、目標の設定、計画立案、実施、評価について学ぶ。さらに、対象者の安全・安楽・自立を考慮した個別的看護ケアを模擬実施する過程においては、コミュニケーション技術、倫理的判断に基づいた行動を併せて学ぶ。個人学習、グループ学習、発表会による学びの共有、模擬実施と評価から、看護実践の過程を学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護過程の展開技術</li> <li>2 ゴードンの11の機能的健康パターン</li> <li>3 アセスメント：健康知覚-健康管理パターン</li> <li>4 アセスメント：栄養-代謝パターン、排泄パターン</li> <li>5 アセスメント：活動-運動パターン、睡眠-休息パターン</li> <li>6 アセスメント：認知-知覚パターン、自己知覚-自己概念パターン</li> <li>7 アセスメント：セクシュアリティ-生殖パターンなど</li> <li>8 看護上の問題の特定</li> <li>9 関連図・全体像</li> <li>10 計画</li> <li>11 実施・評価</li> <li>12 紙上事例の計画立案</li> <li>13 看護記録</li> <li>14 紙上事例の計画に基づく実践</li> <li>15 紙上事例の記録と評価</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	事前課題の看護過程記録を作成する。			20分	
	復習	講義内容をもとに、看護過程記録を見直し修正する。			25分	
授業の留意点	看護過程の展開技術は、生活援助技術のアセスメントや基礎看護学実習Ⅱで実際に活用します。提示された課題について個人学習をして授業に臨みましょう。またグループワークなどを通して自分自身の考えを深めていけるようにしましょう。					
学生に対する評価	定期試験40点と看護過程レポート40点および提出物20点の合計点で評価します。尚、定期試験6割（24点）以上、看護過程レポート6割（24点）以上、提出物6割（12点）以上を取得した場合に合格となります。提出物の期限は厳守すること。以上、定期試験、看護過程レポート、提出物の全ての合格により単位は認定されます。					
教科書（購入必須）	①深井喜代子編：基礎看護技術Ⅰ、メヂカルフレンド社 ②渡邊トシ子編：ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく看護実践アセスメント、第3版、ヌーヴェルヒロカワ					
参考書（購入任意）						

科 目 名	地域看護学概論		担当教員名	播本 雅津子・伊藤 亜希子		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保健所保健師の経験を持つ教員と、市町村保健師と病院看護師の経験を持つ教員が担当する。地域看護の歴史の変遷およびその定義や理念、目的を学ぶ。様々な場における地域看護活動とその特徴を知り、地域看護の機能と役割について学習する。					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域看護の概念と機能を理解し、健康の保持増進と疾病予防における看護の役割を知る。</li> <li>・ 地域における看護職の活動および求められる役割について説明できる。</li> <li>・ 在宅ケアにおける看護職の活動および求められる役割について説明できる。</li> </ul>					
授 業 の 概 要	地域包括ケアの時代に応じた地域看護および在宅ケアの視点や方法を学ぶ					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域看護学の概念と機能</li> <li>2 地域看護の歴史（1）明治～平成初期</li> <li>3 地域看護の発展と今後の展望</li> <li>4 公衆衛生の考え方（プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション）</li> <li>5 地域看護を支える専門職と活動の場（1）保健所・市町村の活動</li> <li>6 地域看護を支える専門職と活動の場（2）産業保健・学校保健</li> <li>7 地域看護を支える専門職と活動の場（3）訪問看護</li> <li>8 継続看護と退院調整</li> <li>9 地域で療養生活をする人々を支える社会資源</li> <li>10 地域包括ケアシステムと多職種連携</li> <li>11 地域で療養する人々に関する制度</li> <li>12 地域看護の歴史（2）平成～令和</li> <li>13 在宅療養者の権利擁護と倫理</li> <li>14 災害時の看護活動（自然災害・感染症蔓延時）</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	社会のニュース、地域社会の情報について常に関心を持って暮らすこと。			60分	
	復習	授業に関する教科書および資料を読んでおくこと。また関連する社会や地域の情報を確認すること。			120分	
授業の留意点	授業は2人の教員によるオムニバスで進め、一部は協力して進める。欠席や遅刻のないよう健康管理に留意すること。欠席・遅刻時は必ず連絡をすること。					
学生に対する評価	筆記試験 100点で評価する。					
教科書（購入必須）	公衆衛生看護学 第2版（中央法規）					
参考書（購入任意）	厚生省の指標 国民衛生の動向 2023/2024 河野あゆみ編 新体系看護学全書在宅看護論 メヂカルフレンド社					

科 目 名	地域看護活動論 I		担当教員名	播本 雅津子・室矢 剛志		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保健所または市町村での保健師実務経験を有する教員が担当する。この科目では地域住民を対象とした看護実践に必要な基本技術について学習する。					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で暮らす人々を理解するための地域診断の要素について説明できる。</li> <li>・家庭訪問に必要な基本的留意事項について説明できる。</li> <li>・電話相談の特徴を知り、電話対応の留意事項について説明できる。</li> </ul>					
授 業 の 概 要	地域看護活動の基本となる地域診断および家庭訪問の基本技術等について学習する。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 地域看護活動に必要な技術について</li> <li>2 地域診断：コミュニティ・アズ・パートナーモデルについて</li> <li>3 コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いた地域紹介①</li> <li>4 コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いた地域紹介②</li> <li>5 啓発活動：ポピュレーションアプローチについて</li> <li>6 ポピュレーションアプローチの実際</li> <li>7 地域診断・啓発活動演習① グループ分けとテーマ選定</li> <li>8 地域診断・啓発活動演習② テーマ別基本学習その1</li> <li>9 地域診断・啓発活動演習③ テーマ別基本学習その2</li> <li>10 地域診断・啓発活動演習④ 報告会準備</li> <li>11 地域診断・啓発活動報告会 テーマ別学習の共有</li> <li>12 家庭訪問活動の基礎</li> <li>13 家庭訪問活動の応用</li> <li>14 電話相談の基礎</li> <li>15 電話相談の応用</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	予習復習としてグループ演習では講義時間以外にも教員に個別指導を受けること。			45分	
授業の留意点	欠席や遅刻のないよう健康管理に留意して下さい。欠席・遅刻時は必ず連絡して下さい。					
学生に対する評価	筆記試験 80 点、レポート試験 20 点で評価する。いずれも 6 割以上の評価を必要とする。					
教科書（購入必須）	公衆衛生看護学 第2版（中央法規）					
参考書（購入任意）						

科 目 名	地域看護活動論Ⅱ		担当教員名	播本 雅津子・室矢 剛志		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	担当教員は保健所または市町村での保健師実務経験を有している。この科目では地域住民を対象とした看護実践に必要な基本技術について学習する。					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域で暮らす人々を対象とした看護技術について理解できる。</li> <li>・ 健康相談・健康教育に必要な技術や態度について説明できる。</li> </ul>					
授業の概要	地域看護活動のうち、集団への健康教育および個人・家族への健康相談や問診・面談等の技術について演習を通して学習する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 地域で暮らす人々を対象とした看護活動</li> <li>2 健康教育について</li> <li>3 演習：健康教育 先輩によるデモンストレーション</li> <li>4 演習：健康教育① グループ分けとテーマ選定</li> <li>5 演習：健康教育② テーマ別基本学習 情報収集</li> <li>6 演習：健康教育③ テーマ別基本学習 媒体と原稿の作成</li> <li>7 演習：健康教育④ 報告会準備</li> <li>8 健康教育報告会 テーマ別学習の共有</li> <li>9 健康相談・問診について</li> <li>10 演習：健康相談・問診① グループ分けとテーマ選定</li> <li>11 演習：健康相談・問診② テーマ別基本学習 情報収集</li> <li>12 演習：健康相談・問診③ テーマ別基本学習 原稿作成</li> <li>13 演習：健康相談・問診④ 報告会準備</li> <li>14 健康相談・問診報告会 テーマ別学習の共有</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	予習復習としてグループ演習では講義時間以外にも教員に個別指導を受けること。			45分	
授業の留意点	復習	欠席や遅刻のないよう健康管理に留意して下さい。欠席・遅刻時は必ず連絡をして下さい。				
学生に対する評価	筆記試験 80点・レポート試験 20点で評価する。いずれも6割以上の評価を必要とする。					
教科書（購入必須）	公衆衛生看護学 第2版（中央法規）					
参考書（購入任意）						

科 目 名	在宅看護活動論 I		担当教員名	伊藤 亜希子		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師および保健師として実務経験を持つ教員が、在宅看護活動に関する具体的な支援方法や技術、疾病者に対するセルフケアの指導、家族ケアなど在宅看護学の基本的な方法論について指導する科目					
学習到達目標	<p>1. 在宅療養者とその家族の生活について理解できる</p> <p>2. 在宅療養者とその家族に必要な生活援助を考えることができる</p> <p>3. 在宅看護に必要な生活援助技術を習得できる</p> <p>4. 対象別在宅療養者の看護について理解できる</p>					
授業の概要	訪問看護の対象と基盤となる概念をもとに、在宅療養者の生活を支える看護技術を学ぶ。また、在宅看護の日常生活援助の技法について演習で取り組み在宅看護の実践能力を培う。さらに、在宅における医療管理と医療依存度が高い療養者への看護について学びを深める。					
授業の計画	<p>1 在宅看護とは</p> <p>2 在宅看護援助の対象と基盤となる概念</p> <p>3 在宅看護援助の対象と基盤となる概念</p> <p>4 在宅療養生活を支える看護 演習</p> <p>5 在宅療養生活を支える看護 演習</p> <p>6 在宅療養生活を支える看護 演習</p> <p>7 在宅療養生活を支える看護 演習</p> <p>8 在宅療養生活を支える看護 演習</p> <p>9 在宅療養生活を支える看護 演習</p> <p>10 在宅療養生活を支える看護 演習</p> <p>11 在宅療養生活を支える看護</p> <p>12 在宅における医療管理と看護</p> <p>13 在宅における医療依存度が高い方への看護 1</p> <p>14 在宅における医療依存度が高い方への看護 2</p> <p>15 在宅療養生活を支える看護</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回の講義に関する内容について、主に教科書を用いて予習を行い講義に臨むこと。			25分以上	
	復習	講義後は、教科書およびレジュメで復習を行い、知識を定着させていくこと。			20分以上	
授業の留意点	授業は、講義、グループワーク、ロールプレイを行います。積極的に自分の考えや意見を述べること。授業の進行状況によって内容を変更する場合がある。					
学生に対する評価	試験 90 点 演習・レポート 10 点					
教科書（購入必須）	河野あゆみ編 新体系 看護学全書『地域・在宅看護論』 メヂカルフレンド社 石垣和子上野まり編 看護学テキスト 『在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして』 南江堂					
参考書（購入任意）	押川眞喜子監修「写真でわかる訪問看護」 インターメディカ					

科 目 名	在宅看護活動論Ⅱ		担当教員名	伊藤 亜希子		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師および保健師として実務経験を持つ教員が、在宅看護活動を展開するために、疾病者に対するセルフケアの指導、家族ケアなど在宅看護学の基本的な方法論について指導する科目					
学習到達目標	1. 小児や終末期、医療処置等が必要な療養者・家族への支援を理解する 2. 在宅療養における口腔ケアの必要性を理解し支援方法の実際を学ぶ 3. 地域包括ケアシステムにおける在宅ケアを支える他職種・他機関の役割や連携・協働について考えることができる 4. 在宅における看護過程を理解する					
授業の概要	在宅療養者やその家族の生活および健康上の課題は多様であり、その支援にも様々な展開がある。その中で、在宅療養において医療処置等の必要な在宅療養者について理解し、その対象に応じた在宅看護活動の展開について学ぶと共に、在宅看護における看護過程の展開を考え必要な看護支援について考える。 また、地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関との連携や協働について、演習を通して実践力を養う。					
授業の計画	1 在宅療養において特徴的な疾病がある療養者への看護 2 在宅療養者への様々な支援 1 他職種の役割と支援 知識編 3 在宅療養者への様々な支援 2 技術編 4 地域包括ケアシステムにおける多職種の役割と機能1 5 地域包括ケアシステムにおける多職種の役割と機能2 6 地域包括ケアシステムにおける多職種や多機関の役割と機能3 7 在宅看護における看護過程 8 在宅看護における看護過程の展開1 演習 9 在宅看護における看護過程の展開2 演習 10 在宅看護における看護過程の展開3 演習 11 在宅看護における看護過程の展開4 演習 12 在宅看護における看護過程の展開5 演習 13 在宅看護における看護過程 発表 14 在宅看護における看護過程の展開5 15 在宅看護における看護過程の必要性と評価 まとめ					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回の講義に関する内容について、主に教科書を用いて予習を行い講義に臨むこと。			25分以上	
	復習	講義後は、教科書およびレジュメで復習を行い、知識を定着させていくこと。			20分以上	
授業の留意点	在宅看護は各看護領域と関連が深く応用看護学領域とされています。これまでに学習した看護の基本をベースに在宅看護の展開を考えて取り組むこと。 また、授業の進行状況によって内容を変更する場合があります。					
学生に対する評価	試験 80 点、演習の取り組みに関する記録 20 点合計 100 点中 60 点以上の者について、単位を認定する。					
教科書（購入必須）	河野あゆみ編集：新体系看護学全書「地域・在宅看護論」 メヂカルフレンド社 石垣和子他編集：看護学テキスト 在宅看護論自分らしい生活の継続をめざして 南江堂					
参考書（購入任意）	河原加代子著者：系統看護学講座統合分野『在宅看護論』医学書院					

科 目 名	成人看護学概論		担当教員名	長谷部 佳子・南山 祥子		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。 6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医療の実践、および実践に必要な知識について指導する科目					
学習到達目標	個人としての成人期の身体的・精神的・社会的特徴、および集団としての国民衛生の動向について理解を深める。これらの知識と諸理論を活用しながら、成人を対象とした看護におけるアセスメント方法を習得する。					
授業の概要	ライフサイクルにおける成人の位置づけと、対象者を取り巻く生活環境、社会環境、保健医療情勢、および看護の礎となる概念や理論について学ぶ。グループワークなどの演習を通じて、学んだ知識を活かしたアセスメント方法を習得する。					
授業の計画	1 成人看護学の位置づけと特徴、成人期にある人の特徴 2 成人の生活と健康問題 3 保健・医療・福祉システムの概要 4 保健・医療・福祉システムの連携 5 成人保健の動向（人口静態、人口動態） 6 成人保健の動向（保健増進対策、感染症対策） 7 成人看護学で用いる概念と理論①ニード論、ケアリング・アンドラゴジー、エンパワメント 8 成人看護学で用いる概念と理論②自己効力理論、危機理論、ストレス理論、セルフケア 9 成人看護学で用いる概念と理論③ロイの適応モデル、死の受容理論、病みの軌跡 10 先進医療と看護 11 リハビリテーションと看護 12 老年期に向かう過程での身体機能の変調 13 終末期医療 14 患者と家族への教育支援 15 多様なケア環境とチーム医療、看護における倫理および法的責任					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各章に関連する教科書を読み込んでおく。			30分	
	復習	①講義内容を振り返りノートにまとめる。 ②レポート作成に取り組む。			150分	
授業の留意点	成人期の対象者を看護する際には、対象者を取り巻く家族環境や社会・医療情勢など背景要因の分析が欠かせません。日頃から新聞などに目を通すとともに、両親や祖父母などの生活行動に高い関心を寄せると、講義内容の理解が深まります。					
学生に対する評価	定期試験 70点、グループワーク/レポート 30点					
教科書（購入必須）	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論, 医学書院 成人看護学概論 第3版, ヌーヴェルヒロカワ 厚生省の指標 増刊 国民衛生の動向, 厚生労働統計協会					
参考書（購入任意）						

科 目 名	成人看護活動論 I		担当教員名	長谷部 佳子・中谷 美紀子	
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>				
実務経験及びそれに関わる授業内容	<p>講義・演習を担当する教員は、臨床経験が豊富で特に急性期治療に関する見識が高い。そのため、講義・演習は周手術期における看護実践を中心に系統的に組み立てていく予定である。</p>				
学習到達目標	<p>この講義科目では、周手術期を中心とした急性期から回復期までの過程における対象者理解と看護の役割、援助の方法について学ぶ。</p> <p>具体的には、手術療法および集中治療や検査にまつわる看護技術を理解するとともに、周手術期における対象者の健康問題を解決するための看護過程の展開方法について実践力を養うことを目標に学ぶ。</p>				
授業の概要	<p>この科目は演習科目であるため、講義と演習を組み合わせながら進めていく。周手術期などでの急性期治療や検査に関する総論を学びながら、各論としての技術・観察方法の実際を演習で体験し、成人看護学概論や臨床治療学で得た知識との統合を図れるように学んでいく。そして、成人看護学活動論 I での学びを、実践的に成人看護学実習 I に活かせるように学習を進める。</p>				
授業の計画	<p>1 今日の外科看護の特徴と課題、外科患者の病態の基礎</p> <p>2 外科的患者の病態の基礎、手術侵襲と生体反応</p> <p>3 外科的治療を支える分野①（麻酔方法、手術体位）</p> <p>4 外科的治療を支える分野②（体液・栄養管理、輸血等）</p> <p>5 外科的治療の実際（低侵襲手術）</p> <p>6 外科的治療の実際（術後合併症の予防のための看護）</p> <p>7 術前／検査前の看護 総論</p> <p>8 術後／検査後の看護 総論</p> <p>9 看護過程①（情報の分析）【演習】</p> <p>10 看護過程②（看護問題の抽出）【演習】</p> <p>11 看護過程③（看護計画の作成）【演習】</p> <p>12 看護過程④（看護計画の評価・修正）【演習】</p> <p>13 手術／検査を受ける対象者への看護①（輸液管理）</p> <p>14 手術／検査を受ける対象者への看護②（各種ドレーン管理）</p> <p>15 手術／検査を受ける対象者への看護③（心電図モニター）</p>	<p>16 手術／検査を受ける対象者への看護④（全身の観察）</p> <p>17 手術／検査を受ける対象者への看護⑤（全身の観察）</p> <p>18 手術／検査を受ける対象者への看護⑥（全身の観察）</p> <p>19 手術／検査を受ける対象者への看護⑦（輸液管理の実際）</p> <p>20 手術／検査を受ける対象者への看護⑧（輸液管理の実際）</p> <p>21 手術／検査を受ける対象者への看護⑨（清潔ケアの実際）</p> <p>22 手術／検査を受ける対象者への看護⑩（清潔ケアの実際）</p> <p>23 手術／検査を受ける対象者への看護⑪（栄養管理の実際）</p> <p>24 手術／検査を受ける対象者への看護⑫（栄養管理の実際）</p> <p>25 手術／検査を受ける対象者への看護⑬（胸腔ドレナージおよび低圧持続吸引装置の取り扱い）</p> <p>26 手術／検査を受ける対象者への看護⑭（創部のケア、ストーマパウチ交換）</p> <p>27 手術／検査を受ける対象者への看護⑮（創部のケア、ストーマパウチ交換）</p> <p>28 手術／検査を受ける対象者への看護⑯（創部のケア、ストーマパウチ交換）</p> <p>29 手術中の看護①（手洗い、ガウンテクニック、滅菌手袋装着、等）</p> <p>30 手術中の看護②（手洗い、ガウンテクニック、滅菌手袋装着、等）</p>			
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各講義に該当する教科書のページを読み、質問事項などをまとめておく。			90分
	復習	再度教科書を読み、講義内容に追記をしながらノートにまとめる。			120分
授業の留意点	<p>すでに履修済みの専門基礎科目（特に人体形態学、人体機能学、臨床治療学 I）、専門科目（特に基礎看護学領域の各科目、成人看護学概論）で学んだ知識の活用が必要なので、それらを復習しておくことが望ましい。また、本授業の際には指定された教科書 2冊を両方とも持参して、参加すること。</p>				
学生に対する評価	レポート：30点、講義・演習の受講態度：10点、定期試験：60点				
教科書（購入必須）	<p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論、医学書院</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論、医学書院</p> <p>新訂版 看護技術ベーシックス 第2版、サイオ出版</p> <p>今日の治療薬 南江堂</p>				
参考書（購入任意）	<p>（臨床治療学 I で購入済）</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3]循環器、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器、医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10]運動器、医学書院</p>				



科 目 名	成人看護活動論Ⅱ		担当教員名	南山 祥子・中谷 美紀子	
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>				
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医行為の実践について指導する科目				
学習到達目標	慢性的な健康障害をもつ人々とその家族の特徴を捉え、その人らしく生活するための自己管理や生活の再構築にむけた援助方法を理解することができる。さらに、ライフサイクル上の背景をふまえた看護過程の展開について理解することができる。				
授業の概要	慢性的な身体機能障害を持ちながら生活する人々とその家族が、症状をコントロールし、障害と生活の制限を受け入れながら健康的な生活を営むことを支える看護の役割、援助の方法について学ぶ。また、セルフケアを支援する観点から教育的アプローチや QOL を重視した支援についての知識と援助方法について学習する。				
授業の計画	1 オリエンテーション、慢性疾患をもつ人と家族の特徴	17	慢性疾患をもつ人の看護過程の展開④【演習】		
	2 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開①	18	慢性腎臓病患者への看護、透析療法を受ける患者の看護		
	3-4 呼吸器系の障害をもつ人への看護①—気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患など	19	慢性疾患をもつ人の看護過程の展開⑤【演習】		
	5-6 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開②【演習】	20	がん患者への看護①—がん患者の特徴、放射線患者の看護		
	7-8 代謝・内分泌系の障害をもつ人への看護①—糖尿病	21-22	慢性疾患をもつ人の看護過程の展開⑥【演習】		
	9 代謝・内分泌系の障害をもつ人への看護②—糖尿病	23-24	代謝・内分泌系の障害をもつ人への看護③【演習】自己血糖測定		
	10 消化器系の障害をもつ人への看護—慢性肝炎、肝硬変	25-26	代謝・内分泌系の障害をもつ人への看護④【演習】退院指導（ロールプレイング）		
	11-12 慢性疾患をもつ人の看護過程の展開③【演習】	27-28	慢性疾患をもつ人の看護過程の展開⑦【演習】		
	13-14 循環器系の障害をもつ人への看護—慢性心不全	29	がん患者への看護②—緩和ケアについて～認定看護師		
	15-16 脳・神経系の障害をもつ人への看護—脳梗塞、筋委縮性側索硬化症	30	がん患者への看護③—化学療法を受ける患者の看護～認定看護師		
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各章に関連する教科書を読み込んでおく。			20分
	復習	講義内容を振り返りノートにまとめ、看護過程も随時追加修正する。			70分
授業の留意点	すでに履修済みの専門基礎科目（特に人体形態学、人体機能学、臨床治療学Ⅰ）、専門科目（特に基礎看護学領域の各科目、成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ）で学んだ知識の活用が必要なので、それらを復習しておくことが望ましい。看護過程は、講義で説明を受けた内容をもとに主体的に考えすすめていくことを求める。				
学生に対する評価	看護過程 30点、レポート 10点、定期試験 60点				
教科書（購入必須）	鈴木久美、簗持知恵子、佐藤直美：成人看護学 慢性期看護 改定第3版 南江堂 江川 隆子編：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 [第6版]、ヌーヴェルヒロカワ 系統看護学講座 別巻 がん看護学、医学書院				
参考書（購入任意）	（臨床治療学Ⅰで購入済） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6]内分泌・代謝、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7]脳神経、医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器、医学書院				

科 目 名	老年看護学概論		担当教員名	高儀 郁美		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として臨床経験を有する教員が、老年看護の意義と役割、老年期を生きる方の特徴とともに老年看護の実践に必要な知識について指導する。					
学習到達目標	<p>1. 老年期の発達とその課題について身体・心理・社会的側面から理解し、高齢者を全人的に理解する基礎を育むことができる。</p> <p>2. 老年期を生きる人の生活と健康の特徴を理解できる。</p> <p>3. 老年期を生きる人とその家族が地域で生活するためのケアシステムについて理解できる。</p> <p>4. 老年看護における倫理的課題について理解できる。</p>					
授業の概要	老年期の自我発達を基盤に置いた上で、高齢者を環境との相互作用する存在と位置づけ、老年期を生きる人とその家族の多様性・個別性を理解するとともに、病を抱えながらも「健やかに老い、安らかに永眠する」ことを目指す老年看護の理念、高齢者を取り巻く社会について修得する。講義、教材、体験学習を通して、自分とは異なる文化・生活背景を持つ人々への理解を深め、皆さん自身の高齢者観をよりいっそう豊かに育むことを期待する。					
授業の計画	<p>1 老年看護学の歩み、老年看護の意義と役割</p> <p>2 高齢者の理解（ライフステージとしての老年期／加齢に伴う生理的・身体的変化の特徴）</p> <p>3 統計からみた高齢者の健康と暮らし、高齢者の健康課題</p> <p>4 高齢者の保健医療・福祉の変遷（高齢者を支える制度、介護保険制度、地域包括ケア）</p> <p>5 高齢者を支えるための連携・協働</p> <p>6 老年看護における看護理論、生活機能評価に活用するスケール</p> <p>7～8 高齢者疑似体験</p> <p>9 高齢者の生活機能を支える看護</p> <p>10 健康逸脱からの回復を促す看護①症候アセスメント、身体疾患のある高齢者</p> <p>11 健康逸脱からの回復を促す看護②認知機能障害のある高齢者</p> <p>12 治療を必要とする高齢者の看護（検査、薬物療法、入院治療を受ける高齢者）</p> <p>13 高齢者の権利擁護</p> <p>14 老年期のヘルスプロモーション、高齢者と医療安全</p> <p>15 最終段階にある高齢者の看護、老年看護学概論まとめ</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	講義に関連する教科書の章を読み込む。			90分	
	復習	講義内容を振り返り、ノートにまとめる。また、講義内容に関連した書籍を読む。			90分	
授業の留意点	<p>高齢者を理解するために、以下の2つのレポート課題があります。</p> <p>課題1：高齢者疑似体験（体験後のレポート：加齢に伴う身体的変化が、生活にどのような不自由さとなっているかを考察する）</p> <p>課題2：高齢者の権利擁護に関するレポート</p>					
学生に対する評価	レポート、定期試験により評価する。（レポート：20%、出席：20%、定期試験：60%）					
教科書（購入必須）	<p>北川公子ほか：系統看護学講座 専門分野 老年看護学 第9版、医学書院、2018</p> <p>鳥羽研二ほか：系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 第5版、医学書院、2018</p> <p>厚生労働統計協会：厚生指針増刊 国民衛生の動向（購入済みのもので可）</p>					
参考書（購入任意）						

科 目 名	老年看護活動論 I		担当教員名	高儀 郁美・澤田 知里・上原 主義		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として臨床経験を有する教員が、老年看護の基本的な考え方や、高齢者に多い疾患とその看護等を、実践を踏まえながら指導する。					
学習到達目標	<p>1. 加齢に伴う生理的老化や老年期に特徴的な疾病に関する理解を深め、様々な健康状況下にある高齢者への基本的看護について学びを深めることができる。</p> <p>2. 健康障害や生活機能障害を有する高齢者に対して、全人的・包括的にアセスメント・評価するための基本的知識を理解することができる。</p> <p>3. 高齢者の生活機能を維持・向上するための看護支援方法について理解することができる。</p> <p>4. 演習を通して、高齢者看護に必要なケア技術を習得することができる。</p>					
授業の概要	平均寿命の延伸に伴い健康寿命が延びている一方で、平均寿命と健康寿命の差（日常生活に制限のある不健康な期間）は男性では約9年、女性では約12年にも及んでいる。「長く生きる」だけではなく、「より良く生きる」ことを前提に、加齢変化や老年期に特有な疾患と生活機能障害についての理解を深め、疾患や障害を抱えながらも豊かで多様な高齢者の生き方を支援するための、高齢者の自立・自律・尊厳に配慮した「生活機能を整える看護」について学習を行っていく。					
授業の計画	<p>1 授業オリエンテーション・健康障害をもつ高齢者の看護 (1) 認知症の歴史・中核症状とBPSD</p> <p>2 健康障害をもつ高齢者の看護 (2) 認知症の原因疾患</p> <p>3 健康障害をもつ高齢者の看護 (3) 認知症の人の思いと関わり方 (DVD 視聴・グループディスカッション)</p> <p>4 健康障害をもつ高齢者の看護 (4) 認知症ケア</p> <p>5 健康障害をもつ高齢者の看護 (排泄) /腎・泌尿器・消化器系の疾患</p> <p>6 健康障害をもつ高齢者の看護 (コミュニケーション) /感覚器の疾患</p> <p>7 健康障害をもつ高齢者の看護 (身じたく) /皮膚の疾患</p> <p>8 健康障害をもつ高齢者の看護 (食事) /口腔機能低下症・誤嚥性肺炎</p> <p>9～10 高齢者の生活機能を整える看護 (睡眠・休息) /マッサージケア演習</p> <p>11～12 高齢者の生活機能を整える看護 (活動) /運動器の疾患 (フレイル予防演習)</p> <p>13 治療・療養の場における高齢者の看護 (1) 急性期治療を受ける高齢者の看護</p> <p>14 治療・療養の場における高齢者の看護 (2) 高齢者介護施設の特徴と看護の役割</p> <p>15 老年看護活動論 I まとめ</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	講義・演習に関連する教科書の章を読み込む。			合計 45分	
	復習	講義・演習内容を振り返り、ノートにまとめる。また、講義・演習内容に関連した書籍を読む。				
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の関連箇所について事前に教科書を読み、老年看護学概論で学んだ内容も復習しておきましょう。</li> <li>・看護技術演習については、事前課題・事後課題があります。</li> <li>・グループディスカッションは積極的に参加し、自己の考えを深めましょう。</li> <li>・積極的な自己学習への取り組みや日々の復習がなければ身につくものも身につけません。ぜひ主体的な学習姿勢を望みます。</li> </ul>					
学生に対する評価	課題提出・受講態度：20点、定期試験：80点で評価する。					
教科書 (購入必須)	北川公子ほか：系統看護学講座 専門分野 老年看護学 第9版、医学書院、2018 (老年看護学概論で購入済み) 鳥羽研二ほか：系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 第5版、医学書院、2018 (老年看護学概論で購入済み)					
参考書 (購入任意)						

科 目 名	老年看護活動論Ⅱ		担当教員名	高儀 郁美・澤田 知里・上原 主義		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として臨床経験を有する教員が、老年看護の基本的な考え方、看護の展開方法、ケアの方法を、実践を踏まえながら指導する。					
学習到達目標	<p>1. 生活機能が低下しやすい高齢者に対して、持てる力を引き出し、日々の生活がより豊かになれるよう、目標志向で看護過程を展開することができる。</p> <p>2. 高齢者の疾病や加齢変化に基づいた病態生理学に関する理解を深め、様々な健康状況下にある高齢者の生活行動や家族を支えるための安全・自立・倫理的配慮を考えた援助知識や技術について理解が深まる。</p>					
授業の概要	目標志向型思考である老年看護過程の考え方について学び、紙面事例にて看護展開を行う。また、老年看護技術の目的・方法・倫理的配慮、持てる力を活かした援助の工夫のあり方について理解を深め、高齢者の生活がよりいきいきとなる生活支援について学ぶ。高齢者の生活機能を整える看護として重要な、日常生活行動に関する援助技術について、演習を通して実践していく。					
授業の計画	<p>1 授業オリエンテーション・老年看護過程の展開方法について①</p> <p>2 老年看護過程の展開方法について②／「覚醒・活動」「休息・睡眠」「食事」について</p> <p>3 老年看護過程の展開方法について③／「排泄」「身じたく」「コミュニケーション」について</p> <p>4 生活機能を整える日常生活援助技術 /活動への援助（講義）</p> <p>5～6 生活機能を整える日常生活援助技術 /活動への援助（演習）</p> <p>7～8 生活機能を整える日常生活援助技術 /コミュニケーションへの援助（演習）</p> <p>9～10 生活機能を整える日常生活援助技術 /排泄への援助（講義・演習）</p> <p>11～13 老年看護過程の展開方法について④／グループワーク</p> <p>14 老年看護過程の展開方法について⑤／発表</p> <p>15 老年看護活動論Ⅱまとめ</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	講義・演習に関連する教科書の章を読み込む。			合計 45分	
	復習	講義・演習内容を振り返り、ノートにまとめる。また、講義・演習内容に関連した書籍を読む。				
授業の留意点	<p>・老年看護過程と老年看護技術演習を中心に展開していきますが、それぞれにおいて課題の提出があります。積極的な自己学習への取り組みや日々の復習がなければ身につくものも身につけません。ぜひ主体的な学習姿勢を望みます。わからないことは放置せずいつでも質問や相談にきてください。</p> <p>・何らかの事情で演習を欠席する際は、演習開始前までに担当教員まで連絡をお願いいたします。</p>					
学生に対する評価	演習への取り組み（受講態度・課題提出）：60点、看護過程：40点で評価する。					
教科書（購入必須）	山田律子・内ヶ島伸也（編）：生活機能からみた老年看護過程＋病態生活関連図 第4版、医学書院、2020					
参考書（購入任意）	亀井智子（編）：根拠と事故防止からみた老年看護技術 第3版、医学書院、2020					

科 目 名	小児看護学概論		担当教員名	小児看護学教員		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	小児看護の臨床経験をもつ教員が、子どもや家族を取り巻く社会の現状や子どもの成長発達段階における看護について教授する。さらに、子どもの利益にかなう看護について考察し、小児看護の理念と責務について指導する。					
学習到達目標	<p>1. 小児看護の対象である小児と家族の存在を環境との相互作用から理解する</p> <p>2. 母子保健の動向と小児の健康を支える社会資源、制度について理解する</p> <p>3. 小児看護を支える法的根拠から小児医療における子どもの権利について理解する</p> <p>4. 成長・発達概念および小児各期の発達の特徴とその評価方法を理解する</p> <p>5. 現代の小児と家族の健康問題について社会の変化から捉え小児看護の役割・責務を理解する</p>					
授業の概要	現代の子どもや家族を取り巻く社会には、生活習慣病の増加、心の問題、育児不安、児童虐待など、様々な健康問題が顕在化している。本授業では、子どもや家族を取り巻く社会の現状を理解しながら、新生児・乳児・幼児・学童・思春期の各発達段階における成長・発達と看護について学ぶ。さらに、子どもの基本的権利と小児看護倫理から、子どもの利益にかなう看護とは何か、小児看護の理念と責務について共に考えていく。また、母子に関する様々な保健統計から小児保健の動向を知り、現代社会の健康問題を考察して、子どもの健康の保持増進、疾病の予防について学修していく。					
授業の計画	<p>1 小児看護とは 小児看護の対象、小児の範囲と区分、小児の成長発達を支える家族と発達</p> <p>2 小児看護の歴史と意義、小児看護の課題、小児を取り巻く社会</p> <p>3 子どもの権利と看護、子どもの最善の利益にかなう医療と看護 小児看護と倫理的配慮</p> <p>4 小児看護と法律・施策、子どもを取り巻く社会環境、母子保健施策、小児に関する法律など</p> <p>5 子どもの成長発達</p> <p>6 新生児・乳児期の子どもの成長発達1</p> <p>7 新生児・乳児期の子どもの成長発達2</p> <p>8 幼児期の子どもの成長発達1</p> <p>9 幼児期の子どもの成長発達2</p> <p>10 幼児期の子どもの成長発達3</p> <p>11 学童期の子どもの成長発達1</p> <p>12 学童期の子どもの成長発達2</p> <p>13 思春期の子どもの成長発達</p> <p>14 発育の評価</p> <p>15 小児看護学概論 まとめ</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	毎時、次回の授業の予告を行う。そこに関係する教科書の章または関連文献を読み込んでくる。			90分	
	復習	本時の授業目標を毎回提示する。その目標に沿って資料等から振り返りまとめる。			90分	
授業の留意点	積極的な参加態度を期待します。日ごろ、新聞・TV・映画・書籍などで子どもの生活や健康問題、子どもの社会的問題などに目を向けることで学修が深まります。また自身の成長過程や家族との関係性などを想起することで、より身近な学修となります。					
学生に対する評価	定期試験：学習内容の理解度を評価する（70点） 小テスト：成長・発達の理解（各10点×3）					
教科書（購入必須）	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院					
参考書（購入任意）	必要に応じて随時紹介する。					

科 目 名	小児看護活動論 I		担当教員名	小児看護学教員		
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	小児看護の臨床経験をもつ教員が、子どもの健康障害による影響、病時期に必要な看護、外来や在宅など場の違いにおける小児と家族への支援について講義を通して指導する					
学習到達目標	<p>1. 健康障害や入院が子どもと家族に与える影響について理解する</p> <p>2. 急性期、周手術期、慢性期、終末期の子どもと家族の看護について理解する</p> <p>3. 外来や在宅など場の違いによる看護について理解する</p> <p>4. 障がいのある子どもと家族の看護について理解する</p>					
授業の概要	健康問題や入院が小児と家族に与える影響を理解して、安全で安楽な生活を送ることができるようにケアしていくことが小児看護の中心である。本講義では、健康障害や入院そのものが小児や家族に与える影響、小児の病時期の違いによる必要とされるケア、外来や在宅などの看護の場の違いにおける小児と家族の状況とケアについて学修していく。					
授業の計画	<p>1 病気・障害をもつ子どもと家族の看護</p> <p>2 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護</p> <p>3 症状を示す子どもの看護（1）</p> <p>4 症状を示す子どもの看護（2）</p> <p>5 検査・処置を受ける子どもの看護</p> <p>6 検査・処置を受ける子どもの看護</p> <p>7 急性期にある子どもと家族の看護</p> <p>8 周手術期のある子どもと家族の看護</p> <p>9 慢性期にある子どもと家族の看護（1）</p> <p>10 慢性期にある子どもと家族の看護（2）</p> <p>11 在宅療養を行う子どもと家族の看護</p> <p>12 発達に凸凹のある子どもと家族の看護</p> <p>13 子どもの虐待と看護</p> <p>14 終末期にある子どもと家族の看護（1）</p> <p>15 終末期にある小児と家族の看護（2）</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	次回の授業について提示する。関連する教科書の章・文献を読み込んでくる。			90分	
	復習	本時の目標に沿って、資料などを振り返りまとめる。			90分	
授業の留意点	講義や演習、自己学習を組み合わせた授業展開をしていく。グループ学習もとり入れるため積極的な参加態度を期待する。小児の入院環境、在宅における療養生活などイメージ化できるように視覚教材を取り入れていく。					
学生に対する評価	<p>1. 定期試験 80点</p> <p>2. 課題レポート 20点 講義中に課題を提示する</p>					
教科書（購入必須）	系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院					
参考書（購入任意）	子どもの病気の地図帳 講談社					

科 目 名	小児看護活動論Ⅱ		担当教員名	小児看護学教員		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	小児専門病院や小児病棟で看護師として臨床経験をもつ教員が、小児の看護過程の展開と看護技術について講義と演習を行い実践的な技術を指導する科目					
学習到達目標	<p>1. 小児に関わることの多い疾患や症状を有する事例について、アセスメントし看護問題の明確化、看護計画の立案ができる。</p> <p>2. 小児特有の基本的な看護技術について習得することができる。</p> <p>3. 発達段階を考慮した状況に応じたプレパレーションができる。</p>					
授業の概要	既修の小児看護学概論・小児看護活動論Ⅰを基に、健康障害のある小児と家族の看護展開技術、小児に特有な生活援助技術、診療に伴う援助技術について学修する。					
授業の計画	<p>1 小児看護活動論Ⅱガイダンス、小児看護に関連する技術について</p> <p>2 小児と家族の看護過程展開技術1</p> <p>3 小児と家族の看護過程展開技術2</p> <p>4 小児の遊びの意義と実際</p> <p>5 プレパレーションの指導技術、準備</p> <p>6 プレパレーション実際1</p> <p>7 プレパレーション実際2</p> <p>8 小児看護技術（バイタルサイン測定） / 看護過程の展開</p> <p>9 小児看護技術（バイタルサイン測定） / 看護過程の展開</p> <p>10 小児看護技術（身体計測） / 看護過程の展開</p> <p>11 小児看護技術（身体計測） / 看護過程の展開</p> <p>12 小児看護技術（輸液管理） / 看護過程の展開</p> <p>13 小児看護技術（輸液管理） / 看護過程の展開</p> <p>14 小児看護技術（救急救命） / 看護過程の展開</p> <p>15 小児看護活動論Ⅱまとめ</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	技術演習項目の目的・留意点・手順など学習しておく。			30分	
	復習	演習問題を振り返りまとめる。			15分	
授業の留意点	事例の看護過程の展開・プレパレーションの準備と技術演習は、グループ毎交互に行われる。演習は、学習の進行状況により変更する場合がある。					
学生に対する評価	<p>1. 技術演習課題 50点</p> <p>2. 看護過程レポート 40点</p> <p>3. プレパレーションレポート 10点</p>					
教科書（購入必須）	小児看護学 ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術（メディカ出版）					
参考書（購入任意）	子どもの病気の地図帳 講談社					

科 目 名	母性看護学概論		担当教員名	加藤 千恵子		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、母性看護学の概観を教授する科目					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生は、母性の概念を、女性の生涯にわたる健康と権利の視点から捉えることができる。</li> <li>・学生は、女性の健康を身体・心理社会・文化的視点から理解することができる。</li> <li>・学生は、母子関連組織・法律、母子保健システムから看護のあり方を考察することができる。</li> <li>・学生は、女性のライフステージ各期の特徴を学び、母性の一生を通じた健康の維持増進、疾病予防のありかたについて考察することができる。</li> <li>・学生は、生命の尊重の意義を確認し自分なりの生命倫理についてを考えることができる。</li> </ul>					
授業の概要	<p>学生が、母性看護学の対象がすべての女性とその家族を含み、対象を取り巻く環境が大きく変化し、少子高齢化、晩婚化、晩産化が進んでいることを理解できるように授業を構成する。また、女性のライフステージの特徴を知り、女性の一生を通じた健康の保持増進と疾病の予防についても学習する。学生が、母性の概念、母子保健の変遷と統計指標、関連法規と施策などから、母子保健の現状と課題について学習できるように教授する。さらに、リプロダクティブヘルス、ライツの観点から周産期に至る思春期からの性教育のあり方や婚前学級、婚活、妊活などの現代社会で生きる若者の実情や医学情報のトピックスを紹介し、学生が、生命倫理や生命尊重について考えを深化させられるように教授する。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 母性の中心となる概念</li> <li>2 母性看護実践を支える概念</li> <li>3 リプロダクティブヘルスに関する概念</li> <li>4 リプロダクティブヘルスに関する動向</li> <li>5 リプロダクティブヘルスに関する倫理</li> <li>6 命の大切さを考える DVD 視聴</li> <li>7 子どもと女性の保護に関する法律</li> <li>8 子育て支援に関する制度・施策 児童虐待</li> <li>9 性差医療 DVD 視聴</li> <li>10 生殖に関する生理</li> <li>11 生殖における健康問題と看護</li> <li>12 不妊症</li> <li>13 加齢とホルモン変化</li> <li>14 リプロダクティブヘルスケアー人工妊娠中絶と看護、性暴力を受けた女性に対する看護、喫煙女性の健康と看護</li> <li>15 周産期医療システム、母子保健の国際化 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	リプロダクティブヘルス/ライツの関係する章を読み込む。			90分	
	復習	講義内容を振り返りポイントをまとめる。			90分	
授業の留意点	<p>授業に参加するにあたり、予習、復習を行うこと。GWには積極的に参加すること。</p> <p>DVDは、欠席した場合も後日必ず視聴しレポートを提出すること。</p>					
学生に対する評価	GWやプレゼンテーション、授業中に課す提出物と授業への参加態度(30点)、試験(70点)を合算して評価する。					
教科書(購入必須)	ナーシング・グラフィカ母性看護学①概論・リプロダクティブヘルスと看護(メディカ出版)					
参考書(購入任意)	母子保健の主なる統計令和5年度刊行:母子保健事業団、令和5年版厚生労働白書:厚生労働省編、令和5年度版少子化社会対策白書:内閣府編、国民衛生の動向2022/2023:厚生労働統計協会					



科目名	母性看護活動論 I		担当教員名	加藤 千恵子・渡邊 友香		
学年配当	3年	単位数	1単位		開講形態	演習
開講時期	前期	必修選択	必修		資格要件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質 (QOL) を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師・助産師の実務経験のある教員が講義を行う。					
学習到達目標	<p>目的</p> <p>本講義では、女性のライフサイクルの中で周産期の妊産婦と胎児およびその家族を対象とする。学生は母性看護学における看護実践能力、周産期医療における問題解決力を高め、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊産婦の主体性を重んじた安全で安楽な出産及び役割獲得への援助に必要な知識と看護技術を習得できる。</li> <li>2. 妊婦・産婦の発達課題の達成や健康の保持増進、健康障害の予防に必要な母子看護の基礎知識を学び展開できる。</li> <li>3. 対象が正常な妊娠、分娩経過をたどるために必要な看護技術を習得できる。</li> </ol> <p>以上の3つの目標を達成するため、以下のA知識、B技術、C態度に関する学習到達目標を挙げる。</p> <p>A 知識</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学生は妊娠・分娩の経過に伴って変化する生理的現象や身体的特徴を説明できる。</li> <li>2) 学生は妊娠・分娩の経過に伴って変化する心理社会的特徴を説明できる。</li> <li>3) 学生は胎児の成長発達と健康度の評価、胎児の特徴を説明できる。</li> <li>4) 学生は親になることを支える援助、相談、教育について説明できる。</li> </ol> <p>B. 技術</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学生は妊婦の経過を根拠に基づきアセスメントし、記述できる。</li> <li>2) 学生は胎児の経過を根拠に基づきアセスメントし、記述できる。</li> <li>3) 学生はウェルネスの視点から看護問題・看護目標が挙げ、記述できる。</li> <li>4) 学生は個別性のある看護計画を立案し、記述できる。</li> </ol> <p>C. 態度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学生は積極的に学習し、自己の能力の向上に努めることができる。</li> <li>2) 学生は教員の支援を受けながら、多様な学習資源を活用した学習ができる。</li> <li>3) 学生はグループの一員としての自分の役割を遂行し、協力して演習を進めることができる。</li> </ol>					
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生は妊娠・分娩経過の女性および胎児と新生児に必要な知識と看護技術を習得する。</li> <li>1) 学生は妊婦・産婦・胎児・新生児の身体的・心理社会的特徴を学び、健康状態を観察する技術を学ぶ。</li> <li>2) 学生は母子の健康の保持・増進、健康障害の予防および健康障害からの回復を促す日常生活において必要なセルフケアとセルフケアを維持促進するための看護の方法を学ぶ。</li> <li>3) 学生は妊娠期、分娩期の母子事例を活用し、周産期の対象の身体的、心理的、社会的アセスメントの方法を習得し、対象の全体像を統合する。</li> </ol>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 妊娠期のアセスメント 1, 妊娠の成立と経過 (妊娠の定義, 妊娠の生理, 胎児の成長と発達)</li> <li>2 妊娠期のアセスメントとケア 1, 妊婦の身体的特徴と妊娠期の変化妊娠各期と保健指導 (健康管理の目的, 妊娠期の日常生活, 栄養管理, 乳房の手当)</li> <li>3 妊娠期のアセスメントとケア 2, 妊婦の心理的特徴と妊娠期の変化</li> <li>4 妊娠各期の胎児の成長と発達</li> <li>5 &lt;演習 1&gt; 妊娠期のケア: 子宮底・腹囲測定, レオポルド触診法, 妊産婦体操, 疑似体験 分娩期のアセスメントとケア (分娩が胎児に与える影響, 胎児の健康状態の把握)</li> <li>6 ハイリスク妊娠と看護 (妊娠悪阻, 胎状奇胎, 妊娠高血圧症候群, 切迫流早産, 前置胎盤, 常位胎盤早期剥離)</li> <li>7 妊婦の健康教育と育児準備サポート, 出産準備教育</li> <li>8 分娩期のアセスメント 1, 分娩の経過 (分娩の定義, 分娩の三要素と分娩機序, 分娩経過) 分娩期にある母子の理解, (分娩のメカニズム, 心理・社会的状況の理解) [分娩の視聴覚教材]</li> <li>9 分娩期のアセスメントとケア 1, (産痛のメカニズムと緩和法, 産婦の心理, 家族への包括的援助)</li> <li>10 分娩期の胎児の健康状態</li> <li>11 分娩期の母体と胎児のための安全安楽を考えたケア</li> <li>12 分娩室における各スタッフの役割分担と衛生管理および物品管理</li> <li>13 &lt;演習 2&gt; 分娩期のケア: 呼吸法, 弛緩法, 産婦の安全・安楽と主体性を育むための看護</li> <li>14 ハイリスク分娩の看護 (微弱陣痛・過強陣痛, 分娩時異常出血, 帝王切開)</li> <li>15 妊産婦の健康管理のまとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	妊娠期分娩期で関与する章の読み込み。			45分	
	復習	講義内容を振り返り、ポイントをまとめる。			45分	
授業の留意点	各単元におけるまとめを作成する。このまとめを母性看護学実習時に持参し、実習に臨むことになるため、ポイントを押さえてわかりやすくまとめる事。 受講に際して、教科書を読むなど予習および復習を行うこと。 授業態度として、講義、演習ともに真摯な姿勢で積極的に臨むこと。					
学生に対する評価	演習の2回の参加は必修で参加なき場合、母性看護学実習には参加できないこととする。 各単元のまとめの課題提出 (15点)、ミニ模試や各授業の提出物 (15点) とテスト (70点) で知識とアセスメント能力について評価する。					
教科書 (購入必須)	(母性看護活動論Ⅱと共通) ・系統看護学講座 専門Ⅱ母性看護学各論 母性看護学2 森恵美 (医学書院) ・ナースングラフィカ 母性看護技術 荒木奈緒ら (メディカ出版)					
参考書 (購入任意)	・カラー写真で学ぶ妊産婦褥婦のケア 第二版 櫛引美代子 (医歯薬出版株式会社) ・新看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅰ 前原 澄子 (編集) (中央法規出版) ・新看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅱ 前原 澄子 (編集) (中央法規出版)					

科 目 名	母性看護活動論Ⅱ		担当教員名	加藤 千恵子・渡邊 友香		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての臨床経験を持つ教員が、産褥期・新生児期の母子の看護を教授する科目					
学習到達目標	1. 学生は、妊娠期・分娩期の既習の知識を基に、産褥期、新生児期にある母子とその家族の身体・心理社会的特性を理解できる。 2. 学生は、産褥・新生児期にある母子への看護援助を行うために必要とされる基礎的知識と技術を習得できる。 3. 学生は、産褥・新生児期の母子関係確立のための援助に必要な知識と技術を習得できる。 4. 学生は、産褥・新生児期における主な異常とその看護を理解できる。					
授業の概要	学生は、母性看護活動論Ⅰで学習した妊娠期・分娩期の援助を踏まえて褥婦および新生児とその家族の特性を理解する。 学生は、産褥期では分娩の影響からの心身の回復と母子関係確立・母親役割獲得へのケアおよび産褥の異常を持つ産婦のケアについて学ぶ。 学生は、新生児については胎外生活への適応と生理的变化、正常からの逸脱時のケアについて学習する。また、母子の健康の保持増進・回復を促すためのセルフケアの方法および逸脱徴候を早期に発見するための観察方法を習得する。 学生は、母子一対を対象として、母子関係形成のためのケアの重要性を理解し、褥婦・新生児の看護過程では、ウェルネスの視点を取り入れた展開方法を学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 正常な産褥の基本的理解：産褥の定義、褥婦の全身の変化、進行性変化、退行性変化、心理・社会的変化</li> <li>2 産褥期のアセスメント：退行性変化、進行性変化、身体の回復状態家族の機能と役割の再編、サポート体制</li> <li>3 褥婦と家族のケア：セルフケアを高めるケア、母乳育児に向けてのケア、育児技術に関わるケア、家族関係再構築へのケア</li> <li>4 褥婦と家族のケア：母子関係確立への援助、母親役割、家族役割関係、産後のメンタルヘルスケア、産後の母子保健施策</li> <li>5 異常産褥の病態と看護：子宮復古不全、産褥感染症、精神障害、母子分離・死産</li> <li>6 &lt;演習1&gt;産褥期のケア：子宮復古状態の観察とケア 乳房観察とケア、産褥体操</li> <li>7 正常新生児の基本的理解：新生児の定義、胎外生活への適応過程、新生児の生理的变化、成熟度の評価</li> <li>8 新生児のアセスメント：出生直後の状、体格、哺乳状態、栄養状態、親子関係、家族関係</li> <li>9 新生児のケア：看護の原則、保育環境、出生直後の看護、日常生活への援助、栄養</li> <li>10 異常新生児の病態と看護：新生児仮死、分娩障害、高ビリルビン血症、低出生体重児、ディベロップメントケア</li> <li>11 &lt;演習2&gt;新生児のケア：バイタルサインズ、全身観察、各部計測、沐浴 / 褥婦・新生児の看護過程の展開</li> <li>12 &lt;演習2&gt;新生児のケア：バイタルサインズ、全身観察、各部計測、沐浴 / 褥婦・新生児の看護過程の展開</li> <li>13 &lt;演習2&gt;新生児のケア：バイタルサインズ、全身観察、各部計測、沐浴 / 褥婦・新生児の看護過程の展開</li> <li>14 &lt;演習2&gt;新生児のケア：バイタルサインズ、全身観察、各部計測、沐浴 / 褥婦・新生児の看護過程の展開</li> <li>15 褥婦・新生児の看護過程、学習ノートの提出 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各省の内容を読み込む。			45分	
	復習	授業を振り返り、ポイントのまとめを行う。			45分	
授業の留意点	講義は、テキスト・資料を読んで予習・復習をすること。 演習は講義内容を復習しテキストにて技術手順を確認して臨むこと。 看護過程は参考書を利用しウェルネス思考を取り入れて展開すること。 配布する学習ノート（産褥・新生時期）は教科書・参考書を利用して完成させること。					
学生に対する評価	ミニレポート 15点 課題；看護過程 15点 試験 70点					
教科書（購入必須）	(母性看護活動論Ⅰと共通) ・系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2 森恵美 (医学書院) ・ナーシンググラフィカ 母性看護学③母性看護技術 (メディカ出版) ・ウェルネス診断にもとづく母性看護過程 太田操編 (医歯薬出版株式会社)					
参考書（購入任意）	・病気がみえる VOL10 産科 第3版 (メディックメディア) ・新看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅰ・Ⅱ 前原澄子 (中央法規出版)					

科 目 名	精神看護学概論		担当教員名	結城 佳子		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師等として広く心の健康にかかわるケアを実践した経験を有する教員が、心の健康とそのケアに関する基本的知識と考え方を指導する科目					
学習到達目標	<p>精神健康において支援を必要とする人を対象とする看護についての基本的考え方を理解し、精神科医療および精神保健福祉の課題に問題意識を持って取り組む姿勢を修得することを目標とする。</p> <p>1. 人の発達段階やさまざまな生活の場における精神健康の様相について、根拠をもって自分の考えを述べることができる。</p> <p>2. さまざまな社会的背景と精神健康との関連について、根拠をもって自分の考えを述べることができる。</p> <p>3. 精神健康において支援を必要とする人とそれを取り巻く環境について、根拠をもって自分の考えを述べることができる。</p>					
授業の概要	<p>1. 心とは何か、心の健康とは何か、その基本的考え方を学ぶ。</p> <p>2. 心に関する諸理論、ライフサイクルと生活の場における心の健康について学ぶ。</p> <p>3. 精神保健福祉活動の実際とそれを支える法・制度のあり方、精神保健福祉の歴史を学ぶ。</p> <p>4. 精神科医療および精神保健福祉における人権と倫理について学ぶ。</p>					
授業の計画	<p>1 オリエンテーション/心とは</p> <p>2 健康な心とは</p> <p>3 心を感じる/心にふれる</p> <p>4 生活の場と精神保健① 家庭</p> <p>5 生活の場と精神保健② 学校</p> <p>6 生活の場と精神保健③ 職場</p> <p>7 生涯発達と精神保健① 乳児期～思春期・青年期</p> <p>8 生涯発達と精神保健② 成人前期～老年期</p> <p>9 社会と精神保健① ストレス</p> <p>10 社会と精神保健② 危機</p> <p>11 社会と精神保健③ 自殺</p> <p>12 精神障害と精神保健① 精神疾患と精神障害/統合失調症</p> <p>13 精神障害と精神保健② 精神保健福祉の変遷と法/人権擁護</p> <p>14 精神障害と精神保健③ 地域精神保健福祉活動</p> <p>15 まとめ</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回のテーマについて調べ、疑問点等を明らかにする。			90分	
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理し、関連する研究論文等を1編以上読む。			90分	
授業の留意点	少人数でのグループワークやディスカッションを多く取り入れた講義であるため、与えられた課題に対して自ら考えたことを積極的に発信し、他者と協力して取り組む姿勢が期待される。精神科医療および精神保健福祉を取り巻く社会の動向にも関心を持ち、自ら考える姿勢が望ましい。					
学生に対する評価	<p>レポート課題：中間、最終各50点、計100点</p> <p>以下の5段階で評価する。</p> <p>S：素点90点以上、A：素点80～89点、B：素点70～79点、C：素点60～69点、D：素点59点以下</p> <p>C以上の評価について単位を認定する。D評価の者は課題再提出とし、再提出は素点69点までとする。</p>					
教科書（購入必須）	テキストは使用せず、資料を配布する。					
参考書（購入任意）	参考文献は、必要時指示する。					

科 目 名	精神看護活動論 I		担当教員名	結城 佳子・中島 泰葉		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質 (QOL) を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師等として精神科医療・精神保健福祉分野における実践経験を有する教員が、精神疾患・精神障害に関する基本的知識と治療・看護・リハビリテーションについて指導する科目					
学習到達目標	精神疾患の病態や精神障害のありようとそれらが生活に与える影響、治療およびリハビリテーションについて理解し、支援を必要としている人とその家族に対する看護援助方法について基本的考え方を習得することを目標とする。 1. 主要な精神疾患の病態及び診断、治療について、要点を述べることができる。 2. 主要な精神症状のアセスメントについて、要点を述べることができる。 3. 主要な精神疾患及び精神症状に対する看護について、要点を述べることができる。					
授業の概要	1. 主要な精神疾患等の病態や障害のありようとそれらが生活に与える影響を学ぶ。 2. 主要な精神疾患等の治療およびリハビリテーションと看護援助を学ぶ。					
授業の計画	1 オリエンテーション/気分障害① 概念と病態 2 気分障害② 治療とリハビリテーション 3 気分障害③ 看護 4 ストレス関連障害群 (PTSD 等) 疾患と治療、看護 5 不安障害群/強迫性障害群 疾患と治療、看護 6 解離性障害群/身体表現性障害群 疾患と治療、看護 7 摂食障害 疾患と治療、看護 8 物質関連障害群① 概念と病態 9 物質関連障害群② アルコール使用障害 10 物質関連障害群③ 治療と看護 11 パーソナリティ障害 疾患と治療 12 自閉症スペクトラム障害 13 認知症① 主な認知症とその特徴 14 認知症② 周辺症状とせん妄 15 認知症③ 治療と看護					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回のテーマとなる精神疾患等について調べ、疑問点等を明らかにする。			90 分	
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理し、関連する研究論文等を 1 編以上読む。			90 分	
授業の留意点	具体的な事例等を通して、精神疾患・精神障害を適切に理解するとともに、精神疾患・精神障害を持つ人の生きる困難さや苦悩を共に感じ、看護援助の展開について主体的に考えることを期待する。					
学生に対する評価	筆記試験により評価する。 以下の 5 段階で評価する。 S: 素点 90 点以上、A: 素点 80~89 点、B: 素点 70~79 点、C: 素点 60~69 点、D: 素点 59 点以下 C 以上の評価について単位を認定する。D 評価の者は再試験とし、再試験は素点 69 点までとする。					
教科書 (購入必須)	テキストは使用せず、資料を配布する。					
参考書 (購入任意)	必要時指示する。					

科 目 名	精神看護活動論Ⅱ		担当教員名	結城 佳子・中島 泰葉		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師等として精神科医療・精神保健福祉分野における実践経験を有する教員が、関連する法・制度、安全管理、人権と倫理および質の高い看護実践について指導する科目					
学習到達目標	<p>精神疾患の病態や障害のありようとそれらが生活に与える影響、治療およびリハビリテーションについて理解し、精神健康上の問題に直面している人とその家族に対する看護援助方法と看護過程の展開について基本的考え方を習得する。また、精神科領域における治療・看護について理解し、対象者の安全を守り、人権を擁護する看護のあり方を学ぶ。</p> <p>1. 統合失調症の病態や後遺障害、診断や治療及び看護について、要点を述べることができる。</p> <p>2. 精神科領域における治療やリハビリテーションについて、要点を述べることができる。</p> <p>3. 精神科領域における治療等に関連する法や制度について、要点を述べることができる。</p> <p>4. 精神科領域において患者を守る医療安全、危機管理及び人権と倫理について、要点を述べることができる。</p> <p>5. 精神科領域における看護実践について、根拠をもって自分の考えを述べることができる。</p>					
授業の概要	<p>1. 統合失調症や認知症について疾患・障害のありようと生活に与える影響、治療や看護について学ぶ。</p> <p>2. 精神科領域に特有の治療およびリハビリテーションと看護について学ぶ。</p> <p>3. 精神科領域における安全管理、法・制度、人権と倫理について学ぶ。</p> <p>4. 精神科看護の実践について、ゲストスピーカーによる講義から学ぶ。</p>					
授業の計画	<p>1 オリエンテーション/統合失調症① 概念と病態</p> <p>2 統合失調症② 急性期～消耗期</p> <p>3 統合失調症③ 回復期</p> <p>4 統合失調症④ 治療と看護</p> <p>5 精神科領域における治療と看護① 薬物療法/電気けいれん療法他</p> <p>6 精神科領域における治療と看護② 心理療法</p> <p>7 精神科領域における法と制度① 精神保健福祉法</p> <p>8 精神科領域における法と制度② その他関連する法・制度</p> <p>9 精神科領域における医療安全・危機管理</p> <p>10 精神科看護における人権と倫理</p> <p>11 精神科看護における自己理解・自己活用/プロセスレコードの活用</p> <p>12 精神科看護の実践① 救急急性期看護</p> <p>13 精神科看護の実践② 退院支援</p> <p>14 精神科看護の実践③ 認知症看護</p> <p>15 精神科看護の実践④ 精神科訪問看護</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回のテーマとなる精神疾患等について調べ、疑問点等を明らかにする。			90分	
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理し、関連する研究論文等を1編以上読む。			90分	
授業の留意点	精神科看護の実践に不可欠な知識・技術を学ぶとともに、精神障害者を取り巻く社会のありようを理解するため、主体的に考える姿勢を求める。					
学生に対する評価	<p>筆記試験により評価する。</p> <p>以下の5段階で評価する。</p> <p>S：素点90点以上、A：素点80～89点、B：素点70～79点、C：素点60～69点、D：素点59点以下</p> <p>C以上の評価について単位を認定する。D評価の者は再試験とし、再試験は素点69点までとする。</p>					
教科書（購入必須）	テキストは使用せず、資料を配布する。					
参考書（購入任意）	必要時指示する。					

科 目 名	基礎看護学実習 I		担当教員名	齋藤千秋・畑瀬智恵美・鈴木朋子・岩田直美	
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</li> <li>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</li> <li>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</li> <li>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</li> <li>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</li> </ol>				
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として実務経験を持つ教員が臨地において対象者とのかかわりやケアを通して対象理解、看護の目的や役割について教授する科目。				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院の役割・機能、医療の場で働く看護者および他職種の専門職としての役割を説明できる。</li> <li>2. 対象者とのかかわりを通して、入院生活の過ごし方について知り、健康時の日常生活との相違や困難さについて説明できる。</li> <li>3. 対象者への援助を通して、健康の回復・維持・増進のために必要な看護援助を根拠に基づいて行う必要性を説明できる。</li> <li>4. 看護学生として、チームの一員としての責任を自覚し、自律した行動ができる。</li> <li>5. 実習を通して、自己の考えを深め看護観をレポートし、自己の課題を明らかにすることができる。</li> </ol>				
授業の概要	健康障がいを持つ対象者とのかかわりやケアを通して、入院している対象者の心身の状態、生活の場である療養環境について学習し、看護の目的や役割について学ぶ。同時に臨床診断・コミュニケーション技術・倫理的判断についても学ぶ。				
授業の計画	<p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習施設内を見学し、主要部署とその役割について説明を受ける。</li> <li>2. 実習病院の特徴や看護部の方針等についてオリエンテーションを受ける。</li> <li>3. 療養環境について、病棟の見学とオリエンテーションを受ける。</li> <li>4. 看護援助の実践に際しては、看護師・教員の説明や助言のもとに行う。</li> <li>5. カンファレンスで学習内容を整理し、学びを共有する。</li> <li>6. 学内演習では体験や学びを共有し、学びをまとめ、自己の課題を明確にする。</li> </ol> <p>詳細は、実習要項を参照</p> <p>※実習目標に基づき、臨地実習4日間、学内演習1日間の計画を予定している。</p> <p>※詳細な実習計画・資料等は、実習開始前オリエンテーションで説明する。</p> <p>※実習開始前オリエンテーションを受けることは、実習において必須条件である。</p>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習				
	復習				
授業の留意点	<p>本授業科目は、看護学生として医療の現場で体験的に学ぶ学習であるので、医療の現場で学ぶ者として自覚を持ち、対象や医療従事者の信頼を得られる行動を心がけ実習することが必要である。実習課題到達のためには、実習オリエンテーションに出席すること・事前学習が必要である点を十分認識して実習に臨むことが求められる。</p> <p>本科目の先修要件は、看護学概論、看護技術論、看護共通技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅰの単位修得、ヘルスアセスメント、看護共通技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅱ、看護過程演習の単位修得見込みである。計画的に学習し、体調を整えて実習に臨みましょう。</p>				
学生に対する評価	実習要項の評価方法に準ずる。尚、認定要件は実習記録一式が期限内に提出されることを前提とする。				
教科書（購入必須）	実習要項や必要な実習課題提出記録用紙等の関係資料は実習前に配布されるので、各自が既習科目の教科書を活用し、必要な事前準備を行うこと。				
参考書（購入任意）	配布資料・実習先に応じた参考文献は随時提示する。				

科 目 名	基礎看護学実習Ⅱ		担当教員名	鈴木朋子・畑瀬智恵美・齋藤千秋・岩田直美	
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</li> <li>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</li> <li>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</li> <li>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</li> <li>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</li> </ol>				
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として実務経験を持つ教員が、臨地において、既習の知識や技術を基に看護の対象、療養環境、人間関係を形成するためのコミュニケーション、看護ケアをもとに、対象に必要な看護を理解し、その対象の看護上の問題（健康問題）を解決するための看護過程を展開し、同時に問題解決思考能力を教授する科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者とコミュニケーションをとることができる。</li> <li>2. 対象者を統合的に理解し、看護過程を展開できる。</li> <li>3. 医療チームの一員として、看護師の役割および医療・福祉チームにおける連携・協働について説明することができる。</li> <li>4. 看護の専門性、学問を探究する学習者として自己洞察し、今後の学習課題を明確にできる。</li> <li>5. 実習を通して、自己の考えを深め看護観をレポートし、自己の課題を明らかにすることができる。</li> </ol>				
授業の概要	看護学生として初めて一人の対象を受け持ち、健康に障がいをもつ人を理解すると共に、健康障がいをもつ対象の健康問題を解決するための看護過程を展開し、看護を実践する思考プロセスを学ぶ。また、他の専門職と連携・協働するチーム医療について学ぶ。同時に臨床判断、コミュニケーション技術、倫理的判断・行動についても学ぶ。これらを通して看護職に求められる知識・技術・態度についての学びを深める。				
授業の計画	<p>実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 実習目標に基づき、実習期間は2週間を予定している。</li> <li>* 成人期・老年期にある患者を受け持ち、看護過程を展開する。</li> <li>* 対象患者に実習依頼し、受け持つことに同意と署名を受ける。</li> <li>* 学生が立案した看護計画に基づいて実施する援助は、主に生活援助技術である。</li> </ul> <p>詳細は、実習要項を参照</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 詳細な実習計画・資料等は、実習開始オリエンテーションで説明する。</li> <li>* 実習開始前オリエンテーションを受けることは、実習において必須条件である。</li> </ul>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習				
	復習				
授業の留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習科目（専門基礎科目、専門科目）および看護過程の学習したことを復習し、実習に臨んでください。また、実習で体験する内容について事前学習を十分行ってください。学習は計画的に行い、体調を整えて実習に臨みましょう。</li> <li>2. 看護実践を通じて専門職業人を目指す看護学生としての責任を自覚し、看護の学習者として、主体的、自律的、真摯な姿勢で臨んでください。</li> <li>3. 本科目の先修要件は、看護学概論、看護技術論、看護共通技術Ⅰ、看護共通技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、ヘルスアセスメント、基礎看護学実習Ⅰの単位を修得していることである。基礎看護技術Ⅲについては、単位修得見込みである。</li> </ol>				
学生に対する評価	実習要項の評価方法に準ずる。尚、認定要件は、実習記録一式が期限内に提出されたことを前提とする。				
教科書（購入必須）	既習科目（専門基礎科目、専門科目）および1年次に既習の教科書、参考図書、授業資料、その他全てを活用する。				
参考書（購入任意）	配布資料・実習先に応じた参考文献は随時提示する。				

科 目 名	地域看護学実習		担当教員名	伊藤 亜希子		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</li> <li>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</li> <li>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</li> <li>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</li> <li>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</li> <li>6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。</li> </ol>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	市町村保健師および病院看護師の経験のある教員が担当する。 地域で暮らす在宅療養者の様々な生活場面において、各実習施設の専門資格を有する実習指導者のもと、在宅看護活動に必要な支援方法や家族ケアの実施に必要な専門的知識と技術について学び、看護師の役割について教授する科目である。					
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で暮らす在宅療養者と家族の特性や生活上の課題やニーズを理解する。</li> <li>2. 在宅療養者の疾病や障害に対する気持ちの受け止めや価値観について考えることができる。</li> <li>3. 在宅療養者や介護者である家族の健康や生活状態に応じた様々な支援のあり方について考えることができる。</li> <li>4. 対象者が利用している社会資源について理解し、地域包括ケアシステムについて考えることができる。</li> <li>5. 在宅療養者および地域全体の健康問題の解決に必要な保健・医療・福祉サービスの連携および協働から地域包括ケアシステムを理解する。</li> </ol>					
授業の概要	訪問看護ステーション、地域包括支援センター、障害者支援施設において実習を行う。 訪問看護ステーションの実習では、在宅療養者の自宅に訪問看護師と同行し、在宅療養者の生活場面から訪問看護活動について学ぶ。地域包括支援センターの実習では、地域包括支援センターの役割の機能、支援の実際について学ぶ。障害者支援施設での実習では、地域で生活する障害者について、生活モデルを用いた支援の方法を学ぶ。 これらの実習を通して、地域で生活する人々に関する在宅ケアサービスと保健・福祉・医療・福祉の連携および協働について理解する。					
授業の計画	<p>別途配布する「地域看護学実習要項」に基づいて、学内オリエンテーションを受けて実習を進める。</p> <p>実習期間と実習施設</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 週目 訪問看護ステーション</li> <li>2 週目 地域包括支援センター、障害者支援施設</li> </ol> <p>実習方法と内容</p> <p>数名ごとの小グループに分かれて、1 週目は訪問看護ステーション、2 週目は地域包括支援センターと障害者支援施設で実習を行う。実習最終日に、カンファレンスを行い、全員で各実習先での学びを発表し疑問点などを共有し学びの視点を広げるとともに学びを深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訪問看護ステーション 在宅療養者の自宅に訪問看護師と同行し、在宅療養者の生活場面から訪問看護活動について学ぶ</li> <li>2. 地域包括支援センター 地域包括支援センターの役割の機能、支援の実際について学ぶ。 地域包括支援センターの保健師や社会福祉士などに同行し対象者への訪問および事業などを見学する。</li> <li>3. 障害者支援施設 障害者支援施設において、地域で生活する障害者および生活を理解し、様々なプログラムより生活モデルを用いた関わり方や支援の方法を学ぶ。</li> </ol> <p>これらの実習を通して、地域で生活する人々に関する在宅ケアサービスと保健・福祉・医療・福祉の連携および協働について理解するとともに地域包括ケアシステムについて考える。</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	実習プログラムに沿って必要な学習をしてから臨むこと。				
	復習	実習後に専門知識や技術について復習を行うこと。				
授業の留意点	地域看護学および障害者福祉に関する制度や社会資源を復習して実習に臨むこと。実習では、在宅療養者の自宅や施設を訪問するため、学生として節度ある態度とマナーを大切に学ばせていただく姿勢で臨むこと。					
学生に対する評価	実習要項の評価表に準じる。					
教科書（購入必須）	河野あゆみ編 新体系看護学全書在宅看護論 メヂカルフレンド社					
参考書（購入任意）	石垣和子他編 看護学テキスト 在宅看護論自分らしい生活の継続をめざして 南江堂 河原加代子筆者 系統看護学講座統合分野 在宅看護論 医学書院					



科 目 名	成人看護学実習 I		担当教員名	長谷部 佳子・南山 祥子・中谷 美紀子	
学 年 配 当	3 年	単 位 数	3 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。				
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医行為の実践について指導する科目である。				
学習到達目標	周手術期にある成人期の患者とその家族に対する看護を、看護過程の展開を通して実践し、看護に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ。健康障害の急性期にある対象を全人的にとらえ、外科的療法によってもたらされる心身への侵襲を最小限にとどめ、回復するための看護援助の実践を学ぶ。さらに、看護の継続性を学ぶとともに、関係職種間の連携と協働について理解を深め、看護職者として主体的に取り組む姿勢を学ぶ。				
授業の概要	周手術期にある患者を受け持ち、身体的、心理的、社会的アセスメントにより対象の理解を深め、看護計画の立案、実施、評価をする。外科的療法を受ける患者への看護援助を実施する。看護援助を通じて看護の継続性、関係職種間の連携と協働、看護職者としての姿勢を学ぶ。				
授業の計画	実習目標 1. 周手術期にある患者の健康課題を把握し、個別的な計画を立て、実践、評価することができる。 2. 健康障害が患者および家族に及ぼす生活の変化を理解した援助的人間関係を形成することができる。 3. 急性期から回復期に至る対象とその家族に対し、生活の視点から回復促進のための働きかけができる。 4. 保健医療福祉チームの一員としてその役割を理解し、看護の継続性、関係職種間の連携・協働について理解することができる。 5. 看護学生として責任ある行動をとることができる。 実習内容 詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。 実習方法 詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。 実習場所 詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。 実習期間 3 週間				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	形態機能学・病理学・薬理学・生化学などの疾患にまつわる予習。			90 分
	復習	受け持ち対象者の病態の復習、看護実践にまつわる内容の復習。			90 分
授業の留意点	既習の専門基礎科目、専門科目（特に成人看護活動論 I）に関連した知識・技術の活用が必須となるので、それらを復習するとともに、実習で体験する内容について事前学習を十分行ったうえで臨んでください。				
学生に対する評価	実習要項の評価方法に準じる。				
教科書（購入必須）					
参考書（購入任意）	藤野彰子・長谷部佳子・間瀬由記（編著）「看護技術ベーシックス、第 2 版」サイオ出版				

科 目 名	成人看護学実習Ⅱ	担当教員名	長谷部 佳子・南山 祥子・中谷 美紀子
学 年 配 当	3年	単 位 数	3単位
開 講 時 期	後期	必修選択	必修
		開 講 形 態	実習
		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。		
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医行為の実践について指導する科目		
学習到達目標	慢性的な健康障害をもつ成人期の患者を受け持ち、看護過程を展開し、その看護実践を通して疾病や障害あるいは死を受容し、自己管理や生活の再構築、その人らしく過ごせるような支援の実際を学ぶことができる。さらに看護の継続性、関係職種との連携と協働の実際について理解することができる。		
授業の概要	健康障害の慢性期にある成人期の患者を1名受け持ち、身体的、心理的、社会的アセスメントにより対象の理解を深め、看護計画の立案、実施、評価をする。そのなかで、疾病や障害あるいは死を受容し、自己管理や生活の再構築、その人らしい生き方を支えるための看護の実際を学ぶ。また、看護の継続性を学ぶとともに、関係職種間の連携と協働について理解を深め、看護職者として主体的に取り組む姿勢を学ぶ。		
授業の計画	実習目標 1. 健康障害の慢性期にある患者の健康課題を把握し、個別的な計画を立て、実践、評価することができる。 2. 人間関係の重要性を認識し、健康障害の慢性期にある患者とその家族の心理的状态に応じた関わりをもつことができる。 3. 患者とその家族がその人らしく過ごせるように、生活の視点から教育指導を含む支援活動を考え、実践することができる。 4. 社会復帰に向けて、必要な保健医療・福祉サービスなど関係職種との連携・協働について理解することができる。 5. 看護学生として責任ある行動をとることができる。 実習内容 詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。 実習方法 詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。 実習場所 詳細は実習要項およびガイダンスで説明する。 実習期間 3週間		
授業の予習・復習の内容と時間	予習		
	復習		
授業の留意点	学内ですでに学習している専門基礎科目、専門科目（特に成人看護活動論Ⅱ）で学んだ知識・技術の活用が必要となるので、それらを復習するとともに、実習で体験する内容について事前学習を十分行って実習に臨んでください。		
学生に対する評価	実習要項の評価方法に準ずる。		
教科書（購入必須）			
参考書（購入任意）			

科 目 名	老年看護学実習		担当教員名	高儀 郁美・澤田 知里・上原 主義	
学 年 配 当	3年	単 位 数	4単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。				
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として臨床経験を有する教員が、老年看護の基本的な考え方、高齢者との関わり方、看護の展開方法、ケアの方法等を、実践を踏まえながら指導する。				
学習到達目標	老年期に生きる高齢者とその家族の生活と健康、および健康問題について理解するとともに、多職種と協働する中での看護師の役割について考察することができる。				
授業の概要	高齢者は医療施設だけでなく、保健福祉施設や在宅等さまざまな場で生活している。多様な健康状況下にある高齢者の特性を理解し、学内で学んだ知識・技術、専門職としての態度と倫理観を看護実践の場において統合的に応用する。				
授業の計画	<p>実習方法：老年看護学実習は、グループホーム・通所サービス実習（2週間）と、高齢者施設での実習（2週間）で構成される。</p> <p>I. グループホーム・通所サービス実習（2週間）          地域密着型施設を利用している高齢者とかかわりながら、グループホームや在宅生活維持に向けた生活のありようについて学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症グループホーム           <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 認知症に関する正しい知識を身につけることができる。</li> <li>2) 認知症グループホームの法的根拠、機能を理解することができる。</li> <li>3) 認知症グループホームで暮らす高齢者に人間的関心を向け、信頼関係を築くことができ、コミュニケーションについて理解することができる。特に加齢に伴う感覚器・精神機能の低下に配慮しつつ、認知症高齢者にとって安心できるコミュニケーションの特徴を理解することができる。</li> <li>4) グループホームで生活する高齢者にとって安心でき、居心地の良い場の提供の重要性について理解し「環境」を整える意味を理解することができる。</li> </ol> </li> <li>2. 通所サービス           <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 通所サービスの法的根拠、機能を理解することができる。</li> <li>2) 通所サービスで実施されている、心身機能維持・改善への取り組みの実際と、自立支援・重症化防止に向けた取り組みについて理解することができる。</li> <li>3) 要介護高齢者と家族介護者双方にとっての通所サービスの意義を理解することができる。</li> </ol> </li> </ol> <p>II. 高齢者施設実習（2週間）          高齢者施設に入居している高齢者の生活と、高齢者の生活を整える意味について理解することができる。特に認知症高齢者のニーズの捉え方と生活からヘルスアセスメントを行う健康支援の視点を理解することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程の展開により、加齢や老年症候群等により不可逆的な老化の状態にある高齢者のからだを理解する一方で、高齢者を身体的、心理・霊的、社会・文化的な側面を有するホリスティックな存在としてとらえることができる。</li> <li>2. 高齢者とその家族の経年の生活史を考慮しつつ、その人が望む（あるいは望むであろう）生活のあり方を目標に、高齢者の持てる力を維持・継続させ、潜在している力を顕在化させるために生活機能を整え、生活環境に働きかける看護ケアを提供する、目標志向型思考を基盤とした看護過程を理解することができる。</li> <li>3. 多職種と協働して（介護士、医師、理学療法士、作業療法士、生活相談員、管理栄養士等と共に）生活を支える看護支援の視点を理解することができる。</li> <li>4. アセスメント後、ニーズ（看護）に沿った、かつ予防の視点を重視した看護援助を展開することができる。</li> <li>5. 一連の学びを通して、高齢者看護における自らの看護観について育むことができる。</li> </ol> <p>*実習場所          グループホーム・通所サービス実習：名寄市内（風連町）・士別市内          高齢者施設実習：名寄市内・美深町          *事前ガイダンスや課題があります。</p>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	老年看護学概論、老年看護活動論Ⅰ・Ⅱで学習した内容について復習をする。			
	復習	毎日の実習内容を実習記録にて振り返り、翌日に向けた課題を明確にする。			
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は老年看護学概論、老年看護活動論Ⅰ・Ⅱの単位を取得していなければ履修できない。</li> <li>・インフルエンザワクチン接種の要請を受ける場合がある。罹患の場合は実習中断となる。</li> </ul>				
学生に対する評価	実習要項に本実習の目標に沿った評価項目・評価方法を提示、オリエンテーションで説明する。				
教科書（購入必須）					
参考書（購入任意）					

科 目 名	小児看護学実習		担当教員名	小児看護学教員		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	小児とその家族が外来受診や入院している医療施設において臨床指導者のもと、看護職の責務を理解し、発達段階や家族のニーズに応じた看護援助を指導する科目					
学習到達目標	1. 保育所実習を通して、成長発達に応じた日常生活、遊びの支援ができる。 2. 小児看護における外来看護の役割を理解できる。 3. 入院している小児とその家族の看護問題を明らかにできる。 4. 発達段階や個別性を考慮した看護ケアを考え実施できる。 5. 小児看護における看護職の責務を考察できる。 6. 障害を持っている子ども（成人）の日常生活を理解して必要とされる看護を理解できる。					
授業の概要	保育所実習では、指導保育士と共に子どもの日常生活、遊びの実際を体験する。 外来受診および入院している小児とその家族を看護する病棟実習では、既習の知識・技術を基に、看護ケアの計画立案・実施・評価のプロセスを体験し小児看護の実際を学ぶ。 療育園実習では、主に見学実習であるが、実習指導者の指導を受けながら、日常生活の援助やコミュニケーションを通して利用者との関わり、必要とされる看護を考えていく。					
授業の計画	別途配付する「小児看護学実習要項」に基づいて学内オリエンテーションを行い実習を進める。 実習施設：小児病棟、小児科外来、保育所、療育園 実習期間：2 週間 実習方法：1 グループ1 週間単位で小児病棟と小児科外来・保育所に入る 1 日療育園での実習  実習内容 1) 小児病棟 ・受け持ち患児を決め、看護計画を立案する ・受け持ち患児の看護ケアを実施する ・実施した看護ケアについて評価し看護計画の修正を行う 2) 小児科外来 ・受け持ち患児を決め、家庭で行っているケアについて情報収集を行い、必要な看護ケアについてアセスメントする ・健診や予防接種に来ている子どもや家族に必要なプレパレーションを実施する 3) 保育所 ・健康な子どもの日常生活や遊びについて発達段階に応じた支援を行う 4) 療育園 ・障害のある子ども（成人）に必要な支援について、様々な専門家から説明を受け学ぶ ・実習指導者の指導のもと、障害のある子ども（成人）の日常生活の援助（主に食事介助）を実施する					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	感冒や感染症の疑い・発症などは必ず報告してください。感染源・媒介の危険性がある場合は実習中止となる。予防接種の履行および日常生活・健康の管理に留意すること。 実習前には各自、既習の知識・技術の確認を行い、準備を整えて実習に臨むこと。					
学生に対する評価	実習要項の評価方法に準ずる。					
教科書（購入必須）						
参考書（購入任意）	子どもの病気の地図帳 講談社					

科 目 名	母性看護学実習		担当教員名	加藤 千恵子・渡邊 友香		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。 4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、妊娠分娩産褥期の母親と新生児の看護実践の基本を医療施設の臨床指導者と共に指導する科目					
学習到達目標	学生は、女性およびその家族を対象として、母性の健全な成長発達を促し、健康の維持・増進、発達課題の達成を促すための看護方法を学び、母性看護の役割について考えることができる。 1) 学生は、妊娠、分娩、産褥期における女性の特性を身体的、心理的、社会的側面から理解し、各期の過程に影響する要因について理解できる。 2) 学生は、母性意識の育成および母子関係、家族関係成立にむけての支援を学ぶことができる。 3) 学生は、妊産褥婦がセルフケア行動や養育行動を獲得していく過程の支援を学ぶ。 4) 学生は、新生児の生活を整える働きかけを通して、新生児が胎外生活に適応していく過程を理解することができる。 5) 学生は、生命の尊厳や母性の尊重について、自己の考えを深めることができる。 6) 学生は、母子保健活動の実践を通し、母子を継続して支援する方法を学び、その必要性を理解できる。					
授業の概要	1) 学生は、妊娠・分娩・産褥期にある母子を受け持ち、身体的、心理的、社会的アセスメントにより発達課題や発達危機、健康状態を把握し、母子の健康を維持促進するために必要な看護実践の基礎的知識・技術・態度を学ぶ。 2) 学生は、地域で生活する褥婦及び新生児の健康状態および地域が抱える課題について学ぶ。 3) 学生は、地域における母子保健活動の実際を学ぶ。					
授業の計画	実習内容(産科病棟実習・産科外来実習・地域母子保健実習)  周産期からの母性看護の対象が訪れる施設と地域を理解する。また、実習中に関わる1事例以上の対象の特性を理解し、看護過程のアセスメントを通して看護の方法を学ぶ。  実習方法  1) 実習場所(4か所)  ・名寄市立総合病院3階西病棟、名寄市立総合病院産婦人科外来、野口母乳育児相談室、名寄市立大学タッチケアサロン  1グループ:1週間単位で病棟・分娩参加見学チームと外来・地域母子保健活動チームで交替する(16名)  2) 実習内容  (1) 周産期母子実習(病棟)  ・褥婦と新生児の看護:1例受持ち  ・産婦の看護は参加見学  (2) 産婦人科外来実習  ・妊婦健康診査・保健指導の見学及び一部実施(1例以上)  ・地域母子保健活動実習(タッチケアサロン、母乳育児相談等)の参加見学  実習期間 2週間					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	母性看護学概論、母性看護活動論Ⅰ、母性看護活動論Ⅱをすべて履修済であること。事前に配布する実習要項、特に達成目標を読み、事前学習を行い、活動論Ⅰ・Ⅱで作成したまとめを実習で活用すること。					
学生に対する評価	実習方法の評価方法に準ずる。					
教科書(購入必須)	・系統看護学講座 専門Ⅱ母性看護学各論 母性看護学 2 森恵美(医学書院) ・ナーシンググラフィカ母性看護学③母性看護技術 ・ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版 太田操(医歯薬出版)					
参考書(購入任意)	・病気がみえるVOL10産科 第4版(メディックメディア) ・看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅰ、Ⅱ 前原 澄子(編集)(中央法規出版) ・系統看護学講座 専門Ⅱ母性看護学概論 母性看護学 1 森恵美(医学書院)					

科 目 名	精神看護学実習		担当教員名	結城 佳子・中島 泰葉		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	精神科医療機関等において、看護師等として実務経験を持つ教員及び臨地実習指導者による指導のもとで看護援助を実践し、それを通して対象理解、看護援助方法ならびに人権擁護等を学び、看護師の役割について指導する科目					
学 習 到 達 目 標	<p>1. 精神健康について援助を必要とする人とその家族に対して、精神的・身体的・社会的側面等からアセスメントすることができる。</p> <p>2. 精神健康について援助を必要とする人とその家族に対して、治療的コミュニケーション技法および精神科における看護援助方法を用いて、看護を実践することができる。</p> <p>3. 精神健康について援助を必要とする人とその家族に対して、実践した看護を省察できる。</p> <p>4. 精神科領域における医療チームの一員として、必要な報告連絡相談ができる。</p>					
授 業 の 概 要	<p>1. 精神科病棟において入院患者を受け持ち、看護過程を展開する。あわせて、施設見学、精神科における治療・リハビリテーションの見学を行う。</p> <p>2. 受け持ち患者をはじめとする入院患者とのかかわりや受け持ち患者の看護過程の展開を通して、精神看護に必要な基礎的な知識・技術を習得し、精神科において看護職に求められる基本的な態度を養う。</p> <p>3. 治療・リハビリテーションの見学や看護過程の展開を通して、他職種との役割と医療チームにおける看護職の役割を理解する。</p>					
授 業 の 計 画	<p>1 別途配布する「精神看護学実習要項」に基づいて学内オリエンテーションを行う。</p> <p>2 精神科救急急性期病棟、回復期病棟、慢性期病棟のいずれかにおいて2週間の実習を行う。患者を受け持ち、臨地実習指導者および教員の指導のもと看護過程を展開、実践する。</p> <p>3 実習期間中にアルコール集団療法、SST、作業療法等の精神科における治療・リハビリテーションの実際を見学する。</p> <p>4 実習中に受け持ち患者等とのかかわりをプロセスレコードに記録し、自己理解に活用する。</p> <p>5 実習終了後、看護計画や記録類、総合レポートを提出する。</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	学習到達目標の達成には、日々の自己学習は必須である。				
	復習					
授 業 の 留 意 点	履修には精神看護学概論、精神看護活動論Ⅰ、精神看護活動論Ⅱの単位を修得している必要がある。					
学 生 に 対 す る 評 価	評価項目・評価方法を実習要項に提示、実習前に実施するオリエンテーションにて説明する。総合点60点以上を単位認定する。					
教 科 書 (購入必須)	テキストは使用しない。					
参 考 書 (購入任意)	必要時指示する。					

科 目 名	統合実習		担当教員名	看護学科教員		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p> <p>6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保健師・助産師・看護師としての実務経験を持つ教員が、より実践的な状況場面における看護の展開を教授する科目。					
学習到達目標	<p>保健医療チームの一員としての看護職の役割を学び、他職種、他機関との連携・協働を通して主体的に看護を展開する実践的能力を修得する。また、既習の講義・実習の統合により看護実践能力の向上をめざし、看護学を探究する姿勢および態度を学ぶ。</p> <p>1. 保健医療チームの組織・機能・管理及びチームの一員としての看護師の役割を具体的に説明できる。</p> <p>2. 他職種、他機関等との連携・協働および統合的・継続的な看護実践の必要性について具体的に説明できる。</p> <p>3. 看護実践に必要な知識・技術を統合し、より実践的な状況・場面における看護展開に取り組み、自己評価できる。</p> <p>4. 看護職に求められる専門性とその責任、質の高い看護実践をめざして自己研鑽を継続する必要性を具体的に説明できる。</p>					
授業の概要	各看護学領域または領域間の連携により実習する。各領域の専門性を反映した実習内容により実習目的・目標の到達をめざす。学生は、選択した領域の実習計画に基づき、配置された実習施設での実習を行う。					
授業の計画	<p>1 別途配布する「統合実習要項」に基づき、学内でのオリエンテーションを行う。</p> <p>2 オリエンテーションでは、各領域等の実習計画（実習方法、内容、実習施設等）について説明し、領域等の配置について希望調査を行う。</p> <p>3 それぞれの希望に応じて、領域等ならびに実習施設の配置を調整する。各実習施設への学生配置数は2～4名を予定している。各グループには、担当の教員と臨地実習指導者を配置し、指導を行う。</p> <p>4 実習内容は、より実践的な看護活動として看護管理、複数患者受持ち、夜間帯勤務の見学等、継続看護は退院支援や地域生活活動支援等他、他機関・他職種との連携、家庭訪問、地区組織活動等領域の専門性を反映している。</p> <p>5 実習施設での実習中は、教員と臨地実習指導者が連携して指導にあたる。また実習終了後は、主に教員の指導に基づき、学内演習等により学びを深め、その統合を行う。</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	学習到達目標の達成には、日々の自己学習は必須である。				
	復習					
授業の留意点	4年間の学びの集大成の実習であり、主体的に学び、自己を研鑽する姿勢をもって実習に臨むこと、看護学生として責任ある行動をとることが期待される。					
学生に対する評価	実習要項の評価方法に準じる。					
教科書（購入必須）	特に指定しない。					
参考書（購入任意）	必要時指示する。					

科 目 名	看護倫理		担当教員名	石垣 靖子		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	緩和医療において、看護師および看護管理者として豊かな臨床経験を持つ教員が、実際の事例や看護場面を通して看護における倫理を教授する科目。					
学習到達目標	倫理が日常の実践と深く結びついていることを理解し、倫理の基本的な知識を学ぶ。 また、医療・ケアの目標である受け手のQOLを維持し、高めるために患者・家族のアドボケートとしての看護師の役割について学ぶ。					
授業の概要	看護師として、ケアの対象である患者・家族への倫理的な支援が行えるように、基本的な知識をグループワークやビデオ学習等を通して学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療倫理のはじまり、その背景について理解する。</li> <li>2 医療・ケアの質と倫理の位置づけを説明できる。</li> <li>3 看護倫理の特徴と倫理的ジレンマについて理解する。</li> <li>4 受け手と担い手との共同行為としての医療・ケアについて説明できる。</li> <li>5 倫理観が原点である“ケアリング”の概念について理解する。</li> <li>6 意思決定を支援するプロセスとその本質について理解する。</li> <li>7 倫理事例検討の実際を理解する。</li> <li>8 院内倫理委員会とその役割について理解する。</li> <li>9 人間尊重の倫理原則とその実際について理解する。</li> <li>10 COVID-19 中での倫理的な課題について理解できる。</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする。			90分	
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する。			90分	
授業の留意点	倫理がよい実践と同義語であることを授業を通して一緒に考えたいと思います。実習で出会った様々な場面を通して話し合いたいです。					
学生に対する評価	授業態度 30点 レポート 70点					
教科書（購入必須）	石垣 靖子他：臨床倫理ベーシックレッスン、日本看護協会出版会、2012					
参考書（購入任意）	清水哲郎著 「医療現場に臨む哲学」 勁草書房 1997 (この本は臨床に出ても役立つ本です。)					



科 目 名	看護マネジメント論	担当教員名	原口 眞紀子・井戸川 みどり・久保 千夏・日下 玲子			
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	現在、看護管理者として看護マネジメントを実践している教員が、看護を取り巻く法制度、マネジメントの知識・技術を教授する科目。					
学習到達目標	<p>看護サービスを提供するためには、看護職同士の協同、他職種との連携、対象者自身や家族の協力とともに、対象者を取り巻くあらゆる資源を十分に活用することが必要となる。人的・物的・財的資源は、自然発生的に無限にあるのではなく、多くの場合有限である。これらの資源をいかに有効利用するかが重要であり、それを維持・活用するための仕組みを理解することを目標とする。</p> <p>1. 看護マネジメントの概念及び関連する法や諸制度について説明できる。</p> <p>2. 看護業務の実践のために必要なマネジメントについて説明できる。</p> <p>3. 看護サービスのマネジメントとその対象となるさまざまな資源について説明できる。</p> <p>4. 看護マネジメントに必要な知識・技術について説明できる。</p>					
授業の概要	<p>1. チームや組織をつくり動かしていくことは管理者だけの仕事ではなく、ケアを提供しているすべての看護職が担う役割であることを学ぶ。</p> <p>2. 看護を仕組みとしてとらえ、それがどのようになっているのか、問題はなにか、どのような改善策があるのか、どのようにすればより良い看護が提供できるのか等を追及し、多数の人々が共に働くための「技」を学ぶ。</p>					
授業の計画	<p>1 看護とマネジメント</p> <p>2 看護ケアのマネジメント</p> <p>3 看護ケアのマネジメント</p> <p>4 看護ケアのマネジメント</p> <p>5 看護サービスのマネジメント</p> <p>6 看護サービスのマネジメント</p> <p>7 看護サービスのマネジメント</p> <p>8 看護サービスのマネジメント</p> <p>9 看護を取りまく諸制度</p> <p>10 看護を取りまく諸制度</p> <p>11 看護を取り巻く諸制度</p> <p>12 看護を取り巻く諸制度</p> <p>13 マネジメントに必要な知識と技術</p> <p>14 マネジメントに必要な知識と技術</p> <p>15 マネジメントに必要な知識と技術</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回のテーマについて教科書を読み、疑問点等を明らかにする。				90分
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理する。				90分
授業の留意点	開講前の準備として、実習中に気づいた看護管理に関する問題・疑問・課題解決に向けて考えたことを整理しておくこと。					
学生に対する評価	レポート100点で評価する。					
教科書（購入必須）	上泉和子他 『系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践 [1]』 医学書院					
参考書（購入任意）	必要時指示する。					

科 目 名	看護教育学		担当教員名	定廣 和香子・松田 安弘		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師としての実務経験及び看護教育における豊富な実践、研究経験を持つ教員が、看護教育学の基本を教授する科目					
学 習 到 達 目 標	<p>① 看護教育学の構造・基本概念を理解し、看護教育制度の特徴と課題を明らかにする。</p> <p>② 看護教育カリキュラム編成・授業展開・教育評価の基本を理解する。</p> <p>③ 看護専門職として発展するために必要な理論・研究成果を学習し、その特徴と意義を明らかにする。</p> <p>④ ①から③を通して、大学において看護学を学習する上での自己の課題を明らかにする。</p>					
授 業 の 概 要	看護教育学の構造・基本概念の理解を基本として、わが国における看護教育制度、看護学教育におけるカリキュラムのプロセス、教授＝学習過程、教育評価について学習することを通し、看護職養成教育の現状と今後の課題について考察する。また、専門職として発展するために必要な理論・研究成果を学習するとともに、これらの学習を通して、大学において看護学を学ぶ意義と課題を確認する。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス・看護教育学と看護学教育</li> <li>2 看護教育制度（1）基礎</li> <li>3 看護教育制度（2）発展</li> <li>4 看護教育カリキュラム</li> <li>5 看護学教育における授業展開（教授＝学習過程）</li> <li>6 看護学教育における教育評価</li> <li>7 看護専門職として発展するために必要な理論・研究成果</li> <li>8 看護学教育の現状と今後の課題</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回のテーマについて調べ、疑問点等を明確にしておく。			90 分	
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理し、関連する研究論文等を一編以上読む。			90 分	
授 業 の 留 意 点	看護教育学は、学生の皆様を含む看護職者の発達の支援を通して、看護の対象に質の高い看護を提供することを目指す学問です。また、その研究対象は、看護学教育の各領域に共通して普遍的に存在する要素（学習活動、教育活動、カリキュラム、教育評価、看護学実習 etc）です。講義では、様々な看護教育学の研究成果を紹介しながら授業を進めていきます。皆様が、看護学の学習を進める上での課題や問題を解決するヒントを見つけていただければ幸いです。					
学 生 に 対 す る 評 価	レポートで評価する。（100 点）					
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	杉森みどり・舟島なをみ：看護教育学第 6 版、医学書院、2016					
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）						

科 目 名	災害看護学・国際看護学		担当教員名	播本 雅津子・長谷部 佳子		
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p> <p>6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	<p>災害看護学では、大規模自然災害時および大規模感染拡大時に保健師として支援活動を実施した教員が担当する。</p> <p>国際看護学では、看護師資格を有し、JICA の草の根事業申請のためモンゴル国で活動した経験、および赤十字関連のインドネシアで活動した経験を通じて講義を展開する。</p>					
学習到達目標	<p>災害看護学では、災害の種類および災害に関する法令等を理解する、災害看護の歴史および基礎知識を理解する、災害時の医療・看護活動の実際について理解する、災害時を念頭においた日々の看護活動について考察する、の4点を目標とする。</p> <p>国際看護学では、グローバルな視点で看護活動を考えられるようになることを目標とする。</p>					
授業の概要	<p>授業は災害看護学部分と国際看護学部分のオムニバスである。</p> <p>災害看護学では、災害に関する基礎知識および災害看護学に関する実際の活動等について講義を通じて理解を深めた後に、実際の活動についての体験談や演習を通じて、ひとり一人が災害時の看護活動について考える機会を持つことのできる授業とする。</p> <p>国際看護学も同様に、総論・各論の講義を通じて理解を深めた後に、実際の活動に関する体験談を含む演習を通じて、国際看護の視座を養う。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害看護学オリエンテーション・災害について・災害看護学の歴史について</li> <li>2. 災害に関する法律・法令</li> <li>3. 様々な災害から生まれた支援活動の教訓について</li> <li>4. 災害時の看護活動について（DMAT の実際）</li> <li>5. トリアージについて</li> <li>6. 災害保健について（保健師活動の実際）</li> <li>7. 放射線災害について</li> <li>8. 国際看護を考えるうえでの理論・制度</li> <li>9. 国際協力の仕組み、日本との関係</li> <li>10. 世界の健康問題</li> <li>11. 海外での国際看護活動1</li> <li>12. 海外での国際看護活動2</li> <li>13. 日本における国際看護活動1</li> <li>14. 日本における国際看護活動2</li> <li>15. 統合学習</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと。			90分	
	復習	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること。			90分	
授業の留意点	<p>出席および成績評価は、災害看護学部分と国際看護学部分に分かれそれぞれ6割を必要とする。極力遅刻や欠席のないように臨む。</p> <p>COVID-19 感染拡大状況によっては一部または全部を遠隔授業で行う可能性がある。</p>					
学生に対する評価	災害看護学部分にはレポート評価を行う。国際看護学部分もレポート評価を行う。					
教科書（購入必須）						
参考書（購入任意）						

科 目 名	看護情報学		担当教員名	村上 正和		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師として実務経験を持つ教員が看護実践における情報の活用と情報倫理を含む情報管理の実際を教授する科目					
学習到達目標	①看護情報学における基礎的知識を理解する。 ②看護における情報の特徴とその扱い、看護者としての情報倫理を理解する。 ③今日、臨床で活用されている情報システムとその活用について理解する。					
授業の概要	本科目は、これまで学習してきたコンピュータリテラシーを再確認するとともに、看護が扱う情報についての基本的特徴、看護場面における情報の持つ意味・特徴、医療情報システムの概要と看護における活用について学習し、プライバシーに関する基本的知識と態度を習得し、自らが看護に関する情報をより効率的にのり的確に利用できる能力を涵養することを目指す。					
授業の計画	1 コースオリエンテーション・看護情報学の概要と看護師が身に着けるべき ICT 能力 2 コンピュータリテラシーと情報リテラシー 3 情報倫理と法 4 看護におけるデータ・情報の特徴 ※情報共有演習含む 5 医療情報システム ※電子カルテ演習含む 6 看護用語の標準化と標準看護計画 7 看護における情報システム活用例 8 統合学習					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	次回講義箇所の疑問点をまとめる。			90分	
	復習	配布された資料を再度読み返す。			90分	
授業の留意点						
学生に対する評価	試験(60点)、課題(30点)、授業態度・講義ごとのリアクションペーパー(10点)により総合的に評価する。					
教科書 (購入必須)						
参考書 (購入任意)	・中山和弘他：系統看護学講座 別巻 看護情報学/医学書院 2012 ・太田勝正他：看護情報学/医歯薬出版 2014 ・坂田信裕監修：だいじょうぶ？あなたの情報リテラシー (DVD)/医学映像教育センター					

科 目 名	看護統合演習		担当教員名	看護学科教員		
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師としての臨床経験を持つ教員が、看護師としての役割、患者に対する療養上の世話や診療の補助行為など相対的医行為の実践について指導する科目					
学習到達目標	1. 患者の身体への侵襲が強く実習や学内演習では体験することができなかった診療補助技術や、実際臨床で行われている実践に近い看護技術のスキルを習得することができる。 2. 卒業生の講演や懇談から臨床現場の実際を知り、看護専門職として・社会人としての心構えができる。					
授業の概要	臨床に即した看護技術実践力の向上、専門的看護技術の向上、看護専門職者としての心構えの育成をめざし 1. 優先度や判断力を育成する多重課題を有する患者のロールプレイを行う。 2. 卒業生を含む臨床現場の看護師の指導を受けながら、実習や学内演習では体験できない診療補助技術の演習を行う。 3. 卒業生から「看護専門職者として求められていること」や「社会人としての心構え・新人としての臨床の体験」などの講演を聞く。					
授業の計画	1. 看護統合演習 オリエンテーション スケジュール説明など 2. 講演会 新人看護師に期待すること、社会から見た看護職者に求められること 3. 講演会 新人看護師に期待すること、社会から見た看護職者に求められること 4. 講義 点滴静脈内注射・筋肉注射、輸液ポンプ・シリンジポンプ、採血、胃管カテーテル挿入他 5. 講義 点滴静脈内注射・筋肉注射、輸液ポンプ・シリンジポンプ、採血、胃管カテーテル挿入他 6. 多重課題 ロールプレイ 7. 多重課題 ロールプレイ 8. 講演会（卒業生：看護師） 看護師として社会人として 9. 講演会（卒業生：新人看護師） 卒業1年を経過して 10. 技術演習（卒業生） 点滴静脈内注射、輸液ポンプ、採血他 11. 技術演習（卒業生） 点滴静脈内注射、輸液ポンプ、採血他 12. 技術演習（卒業生） 点滴静脈内注射、輸液ポンプ、採血他 13. 技術演習（卒業生） 点滴静脈内注射、輸液ポンプ、採血他 14. 卒業生や臨床NSとの交流会 15. 卒業生や臨床NSとの交流会					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	既習の知識、技術等を統合し、より実践的な看護実践とその評価を行う科目であるため、演習で実践する技術項目および関連する知識を必ず予習しておくこと。				
	復習	また、演習での実践を自己評価し、知識・技術を補足学習すること。				
授業の留意点	卒業直前の演習であり、看護師として働いている卒業生の指導も受けられるので、実習では体験できなかった現場のスキルを積極的に学ぶこと。先輩看護師に心配や不安なことを聞いて心の準備をする。					
学生に対する評価	レポート100点					
教科書（購入必須）	なし					
参考書（購入任意）	必要時紹介する					

科 目 名	看護研究の基礎		担当教員名	長谷部 佳子・南山 祥子		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p> <p>6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師資格を有し、病院での看護研究指導や講演、大学院での研究方法の教授および修士論文指導実績がある教員が基礎知識および研究について教授する。					
学習到達目標	看護における様々な事象について、専門的知識・技術の向上や開発につながる信頼性・妥当性の高い知見を導き出すために必要な看護研究の知識や研究方法への理解を深め、実践の場における研究活動を自立して行うための知識の基盤を習得することを目標とする。					
授業の概要	新しい知見を導き出すために必要な看護研究の方法論について、先行研究論文のクリティークや具体的な研究例等を通して学び、研究に重要な科学的かつ論理的な思考方法や研究者としての倫理について理解を深める。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護研究とは、看護における研究の必要性和意義</li> <li>2 看護研究の方法</li> <li>3 看護研究における倫理</li> <li>4 文献検索と検討①クリティークの視点</li> <li>5 文献検索と検討②自己の研究テーマへの活用</li> <li>6 研究計画の立て方①研究方法の決定方法</li> <li>7 研究計画の立て方②評価項目の決定方法</li> <li>8 調査研究①量的研究と質的研究</li> <li>9 調査研究②データ収集の方法と注意点</li> <li>10 実験研究</li> <li>11 調査研究③調査の実施</li> <li>12 調査研究④質的データの整理</li> <li>13 研究発表の仕方</li> <li>14 看護研究の実際①研究計画書の作成</li> <li>15 看護研究の実際②データ処理</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各章に関連する教科書を読み込んでおく。			10分	
	復習	①講義内容を振り返りノートにまとめる。 ②レポート作成に取り組む。			35分	
授業の留意点	卒業研究での学習を進めるために必須な学習内容となっているので、必ず全講義に出席すること。積極的に講義に参加することを期待する。					
学生に対する評価	レポート100点で評価する。					
教科書（購入必須）	岡本和士，長谷部佳子：看護研究はじめの一步，第1版，医学書院，2006					
参考書（購入任意）	下記の他，必要時指示する。 黒田裕子：看護研究 step by step，第5版，医学書院，2017					

科 目 名	卒業研究		担当教員名	看護学科教員		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p> <p>6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保健師・助産師・看護師としての実務経験を持つ教員が、看護に関する研究のプロセスや方法を教授する科目。					
学習到達目標	<p>看護研究の基礎で学んだことをもとに、将来にわたって研究に対する関心を深め、科学的・論理的思考を学ぶとともに、研究的態度と姿勢を修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既修の知識、経験から看護学に関する研究課題を明確化し、説明できる。</li> <li>2. 研究課題に関する先行研究を適切に収集、検討することができる。</li> <li>3. 自らが取り組む研究について、研究目的を説明できる。</li> <li>4. 研究目的に適した研究方法および倫理的配慮について説明できる。</li> <li>5. 研究方法にそってデータ収集することができる。</li> <li>6. 収集したデータを分析し、結果にまとめ、考察することができる。</li> <li>7. 研究成果を論文形式で記述することができる。</li> <li>8. 研究成果を報告会で発表し、討議することができる。</li> </ol>					
授業の概要	<p>本科目は、既習の知識や看護学実習から生まれた問題意識を研究課題へ発展させ、研究計画書作成から論文作成、発表までの過程について学ぶことを目的とする。小人数ゼミナール及び担当教員の指導により、研究課題に関する文献検索から目的を明確にし、適した研究方法を選択し研究計画書を作成する。必要時は倫理審査を受ける。研究計画に基づきデータ収集（実施）、分析、考察を行い、論文としてまとめていく。更に、報告会で発表と討議を行う。研究計画から実施、まとめ、発表の一連を通して、科学的・論理的思考を学ぶとともに、継続的に自己を研鑽する態度を養う。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 卒業研究に関する全体ガイダンス</li> <li>2 関心のある課題を設定して、その課題追求の可能性を探求する</li> <li>3 関心のある課題の周辺論文や先行研究などへのクリティークを行い、研究の目的や価値・意義を検討する</li> <li>4 研究するための文献をクリティークし、研究デザインを検討する</li> <li>5 研究目的に合った研究方法を検討し、データ収集するための資料を作成する</li> <li>6 研究計画書を作成する</li> <li>7 倫理的配慮を検討し、必要な倫理審査を受審する</li> <li>8 研究の実施施設、対象者に依頼・調整して協力を得る</li> <li>9 研究計画書に基づき、対象者へ倫理的配慮を行いながらデータを収集する</li> <li>10 収集したデータの整理を行い分析する</li> <li>11 分析したデータの結果を先行研究の結果と対比しながら、吟味や考察を行う</li> <li>12 研究の結論を明らかにして文章化に取り組む</li> <li>13 定められた体裁に整えて、研究成果を論文・抄録にまとめる</li> <li>14 研究成果の発表と討議を行う</li> <li>15 研究の全過程を振り返って自己課題の達成度および取り組みの態度への自己評価を行う</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各担当教員が指示する。				
	復習					
授業の留意点	<p>担当教員の指導のもと、研究対象者への倫理的配慮を十分に検討し、必要な倫理審査を受審する。調査等においては、研究対象者に対し十分な説明を行ったうえで、協力への同意を得て実施する。患者・看護職等外部者に協力を依頼する場合は特に倫理的配慮に留意し、必要であれば関係機関の倫理審査を受審する。</p>					
学生に対する評価	実施、論文作成などの課題の達成度（50点）、計画書、取組の姿勢・態度、倫理的配慮など（50点）から評価する。					
教科書（購入必須）	使用しない					
参考書（購入任意）	<p>南裕子編集：「看護における研究」、日本看護協会出版会</p> <p>小笠原千枝：これからの看護研究-基礎と応用-、ヌーヴェルヒロカワ</p> <p>他、各教員から指示する。</p>					

科 目 名	公衆衛生看護学概論		担当教員名	播本 雅津子		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p> <p>6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保健所保健師の実務経験を有する教員が担当する。					
学習到達目標	公衆衛生看護活動は、地域において、個人・家族・集団・組織等を対象に、人々の健康への援助を看護の立場から活動展開することである。公衆衛生看護の視点は、公衆衛生を基盤とし、対象集団全体の健康増進と疾病予防を目指している。ここでは公衆衛生看護の活動の概要および、公衆衛生看護の専門職である保健師について学び、保健師という専門職の役割を理解することを目標とする。					
授業の概要	保健師という専門職を理解し、その活動分野および職種の役割について学ぶ。保健師という職業の成り立ちや時代背景、現代における役割期待など、公衆衛生看護活動の実際を学ぶ導入とする。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 公衆衛生看護の理念と活動分野</li> <li>3 保健師の専門性について</li> <li>4 対象としての個人・家族</li> <li>5 対象としての集団・組織</li> <li>6 公衆衛生看護の歴史（1）保健師活動の源流</li> <li>7 公衆衛生看護の歴史（2）健康課題の解決と保健師活動（昭和時代）</li> <li>8 公衆衛生看護の歴史（3）健康課題の解決と保健師活動（平成時代）</li> <li>9 社会環境の変化と健康課題（1）人口・社会構造・文化的背景</li> <li>10 社会環境の変化と健康課題（2）社会情勢・政治経済等の変化</li> <li>11 公衆衛生看護活動の基本展開（1）個人・家族へのアプローチ</li> <li>12 公衆衛生看護活動の基本展開（2）集団・グループへのアプローチ</li> <li>13 保健師活動の基本姿勢（1）保健指導</li> <li>14 保健師活動の基本姿勢（2）保健師活動指針</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと。			90分	
	復習	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること。			90分	
授業の留意点	遅刻・欠席のないよう健康管理に努めた上で授業に臨むこと。遅刻・欠席をする場合は必ず連絡をすること。 COVID-19 感染拡大状況に応じて一部または全部を遠隔授業で行う可能性がある。					
学生に対する評価	筆記試験およびレポート試験を行う。筆記試験 80 点、レポート試験 20 点としそれぞれ 6 割以上の評価点が必要である。					
教科書（購入必須）	公衆衛生看護学 第2版（中央法規）					
参考書（購入任意）						



科 目 名	創成看護学活動論 I		担当教員名	播本 雅津子		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護学科教員が看護実践および研究活動を通して精通している課題に則して講義を展開する。各看護学で学んだ内容の深まりを期待するとともに、新たな看護分野の創成に取り組む意欲が養われることを期待する。					
学習到達目標	現代社会の課題と現状および現在の取り組みについて学び、今後看護職として果たすべき役割について各自が考える姿勢を持つことを目標とする。					
授業の概要	基本となる看護学から発展した看護実践活動から、看護学の深まりや発展に気づくと同時に、生来的に新たな看護分野の創成に取り組む意欲が養われることを期待する科目である。現代社会の課題と現状および現在の取り組みについて学び、今後看護職として果たすべき役割について各自が考える姿勢を持つことを目標とする。看護学科教員が実務経験や研究活動を通して現代の社会問題や健康課題、看護活動の課題に関して教授する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 睡眠公衆衛生学および睡眠保健指導</li> <li>2 自殺予防対策とゲートキーパー活動</li> <li>3 看護カンファレンスの実際</li> <li>4 虐待予防への社会的取り組み</li> <li>5 健全な親子関係育成の取り組み</li> <li>6 Covid-19 対策の実際</li> <li>7 看護職員確保対策について</li> <li>8 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと。			15分	
	復習	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること。			30分	
授業の留意点	遅刻・欠席のないよう健康管理を心掛けて下さい。授業回数が少ないため 5 回以上の出席が必要です。					
学生に対する評価	レポート試験 50 点、各回の小レポート合計 50 点により評価する。レポート試験および小レポート合計それぞれ 6 割の評価点を必要とする。					
教科書（購入必須）	なし					
参考書（購入任意）						

科 目 名	創成看護学活動論Ⅱ		担当教員名	長谷部 佳子		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対称となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p> <p>6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	医療施設や保健所で看護師、保健師の経験を有する教員が担当する。看護実践が今後さらに期待される場について、多面的な分析を加えながら討論する。					
学習到達目標	実践的な看護活動に触れることにより、看護職としての将来イメージを明確にすることを目標とする。					
授業の概要	看護学科教員の研究活動または、臨地で活躍する看護職をゲストに招き、実践活動に基づき講義を展開する。各看護学で学んだ内容の深まりを期待するとともに、新たな看護分野の創成に取り組む意欲が養われることを期待する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 こどもに関わる分野の実践活動</li> <li>2 新たな命を育む活動</li> <li>3 移植医療における看護活動</li> <li>4 救命救急における看護活動</li> <li>5 へき地における看護活動</li> <li>6 ターミナルケア</li> <li>7 暮らしの中の心の看護（ひきこもり・とじこもり）</li> <li>8 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	図書や新聞などを活用した自己学習。			60分	
	復習	講義を振り返り、追加の情報収集とノートの整理。			60分	
授業の留意点	遅刻・欠席のないよう健康管理を心掛けて下さい。授業回数が少ないため 5 回以上の出席が必要です。					
学生に対する評価	レポート試験 50 点、各回の小レポート合計 50 点により評価する。レポート試験および小レポート合計それぞれ 6 割の評価点を必要とする。					
教科書（購入必須）	なし					
参考書（購入任意）						

科 目 名	公衆衛生看護技術論		担当教員名	播本 雅津子		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保健所保健師の経験を有する教員が担当する。保健師活動に必要な基本技術についての理論と実践活動例について教授する。					
学習到達目標	保健師活動の基本となる地域診断のモデルについて説明できる。 健康教育の理論を学び、場や対象に応じた方法を説明できる。 保健事業ごとに適した評価方法を選定することができる。					
授業の概要	保健師活動に必要な技術について学習する。地域診断、地区組織活動、グループ活動、家庭訪問の展開、地域包括ケアにおける保健師の役割、ネットワークづくりとシステム化・事業化、保健活動の評価について教授する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 様々な地域診断モデルについて</li> <li>3 コミュニティ・アズ・パートナーモデルについて</li> <li>4 地域診断の応用</li> <li>5 住民活動・組織化の実際</li> <li>6 保健師が関わる地区組織活動・グループ</li> <li>7 グループ活動とその支援</li> <li>8 保健指導技術としての家庭訪問（1）理論</li> <li>9 保健指導技術としての家庭訪問（2）実践</li> <li>10 地域包括ケアにおける保健師の役割</li> <li>11 ネットワークづくりとシステム化（1）理論</li> <li>12 ネットワークづくりとシステム化（2）実践</li> <li>13 保健活動の評価について</li> <li>14 さまざまな評価方法</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと。			90 分	
	復習	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること。			90 分	
授業の留意点	他の演習科目の基本となる科目である。他の演習科目と合わせて学習を進めること。 授業の進行は、他の科目の進行と合わせて上記とは順番が変わることがあり、オリエンテーションで具体的な日時を説明する。遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。					
学生に対する評価	筆記試験 100 点で評価する。					
教科書（購入必須）	公衆衛生看護学 第 2 版（中央法規）					
参考書（購入任意）						

科 目 名	公衆衛生看護技術論演習		担当教員名	播本 雅津子・室矢 剛志		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保健所保健師または市町村保健師の経験を有する教員が担当する。保健師活動に必要な基本技術を活用した演習を実施する。					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域診断モデルを活用した地域の情報収集を行い、地域の特性を説明できる。</li> <li>・継続訪問活動を通じて、継続的な関わりの意義や必要性を説明することができる。</li> <li>・カンファレンスを通じて、お互いの事例や学習を共有し、チームで課題解決に取り組むことの意義を説明できる。</li> <li>・地区組織活動の経験を通じて、住民自治組織の役割について説明することができる。</li> </ul>					
授業の概要	保健師活動に必要な技術について演習を通して学習する。地域診断・継続的な家庭訪問、住民自治組織における住民自治活動や安否確認・防災・減災活動について学習する。					
授業の計画	1 オリエンテーション 2 演習：地域診断の実際（1）名寄市を対象に－グループ分け 3 演習：地域診断の実際（2）名寄市を対象に－テーマ別情報収集 4 演習：地域診断の実際（3）名寄市を対象に－テーマ別地区踏査（市街地） 5 演習：地域診断の実際（4）名寄市を対象に－テーマ別地区踏査（農村部） 6 演習：地域診断の実際（5）名寄市を対象に－テーマ別報告準備 7 報告会（1）名寄市の地域診断 8 演習：様々な地域の地域診断（1）市町村別情報収集 9 演習：様々な地域の地域診断（2）市町村別報告準備 10 報告会（2）様々な市町村の地域診断 11 演習：継続訪問1回目 12 演習：継続訪問個別指導 13 演習：継続訪問カンファレンス1回目 14 演習：継続訪問2回目 15 演習：継続訪問個別指導		16 演習：継続訪問カンファレンス2回目 17 演習：継続訪問3回目 18 演習：継続訪問個別指導 19 演習：継続訪問カンファレンス3回目 20 継続訪問全体カンファレンス 21 名寄市町内会連合会との懇談会 22 名寄市内単位町内会との懇談会 23 演習：地区踏査 24 演習：地区組織活動への参加・夏季行事 25 地区組織活動カンファレンス1回目 26 演習：地区組織活動への参加：秋季行事 27 演習：地区組織活動への参加：冬季行事 28 地区組織活動カンファレンス2回目 29 地区組織活動全体カンファレンス 30 まとめ			
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと。			15分	
	復習	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること。			30分	
授業の留意点	グループ演習が中心であるため、積極的な態度で臨むこと。 授業の進行は上記とは順番が変わるため、オリエンテーションで具体的な日時を指定する。 遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。					
学生に対する評価	レポート試験 60 点・演習記録 40 点で評価する。					
教科書（購入必須）	公衆衛生看護学 第2版（中央法規）					
参考書（購入任意）						

科 目 名	公衆衛生看護活動論 I		担当教員名	播本 雅津子・室矢 剛志																															
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	演習																													
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師：必修																													
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>																																		
実務経験及びそれに関わる授業内容	<p>保健所保健師または市町村保健師の経験を有する教員が担当する。</p> <p>公衆衛生看護活動論では、ライフステージ、健康障害の種別、活動の場など様々な切り口から地域の健康課題にアプローチするための基礎知識および手法について学ぶ。ここではライフステージ別として、成人保健・高齢者保健、健康障害の種別として難病保健について教授する。</p>																																		
学習到達目標	<p>成人期の生活の特徴と健康課題について理解する。</p> <p>地域で暮らす高齢者の生活の特徴と健康課題および介護予防活動について理解する。</p> <p>難病患者の生活の特徴と、健康課題・社会課題について理解する。</p> <p>ライフステージ別・対象のもつ条件別の保健医療福祉制度の活用方法について説明できる。</p> <p>対象に合わせた効果的な公衆衛生看護活動の展開を考察できる。</p>																																		
授業の概要	<p>成人保健、高齢者と介護予防活動、難病保健活動について、その法的根拠や活動実践を学び、保健師として具体的な活動を展開するための基本的な能力を養う。講義と演習を組み合わせながら進め、理論の習得と同時に実践技術の習得を目指す。</p>																																		
授業の計画	<table border="1"> <tr> <td>1 成人保健活動の変遷</td> <td>16 介護保険制度と保健活動</td> </tr> <tr> <td>2 成人保健の動向と健康課題</td> <td>17 地域包括支援センターの役割</td> </tr> <tr> <td>3 健康日本 21（第2次）</td> <td>18 介護予防活動とその制度</td> </tr> <tr> <td>4 データヘルス計画について</td> <td>19 演習：高齢者保健指導（1）個人・家族</td> </tr> <tr> <td>5 特定健康診査</td> <td>20 演習：高齢者保健指導（2）集団・組織</td> </tr> <tr> <td>6 特定保健指導</td> <td>21 演習：地域の関係機関を知る（1）社会福祉協議会・福祉事務所等</td> </tr> <tr> <td>7 健康増進事業</td> <td>22 演習：地域の関係機関を知る（2）介護保険施設・地域包括支援センター</td> </tr> <tr> <td>8 がん対策</td> <td>23 難病対策の変遷</td> </tr> <tr> <td>9 演習：個別を対象とした成人保健指導</td> <td>24 今日の難病対策</td> </tr> <tr> <td>10 演習：集団を対象とした成人保健指導</td> <td>25 高度経済成長期の公害・被害</td> </tr> <tr> <td>11 高齢者保健施策の変遷</td> <td>26 難病患者と家族が抱える課題</td> </tr> <tr> <td>12 高齢者保健活動について</td> <td>27 難病患者に対する社会の取り組み</td> </tr> <tr> <td>13 高齢者の現状の理解（元気高齢者）</td> <td>28 保健師と難病保健活動</td> </tr> <tr> <td>14 高齢者の現状の理解（虚弱高齢者）</td> <td>29 演習：難病保健指導（1）疾患の理解</td> </tr> <tr> <td>15 高齢者保健に関する制度</td> <td>30 演習：難病保健指導（2）保健指導の実際</td> </tr> </table>					1 成人保健活動の変遷	16 介護保険制度と保健活動	2 成人保健の動向と健康課題	17 地域包括支援センターの役割	3 健康日本 21（第2次）	18 介護予防活動とその制度	4 データヘルス計画について	19 演習：高齢者保健指導（1）個人・家族	5 特定健康診査	20 演習：高齢者保健指導（2）集団・組織	6 特定保健指導	21 演習：地域の関係機関を知る（1）社会福祉協議会・福祉事務所等	7 健康増進事業	22 演習：地域の関係機関を知る（2）介護保険施設・地域包括支援センター	8 がん対策	23 難病対策の変遷	9 演習：個別を対象とした成人保健指導	24 今日の難病対策	10 演習：集団を対象とした成人保健指導	25 高度経済成長期の公害・被害	11 高齢者保健施策の変遷	26 難病患者と家族が抱える課題	12 高齢者保健活動について	27 難病患者に対する社会の取り組み	13 高齢者の現状の理解（元気高齢者）	28 保健師と難病保健活動	14 高齢者の現状の理解（虚弱高齢者）	29 演習：難病保健指導（1）疾患の理解	15 高齢者保健に関する制度	30 演習：難病保健指導（2）保健指導の実際
1 成人保健活動の変遷	16 介護保険制度と保健活動																																		
2 成人保健の動向と健康課題	17 地域包括支援センターの役割																																		
3 健康日本 21（第2次）	18 介護予防活動とその制度																																		
4 データヘルス計画について	19 演習：高齢者保健指導（1）個人・家族																																		
5 特定健康診査	20 演習：高齢者保健指導（2）集団・組織																																		
6 特定保健指導	21 演習：地域の関係機関を知る（1）社会福祉協議会・福祉事務所等																																		
7 健康増進事業	22 演習：地域の関係機関を知る（2）介護保険施設・地域包括支援センター																																		
8 がん対策	23 難病対策の変遷																																		
9 演習：個別を対象とした成人保健指導	24 今日の難病対策																																		
10 演習：集団を対象とした成人保健指導	25 高度経済成長期の公害・被害																																		
11 高齢者保健施策の変遷	26 難病患者と家族が抱える課題																																		
12 高齢者保健活動について	27 難病患者に対する社会の取り組み																																		
13 高齢者の現状の理解（元気高齢者）	28 保健師と難病保健活動																																		
14 高齢者の現状の理解（虚弱高齢者）	29 演習：難病保健指導（1）疾患の理解																																		
15 高齢者保健に関する制度	30 演習：難病保健指導（2）保健指導の実際																																		
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと。			15 分																														
	復習	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること。			30 分																														
授業の留意点	<p>3人の教員によるオムニバス授業である。3本立てで進行し、上記とは順番が変わる。オリエンテーションで具体的な日時を指定する。</p> <p>遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。</p>																																		
学生に対する評価	<p>試験 100 点により評価する。試験は成人保健、高齢者保健、難病保健の3つに分けて実施するため、各試験で 60 点以上を必須とする。レポート等の提出物を求める場合は評価に含める。</p>																																		
教科書（購入必須）	<p>公衆衛生看護学 第2版（中央法規） 対象別公衆衛生看護活動（医学書院）</p>																																		
参考書（購入任意）																																			

科 目 名	公衆衛生看護活動論Ⅱ		担当教員名	播本 雅津子・室矢 剛志・糸田 尚史		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	<p>播本・室矢は保健所保健師または市町村保健師の経験を有する。糸田は児童相談所・知的障害者更生相談所・身体障害者更生相談所における心理判定員・地域活動福祉司の経験を有している。公衆衛生看護活動論では、ライフステージ、健康障害の種別、活動の場など様々な切り口から地域の健康課題にアプローチするための基礎知識および手法について学ぶ。ここではライフステージ別として、親子保健活動に必要な知識と技術を教授する。</p>					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>母子保健施策の体系と保健師の役割について説明できる。</li> <li>新生児訪問の準備・実施・報告までの一連の過程について説明できる。</li> <li>乳幼児健康診査の準備・実施・事後処理までの一連の過程について説明できる。</li> <li>こども虐待と保健師活動について理解する。</li> <li>こどもの発達相談の実際について説明できる。</li> <li>こどもの発達支援活動の実際について説明できる。</li> <li>親子保健における多職種連携について説明できる。</li> </ul>					
授業の概要	<p>母子保健活動について、その法的根拠や活動実践を学び、保健師として具体的な活動を展開するための基本的な能力を養う。講義と演習を組み合わせながら進め、理論の習得と同時に実践技術の習得を目指す。</p>					
授業の計画	<p>1 母子保健施策の変遷</p> <p>2 母子保健施策の体系</p> <p>3 妊娠期の保健指導</p> <p>4 乳幼児の健康観察</p> <p>5 乳幼児期の予防接種</p> <p>6 新生児・乳幼児訪問</p> <p>7 乳児健康診査</p> <p>8 幼児健康診査</p> <p>9 演習：新生児訪問（1）デモンストレーション</p> <p>10 演習：新生児訪問（2）家庭訪問の手順</p> <p>11 演習：新生児訪問（3）新生児モデルを用いた演習</p> <p>12 演習：乳幼児健康診査（1）案内・設営</p> <p>13 演習：乳幼児健康診査（2）計測・問診</p> <p>14 演習：乳幼児健康診査（3）結果説明・保健指導</p> <p>15 母子保健包括支援</p>		<p>16 児童虐待の早期発見</p> <p>17 児童虐待における親支援</p> <p>18 近年の親子保健の課題（1）就労・生活</p> <p>19 近年の親子保健の課題（2）健康課題と育児</p> <p>20 母子保健活動と関係法令</p> <p>21 子どもの発達支援・発達の理解</p> <p>22 神経発達症とその理解</p> <p>23 家族支援について</p> <p>24 子どもの発達相談</p> <p>25 演習：事例検討会</p> <p>26 演習：発達相談の実際（1）知能発達検査の種類と特徴・検査セットの紹介</p> <p>27 演習：発達相談の実際（2）保健師と心理判定員の連携実践</p> <p>28 演習：発達支援の実際（1）絵本の読み聞かせ</p> <p>29 演習：発達支援の実際（2）親子遊び・手遊び歌</p> <p>30 まとめ</p>			
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと。			15分	
	復習	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること。			30分	
授業の留意点	<p>4人の教員によるオムニバス授業または複数で協力して教授する授業である。2本立てで進行し、上記とは順番が変わる。オリエンテーションで具体的な日時を指定する。遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。</p>					
学生に対する評価	<p>試験100点で評価する。試験は教員毎に実施する。各試験で60点以上取ること。</p>					
教科書（購入必須）	<p>公衆衛生看護学 第2版（中央法規） 対象別公衆衛生看護活動（医学書院） 子育ての発達心理学（同文書院）</p>					
参考書（購入任意）						

科 目 名	公衆衛生看護活動論Ⅲ		担当教員名	播本 雅津子・室矢 剛志		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保健所保健師の経験を有する教員が担当する。公衆衛生看護活動論では、ライフステージ、健康障害の種別、活動の場など様々な切り口から地域の健康課題にアプローチするための基礎知識および手法について学ぶ。ここでは健康障害の種別ごとの公衆衛生看護活動に必要な知識と技術について教授する。					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康障害の種別ごとの健康課題と公衆衛生看護活動について理解する。</li> <li>対象別の保健医療福祉制度の活用方法を理解する。</li> <li>対象に合わせた効果的な公衆衛生看護活動の展開を考察できる。</li> </ul>					
授業の概要	健康障害の種別ごとの活動として、精神保健福祉、感染症予防、健康危機管理、災害時の保健師活動について、その法的根拠や活動実践を学び、保健師としての具体的な活動を展開するための基本的な能力を養う。講義と演習を組み合わせながら進め、理論の習得と同時に実践技術の習得を目指す。					
授業の計画	<p>1 地域精神保健活動の歴史</p> <p>2 地域精神保健活動①予防と早期発見</p> <p>3 地域精神保健活動②受療から回復期</p> <p>4 地域における自殺予防対策について</p> <p>5 ゲートキーパー養成活動</p> <p>6 触法精神障がい者への支援</p> <p>7 睡眠と健康</p> <p>8 睡眠保健指導について</p> <p>9 感染症保健の動向</p> <p>10 感染症保健施策と保健師活動</p> <p>11 結核の基本知識</p> <p>12 結核に対する保健師活動</p> <p>13 結核集団感染発生時の保健活動</p> <p>14 新興感染症について</p> <p>15 新型インフルエンザ対策</p>		<p>16 HIV/AIDSの動向</p> <p>17 HIV/AIDSに対する保健師活動</p> <p>18 Covid-19感染症の動向</p> <p>19 Covid-19に対する公衆衛生活動</p> <p>20 Covid-19に対する保健師活動</p> <p>21 新興感染症について</p> <p>22 集団施設における感染症対策</p> <p>23 腸管出血性大腸菌感染症について</p> <p>24 大規模食中毒発生時の保健活動</p> <p>25 健康危機管理とは</p> <p>26 保健所における健康危機管理業務</p> <p>27 災害時の健康危機管理</p> <p>28 災害時の公衆衛生看護活動</p> <p>29 災害時の健康課題とその予防</p> <p>30 まとめ</p>			
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと。			15分	
	復習	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること。			30分	
授業の留意点	授業の順番は上記とは異なる場合もあり、オリエンテーションで具体的な日時を指定する。遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。					
学生に対する評価	試験 100点により評価する。レポート等の提出を求める場合は評価に含める。					
教科書（購入必須）	対象別公衆衛生看護活動（医学書院）					
参考書（購入任意）						

科 目 名	公衆衛生看護活動論Ⅳ		担当教員名	播本 雅津子・井上 靖子・野口 直美		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	<p>担当教員はそれぞれ保健所保健師・養護教諭・産業保健師の経験を有している。公衆衛生看護活動論では、ライフステージ、健康障害の種別、活動の場など様々な切り口から地域の健康課題にアプローチするための基礎知識および手法について学ぶ。ここでは活動の場ごとの公衆衛生看護活動に必要な知識と技術について教授する。</p>					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業保健および学校保健の概要について理解する。</li> <li>・労働者の後口調と健康課題および産業保健師活動について理解する。</li> <li>・児童・生徒の特長と健康課題について理解する。</li> <li>・学校保健における養護教諭の活動について理解する。</li> <li>・地域の保健師と、養護教諭や産業保健師との協働について理解する。</li> </ul>					
授業の概要	<p>講義と演習を組み合わせながら進める。産業保健および学校保健に関する理論の習得と同時に実践技術の習得を目指す。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校保健の概要</li> <li>2 養護教諭の職務</li> <li>3 学校の目的・教育職の役割</li> <li>4 学校保健に関する法体系</li> <li>5 学童期・思春期における発達課題と健康</li> <li>6 発達障害における課題と教育支援</li> <li>7 学校保健計画と保健室経営</li> <li>8 疾患をもつ児童・生徒の健康管理</li> <li>9 児童虐待の早期発見と学校における取り組み</li> <li>10 児童・生徒の健康管理①（健康相談）</li> <li>11 児童・生徒の健康管理②（健康診断）</li> <li>12 感染症と学校保健</li> <li>13 自治体保健師と学校保健の関わり</li> <li>14 学校保健まとめ</li> <li>15 産業保健の役割と意義</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>16 産業保健の歴史</li> <li>17 産業保健行政</li> <li>18 労働安全衛生法</li> <li>19 社会における労働と健康</li> <li>20 労働衛生統計</li> <li>21 産業保健の組織的展開</li> <li>22 労働環境対策</li> <li>23 産業保健におけるメンタルヘルス対策</li> <li>24 ストレスチェックと保健活動</li> <li>25 労働安全衛生マネジメント</li> <li>26 安全衛生計画・産業保健計画の策定</li> <li>27 特殊健康診査</li> <li>28 特定健康診査・特定保健指導</li> <li>29 外国人労働者の健康課題</li> <li>30 産業保健まとめ</li> </ol>			
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと。			15分	
	復習	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること。			30分	
授業の留意点	<p>3人の教員によるオムニバス授業である。2本立てで進行するため順番は上記とは異なり、オリエンテーションで具体的な日時を指定する。</p> <p>遅刻・欠席は授業の進行に支障をきたすため、体調を整えて日々の授業に臨むこと。</p>					
学生に対する評価	<p>試験 100点により評価する。試験は教員毎に実施する。各試験で60点以上取ること。</p>					
教科書（購入必須）	公衆衛生看護活動Ⅱ 医歯薬出版株式会社					
参考書（購入任意）						



科 目 名	公衆衛生看護管理論		担当教員名	播本 雅津子・室矢 剛志		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保健所保健師または市町村保健師の経験を有する教員が担当する。公衆衛生看護管理に必要な知識について学習した上で、地域診断に基づく情報から事業計画策定までの一連の過程について総合的に学習する。					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師の人事管理・現任教育などについて理解できる。</li> <li>・健康な地域づくりを目指した保健活動計画の策定・実施・評価のプロセスについて理解する。</li> <li>・地域住民の主体性を尊重し、人々の協働による問題解決を支援するための保健師の基本姿勢を理解する。</li> </ul>					
授業の概要	講義を軸に演習を取り入れながら進める。保健師教育の最終段階の科目として実習での実地体験および就業時のイメージを高めるよう工夫して授業を進める。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 公衆衛生看護管理とは</li> <li>2 人材育成・人事管理</li> <li>3 統括保健師について</li> <li>4 保健福祉計画の策定について</li> <li>5 総合計画・基本計画・実施計画</li> <li>6 業務管理</li> <li>7 保健事業の評価</li> <li>8 様々な評価方法</li> <li>9 統計資料の種類と活用方法</li> <li>10 演習：統計資料から健康課題を抽出する① データ収集</li> <li>11 演習：統計資料から健康課題を抽出する② データ分析</li> <li>12 演習：統計資料から健康課題を抽出する③ 資料作成</li> <li>13 演習：統計資料から健康課題を抽出する④ 健康課題の抽出</li> <li>14 報告会 各地域の健康課題</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関する既習の授業内容を振り返っておくこと。			15分	
	復習	教科書および関連資料を読み、知識を整理するとともに、関連科目も合わせて復習すること。			30分	
授業の留意点	これまで公衆衛生看護学で学習した内容を復習しながら取り組むとより一層の成果が得られるため、予習復習を心掛けること。					
学生に対する評価	試験 100点により評価する。					
教科書（購入必須）	公衆衛生看護学 第2版（中央法規）					
参考書（購入任意）						

科 目 名	公衆衛生看護学実習 I		担当教員名	播本 雅津子・室矢 剛志		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p> <p>6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保健所保健師または市町村保健師の経験を有する教員が担当する。 公衆衛生看護学実習 I では保健師活動の基本となる個人・家族への保健指導および集団・組織等への保健指導について実習施設の指導者より対象者の紹介を受けて実施する。					
学習到達目標	個人・家族の健康課題の解決に向けて実施する家庭訪問の一連の過程を複数の事例に実施すること、および集団への健康教育を複数回実施し、その技術を習得すること、家庭訪問や健康教育は地域の健康課題の解決の方法の1つであることを理解することを目標とする。					
授業の概要	市町村で実習を行う。臨地において指導保健師の協力の下、家庭訪問および健康教育を実施する。内容は公衆衛生看護学実習 II と連動するため、この2科目の実習は継続した日程で実施する。家庭訪問は継続的な取り組みを目指し、面接と家庭訪問、健康教育と家庭訪問、継続訪問など、同じ事例に複数回関わる。健康教育は企画・実施・評価の一連の過程に取り組む。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 臨地オリエンテーション・家庭訪問事例紹介&lt;事例1・事例2&gt;</li> <li>2 事例1 指導者同行訪問・事例2 学生ペア訪問</li> <li>3 事例1 学生単独訪問・事例2 継続訪問</li> <li>4 訪問カンファレンス</li> <li>5 事例検討会</li> <li>6 健康教育見学・参加</li> <li>7 健康教育準備・デモンストレーション</li> <li>8 健康教育1 実施および評価</li> <li>9 健康教育2 実施および評価</li> <li>10 公衆衛生看護学実習 I カンファレンス</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	実習時間以外にも教員に個別指導を受けること。			45 分	
	復習					
授業の留意点	実習は日頃の学習の成果を最大活用して学習する場です。日々の学習および実習事前学習に丁寧に取り組む、実習期間中は積極的な態度で実習に臨みましょう。					
学生に対する評価	実習要項に評価表を示す。具体的な視点についてオリエンテーションで説明する。					
教科書（購入必須）	なし					
参考書（購入任意）						

科 目 名	公衆衛生看護学実習Ⅱ		担当教員名	播本 雅津子・室矢 剛志		
学 年 配 当	4年	単 位 数	3単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保健師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人びとの生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確にとらえ、住民および関係職種の人びとと連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>5. 主体的に学習する能力と自ら研究する態度を持ち、継続的に自己を研鑽する力を身につけている。</p> <p>6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保健所保健師または市町村保健師の経験を有する教員が担当する。 公衆衛生看護学実習Ⅱでは保健所と市町村それぞれの活動について理解するとともに、地域診断を基盤とした公衆衛生看護管理および健康相談事業について学習する。					
学習到達目標	保健所の担う公衆衛生看護活動および保健所保健師の役割を理解する。 地域の健康問題を組織的に解決する方法を理解する。 地域保健活動における機関や職種の連携について理解する。					
授業の概要	保健所および市町村にて実習を行う。市町村での実習は公衆衛生看護学実習Ⅰと連動するためこの2科目の実習は継続した日程で実施する。保健所実習では公衆衛生の専門機関である保健所の機能および各専門職の役割を理解した上で保健所保健師活動の実際を学習する。市町村実習では、健康相談、地区組織活動、公衆衛生看護管理等、多様な活動について学習する。保健所実習は7～8人、市町村実習は2～4人のグループに分かれる。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保健所の機能と役割</li> <li>2 保健所で働く様々な職種の理解</li> <li>3 保健所保健師の活動</li> <li>4 保健所保健師活動の実際1（家庭訪問・事例検討等）</li> <li>5 保健所保健師活動の実際2（集団指導・他機関連携等）</li> <li>6 市町村保健活動の概要</li> <li>7 地域診断1（既存資料からの情報収集・地区踏査）</li> <li>8 地域診断2（関係職種および住民へのインタビュー）</li> <li>9 地域診断3（分析・健康課題の抽出）</li> <li>10 地域診断4（事業計画策定・保健計画の見直し）</li> <li>11 健康相談1（母子保健）</li> <li>12 健康相談2（成人保健）</li> <li>13 健康相談3（高齢者保健）</li> <li>14 健康相談4（地区組織活動）</li> <li>15 公衆衛生看護学実習Ⅱカンファレンス</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	実習時間以外にも教員に個別指導を受けること。			45分	
	復習					
授業の留意点	実習は日頃の学習の成果を最大活用して学習する場です。日々の学習および実習事前学習に丁寧に取り組み、実習期間中は積極的な態度で実習に臨みましょう。					
学生に対する評価	実習要項に評価表を示す。具体的な視点についてオリエンテーションで説明する。					
教科書（購入必須）	なし					
参考書（購入任意）						

科 目 名	助産学概論		担当教員名	加藤 千恵子・常田 美和・澤田 優美・渡邊 友香		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産学の概観を教授する科目					
学習到達目標	<p>助産の基本概念を助産の歴史・文化からその意義を捉え、助産の対象、原理原則、役割、ケアと支援、職性と業務、倫理、助産師としてのアイデンティティや自律について理解する。</p> <p>母性保護の変遷と母子保健について助産師のあり方と将来を展望する。また、助産師教育（研究）や諸外国の助産師教育を学ぶ。</p>					
授業の概要	<p>助産実践の基礎となる助産の概念、理論を理解し、女性のライフサイクルに応じた性と生殖に関する女性の健康を支える助産師としての能力を養う。社会的責務を遂行するための助産師の役割や業務範囲、関係する法的基盤を理解する。助産ケアの基盤となる概念として、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの歴史的背景、国内外の動向を学修する。</p> <p>助産の現状と動向、母子保健の変遷、助産師の責務、職業倫理、諸外国の動向を学修し、これからの助産学の方向と助産師のあり方について考える。</p>					
授業の計画	<p>1-3 助産の概念の変遷 リプロダクティブヘルス/ライツ・ジェンダー・性差医療 助産の定義・対象 助産の倫理 助産師の自律 助産学を支える理論：危機理論、セルフケア理論、アタッチメント理論</p> <p>4-6 助産の歴史（産育習俗の変遷）</p> <p>助産師教育 わが国における助産師教育の変遷 諸外国の助産師教育</p> <p>9-12 助産師に関わる関連法規 時代背景・母子保健施策に沿った理解 周産期各期に沿った理解</p> <p>13-14 産科医療の現状と今後の展望 助産師活動と将来</p> <p>15 まとめ</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	助産の概念や理論などの関係した章を読み込む。			45 分	
	復習	授業の内容のポイントをまとめる。			45 分	
授業の留意点	助産学を学ぶ上で根幹となる授業の 1 つです。科学的根拠に基づく助産実践について学びましょう。					
学生に対する評価	プレゼンテーション内容等（50%）、グループワークの発表内容（10%）、課題レポート（40%）にて総合的に評価する。					
教科書（購入必須）	我部山キヨ子武谷 雄二編集 助産学講座 1 助産学概論 第 5 版 医学書院 小海正勝編：新版 助産師業務要覧 1 基礎編 第 2 版 日本看護協会出版会 小海正勝編：新版 助産師業務要覧 2 実践編 第 2 版 日本看護協会出版会					
参考書（購入任意）						

科 目 名	リプロダクティブヘルス	担当教員名	加藤 千恵子・澤田 優美・渡邊 友香	
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	
		資格要件	助産師：必修	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p>			
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、リプロダクティブヘルスの概観を教授する科目			
学習到達目標	周産期および Reproductive Health Rights の視点におけるライフサイクル各期の健康課題の特性や健康課題を解決するための概念・理論・最新の知見を活用して、助産・母性看護学領域の対象者への看護のあり方を考察する。			
授業の概要	<p>生殖器の形態・機能的特性、遺伝と遺伝疾患、性の分化と発達、胎児の発育・胎盤機能、母子と免疫など、助産学の基礎になる科学について学修する。</p> <p>女性の健康、性と生殖に関する健康に関する最新のエビデンスおよび社会的背景を学修する。</p> <p>思春期から老年期の女性のライフサイクルにおける健康問題や性と生殖の問題に対し、援助を行うための基本的知識を学修する。</p> <p>思春期では性感染症や性行動、セクシャリティ、やせ、月経問題について、成熟期では月経障害、不妊、家族計画、ドメスティックバイオレンスについて、更年期では更年期障害、子宮筋腫について学修する。</p>			
授業の計画	<p>1 科目概説、母性看護学の変遷と歴史</p> <p>2 ヘルスプロモーション理論、母親役割理論、母子相互作用、家族システム理論、親になるプロセス、Attachment に関する理論と研究</p> <p>3 子保健、リプロダクティブヘルス・ライツ、家族関係、生涯発達、ジェンダー等、周産期における妊産婦と家族の心理、周産期のメンタルヘルス</p> <p>4 Empowerment/Resilience</p> <p>5 母子保健活動の現状と課題、社会（日本と世界の現状）の在りよう、健やか親子 21 報告書、母性領域における統計資料等を分析、評価することができる</p> <p>6-8 周産期ケアと諸問題；出産の意味について考え、助産外来、院内助産、助産ケアと EBM について概説できる</p> <p>9-11 個々のテーマを決め、文献学習・プレゼンテーションを実施できる。母性・助産領域における各自の問題意識を基に今後の課題を報告できる。</p> <p>12 ハイリスク新生児と家族の支援に関する理論と研究</p> <p>13-14 子育て支援・子ども虐待予防・家族生成期に関する理論と研究 親子関係に関する理論と研究</p> <p>15 周産期におけるリプロダクティブヘルスの課題</p>			
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各テーマに関する情報収集などの準備。		45 分
	復習	授業を振り返りポイントをまとめる。		45 分
授業の留意点	母性看護学概論でのリプロダクティブヘルス・ライツの項目に関して復習し、助産学概論など並行して学び、不足した部分は復習しましょう。			
学生に対する評価	発表資料およびレポート（60 点）、討議内容と討議参加度（40 点）により評価する。			
教科書（購入必須）	特に定めない。必要資料は提示。			
参考書（購入任意）				

科 目 名	妊娠期・分娩期の診断とケア		担当教員名	加藤 千恵子・澤田 優美・渡邊 友香	
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質 (QOL) を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。				
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、妊娠期分娩期のケアを教授する科目				
学習到達目標	妊産婦の正常経過を理解し、妊産婦へのケアを習得できる。 妊産婦の異常を予測し、逸脱予防の保健指導ができる。 ハイリスク妊娠・分娩を学び、診断に必要な基礎知識を持ち、ケアができる。				
授業の概要	妊婦の健康状態及び妊娠経過に関わる助産診断、妊婦の援助技術、妊娠期の異常と異常経過における妊婦のケアを学修し、妊婦に対して適切な助産診断と援助技術を実践できる基礎的能力を養う。 妊娠期の母体の生理的機能を学修し、妊婦と胎児の正常経過と異常を判断し、健康を支える必要な基本的知識（妊婦健康診査や保健指導含む）を学修する。 ハイリスク妊婦へのアセスメントとケアを学修する。 助産診断の意義、対象の理解に必要な概念を学び、妊娠期の診断・アセスメント・助産ケア立案・助産技術を修得する。 産婦の健康状態と分娩経過の助産診断、産婦の援助技術と分娩助産技術を学修し、産婦に適切な助産診断と分娩助産を含む助産技術を実践できる基礎的能力を養う。 分娩期の母体の生理的機能、正常経過と異常（ハイリスクを含む）の診断に必要な基本的知識を学修する。 分娩助産、主体性を尊重した産婦や家族への支援、異常分娩や産科医療処置等を学修する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 助産師が行う妊娠期のケア 妊娠期とは、妊娠期ケアの理念、妊婦（胎児）の全人的アセスメント、妊娠期ケアの特徴</li> <li>2 妊娠の整理と確定診断 妊娠の成立、妊娠の早期診断、妊娠に伴う全身の変化、胎児の発育と器官形成、胎児付属物</li> <li>3 妊娠経過と産科学的診断 妊娠経過の診断、妊娠に関連した検査、出生前検査とスクリーニング、血液型不適合に関する検査、母子感染症に関する検査、胎児の発育の診断、胎児モニタリング</li> <li>4 妊婦の心理社会的側面のアセスメント 日常生活状況、セルフケア・親になること・出生準備に関する・家族機能に関するアセスメント</li> <li>5 妊娠経過に対応したケア 妊娠経過のアセスメントとケア、異常の早期発見と予防、妊娠初期・中期・後期のアセスメントとケア</li> <li>6 妊娠の日常生活におけるケア マイナートラブル、不安など否定的な感情へのケア、食・衣・住生活、運動と安静、性生活</li> <li>7 妊婦や家族の親準備・出産準備へのケア 初産婦とその家族の親準備のケア、経妊婦と家族のケア、出産準備教育</li> <li>8 助産師が行う分娩期のケアの基本 助産師が行う分娩期的な考え方</li> <li>9 分娩経過の診断に必要な知識 分娩の概念、分娩の3要素、分娩経過と所要時間、分娩の機序、分娩が母体・胎児に及ぼす影響</li> <li>10 分娩経過の診断・アセスメントの視点 分娩開始の診断、分娩の3要素の関連性、娩出力の状態、産道および胎児の下降度の状態、胎児の発育・健康状態、胎児付属物の状態、産婦の心理的、社会的、文化的な状態</li> <li>11 分娩経過に伴う診断・アセスメントと助産過程の展開 分娩期の診断・アセスメントの特徴と助産過程の展開、入院時の診断・アセスメントとケア、分娩第1期、第2期、第3期、第4期の診断とアセスメントとケア</li> <li>12 分娩助産技術(1) 分娩助産の意義と原理、分娩助産に伴う技術</li> <li>13 分娩助産技術(2) 分娩体位と分娩助産法、胎児付属物の精査と計測</li> <li>14 分娩助産技術(3) 出生直後の新生児のアセスメント、新生児蘇生</li> <li>15 正常経過逸脱の予測と予防 身体的側面、緊急事態への対応準備</li> </ol>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各章の内容の読み込みを行う。			45分
	復習	授業の内容を振り返り、ポイントをまとめる。			45分
授業の留意点	学部内または看護基礎教育における母子看護での妊娠期から産褥期の看護展開を復習し、不足な部分は復習しておくこと。				
学生に対する評価	課題提出（30%）、試験（70%）により評価する。				
教科書（購入必須）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助産師基礎教育テキスト 2021年版 第4巻 妊娠期の診断とケア 森恵美（日本看護協会出版会）</li> <li>・分娩期の診断とケア 2017年度版 第5巻 分娩期の診断とケア 第5巻 町浦美智子（日本看護協会出版会）</li> </ul>				
参考書（購入任意）					

科 目 名	助産診断・技術学演習 I (妊娠期)		担当教員名	加藤 千恵子・澤田 優美・渡邊 友香	
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質 (QOL) を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。				
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産診断・技術を教授する科目				
学習到達目標	ME 機器を用いた諸検査 (胎児心拍モニタリング・超音波診断検査など)、今後、助産師に必要な発展的な知識・技術を学習する。助産を系統的に行うための診断技術の理論と実際を学ぶ。具体的には次の通り。 ①助産診断過程に必要な概念や基礎理論 ②助産過程の展開方法 ③周産期における経過診断 ④正常からの逸脱を発見するための診査・診断の原理・目的・過程・援助方法				
授業の概要	妊娠期の援助を行うために必要な技術を修得する。 妊婦健康診査技術、基本的な超音波画像診断技術、妊娠期の生活支援等について修得する。 出産準備クラスの企画・運営についても学修する。				
授業の計画	1 1. 助産診断の概念と枠組み (1) 2 1. 助産診断の概念と枠組み (2) 3 2. 妊娠期の診断とケア 1) 妊娠の生理、心理・社会的な変化 4 2) 心理・社会的な診断・ケア 5 3) 妊娠経過と助産診断 6 4) フィジカルアセスメント 7 5) 日常生活の適応とマイナートラブル 8 6) 助産ケアと保健指導 9 7) ハイリスク・異常妊婦の診断・ケア 10 8) 妊娠期の助産過程 11-12 3. 妊娠期の助産診断 (フィジカルアセスメント) に必要な専門技術 1) 妊娠期の検査法 2) 妊娠期の薬剤 3) 産科手術 13-14 4. 妊娠期の助産ケア・保健指導の実際 15 5. 妊産褥婦のケアに必要なカウンセリング技術				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各章の読み込み。			45 分
	復習	授業を振り返り、ポイントのまとめを行う。			45 分
授業の留意点	助産学を学ぶ上で根幹となる授業の 1 つです。確実な知識や診断能力を訓練し、根拠に基づく助産ケアを提供できるように学修していきましょう。				
学生に対する評価	試験 (80%)、GW レポート (20%) により評価する。				
教科書 (購入必須)	横尾京子編：助産学講座 6 助産診断・技術学 II [1] 妊娠期第 5 版 医学書院 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編：産婦人科診療ガイドライン (産科編 2020) 日本産科婦人科学会				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	助産診断・技術学演習Ⅱ（分晩期）		担当教員名	加藤 千恵子・澤田 優美・渡邊 友香		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産診断・技術を教授する科目					
学習到達目標	助産診断・技術学Ⅰで学んだ対象理解・助産診断・助産技術・助産ケアの考え方をもとに、助産実践に必要な専門的技術を修得する。また、ME 機器を用いた諸検査（胎児心拍モニタリング・超音波診断検査など）、会陰切開・縫合など、今後、助産師に必要なとなる発展的な知識・技術を学習する。 1. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の助産診断に必要な専門的技術を学習し、実践できる。 2. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の助産ケア・保健指導の実際を理解し、実践できる。 3. ME 機器を用いた諸検査について理解し、実践できる。					
授 業 の 概 要	助産診断・技術学Ⅱで学んだ理論や知識をもとに、分娩期の援助を行うために必要な助産診断および分娩介助技術、出生直後の児のケアや技術を修得する。 ハイリスク分娩時の介助技術や会陰裂傷縫合術、産科危機的出血時の対応等について理解する。 分娩期における診断・アセスメント・助産ケア立案・分娩介助にかかわる基本的な助産技術を修得する。					
授 業 の 計 画	1 1. 分娩期の診断とケア 1) 分娩に関連する概念、分娩期の助産診断 2 2) 分娩の3要素と分娩機転 3 3) 正常分娩の経過と母子に及ぼす影響 4 4) 分娩期における心理・社会的変化 5 5) 分娩介助法 6 分娩介助法、付属物の検査と計測、出生直後の新生児のケア 分娩第4期の母児のケア（早期接触、初回直母） 7 7) 分娩期のフィジカルアセスメント 8 8) 分娩期の助産診断 9 9) 正常からの逸脱	10 10) 異常の診断とケア 11 11) 産科麻酔・麻酔分娩 12 12) 急遂分娩術の適応・禁忌（吸引・鉗子分娩、帝王切開など 13-16 2. 分娩期の助産診断（フィジカルイグザミネーション）に必要な専門技術 17-18 分娩期の助産診断（フィジカルイグザミネーション）に必要な専門技術、3. 分娩期の検査と薬剤 19-21 4. 分娩介助に必要な専門技術（フリースタイル分娩技術） 22-23 5. 産科手術、処置 会陰縫合術の実際（医師）6. 救急処置 24-42 7. 分娩介助技術演習				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各章の読み込み。			45 分	
	復習	授業の振り返りとポイントのまとめ。			45 分	
授業の留意点	助産学を学ぶ上で根幹となる授業の1つです。確実な知識や診断能力を訓練し、根拠に基づく助産ケアを提供できるように学習していきましょう。					
学生に対する評価	筆記試験（30%）、実技試験（70%）により評価する。					
教科書（購入必須）	我部山キヨ子他編：助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期 第5版 医学書院 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編：産婦人科診療ガイドライン（産科編 2020）日本産科婦人科学会 細野茂春監：日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく 新生児蘇生法テキスト メジカルビュー社					
参考書（購入任意）						



科 目 名	助産診断・技術学演習Ⅲ（産褥期・新生児期）		担当教員名	加藤 千恵子・澤田 優美・渡邊 友香	
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。				
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産診断・技術を教授する科目				
学習到達目標	産褥、新生児ケアを系統的に行うための技術の理論と実際を学ぶ。具体的には次の通り。 ①産褥・新生児期に必要な概念や基礎理論 ②産褥・新生児期の看護過程の展開方法 ③産褥・新生児期における経過診断 ④正常からの逸脱を発見するための診査・診断の原理・目的・過程・援助方法				
授業の概要	産褥・新生児期のケアで学んだ知識・技術をもとに、産褥期、新生児期の援助を行うために必要な技術を修得する。 健康な母子に対する助産診断を行った上で必要な保健指導を主体的に行う能力を養う。 新生児においては、「新生児蘇生法「専門」コース（Aコース）」の取得を目指し、実践力をつける				
授業の計画	1 1. 産褥期の診断とケア 1) 産褥の定義、産褥期の全身の変化 2 2) 産褥期の心理社会的な変化と支援 3 3) 母乳育児支援 4 4) 退院後の支援 5 5) ハイリスク・異常褥婦の診断とケア 6 6) 産褥期の助産診断 7 7) 助産ケアと保健指導 8 パンフレット作成（1） 9 パンフレット作成（2） 10 ロールプレイ（1） 11 ロールプレイ（2） 12 1) 早期新生児・新生児の生理 13 2) フィジカルアセスメント・診断 14 3) ケアの実際（新生児蘇生法「専門」コース（Aコース）含む）（1） 15 ケアの実際（2）	16 ケアの実際（2） 17 ケアの実際（4） 18 ケアの実際（5） 19 ケアの実際（6） 20 4) ハイリスク・異常児の診断・ケア 21 3. 周産期における検査（医師） ・胎児の出生前診断 22 ・ME 機器による管理と評価 23 （CTG、超音波診断） 24 4. 周産期に使用される薬剤（医師） 1) 産科で行われる薬物療法（薬物効果および禁忌） 25 2) 胎児及び母乳への影響 26 各期の助産過程展開の実際（1） 27 各期の助産過程展開の実際（2） 28 各期の助産過程展開の実際（3） 29 各期の助産過程展開の実際（4） 30 助産過程展開のまとめ			
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各演習内容の読み込み。			90分
	復習	演習の振り返りとまとめ。			90分
授業の留意点	新生児蘇生法については、資格取得につながる場所ですので新生児蘇生法テキストをもとに十分な学習が必要です。				
学生に対する評価	課題レポート（20%）、実技試験（80%）により評価する。				
教科書（購入必須）	我部山キヨ子他編：助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分産期・産褥期 第 5 版 医学書院 横尾京子編：助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3]新生児期・乳幼児期 第 5 版 医学書院 NPO 法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編：母乳育児スタンダード第 2 版 医学書院 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編：産婦人科診療ガイドライン（産科編 2020）日本産科婦人科学会 仁志田博司：新生児学入門 第 5 版 医学書院 細野茂春監：日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく 新生児蘇生法テキスト メジカルビュー社				
参考書（購入任意）					

科 目 名	助産過程演習		担当教員名	加藤 千恵子・澤田 優美・渡邊 友香		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産過程を教授する科目					
学習到達目標	アセスメントに必要な知識、事例の情報の整理と情報分析・解釈、統合（アセスメント）ができる。事例の助産診断の導き方を理解し、助産診断の決定ができる。					
授業の概要	母児やその家族の特性を理解し、妊娠期、分娩期、産褥・新生児期の事例を用いて助産過程の展開を振り返り、助産診断・実践・評価能力を修得する。					
授業の計画	1-3 産褥のアセスメントとケア 1) 初産婦の分娩期の援助 分娩第 1 期電話連絡時、入院時、分娩第 2 期、分娩第 3 期、分娩第 4 期、分娩 2 時間後から初回歩行まで 4-6 2) 経産婦の分娩期の援助 7-9 3) 正常から逸脱した産婦の援助 疲労性微弱陣痛、回旋異常、分娩停止による帝王切開分娩、胎児機能不全に伴う吸引分娩 10-12 4) 新生児のアセスメントとケア 生後 24 時間以内の新生児のケア、帝王切開で生まれた新生児のケア 13-15 5) ハイリスク産婦の新生児のアセスメントとケア 予定帝王切開を受ける産婦の援助、分娩誘発を行う産婦の援助、産科合併症によるハイリスク産婦の分娩、(妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、妊娠糖尿病から生まれた新生児ケア、早産 (32-36 週) 産婦の援助、早産で生まれた新生児のケア、多胎分娩をする産婦の援助、多胎で生まれた低出生体重児のケア)					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各章の読み込みを行う。			90 分	
	復習	授業の振り返りとまとめを行う。			90 分	
授業の留意点	事例展開においてウエルネスの看護診断も参考に、リスク型・ウエルネス型両面からの展開ができることが重要です。GW で討論し、全体像のイメージ力を養ってください。					
学生に対する評価	課題レポート (70%)、GW の参加度 (30%) により評価する。					
教科書 (購入必須)	教科書：系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学 2 森恵美 (医学書院) 助産学実習プレブック 助産課程の思考プロセス 町浦美智子編著 (医歯薬出版株式会社)					
参考書 (購入任意)						

科 目 名	地域・国際母子保健学		担当教員名	加藤 千恵子・常田 美和・澤田 優美・渡邊 友香		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p> <p>6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、地域・母子保健学を教授する科目					
学習到達目標	<p>1. 地域の特性をアセスメントして、母子の環境改善に向けた行政への関与ができる。</p> <p>2. 病院内での妊産褥婦への対応に必要な英語・中国語表現の修得ができる。</p> <p>3. 異文化コミュニケーションを迫られた時に惑わない能力の養成ができる。</p> <p>4. コミュニケーションの種類、方法について工夫することの必要性を理解できる。</p> <p>5. 国際母子保健の基本的知識について理解する。</p> <p>6. 諸外国における保健医療サービスや助産システムおよびケアの特徴を理解する。</p> <p>7. 日本と諸外国との比較から、日本の母子保健を支える助産ケアのあり方と課題を考察できる。</p>					
授業の概要	<p>地域における母子保健活動を推進するために必要な知識を学び、社会資源やソーシャルサポートを活用し、実践する幅広い能力を養う。</p> <p>国内外の地域母子保健政策や地域母子保健事業の現状や課題について学び、地域母子保健における助産師の役割を探究する。</p> <p>周産期を含めたリプロダクティブヘルスケアの地域での連携や実践活動のあり方を考える。</p>					
授業の計画	<p>1 この講義の進め方、内容・評価法などの説明、学習の仕方などのオリエンテーション</p> <p>2 地域母子保健の意義 地域概念</p> <p>3 母子保健の現状と動向</p> <p>4 母子保健をめぐる諸問題と課題</p> <p>5 日本の母子保健行政と母子保健関係法規</p> <p>6 国・都道府県・市町村の役割、母子保健行政の財源</p> <p>7 日本の母子保健制度と母子保健施策</p> <p>8 育児期；乳児健診に関するロールプレイなどを通して演習、振り返り</p> <p>9 健康診査、保健指導、療養援護、医療対策、予防接種</p> <p>10 女性のライフサイクルへの支援</p> <p>11-12 海外在住日本人の母子保健 諸外国の母子保健活動</p> <p>13 地域諸外国の母子保健活動、海外在住日本人、在日外国人の母子保健</p> <p>14-15 講師から見た外国での出産と日本の出産の現状について</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各章の読み込みを行う。			45分	
	復習	授業の振り返りとポイントのまとめ。			45分	
授業の留意点	学部内または看護教育における国際看護の内容を復習し、不足な部分は復習しておくこと。ロールプレイに使用する資料作成と積極的参加が必要です。					
学生に対する評価	課題レポート(30%) 制作物(40%) 授業貢献度(30%)により評価する。					
教科書(購入必須)	我部山キヨ子編「助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健」医学書院					
参考書(購入任意)						

科 目 名	地域母子保健演習		担当教員名	加藤 千恵子・澤田 優美・渡邊 友香		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。 6. 異文化を理解するとともに多様な価値観を認識し、国際的視野を持って活動できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、地域母子保健演習を教授する科目					
学 習 到 達 目 標	地域に居住する母子の健康状態を高めるために展開する活動を通して対象理解を深め、地域の文化、生活共同体の中で生きる対象がイメージできる。居住環境を共有する住民の母子保健に関する認識と行動を知り、地域の保健や国の保健行政に及ぼす影響を知ることができる。					
授 業 の 概 要	1. 地域母子保健の概念を知り、その活動を知ることができる。 2. 地域母子保健の活動の基礎理論がわかる。 3. 地域母子保健の状態を疫学の視点から説明できる。 4. 地域母子保健の実際を知り、ネットワークづくりの大切さがわかる。 5. 地域母子保健活動が行われている場と役割の違いに着目し、各部門（開業助産師、学校、産業、市町村）の特徴が理解できる。 6. 国際的視野に立ち国際協力の活動について知り、今後のあり方を考えることができる。					
授 業 の 計 画	1 1. 地域母子保健の概念 2 2. 地域母子保健活動の軌跡 3-5 3. 地域母子保健活動の基礎理論 1) 地域母子保健活動と母子保健 2) 地域母子保健と疫学 6-11 4. 地域母子保健の実際 1) 地域の子育てネットワーク作り 2) 開業助産師による母子保健活動 3) 学校保健における母子保健活動 4) 産業保健における母子保健活動 5) 市町村における母子保健活動 12-14 5. 国際協力活動の実際 1) ブラジルにおける国際協力活動 2) ベトナムにおける国際協力活動 15 まとめ					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各章の読み込みを行う。			45分	
	復習	授業の振り返りとポイントのまとめ。			45分	
授業の留意点	地域・国際母子保健と共通するものがあります。併行して学習しましょう。					
学生に対する評価	課題レポート（60%）、GWにおける参加度（20%）、講義課題の提出（20%）により評価する。					
教科書（購入必須）	助産学大系 地域母子保健 日本看護協会出版会					
参考書（購入任意）						

科 目 名	助産管理学		担当教員名	加藤 千恵子・澤田 優美・渡邊 友香	
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p> <p>4. 地域社会の保健・医療・福祉ニーズを明確に捉え、住民および関係職種の人々と連携・協働し、保健・医療・福祉の統合、向上に取り組める力を身につけている。</p>				
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産管理を教授する科目				
学習到達目標	<p>助産業務管理に必要な知識、法的範囲と責任について理解し、助産管理の基礎を学修する。助産施設のマネジメントとしての管理、運営、役割などを学ぶと共に、周産期医療を取り巻く助産管理の実際を、さまざまな助産活動の場を通して理解する。また病院・地域との連携とシステム、医療事故等について学び、リスクマネジメントの視点からも理解を深める。</p> <p>加えて、助産サービスの評価、助産管理に必要な社会保障制度および助産所の管理運営の基本を学修する。</p> <p>諸外国の助産師についても学ぶ。</p>				
授業の概要	<p>助産管理の基本概念、助産業務に関連する法規を理解し、助産管理を実践できる基礎的能力を養う。</p> <p>周産期管理システムの運用と地域連携、助産所・診療所及び産科病棟の管理運営について学習する。</p> <p>周産期の医療事故と予防対策、災害時の助産管理のあり方を学び、助産師の危機管理について理解する。</p> <p>助産管理の視点から助産師の専門性を考える。</p>				
授業の計画	<p>1 助産管理の基本 助産管理の概念（助産業務・助産管理の定義・特性）</p> <p>2-3 助産管理と関係法規（医療法、保健師助産師看護師法、医師法、母子保健法、母体保護法、児童福祉法、地域保健法、戸籍法、刑法、民法、労働法、助産師の法的責任と業務就業規則）、助産師の法的責任と義務</p> <p>4-5 周産期管理システム/病院における助産管理 新生児集中治療室、母体搬送システム、オープンシステム 周産期医療と助産管理（MFICU/NICU）</p> <p>6-7 医療事故とリスクマネジメント</p> <p>8-10 病院における助産業務管理の過程と方法、産科等の管理（院内助産含む）、外来の助産管理（助産師外来）、感染管理</p> <p>11-13 助産所における助産業務管理 管理と実際・助産所の形態、法的な業務範囲と責務、職業的・社会的責務（ガイドラインに基づく運営管理、業務内容、リスクマネジメント、地域連携、地域母子保健活動等）</p> <p>14-15 災害時における助産活動、避難所における助産師の役割（災害時演習）</p>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各章の読み込みを行う。			45 分
	復習	授業の振り返りとポイントのまとめ。			45 分
授業の留意点	助産管理の基本学び、さらに、助産管理の実際（含医療事故防止・対応）を病院・助産院等の助産活動の場を通して理解していく。実習の場では、この視点でも見てくること。				
学生に対する評価	プレゼンテーション内容（10%）、グループワークの内容（10%）、課題レポート（80%）で評価する。				
教科書（購入必須）	<p>我部山キヨ子編：助産学講座 10 助産管理 第 5 版 医学書院</p> <p>日本助産師会編：助産所開業マニュアル 日本助産師会</p> <p>成田伸編：助産師基礎教育テキスト第 3 巻 周産期における医療の質と安全 日本看護協会出版</p> <p>山本あい子編：助産師基礎教育テキスト第 1 巻 助産概論 日本看護協会出版</p>				
参考書（購入任意）					

科 目 名	助産学実習 I (妊娠)		担当教員名	加藤 千恵子・澤田 優美・渡邊 友香	
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質 (QOL) を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。				
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産学実習を教授する科目				
学習到達目標	周産期ケアから女性の健康支援まで幅広くリプロダクティブヘルス/ライツに関わる助産師としての役割を明確にする。妊娠期の対象理解を進め、妊婦健康診査におけるケアを通して正常経過と逸脱、正常経過へと向けたケアや保健指導ができ、妊婦とその家族などへの支援を学ぶ。 目標 1. 正常な妊娠経過をたどる母児と家族に対する基本的な助産実践について理解できる。 2. 女性の健康に関する援助の実際と助産師の役割について考察できる。 3. 助産師像を明確に描くことができる。				
授業の概要	妊婦の健康診査と保健指導を実践できる能力、妊婦の健康診査結果、異常への逸脱徴候について判断できる能力など、妊婦とその家族に対する助産診断及び援助技術を習得する。 妊婦とその家族のセルフケア能力を高める助産実践能力を修得する。集団指導の健康教育を含む。 助産師外来においては、正常妊婦の経過を診断し、well-being のための相談・教育を行える診断技術を修得する。				
授業の計画	1 実習目標 1. 妊婦について、身体的・心理的・社会的側面・地域・家族から、多面的に情報収集し、統合した助産診断ができる。 2. 妊婦健康診査において、妊娠経過の正常からの逸脱を予測し、異常の早期発見、マイナートラブルに関するケアが提供できる。 3. 提供したケアを評価し、自己の課題を明らかにし、次のケアに活かすことができる。 4. 事例の受け持ちを通して、アセスメントし、妊娠期の個別的な援助を提供できる。 (妊婦を受け持ち、継続事例 1 例を含む)。 2 実習内容 1. 妊婦健康診査の経過 (問診、触診、視診など)、血液検査、尿検査、血圧測定、浮腫の観察、モニタリング、エコー診断、一連の流れを経験する。 2. 妊婦の受け持ちを通して、保健指導の実際を学ぶ (マイナートラブル、合併症に関して)、入院の準備、両親学級などの準備教育に関わり、妊娠期に必要とされる妊婦への教育内容を経験する。妊婦健康診査における観察及びケア、状況に応じて、帰院までの妊婦のケアを行う。 3 実習の展開方法 1. 承諾が得られた妊婦を受け持ち、妊婦健診の一連の流れを経験する。 ケアの振り返り、アセスメントを行う。 2. 実習内容については臨地実習指導者と相談の上決定し、実習計画の発表、実習内容調整・報告をしながら、自主的にケアに入る。 3. 受け持ち対象者が異常に移行した場合は、臨地実習指導者の指示に従い、直接的ケアは中断し見学とする。受け持ち対象者に行われている援助について見学を通して学ぶ。 終了後、臨地実習指導者、そして教員と振り返りを行い、その診断や行われていた援助について整理する。 4. 受け持ち事例の評価を 1 例ごとに、到達目標に照らし合わせた振り返りを教員と共に、自己課題あるいは目標を明確にする。				
授業の予習・復習の内容と時間	予習				
	復習				
授業の留意点	助産学実習関連の全ての資料を活用して準備する。 看護基礎教育における母性看護学での妊娠期の看護展開を復習しておくこと。 この実習で、妊娠 6 か月以降の受け持ち事例の中から継続事例 1 例を確保する。				
学生に対する評価	実習レポート (20%)、実習内容 (70%)、実習態度 (10%) により評価する。				
教科書 (購入必須)	系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学 2 森恵美 (医学書院) 実習要項、資料配布等にて提示。 日本助産診断・実践研究会編：実践マタニティ診断 医学書院 日本助産診断・実践研究会編：マタニティ診断ガイドブック 医学書院				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	助産学実習Ⅱ（分晩・産褥・新生児期）		担当教員名	加藤 千恵子・澤田 優美・渡邊 友香		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	6 単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産学実習を教授する科目					
学 習 到 達 目 標	<p>妊産褥婦・新生児について、身体的・心理的・社会的側面・地域・家族から、多面的に情報収集し、統合した助産診断を行い、立案した計画に沿って、対象者の分娩介助およびケアを実践する。</p> <p>さらに提供した助産を客観的に評価し、自己の課題を明らかにすることで、次の助産に活かしていく。</p> <p>事例の受け持ちを通して、分娩期から産褥・新生児期まで継続した、個別的な援助を提供する。</p>					
授 業 の 概 要	<p>正常分娩の介助技術の修得、産婦やその家族の主体性を尊重した助産ケアの提供、正常・異常を診断するための実践能力を養う。</p> <p>助産ケアの実際を通して、妊産褥婦のセルフケア能力を高め、新生児の母体外生活の適応をはかる助産実践能力を修得する。主に病院や診療所において、正常な経過をたどる産婦の入院から退院までを受け持ち、助産計画に沿って分娩介助を 10 例実施する。</p>					
授 業 の 計 画	<p>1 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>妊産褥婦・新生児について、身体的・心理的・社会的側面・地域・家族から、多面的に情報収集し、統合した助産診断ができる。</li> <li>助産診断に基づいて計画を立案し、対象者の分娩介助およびケアが提供できる。</li> <li>提供した助産を客観的に評価し、自己の課題を明らかにすることで、次の助産に活かすことができる。</li> <li>事例の受け持ちを通して、分娩期から産褥・新生児期まで継続した、個別的な援助を提供できる。</li> </ol> <p>2 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>産婦を受け持ち、助産過程の展開を用いて正常分娩の介助を 10 例程度実践する（長期継続事例含む）。</li> </ol> <p>3 実習の展開方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>妊産婦を分娩第 1 期から受け持ち、入院時の援助・分娩各期の観察及びケア（分娩介助含む）・褥室への移送・分娩後 2 時間後の新生児の健康診査、状況に応じて、退院時までの母児のケアを行う。</li> <li>受け持ち実習中に受け持ち産婦がいない時は、間接介助の待ち時間等を利用して、今まで受け持った産婦へのケア（分娩の振り返り、産褥・新生児へのケア等）に入る。 実習内容については臨地実習指導者と相談の上決定し、実習計画の発表、実習内容調整・報告をしながら、自主的にケアに入る。</li> <li>受け持ち対象者が異常に移行した場合は、臨地実習指導者の指示に従い、直接的ケアは中断し見学とする。受け持ち対象者に行われている援助について見学を通して学ぶ。 終了後、臨地実習指導者、そして教員と振り返りを行い、その診断や行われていた援助について整理する。</li> <li>受け持ち事例の評価を 1 例ごとに、到達目標に照らし合わせた振り返りを教員と共に行い、自己課題あるいは目標を明確にする。</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授 業 の 留 意 点	<p>学習ガイダンスおよび助産学実習関連の全ての資料を参考にして準備する。</p> <p>学部内または看護基礎教育における母子看護での妊娠期から産褥期の看護展開を復習し、不足な部分は復習しておくこと。</p>					
学 生 に 対 す る 評 価	実習レポート（20%）、実習内容（80%）により評価する。					
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	<p>実習要項、資料配布等にて提示。</p> <p>日本助産診断・実践研究会編：実践マタニティ診断 医学書院</p> <p>日本助産診断・実践研究会編：マタニティ診断ガイドブック 医学書院</p>					
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）						

科 目 名	助産学実習Ⅲ（継続事例）		担当教員名	加藤 千恵子・澤田 優美・渡邊 友香	
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。				
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産学実習を教授する科目				
学習到達目標	妊娠中期から妊婦を受け持ち、妊娠期から分娩期および産後1か月までの、継続した助産ケアを行う。 具体的には以下の通り。 ①妊婦の健康診査と必要な保健指導を行う。 ②妊娠経過をふまえて個別的な助産計画を立案し実施する。 ③退院後の母児への援助や家庭訪問の必要性についてもアセスメントし、必要なケアを実施する。 ④新生児の出生直後から生後1か月の家庭訪問までの経過について、助産診断と必要なケアを実施する。				
授業の概要	妊娠中期から出産後1か月までの長期にわたって1事例を受け持ち、継続事例の観察と援助を行い、継続した助産ケアの実際を通して、対象とその家族へのセルフケア能力を高める助産実践能力を修得する。 実習目標				
授業の計画	1 実習目標 1. 妊婦の健康診査と必要な保健指導を行う。 2. 妊娠経過をふまえて個別的な助産計画を立案し、実施できる。 3. 退院後の母児への援助が考えられる。 4. 家庭訪問の必要性が考えられる。 2 実習内容 1. 妊婦の健康診査と必要な保健指導を行う。 2. 妊娠中期から妊婦を受け持ち、分娩介助から産後1か月までの継続したケアを実施する。 3 実習の展開方法 1. 妊娠期の助産診断を各健診毎に実施し、必要な助産計画の立案、実施を行う。 ・受け持ち妊婦へのケアは助産計画立案のもと行う。 ・助産計画や保健指導は、事前に教員および臨床指導者の確認を得て実施する。 ・妊娠期のサマリーは、分娩に至った段階で実施する。 2. 受け持ち対象者への援助を最優先して行う。受け持ち対象者が異常に移行した場合、臨地実習指導者の指示に従い、可能な範囲で援助を実施する。				
授業の予習・復習の内容と時間	予習				
	復習				
授業の留意点	学習ガイダンスおよび助産学実習関連の全ての資料を参考にして準備する。 学部内又は看護基礎教育における母子看護での妊娠期から産褥期の看護展開を復習し、不足な部分は復習しておくこと。				
学生に対する評価	実習レポート（20%）、実習内容（80%）により評価する。				
教科書（購入必須）	実習要項、資料配布等にて提示。				
参考書（購入任意）					



科 目 名	助産学実習Ⅳ（ハイリスクケア）		担当教員名	加藤 千恵子・澤田 優美・渡邊 友香	
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。</p> <p>2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。</p> <p>3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。</p>				
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産学実習を教授する科目				
学 習 到 達 目 標	ハイリスク状態にある母児の特徴や援助、周産期の新生児医療システムの現状や課題についての理解を深めるために、NICUにおけるハイリスク母児のケアの見学実習を通して学ぶ。新生児・乳児および母親への健康診査や保健指導等、地域社会で生活する母子に対する継続支援の実際を学ぶ。				
授 業 の 概 要	<p>異常分娩に対する応急処置の見学・実施を行い、助産師に必要なアセスメント能力と業務を学ぶ。ハイリスク妊娠(妊婦・胎児、および合併症妊娠)妊婦と、ハイリスク妊産褥婦および児のケアの実際を学修しながら、その家族を含めた助産ケアの実践を通して学ぶ。</p> <p>ハイリスク妊娠 1 例を受け持ち、妊娠中から産褥期、可能であれば家庭訪問指導までを通して継続的な援助について理解する。</p> <p>NICUにおけるハイリスク新生児とその家族のケアの実践について学ぶ。</p> <p>ハイリスク妊娠のケアとハイリスク新生児のケアの連携について考える。</p>				
授 業 の 計 画	<p>1 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ハイリスク状態にある母児の特徴を理解できる。</li> <li>2. ハイリスク状態にある母児への援助の実際を理解できる。</li> <li>3. 周産期医療システムの現状を理解できる。</li> <li>4. 周産期医療の今後の課題について考察できる。</li> <li>5. 母子保健活動における助産師の役割と実際がわかる。</li> <li>6. 地域社会で生活する母子のニーズと支援について理解する。</li> <li>7. 他職種の連携の実際を理解する。</li> </ol> <p>2 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 市内 1 施設における NICU を見学する。</li> <li>2. 施設の母子保健活動（退院後健診及び乳幼児健診、フォローアップ検診）を見学する。</li> <li>3. 周産期の新生児医療システムとハイリスク母児のケアについて学ぶ。</li> <li>4. 臨地にて実習カンファレンスを行う。</li> <li>5. 実習終了後、目的に沿って考察したことをレポートにまとめる。</li> </ol>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習				
	復習				
授業の留意点	学習ガイダンスおよび助産学関連の全ての資料を参考にして準備する。学部内または看護基礎教育における母子看護での妊娠期から産褥期の看護展開を復習し、不足部分は復習しておくこと。				
学生に対する評価	実習レポート（20％）実習内容（80％）により評価する。				
教科書（購入必須）	実習要項、資料配布等にて提示 仁志田博司：新生児学入門 第 5 版 医学書院				
参考書（購入任意）					

科 目 名	助産学実習Ⅴ（地域母子保健）		担当教員名	加藤 千恵子・澤田 優美・渡邊 友香	
学 年 配 当	3-4年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	助産師：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の基本的権利を尊重し、人間を全人的に広く理解し行動できる力を身につけている。 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践的判断ができる力を身につけている。 3. 対象となる人々の生活の質（QOL）を考慮して、主体的、自律的に看護を実践できる力を身につけている。				
実務経験及びそれに関わる授業内容	助産師としての実務経験を持つ教員が、助産学実習を教授する科目				
学習到達目標	助産所における自然分娩を支える助産師の実践と、施設の特性をふまえた助産管理を学ぶ。さらに、地域母子保健活動について視野を広げ、地域における助産師の役割を発展的に考える能力を養う。 1. 開業助産師の母子や家族に対する姿勢を理解できる（助産院）。 2. 実習を通じて自身が必要とする助産像を描くことができる（助産院）。 3. 開業助産師の助産実践の実際を見学し、助産所の役割を理解することができる（助産院）。 助産所における管理・運営の実際が理解できる。 4. 開業助産師の役割を理解することができる（助産院）。 妊娠から子育ての切れ目ない支援における、助産師の役割について考察できる。 5. 病院の外来受診をしている妊婦のケアのあり方について考察できる。 対象のニーズや助産師が行う妊婦健康診査、自然分娩の意義を理解し、開業助産師の自立した実践について考察できる。 6. 病院の分娩見学などを通して望ましい助産ケアのあり方を考察できる。 7. 病院の褥室見学などを通して望ましい産後ケアのあり方を考察できる。 8. 臨地実習での学びや課題を発表し、学びを共有する。 9. 妊産婦に対する健康教育の基本が説明できる。 10. 対象への倫理的配慮を遵守し、助産学生として真摯に実習に取り組み、専門職としての態度を身につけることができる。 まとめ；病院施設内と助産所における助産師の助産実践の違い（共通点・相違点）を分析することができる。 地域保健における組織・機能・役割について、助産師の活動から考察することができる。 地域での助産師の役割や活動について、また今後の課題について述べるすることができる。				
授業の概要	この科目は、早期体験実習としての助産所実習、スタートアップ実習としての助産学実習（基礎）、臨地での学びを支える学内（サテライト）実習で構成されている。 臨地実習は①助産院、②病院（外来、分娩室）で見学、実施する。 早期体験実習では、熟練した開業助産師による助産実践や助産の哲学に触れ、助産師としてのアイデンティティ獲得の第一歩を踏み出す。また、病院実習では施設助産師の指導の下、外来、分娩室、褥室での対象の状態を見学し、基礎的な対象の生活背景をイメージしながら対象理解を深め、基礎的な助産実践を行う。 学内では、妊産婦の対象理解の基礎となる身体的、心理社会的知識、臨地実習に必要な援助技術を修得する。				
授業の計画	1 助産学実習Ⅴオリエンテーション； 月 日（ ） 助産所見学、病院施設見学を行う。 （3年次）つるべ助産院（1施設4名見学） （4年次）さくら助産院（1施設2名ずつに分かれ、2日に分け見学） （4年次）マタニティウィメンズホスピタル（1施設2名ずつに分かれ、2日に分け見学） ・助産院では分娩が入っている場合、分娩見学、産後ケア、妊婦健診の見学を行う。 ・病院施設では主に保健指導や外来の妊婦健診などの見学を行う。 ・病院施設では褥室見学はできない。				
	2 実習目的 1. 開業助産師のイメージを掴み、イメージアップできる。 2. 地域で展開する産後ケア事業を見学し、開業助産師が地域で支援する内容を理解できる。 3. 地域の周産期医療システムの現状を理解できる。 4. 周産期医療の地域の課題について考察できる。 5. 母子保健活動における助産師の役割と実際がわかる。 6. 地域社会で生活する母子のニーズと支援について理解できる。 7. 他職種との連携の実際を理解できる。				
	3 実習内容 1. 助産院を見学する。 2. 施設の保健指導内容を見学する。 3. 周産期の切れ目のないケアと地域との連携について学ぶ。 4. 助産モデルと出会い、助産師の自律性と自立性について学ぶ。 5. 実習終了後、目的に沿って考察したことをレポートにまとめる。				
授業の予習・復習の内容と時間	予習				
	復習				
授業の留意点	学習ガイダンスおよび助産学実習関連の全ての資料を参考にして準備する。 学部内または看護基礎教育における母性看護活動論Ⅰ・Ⅱの妊娠期から産褥期の看護展開を復習し、不足な部分は復習しておくこと。				
学生に対する評価	実習レポート（20%）、実習内容・記録（80%）により評価する。				
教科書（購入必須）	実習要項参照。助産管理の資料参照のこと。				
参考書（購入任意）					

科 目 名	感染微生物学		担当教員名	塚原 高広		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	大学病院（2年）、地域の基幹病院（3年）、クリニック・在宅医療（1年）の実務経験（臨床医）がある。					
学習到達目標	感染とは何か、感染成立の3要素、検査、化学療法について説明できる。 感染制御、感染対策について説明できる。 主要な感染症について、原因となる病原体、感染経路、感染臓器、臨床経過、予防・治療法を説明できる。					
授業の概要	微生物学・感染症学の総論を学ぶことを重視し、将来どのような保健・福祉分野に進むにせよ必要な知識を習得する。各論では、臓器・器官別の感染症を理解することを中心とし、あわせて重要な病原体の性質について学ぶ。					
授業の計画	1 微生物総論 2 細菌総論 3 ウイルス総論 4 真菌・寄生虫総論 5 免疫とアレルギー 6 感染症総論 7 全身性ウイルス感染症・発熱性感染症 8 呼吸器感染症 9 消化器感染症・食中毒 10 血液媒介感染症・ウイルス性肝炎 11 尿路感染症・神経系感染症 12 皮膚・眼感染症 13 性感染症・高齢者の感染症・日和見感染症 14 その他の感染症 15 感染制御					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の該当部分を読んでおくこと。			90分	
	復習	配布資料や自分がとったノートを参考にして教科書を再読して知識を確認すること。			90分	
授業の留意点	教科書を中心に授業を進めるので、予習、復習を通じて必ず通読して欲しい。単に知識を暗記するのではなく、考え方を習得することを目指す。復習しても理解できない事項は、講義後やムードルで担当教員に質問すること。					
学生に対する評価	定期試験（100点）により評価する。 定期試験の成績が不良の場合には、課題の提出状況と内容を最終評価に加える場合がある。					
教科書（購入必須）	中野隆史編『看護学テキスト 微生物学・感染症学』南江堂（2020年）					
参考書（購入任意）	神谷茂監修『標準微生物学 第14版』医学書院 中込治著『ウォームアップ微生物学』医学書院					

科 目 名	生涯発達論		担当教員名	結城 佳子		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	看護師等として出生から看取りまでの心のケアを実践した経験を有する教員が、対人援助において必須である生涯発達に関する基本的知識と考え方を指導する科目					
学習到達目標	<p>生涯発達とは、胎生期から死に至る人の生涯において、より適切な適応のあり方を期待する包括的な概念である。保健・医療・福祉、教育等の領域で対象者を支援しようとするとき、生涯発達についての理解は不可欠である。生涯発達についての基本的考え方、人の生涯発達とその過程における危機的状況について理解することを目標とする。</p> <p>1. 生涯発達とは何か、基本的な考え方を述べることができる。</p> <p>2. 主な生涯発達理論について、説明できる。</p> <p>3. 各発達段階における危機について、発達段階の特徴、背景となる社会のありようと関連付けて具体的に述べることができる。</p>					
授業の概要	E. H. エリクソンの生涯発達理論にそって、各発達段階にある人々のありよう、達成すべき発達課題について学ぶ。また、発達課題への取り組みにおいて、危機的な状況にある人々等のありようを学ぶ。生涯発達の理解をふまえ、人を理解する上で生涯発達への視点がなぜ必要なのか、多様化・複雑化する社会の中での課題を検討する。					
授業の計画	<p>1 生涯発達とは 発達段階と発達課題</p> <p>2 生涯発達の基本的理解 E. H. エリクソンの考え方を中心に</p> <p>3 胎生期から乳児期前期 信頼 対 不信</p> <p>4 乳児期後期 信頼 対 不信</p> <p>5 幼児期前期 自律性 対 恥・疑惑</p> <p>6 幼児期後期 積極性 対 罪悪感</p> <p>7 学童期 勤勉性 対 劣等感</p> <p>8 中間まとめ 子どもという存在と重要他者</p> <p>9 思春期・青年期 同一性 対 拡散 (1) 思春期・青年期のからだとところの変化</p> <p>10 思春期・青年期 同一性 対 拡散 (2) アイデンティティとその危機</p> <p>11 思春期・青年期 同一性 対 拡散 (3) 成年期へ</p> <p>12 成年前期 親密性 対 孤独感</p> <p>13 成年期 生成継承性 対 停滞</p> <p>14 成熟期 統合 対 絶望</p> <p>15 まとめ 人が生きるということ</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回でテーマとする発達段階について調べ、疑問点等を明らかにする。			90分/回	
	復習	講義で示された主要な概念、キーワードについてノート等に整理し、関連する研究論文等を1編以上読む。			90分/回	
授業の留意点	少人数でのグループワークを取り入れた講義であるため、与えられた課題に対して自ら考えたことを積極的に発信し、他者と協力して取り組む姿勢が期待される。					
学生に対する評価	<p>レポート課題：中間、最終各50点、計100点</p> <p>以下の5段階で評価する。</p> <p>S：素点90点以上、A：素点80～89点、B：素点70～79点、C：素点60～69点、D：素点59点以下</p> <p>C以上の評価について単位を認定する。D評価の者は課題再提出とし、再提出は素点69点までとする。</p>					
教科書（購入必須）	テキストは使用せず、資料を配布する。					
参考書（購入任意）	必要時指示する。					

科 目 名	地域福祉論 I		担当教員名	小泉 隆文		
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	教職(高福)・社福士・精保士: 必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p> <p>4. 優れた社会福祉の実践から学び、自治体や社会福祉団体、教育機関や各種支援団体と連携して福祉社会の形成に寄与するとともに、諸活動を通じて地域住民との交流を図り地域課題の解決や市民生活の形成に貢献できる力を身につけている。</p> <p>5. 地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	社会福祉士としての障害福祉サービス事業所における実務経験をふまえ、理論と実践を結びつける講義である。					
学習到達目標	<p>①地域社会の概念・理論・変化について理解できる</p> <p>②地域包括ケアについて理解する</p> <p>③地域福祉の理論や概念が理解できる</p> <p>④地域福祉の推進主体や包括的支援体制について理解できる</p>					
授業の概要	<p>今日の社会福祉における取組は、地域を実践単位として行われることが多くなっている。地域とは地域住民の生活の場であり、住民を主体として具体的に実践・展開していく必要があるからであり、その実践の中で福祉サービスを必要とする人の生活課題へ介入し支援していくことが、社会福祉実践には求められる。そのため、地域福祉を考えていくためには、「何のための地域福祉なのか」「誰のための地域福祉なのか」を理解していく必要がある。</p> <p>本科目では、地域社会、地域福祉の概念や理論、歴史的発展過程を踏まえ、地域福祉実践がどのような役割を担うのか、考察を深めていく</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、地域福祉の概念と理論①</li> <li>2 地域福祉の概念と理論②、地域社会の変化①</li> <li>3 地域社会の変化②</li> <li>4 多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ、地域福祉と社会的孤立</li> <li>5 地域包括ケアシステム</li> <li>6 生活困窮者自立支援</li> <li>7 包括的支援体制と地域共生社会</li> <li>8 地域福祉ガバナンスと多機関協働</li> <li>9 多職種連携</li> <li>10 福祉以外の分野との機関協働の実際</li> <li>11 地域福祉の概念と理論</li> <li>12 地域福祉の歴史と動向</li> <li>13 地域福祉の推進主体①</li> <li>14 地域福祉の推進主体②</li> <li>15 地域福祉の主体と福祉教育</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業の該当箇所の教科書を読み、わからない言葉などを調べておく。			45 分	
	復習	授業で取り扱った箇所の教科書を読みつつ、講義資料などを用いて講義内容を整理する。			135 分	
授業の留意点	教科書と講義資料を中心に授業を進める。教科書に記載のない事項も積極的に取り扱う。					
学生に対する評価	試験 70 点、レポート 30 点					
教科書(購入必須)	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 ⑥『地域福祉と包括的支援体制』(中央法規)					
参考書(購入任意)	加山 弾、熊田博喜、中島 修、山本美香『ストーリーで学ぶ地域福祉』(有斐閣)					

科 目 名	地域福祉論Ⅱ		担当教員名	小泉 隆文		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	教職(高福)・社福士・精保士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p> <p>4. 優れた社会福祉の実践から学び、自治体や社会福祉団体、教育機関や各種支援団体と連携して福祉社会の形成に寄与するとともに、諸活動を通じて地域住民との交流を図り地域課題の解決や市民生活の形成に貢献できる力を身につけている。</p> <p>5. 地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	社会福祉士としての障害福祉サービス事業所における実務経験をふまえ、理論と実践を結びつける講義である。					
学習到達目標	<p>①地域を基盤としたソーシャルワークの方法について理解できる</p> <p>②災害時における総合的かつ包括的な支援体制について理解できる</p> <p>③福祉計画の機能や策定過程について理解できる</p> <p>④福祉行政と財政について理解できる</p>					
授業の概要	<p>今日の社会福祉における取組は、地域を実践単位として行われることが多くなっている。地域とは地域住民の生活の場であり、福祉サービスを必要とする人の生活課題へ介入し支援していくことが、社会福祉実践には求められる。</p> <p>本科目では、地域で展開されるソーシャルワークや、災害時の支援体制、地域福祉計画、福祉行財政について学んでいく。</p> <p>また、具体的な事例を踏まえて学生が考察できるようになることも目標とする。</p>					
授業の計画	<p>1 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題① 地域社会の概念と理論、地域社会の変化</p> <p>2 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題② 多様化・複雑化した地域営克課題の現状とニーズ</p> <p>3 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題③ 地域福祉と社会的孤立</p> <p>4 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制① 包括的支援体制と地域包括ケアシステム</p> <p>5 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制② 生活困窮者自立支援の考え方</p> <p>6 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制③ 地域共生社会の実現に向けた各種施策</p> <p>7 地域共生の実現に向けた多機関協働① 多機関協働を促進する仕組み</p> <p>8 地域共生の実現に向けた多機関協働② 多職種連携</p> <p>9 地域共生の実現に向けた多機関協働③ 福祉以外の分野との機関協働の実際</p> <p>10 災害時における総合的かつ包括的な支援体制① 非常時や災害時における法制度</p> <p>11 災害時における総合的かつ包括的な支援体制② 非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援</p> <p>12 地域福祉と包括的支援体制① 地域福祉ガバナンス</p> <p>13 地域福祉と包括的支援体制② 地域共生社会の構築</p> <p>14 コミュニティワーク事例検討① 地域を基盤としたソーシャルワーク</p> <p>15 地域共生社会における地域福祉のあり方</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業の該当箇所の教科書を読み、わからない言葉などを調べておく。			45分	
	復習	授業で取り扱った箇所の教科書を読みつつ、講義資料などを用いて講義内容を整理する。			135分	
授業の留意点	教科書と講義資料を中心に授業を進める。教科書に記載のない事項も積極的に取り扱う。					
学生に対する評価	試験 90点、リアクションペーパー10点					
教科書(購入必須)	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座⑥『地域福祉と包括的支援体制』(中央法規)』					
参考書(購入任意)	加山 弾、熊田博喜、中島 修、山本美香『ストーリーで学ぶ地域福祉』(有斐閣)					

科 目 名	権利擁護と成年後見		担当教員名	佐藤 みゆき		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	社福士・精保士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。 4. 優れた社会福祉の実践から学び、自治体や社会福祉団体、教育機関や各種支援団体と連携して福祉社会の形成に寄与するとともに、諸活動を通じて地域住民との交流を図り地域課題の解決や市民生活の形成に貢献できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	権利擁護(苦情解決第三者機関)の相談員の臨床経験を持つ教員が、社会福祉士として必要な権利擁護に関する法制度の知識、支援の実際について指導する科目					
学習到達目標	1. 法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎を理解する。 2. 権利擁護の意義と支える仕組みについて理解する。 3. 権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。 4. 権利擁護活動を実践する過程で直面する問題を、法的観点から理解する。 5. ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解する。					
授業の概要	本授業は、権利擁護の意義とそれを支える法制度への理解を深め、ソーシャルワーカーが関わる成年後見制度の概要を学び、その実際を知ることを目的とする。					
授業の計画	1 オリエンテーションと法の基礎 2 ソーシャルワークと法の関わり(1)-憲法 3 ソーシャルワークと法の関わり(2)-行政法 4 ソーシャルワークと法の関わり(3)-民法①民法総則 5 ソーシャルワークと法の関わり(4)-民法②契約 6 ソーシャルワークと法の関わり(5)-民法③不法行為 7 ソーシャルワークと法の関わり(6)-民法④親族 8 ソーシャルワークと法の関わり(7)-民法⑤相続 9 権利擁護の意義と支える仕組み(1)-権利擁護の意義、福祉サービスの適切な利用、苦情解決の仕組み 10 権利擁護の意義と支える仕組み(2)-虐待防止法の概要、差別禁止法の概要、意思決定支援ガイドライン 11 権利擁護活動で直面しうる法的諸問題 12 権利擁護に関わる組織、団体、専門職 13 成年後見制度(1)-成年後見の概要、後見の概要、保佐の概要、補助の概要 14 成年後見制度(2)-任意後見の概要、成年後見制度の最近の動向、成年後見制度利用支援事業 15 成年後見制度(3)-日常生活自立支援事業					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	次回の項目に関する福祉課題を想起し、関心に応じてインターネット等で調べておく。			90分	
	復習	講義レジュメの振り返りと各回に対応した国家試験問題を解く。			90分	
授業の留意点	ソーシャルワーク、日常生活と法との関連について、常に考察しながら主体的に学びを深めてほしい。 六法を活用し、条文をこまめに引くこと。					
学生に対する評価	試験 50点 レポート 45点 リアクションペーパーによる授業への積極的参加状況 5点 の合計点で評価する。					
教科書 (購入必須)	ミネルヴァ社会福祉六法 2023 ミネルヴァ書房					
参考書 (購入任意)	講義の中で適宜指示する。					

科 目 名	医学概論		担当教員名	塚原 高広		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	教職(高福)社福士・精保士:必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	大学病院(2年)、地域の基幹病院(3年)、クリニック・在宅医療(1年)の実務経験(臨床医)がある。					
学 習 到 達 目 標	生体としての人の解剖生理学的な仕組み、重要な疾病・障害の病態生理、症状、診断治療についての基礎的な医学的知識を習得し、医学的な説明ができることを目標とする。					
授 業 の 概 要	疾病について学ぶためには、正常の人体の構造と機能の理解が不可欠である。そのため、前半では人体の解剖生理の基本的な知識を学ぶ。後半では、前半で学んだ知識を応用して、疾病や障害の原因、発症機序、病態生理、症状・合併症、検査・診断法、治療法について習得する。さらに、リハビリテーションの概要および国際生活機能分類を理解する。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ライフステージにおける心身の特徴</li> <li>2 心身の加齢・老化、ライフステージ別の健康課題</li> <li>3 健康と疾病の概念、捉え方、国際生活機能分類、身体構造と心身機能(1) 器官</li> <li>4 身体構造と心身機能(2) 体液、循環器</li> <li>5 身体構造と心身機能(3) 泌尿器・呼吸器</li> <li>6 身体構造と心身の機能(4) 消化器・神経</li> <li>7 身体構造と心身の機能(5) 内分泌・生殖器</li> <li>8 身体構造と心身の機能(6) 筋・骨格・皮膚</li> <li>9 身体構造と心身機能(7) 免疫・感覚器</li> <li>10 疾病と障害(1) 疾病の発生原因と成立機序・リハビリテーション、感染症</li> <li>11 疾病と障害(2) 神経疾患、脳血管疾患、心疾患</li> <li>12 疾病と障害(3) 内分泌・代謝疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患</li> <li>13 疾病と障害(4) 消化器疾患、骨・関節疾患、血液疾患</li> <li>14 疾病と障害(5) 免疫・アレルギー疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患、口腔疾患、産婦人科疾患</li> <li>15 疾病と障害(6) 精神疾患、小児疾患、高齢者疾患、緩和ケア</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の該当部分を読んでおくこと。			90分	
	復習	構造と機能の関連に注意しながら配布資料を通読し、理解できない部分をはっきりさせること。復習の際は、図書館での参考書や関連図書の利用を勧める。			90分	
授 業 の 留 意 点	教科書、参考書、講義資料を中心に授業を進める。復習しても理解できない部分は、次回の講義やムードルで担当教員に質問すること。					
学 生 に 対 す る 評 価	定期試験(100点)により評価する。 定期試験の成績が不良の場合には、課題の提出状況と内容を最終評価に加える場合がある。					
教 科 書 (購入必須)	社会福祉士養成講座編集委員会編『医学概論』中央法規出版(2021年)					
参 考 書 (購入任意)	エレイン N. マリーブ『人体の構造と機能 第4版』医学書院(2015年)					



科 目 名	ソーシャルワーク論V		担当教員名	小泉 隆文		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	教職(高福)・社福士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切に実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p> <p>4. 優れた社会福祉の実践から学び、自治体や社会福祉団体、教育機関や各種支援団体と連携して福祉社会の形成に寄与するとともに、諸活動を通じて地域住民との交流を図り地域課題の解決や市民生活の形成に貢献できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	社会福祉士としての障害福祉サービス事業所における実務経験をふまえ、理論と実践を結びつける講義である。					
学習到達目標	<p>①学生がソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解することができる。</p> <p>②学生がグループを活用した支援について理解することができる。</p> <p>④学生がソーシャルワークにおけるスーパービジョンとコンサルテーションについて理解することができる。</p>					
授業の概要	本講義では、学生が実践で活かせるように、ソーシャルワークにおける代表的な実践モデルとアプローチについて学ぶ。また、地域に根ざしたソーシャルワーク実践を行うために、コミュニティワークの意義と目的および展開過程を概観する。さらに、実践を振り替えるために、スーパービジョンとコンサルテーションの意義・目的・方法について理解を深める。学生はこれらの学びを通して、社会福祉士あるいは精神保健福祉士として実践するにあたって必要なソーシャルワークの理論と方法を修得できるようにする。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、ソーシャルワークの実践モデルとは</li> <li>2 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ①ー治療モデル、ストレングスモデル、生活モデル</li> <li>3 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ②ー心理社会的アプローチ、帰納的アプローチ、問題解決アプローチ</li> <li>4 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ③ー課題中心アプローチ、行動変容アプローチ、認知アプローチ</li> <li>5 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ④ー危機介入アプローチ、エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ</li> <li>6 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ⑤ー解決志向アプローチ、さまざまなアプローチ</li> <li>7 ソーシャルワークの記録の意義と目的</li> <li>8 ソーシャルワークの記録の内容</li> <li>9 ケアマネジメントの原則・意義・方法</li> <li>10 グループワークの意義と目的</li> <li>11 グループワークの展開過程</li> <li>12 コミュニティワークの意義・目的・展開</li> <li>13 ソーシャルアドミニストレーションの概念とモデル</li> <li>14 ソーシャルアクションとコミュニティ・オーガナイズング</li> <li>15 スーパービジョンとコンサルテーションの意義、目的、方法</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業の該当箇所の教科書を読み、わからない言葉などを調べておく。				45分
	復習	授業で取り扱った箇所の教科書を読みつつ、講義資料などを用いて講義内容を整理する。				135分
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストと講義資料を中心に講義を進める。</li> <li>・ソーシャルワーク論I～IVで学んだことを十分に理解していることを前提に展開するので、よく復習しておくこと。</li> <li>・本講義の履修にあたっては、講義と同等時間の予習と復習を求める。講義・演習・実習は連続したものであることを意識して学ぶこと。</li> <li>・予習はシラバスに沿ってテキストを通度しておくこと。</li> </ul>					
学生に対する評価	学期末試験 90点、リアクションペーパー10点					
教科書(購入必須)	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座⑫『ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)』(中央法規)』					
参考書(購入任意)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フランシス・J. ターナー(1999)『ソーシャルワーク・トリートメント：相互連結理論アプローチ(上)(下)』(中央法規)</li> <li>・北島英治(2016)『グローバルスタンダードにもとづくソーシャルワーク・プラクティスー価値と理論ー』(ミネルヴァ書房)</li> </ul>					

目 名	精神医学と精神医療		担当教員名	浦田 泰成 他		
学 年 配 当	3年	単 位 数	4単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	精保士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切に実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	精神科病院等で医師・看護師としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容					
学習到達目標	<p>①精神疾患の分類を把握するとともに、主な疾患の症状、経過、治療方法などについて理解する。</p> <p>②精神医療と人権擁護の歴史を学ぶとともに、精神保健福祉法における精神科病院の入院形態や医療観察法について理解し、その中で精神保健福祉士の役割と法制度の課題を理解する。</p> <p>③精神科病院等においてチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割を理解する。</p> <p>④早期介入、再発予防や地域生活の支援等における地域の多職種連携・多機関連携における精神保健福祉士の役割について理解する。</p>					
授業の概要	代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援といった観点から理解する。さらに、精神科病院等における専門治療の内容及び特性について理解をめざすとともに、精神保健福祉士が、精神科チーム医療の一員として関わる際に担うべき役割について理解する。また、今日、精神保健医療福祉における連携の重要性と精神保健福祉士がその際に担うべき役割について理解することをめざす。					
授業の計画	<p>1 精神医学・医療の歴史(結城)</p> <p>2 精神現象の生物学的基礎(野口)</p> <p>3 精神障害の概念・健康(結城)</p> <p>4 精神疾患の診断分類①(野口)</p> <p>5 精神疾患の診断分類②(野口)</p> <p>6 診断、検査・診断手順と方法(野口)</p> <p>7 代表的な疾患とその症状、経過、予後①(野口)</p> <p>8 代表的な疾患とその症状、経過、予後②(野口)</p> <p>9 精神疾患の治療①(薬物治療、精神療法、脳刺激法)</p> <p>10 精神疾患の治療②(作業療法、地域精神医療)</p> <p>11 精神疾患患者の動向①(結城)</p> <p>12 精神疾患患者の動向②(浦田)</p> <p>13 医療制度改革と精神医療①(結城)</p> <p>14 医療制度改革と精神医療②(結城)</p> <p>15 医療機関の医療機能の明確化(野口)</p>		<p>16 入院治療・専門病棟①(野口)</p> <p>17 入院治療・専門病棟②(野口)</p> <p>18 入院治療と人権擁護①(結城)</p> <p>19 入院治療と人権擁護②(結城)</p> <p>20 外来治療、在宅医療・外来①(野口)</p> <p>21 外来治療、在宅医療・外来②(野口)</p> <p>22 医療観察法における入院・通院治療①(野口)</p> <p>23 医療観察法における入院・通院治療②(野口)</p> <p>24 精神科医療機関における精神保健福祉士の役割①(浦田)</p> <p>25 精神科医療機関における精神保健福祉士の役割②(浦田)</p> <p>26 精神保健福祉士と協働する職種①(浦田)</p> <p>27 精神保健福祉士と協働する職種②(浦田)</p> <p>28 治療導入に向けた支援(結城)</p> <p>29 再発予防や地域生活に向けた支援(結城)</p> <p>30 まとめ(野口、結城)</p>			
授業の予習・復習の内容と時間	予習	予習は、授業計画に記載されているキーワードについて事前に教科書の該当範囲を読んでおくこと。			90分	
	復習	授業で使用した資料を読み直し、ノートに整理すること。また、授業内で示した、トピックス、関連知識について、最新の情報を調べ、理解を深めること。			90分	
授業の留意点	本科目は講義形式により開講する。					
学生に対する評価	定期試験(100点)					
教科書(購入必須)	別途周知する。					
参考書(購入任意)	別途周知する。					

科 目 名	医療福祉論		担当教員名	榊原 次郎		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	社会福祉士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切に実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p> <p>3. 個々の地域を重視しつつ、人類がかかえる諸問題と異文化にも深い関心を持ち、その発展と問題解決に係わる生き方ができる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保健医療分野の社会福祉士・ケアマネジャーとして、病院 22 年、診療所 4 年の実務経験がある。その経験を通して、医療ソーシャルワーカーの援助技術および地域を基盤とする多職種・多機関の連携・協働について授業を行う。					
学習到達目標	<p>①医療福祉領域のソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を学び、保健医療に係る政策、制度、サービスについて、福祉との関係性を含め理解し習得する。</p> <p>②保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働について理解し、保健医療の中で疾病や疾病に伴う課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援の実践方法を習得することを到達目標とする。</p>					
授業の概要	医療現場における医療ソーシャルワーカー（MSW）の業務理解を通して、活用できるフォーマル・インフォーマルな社会資源やその連携方法を学ぶ。 病院だけでなく、診療所（クリニック）や在宅医療等地域の中で機能を発揮する MSW の具体的実践内容を知り、各種実習や社会生活で活用できるコミュニケーションスキル・面接技術を学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割</li> <li>2 疾病構造の変化に伴う保健医療の動向</li> <li>3 保健医療における福祉的課題</li> <li>4 保健医療の課題を持つ人（病者および家族）の理解</li> <li>5 医療倫理と保健医療に係る倫理的課題</li> <li>6 患者の権利と保健医療における意思決定支援</li> <li>7 保健医療サービスを提供する施設とシステム（地域医療計画・医療施設・保健所の役割）</li> <li>8 保健医療に係る政策・制度（医療保険制度・診療報酬制度）</li> <li>9 介護保険制度と地域包括ケア</li> <li>10 保健医療における社会福祉士の役割</li> <li>11 医療ソーシャルワーカー業務指針（業務の範囲と方法）</li> <li>12 保健医療における専門職と多職種連携実践（IPW）</li> <li>13 地域の関係機関との連携・協働</li> <li>14 医療ソーシャルワーカーの支援事例（入院中・退院時・災害現場における支援）</li> <li>15 医療ソーシャルワーカーの支援事例（外来・在宅医療・終末期ケアにおける支援）</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業計画の項目に沿った医療福祉に関する資料を読み込む。			90 分	
	復習	授業内容やその日の学びを振り返りノートにまとめる。講義の疑問点、感じたこと等をリアクションペーパーにて提出する。			90 分	
授業の留意点	保健医療福祉領域の広がりや連携に重要な役割を果たす医療ソーシャルワークの業務について、保健医療サービスの現状について関心を持ち、各種資料や報道される内容を分析し、予習・復習に努めること。 毎回授業終了時にリアクションペーパーの提出を求める。					
学生に対する評価	各回のリアクションペーパー（30 点）、定期試験（70 点）によって、総合的に評価する。					
教科書（購入必須）	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 5、保健医療と福祉』（中央法規）					
参考書（購入任意）	参考書については別途指示する。					

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅳ		担当教員名	榊原 次郎		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	社福士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保健医療分野の社会福祉士として、病院 22 年、診療所 4 年の実務経験がある。その経験を通して、専門的援助関係の形成、ソーシャルワーカーとしての面接技術、アウトリーチ、カンファレンスの実践など具体的に授業を行う。					
学習到達目標	ソーシャルワークにおける援助関係の形成について、人間関係と援助関係の違いを理解し、その概念と基本的な面接技術、援助関係形成方法等を習得する。更に臨床現場に必要なアウトリーチの意義や、ソーシャルワークに関連するコミュニケーションスキルの技法、実践場面を意識したカンファレンスを通し、その理論と方法を習得することを到達目標とする。					
授業の概要	<p>①支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うために、適切なコミュニケーションスキルや面接技術を学ぶ。</p> <p>②社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、制度の狭間に陥っているクライアントへのアウトリーチ方法など、より実践的かつ効果的なソーシャルワークを実践的に学ぶ。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 援助関係の意義と概念</li> <li>2 援助関係の形成方法①：自己覚知と他者理解</li> <li>3 援助関係の形成方法②：コミュニケーションとラポール</li> <li>4 面接技術①：面接の意義、目的、方法、留意点</li> <li>5 面接技術②：面接の場面と構造</li> <li>6 面接技術③：面接技法</li> <li>7 アウトリーチ①：アウトリーチの意義、目的、方法、留意点</li> <li>8 アウトリーチ②：アウトリーチを必要とする対象</li> <li>9 アウトリーチ③：ニーズの掘り起こし</li> <li>10 ソーシャルワークに関連する技法①：ネゴシエーション</li> <li>11 ソーシャルワークに関連する技法②：ファシリテーション</li> <li>12 ソーシャルワークに関連する技法③：プレゼンテーション</li> <li>13 カンファレンスの意義、目的、留意点</li> <li>14 カンファレンスの運営と展開①：同一機関内におけるケース</li> <li>15 カンファレンスの運営と展開②：複数機関にまたがるケース</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業計画の項目に沿ったテキストの該当箇所や資料を読み込む。			90分	
	復習	授業内容やその日の学びを振り返りノートにまとめる。講義の疑問点、感じたこと等をリアクションペーパーにて提出する。			90分	
授業の留意点	<p>ソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅲで学んだことを十分に理解していることを前提に展開するので、今までソーシャルワーク論で学んだことを復習をしておくこと。</p> <p>テキスト・講義資料を中心に授業を進め、ソーシャルワークの実践場面に基づいた演習も行うため、予習復習に努めること。</p> <p>毎回授業終了時にリアクションペーパーの提出を求める。</p>					
学生に対する評価	各回のリアクションペーパー（30点）、定期試験（70点）によって、総合的に評価する。					
教科書（購入必須）	<p>日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 6、ソーシャルワークの理論と方法（社会専門）』（中央法規）</p> <p>日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 12、ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』（中央法規）</p>					
参考書（購入任意）	参考書については別途指示する。					

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅵ		担当教員名	榊原 次郎		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	社福士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切に実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p> <p>4. 優れた社会福祉の実践から学び、自治体や社会福祉団体、教育機関や各種支援団体と連携して福祉社会の形成に寄与するとともに、諸活動を通じて地域住民との交流を図り地域課題の解決や市民生活の形成に貢献できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保健医療分野の社会福祉士として、病院 22 年、診療所 4 年の実務経験がある。その経験を通して、社会資源の開発、ソーシャルアクション、事例分析など具体的に授業を行う。					
学習到達目標	<p>フォーマル・インフォーマルな社会資源活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて習得する。</p> <p>個別事例の具体的な解決策及び事例の共通性や普遍性を見出すための、事例分析の意義や方法を習得することを到達目標とする。</p>					
授業の概要	<p>①ソーシャルワーク実践に必要な社会資源の活用・調整・開発およびソーシャルワーク実践における多様なネットワークの開発・形成・調整等について学ぶ。</p> <p>②これまでのソーシャルワーク論で学んできたことを基に、具体的な事例を踏まえて分析・研究し、ソーシャルワーカーの専門性を発揮できるよう、総合的かつ包括的な支援の実践を学ぶ。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会資源の活用・調整・開発①(意義、目的、方法の理解)</li> <li>2 社会資源の活用・調整・開発②(ニーズ集約、提言、計画策定、実施、評価の理解)</li> <li>3 社会資源の活用・調整・開発③(ソーシャルアクションの意義・目的・方法の理解)</li> <li>4 ソーシャルワーク実践におけるネットワーク形成①(ネットワーキングの意義・目的・方法の理解)</li> <li>5 ソーシャルワーク実践におけるネットワーク形成②(重層的なネットワーキングの理解)</li> <li>6 ソーシャルワーク実践におけるネットワーク形成③(コーディネーションの意義・目的・方法の理解)</li> <li>7 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実践①(総合的かつ包括的な支援の考え方の理解)</li> <li>8 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実践②(家族支援の理解)</li> <li>9 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実践③(地域支援の理解)</li> <li>10 ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実践④(非常時や災害時支援の理解)</li> <li>11 事例分析①(事例分析の意義・目的の理解)</li> <li>12 事例分析②(具体的な事例分析)</li> <li>13 事例研究①(事例研究の意義・目的・方法の理解)</li> <li>14 事例研究②(具体的な事例研究 1：社会福祉施設を中心に)</li> <li>15 事例研究③(具体的な事例研究 2：社会福祉相談機関を中心に)</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業計画の項目に沿ったテキストの該当箇所や資料を読み込む。			90分	
	復習	授業内容やその日の学びを振り返りノートにまとめる。講義の疑問点、感じたこと等をリアクションペーパーにて提出する。			90分	
授業の留意点	<p>ソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅴで学んだことを十分に理解していることを前提に展開するので、よく復習をしておくこと。</p> <p>テキスト・講義資料を中心に授業を進め、ソーシャルワークの実践場面に基いた演習も行うため、予習復習に努めること。</p> <p>毎回授業終了時にリアクションペーパーの提出を求める。</p>					
学生に対する評価	各回のリアクションペーパー (30 点)、定期試験 (70 点) によって、総合的に評価する					
教科書 (購入必須)	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座 6、ソーシャルワークの理論と方法(社会専門)』(中央法規)					
参考書 (購入任意)	参考書については別途指示する。					

科 目 名	精神保健福祉の原理 I		担当教員名	直嶋 美恵子		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	精保士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切に実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	精神科病院で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容					
学習到達目標	<p>①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について理解する。</p> <p>②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。</p> <p>③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。</p> <p>④精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。</p>					
授業の概要	<p>本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。</p> <p>「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷や障害者福祉の基本的枠組み、精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義やその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について理解し、幅広い視野から精神保健福祉の原理について学修する。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 障害者福祉の思想と原理</li> <li>2 障害者福祉の理念・リハビリテーション①</li> <li>3 障害者福祉の理念・リハビリテーション②</li> <li>4 障害者福祉の歴史的展開①</li> <li>5 障害者福祉の歴史的展開②</li> <li>6 国際生活機能分類（ICF）</li> <li>7 制度における「精神障害者」の定義</li> <li>8 精神障害の障害特性</li> <li>9 社会的排除と社会的障壁①；諸外国の動向</li> <li>10 社会的排除と社会的障壁②；日本の精神保健福祉施策に影響を与えた出来事</li> <li>11 社会的排除と社会的障壁③；日本の社会的障壁</li> <li>12 精神障害者の生活実態①；精神保健医療福祉と精神障害者</li> <li>13 精神障害者の生活実態②；精神科医療の特性</li> <li>14 精神障害者の生活実態③；精神障害者と家族</li> <li>15 精神障害者の生活実態④；精神障害者と社会生活</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業計画に記載されているキーワードについて事前に教科書の該当範囲を読んでおくこと。			90分	
	復習	授業で使用した資料を読み直し、ノートに整理すること。また、授業内で示した、現在の実践上の課題や、トピックス、関連知識について、最新の情報を調べ、理解を深めること。現在の精神保健福祉関連の法制度や事業の名称と合わせて関連づけて復習をしておくこと。			90分	
授業の留意点	本科目は講義形式により開講する。					
学生に対する評価	定期試験(100点)					
教科書（購入必須）	別途周知する。					
参考書（購入任意）	別途周知する。					

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅶ		担当教員名	松浦 智和		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	精保士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p> <p>5. 地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	精神科病院等で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容					
学習到達目標	<p>①精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。</p> <p>②精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。</p> <p>③精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。</p> <p>④個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をマイクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。</p>					
授業の概要	<p>本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。</p> <p>精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を学ぶとともに、当事者の家族やその関係性にも着目し、家族も対象たることを視野に入れた支援のありようについて学修する。さらには、多職種連携・多機関連携の方法について学び、精神保健福祉士の役割についても学修する。一連の学習過程では、ソーシャルワークが、個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をマイクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性があることを踏まえていく。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ソーシャルワークの構成要素</li> <li>2 ソーシャルワークの展開過程①；ケースの発見、インテーク、アセスメント</li> <li>3 ソーシャルワークの展開過程②；プランニング、支援の実施、モニタリング</li> <li>4 ソーシャルワークの展開過程③；支援の終結と事後評価、アフターケア</li> <li>5 ソーシャルワークの展開過程④；マイクロ・メゾ・マクロレベルにおける展開</li> <li>6 精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点①；人と環境の相互作用</li> <li>7 精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点②；精神障害及び精神保健の課題を有する人とその家族の置かれている状況</li> <li>8 精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点③；精神疾患・精神障害の特性を踏まえたソーシャルワークの留意点</li> <li>9 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程①アウトリーチ</li> <li>10 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程②インテーク</li> <li>11 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程③アセスメント</li> <li>12 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程④援助関係の形成技法</li> <li>13 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑤面接技術とその応用</li> <li>14 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑥支援の展開(人、環境へのアプローチ)</li> <li>15 精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑦支援の展開(ケアマネジメント)</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業計画に記載されているキーワードについて事前に教科書の該当範囲を読んでおくこと。			90分	
	復習	授業で使用した資料を読み直し、ノートに整理すること。また、授業内で示した、現在の実践上の課題や、トピックス、関連知識について、最新の情報を調べ、理解を深めること。			90分	
授業の留意点	本科目は講義形式により開講する。					
学生に対する評価	定期試験(100点)					
教科書(購入必須)	別途周知する。					
参考書(購入任意)	別途周知する。					

科 目 名	ソーシャルワーク演習Ⅵ		担当教員名	浦田 泰成・直嶋 美恵子		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	精保士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切に実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	精神科病院等で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容					
学習到達目標	<p>①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。</p> <p>②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。</p>					
授業の概要	個別指導・集団指導を通して、精神保健ソーシャルワークの事例（集団に対する事例を含む。）をソーシャルワーク実習Ⅲの事前学習として深める。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、ソーシャルワーク演習の意義と構成</li> <li>2 精神保健ソーシャルワークの領域①</li> <li>3 精神保健ソーシャルワークの領域②</li> <li>4 精神保健ソーシャルワークの領域③</li> <li>5 精神保健ソーシャルワークが対象とする諸課題①</li> <li>6 精神保健ソーシャルワークが対象とする諸課題②</li> <li>7 精神保健ソーシャルワークが対象とする諸課題③</li> <li>8 精神保健ソーシャルワークに関わる制度とサービス①</li> <li>9 精神保健ソーシャルワークに関わる制度とサービス②</li> <li>10 精神保健ソーシャルワークに関わる制度とサービス③</li> <li>11 精神保健ソーシャルワークに関わる援助技術①</li> <li>12 精神保健ソーシャルワークに関わる援助技術②</li> <li>13 精神保健ソーシャルワークに関わる援助技術③</li> <li>14 事例検討の意義と方法①</li> <li>15 事例検討の意義と方法②</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	次回の授業で行う援助技術や事例について講義で学んだ内容を復習しておくこと。			90分	
	復習	授業で取り上げた学習内容について体験を振り返り、理解を深めること。			90分	
授業の留意点	ソーシャルワーク演習Ⅵは、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ及びソーシャルワーク実習指導Ⅳ、ソーシャルワーク実習Ⅲと深く関連することに留意する。					
学生に対する評価	課題の提出（70点）、実践的課題への主体的能動的取組姿勢（30点）により評価する。					
教科書（購入必須）	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編. 最新 精神保健福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習[精神専門]. 中央法規					
参考書（購入任意）						



科 目 名	ソーシャルワーク演習Ⅶ		担当教員名	浦田 泰成・直嶋 美恵子	
学 年 配 当	3年	単 位 数	2	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	精保士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p> <p>5. 地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。</p>				
実務経験及びそれに関わる授業内容	精神科病院等で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学 習 到 達 目 標	<p>①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。</p> <p>②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。</p> <p>③精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるようになる。</p> <p>④精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。</p> <p>⑤精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。</p>				
授 業 の 概 要	<p>本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。本科目はソーシャルワーク実習Ⅲを行う前に学習を開始し、十分な学習を進める。なお、本科目はソーシャルワーク演習Ⅵと一体的に学修することが必要となる。</p> <p>以下に示す①領域、②課題、③法制度・サービス、④援助技術について、ソーシャルワーク演習Ⅵでの学びをベースに、精神保健福祉援助の事例（集団に対する事例を含む）を活用し、精神保健福祉士としての実際の思考と援助の過程における行為を想定し、精神保健福祉の課題を捉え、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得することを意図し演習を展開する。取り上げるすべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察する。</p> <p>①領域：医療機関、障害福祉サービス事業所、行政機関・社会福祉協議会等  ②課題：社会的排除、社会的孤立、受診・受療、課題発見、退院支援、地域移行支援、地域生活支援、自殺対策等  ③法制度・サービス：精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、障害者総合支援法、医療観察法、生活保護制度、介護保険法、児童福祉法等  ④援助技術：ソーシャルワークの過程を通じた援助（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア）、個別面接、グループワーク等</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 事例検討；医療機関における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実際①；入院病棟における事例</li> <li>2 事例検討；医療機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②；外来における事例</li> <li>3 事例検討；医療機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際③；訪問、デイ・ケアにおける事例</li> <li>4 事例検討；医療機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際④；精神科以外の医療機関における事例</li> <li>5 事例検討；障害福祉サービス事業所における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①；相談支援における事例</li> <li>6 事例検討；障害福祉サービス事業所における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②；就労支援における事例</li> <li>7 事例検討；障害福祉サービス事業所における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際③；生活訓練における事例</li> <li>8 事例検討；障害福祉サービス事業所における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際④；地域移行支援、地域定着支援、自立生活援助、地域生活支援等における事例</li> <li>9 事例検討；行政機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①；精神保健福祉センター、保健所</li> <li>10 事例検討；行政機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②；市町村</li> <li>11 事例検討；行政機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際③；ハローワーク、その他</li> <li>12 事例検討；社会福祉協議会における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①；生活困窮における事例</li> <li>13 事例検討；社会福祉協議会における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②；地域づくりにおける事例</li> <li>14 事例検討；社会福祉協議会における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際③；権利擁護における事例</li> <li>15 まとめ、事例検討の意義</li> </ol>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	次回の授業で行う援助技術や事例について講義で学んだ内容を復習しておくこと。			90分
	復習	授業で取り上げた学習内容について体験を振り返り、理解を深めること。			90分
授業の留意点	本科目は演習形式で開講する。				
学生に対する評価	<p>①講義内で作成するレポート等の成果物：50点</p> <p>②講義内でのプレゼンテーション等の状況：50点</p>				
教科書（購入必須）	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編. 最新 精神保健福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習 [精神専門]. 中央法規				
参考書（購入任意）	参考書については別途周知する。				

科 目 名	ソーシャルワーク演習Ⅷ		担当教員名	浦田 泰成・直嶋 美恵子	
学 年 配 当	4年	単 位 数	2	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	精保士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切に実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p> <p>5. 地域福祉の視点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。</p>				
実務経験及びそれに関わる授業内容	精神科病院等で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学 習 到 達 目 標	<p>①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性（知識、技術、価値）の基礎を獲得する。</p> <p>②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。</p> <p>③精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。</p> <p>④精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようになる。</p> <p>⑤精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。</p>				
授 業 の 概 要	<p>本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指定科目である。本科目はソーシャルワーク実習Ⅲを行う前に学習を開始し、十分な学習を進める。なお、本科目はソーシャルワーク演習Ⅵ・Ⅶと一体的に学修することが必要となる。</p> <p>以下に示す①領域、②課題、③法制度・サービス、④援助技術について、ソーシャルワーク演習Ⅵでの学びをベースに、精神保健福祉援助の事例（集団に対する事例を含む）を活用し、精神保健福祉士としての実際の思考と援助の過程における行為を想定し、精神保健福祉の課題を捉え、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得することを意図し演習を展開する。取り上げるすべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察する。</p> <p>①領域：高齢者福祉施設、教育機関（学校、教育委員会）、司法、産業・労働、児童等</p> <p>②課題：社会的排除、社会的孤立、受診・受療、課題発見、退院支援、地域移行支援、地域生活支援、自殺対策等</p> <p>③法制度・サービス：精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、障害者総合支援法、医療観察法、生活保護制度、介護保険法、児童福祉法等</p> <p>④援助技術：ソーシャルワークの過程を通じた援助（ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア）、個別面接、グループワーク等</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>事例検討；高齢者福祉施設における精神保健ソーシャルワークの課題、法制度、支援の実際①地域包括支援センターにおける事例</li> <li>事例検討；高齢者福祉施設における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②；介護療養型施設における事例</li> <li>事例検討；高齢者福祉施設における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際③；生活施設における事例</li> <li>事例検討；教育機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①；小学校・中学校、教育委員会における事例</li> <li>事例検討；教育機関における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②；高校、大学等における事例</li> <li>事例検討；司法における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①刑務所における事例</li> <li>事例検討；司法における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②矯正施設、保護観察所における事例</li> <li>事例検討；産業・労働領域における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①；企業における事例</li> <li>事例検討；産業・労働領域における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②；EAP</li> <li>事例検討；児童領域における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①；児童相談所における事例</li> <li>事例検討；児童領域における精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②；児童養護施設等における事例</li> <li>事例検討；合議体と精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際①；退院支援委員会、精神医療審査会</li> <li>事例検討；合議体と精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際②；障害支援区分認定審査会、自立支援協議会、契約締結審査会、医療観察法審判期日等</li> <li>事例検討；独立型による精神保健ソーシャルワーク、法制度、支援の実際</li> <li>まとめ、事例検討の意義</li> </ol>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	次回の授業で行う援助技術や事例について講義で学んだ内容を復習しておくこと。			90分
	復習	授業で取り上げた学習内容について体験を振り返り、理解を深めること。			90分
授業の留意点	本科目は演習形式で開講する。				
学生に対する評価	<p>①講義内で作成するレポート等の成果物：50点</p> <p>②講義内でのプレゼンテーション等の状況：50点</p>				
教科書（購入必須）	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編. 最新 精神保健福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習 [精神専門]. 中央法規				
参考書（購入任意）	参考書については別途周知する。				

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ		担当教員名	浦田 泰成・直嶋 美恵子		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	精保士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切に実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p> <p>5. 地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	精神科病院等で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容					
学習到達目標	<p>①ソーシャルワーク実習の意義について説明できる。</p> <p>②精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について説明できる。</p> <p>③ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、その技術等を実践できる。</p> <p>④精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、専門職としての行動がとれる。</p>					
授業の概要	個別指導および集団指導を通して、ソーシャルワーク実習Ⅲに向けた事前学習を行う。板書と視聴覚メディア（DVD）を活用しながら講義形式で進めるが、一部グループ学習・体験学習を取り入れる。					
授業の計画	<p>1 ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導及び集団指導の意義 ① 実習の構造</p> <p>2 ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導及び集団指導の意義 ② 実習の流れと学習課題</p> <p>3 精神保健医療福祉の現状① 日本の精神保健医療福祉施策の沿革</p> <p>4 精神保健医療福祉の現状② 精神障害者の現状</p> <p>5 実習施設の理解①；施設見学（医療機関）機関の理解</p> <p>6 実習施設の理解②；施設見学（医療機関）援助方法の理解</p> <p>7 実習施設の理解③；施設見学（障害福祉サービス事業所）事業所の理解</p> <p>8 実習施設の理解④；施設見学（障害福祉サービス事業所）援助方法の理解</p> <p>9 当事者による講話① 当事者の理解</p> <p>10 当事者による講話② 家族の理解</p> <p>11 精神保健福祉士としてのソーシャルワークに係る専門的知識</p> <p>12 精神保健福祉士としてのソーシャルワークに係る技術</p> <p>13 精神保健福祉士に求められる職業倫理に関する理解</p> <p>14 精神保健福祉士に求められる法的責任に関する理解</p> <p>15 まとめ</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の指定部分を読み、不明な点を事前に明らかにしておくこと。			90分	
	復習	授業で使用した資料を読み直し、ノートに整理すること。			90分	
授業の留意点						
学生に対する評価	各回終了時のリアクションペーパー（30%）、課題・レポート（70%）					
教科書（購入必須）	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、最新 精神保健福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[精神専門]、中央法規、2021年。					
参考書（購入任意）						

科 目 名	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ		担当教員名	浦田 泰成・直嶋 美恵子	
学 年 配 当	4年	単 位 数	4単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	精保士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。 2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。 5. 地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。				
実務経験及びそれに関わる授業内容	精神科病院等で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学 習 到 達 目 標	①ソーシャルワーク実習の意義について説明できる。 ②精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について説明できる。 ③ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、その技術等を実践できる。 ④精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、専門職としての行動がとれる。 ⑤具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。				
授 業 の 概 要	個別指導および集団指導を通して、ソーシャルワーク実習Ⅲの事前・事後学習を深める。実習前は、事前学習を進めるとともに、実習課題計画書の作成および事前訪問等を行う。また実習後は、実習報告会資料および実習報告書の作成を行い、作成した資料を基にプレゼンテーションを行う。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 2 事前学習の概要 3 実習計画書の意義 4 実習計画書の作成 5 実習におけるジレンマ事例 6 実習におけるスーパービジョン事例 7 職業倫理と法的責任(実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解等) 8 面接技術、アセスメント 9 個別支援計画 10 精神保健福祉士の業務と役割①；外部講師（医療機関） 11 精神保健福祉士の業務と役割②；外部講師（障害福祉サービス事業所等） 12 実習指導者との面談(実習打ち合わせ会における学生・実習指導者・教員の三者による実習計画作成・見直し) 13 事前学習報告会 14 確認学修、実習記録の内容・作成方法 15 まとめ、必要書類の作成		16 オリエンテーション 17 実習の振り返り 18 ジレンマ体験 19 スーパービジョン体験 20 実習報告会準備 21 実習報告会資料作成と発表会① 医療機関 22 実習報告会資料作成と発表会② 障害福祉サービス事業所等 23 実習報告会① 医療機関 24 実習報告会② 障害福祉サービス事業所等 25 実習報告書の作成① 実習施設の概要 26 実習報告書の作成② 実習全体の流れと内容 27 ケース研究レポートの作成① 医療機関 28 ケース研究レポートの作成② 障害福祉サービス事業所等 29 実習報告書・ケース研究レポート報告会① 医療機関 30 実習報告書・ケース研究レポート報告会② 障害福祉サービス事業所等、まとめ		
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の指定部分を読み、不明な点を事前に明らかにしておくこと。			90分
	復習	授業で使用した資料を読み直し、ノートに整理すること。			90分
授業の留意点					
学生に対する評価	各回終了時のリアクションペーパー（30%）、実習報告書（25%）、実習報告会におけるプレゼンテーション（25%）、その他の提出物（20%）				
教科書（購入必須）	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編. 最新 精神保健福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[精神専門]. 中央法規, 2021年.				
参考書（購入任意）					

科 目 名	ソーシャルワーク実習Ⅲ		担当教員名	浦田 泰成・直嶋 美恵子	
学 年 配 当	4年	単 位 数	5単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択	資 格 要 件	精保士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切に実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p> <p>4. 優れた社会福祉の実践から学び、自治体や社会福祉団体、教育機関や各種支援団体と連携して福祉社会の形成に寄与するとともに、諸活動を通じて地域住民との交流を図り地域課題の解決や市民生活の形成に貢献できる力を身につけている。</p> <p>5. 地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。</p>				
実務経験及びそれに関わる授業内容	精神科病院等で精神保健福祉士としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容				
学習到達目標	<p>① ソーシャルワーク実習を通して、精神保健福祉士としてのソーシャルに係る専門的知識と技術の理解に基づき精神保健福祉現場での試行と省察の反復により体得した技術等を実践できる。</p> <p>② 精神疾患や精神障害、メンタルヘルスの課題をもつ人びとのおかれている現状に関する知識をもとに、その生活実態や生活上の課題についてソーシャルワーク実習を行う実習先において調査し具体的に把握できる。</p> <p>③ 実習指導者からのスーパービジョンを受け、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、専門職としての行動がとれる。</p> <p>④ 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容について説明できる。</p>				
授業の概要	実習体験と考察を記録し、実習指導者によるスーパービジョンと、ソーシャルワーク実習指導担当教員による巡回指導及び帰校日指導等を通して、実習事項について個別指導や集団指導を受ける。				
授業の計画	<p>① 精神科医療機関や精神科診療所等における配属実習(105時間以上)</p> <p>② 障害福祉サービス事業所等における配属実習(105時間以上)</p> <p>③ 上記両実習に共通の事項</p>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習				
	復習				
授業の留意点	精神保健福祉士の倫理綱領を実習の基本姿勢においたうえで、実習生として現場に臨む。				
学生に対する評価	実習指導者および巡回指導担当教員の評価、実習日誌、その他の課題等を総合的に評価する。				
教科書(購入必須)					
参考書(購入任意)					

科 目 名	障害児の病理と心理 I		担当教員名	玉重 詠子		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	教職(特支)：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切に実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	<p>言語聴覚士として病院での臨床を経験し、児童相談所・特別支援教育センター・特別支援学校との連携を経験した教員が、言語病理学的視点から言語障害のアセスメントについて指導する科目である。</p>					
学習到達目標	<p>本講義の学習到達目標を以下の3点とする。</p> <p>(1) 言語発達の阻害要因を説明できる。</p> <p>(2) 言語障害に関わる代表的な検査について説明できる。</p> <p>(3) 障害種別による言語発達の支援目標の違いを説明できる。</p>					
授業の概要	<p>特別支援教育の対象には、ことばの遅れや発音の不明瞭さのある児童・生徒が多くみられる。特別支援教育の中でことばの指導を効果的に行うことを目的に、本講義では、構音障害と言語発達遅滞の評価と支援の基礎について学ぶ。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス 言語にかかわる障害の種類</li> <li>2 日本語音韻の理解(1) 音韻の産生</li> <li>3 日本語音韻の理解(2) 弁別素性</li> <li>4 構音の発達と構音障害</li> <li>5 構音検査(1) 検査の概要</li> <li>6 構音検査(2) 結果のまとめと解釈</li> <li>7 構音指導(機能性構音障害事例)</li> <li>8 文献「絵画語い発達検査」を読み、整理する</li> <li>9 言語の発達(1) コミュニケーションの発達</li> <li>10 言語の発達(2) 語彙・文法の獲得</li> <li>11 言語発達の阻害要因 言語発達評価の基本的な流れ</li> <li>12 語彙発達の評価 絵画語い発達検査(PVT-R)の概要</li> <li>13 言語発達の評価(1) 国リハ式&lt;S-S法&gt;言語発達遅滞検査の概要</li> <li>14 言語発達の評価(2) 国リハ式&lt;S-S法&gt;言語発達遅滞検査の発達段階(段階1~2)</li> <li>15 言語発達の評価(3) 国リハ式&lt;S-S法&gt;言語発達遅滞検査の発達段階(段階3~5)</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	事前配布する資料に目を通し、専門用語を調べておくこと。			90分	
	復習	講義後は検査法について復習し、各アセスメントのポイントをまとめておくこと。			90分	
授業の留意点	<p>自らの構音の仕方を内省し、児童への構音指導をイメージすることが望ましい。また、語彙の獲得についての経験を思い出し、効率的な語彙獲得を考察してほしい。自分の考えを根拠をもって他者へ伝えられるように努力してほしい。</p> <p>受講者の関心や理解のようす、状況等の変化によって順番を変更することがある。</p> <p>対面授業での実施を予定しているが、状況によっては遠隔授業へ変更する可能性がある。</p>					
学生に対する評価	<p>授業内課題 40点、定期試験 60点により評価する。</p> <p>※状況により、定期試験を成績評価レポート(60点)に変更する可能性がある。</p>					
教科書(購入必須)	テキストは使用せず、プリントを参考資料として配布する。					
参考書(購入任意)						

科 目 名	障害児の病理と心理Ⅱ		担当教員名	玉重詠子		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	教職(特支)：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	言語聴覚士として病院での臨床を経験し、児童相談所・特別支援教育センター・特別支援学校との連携を経験した教員が、障害児の支援法について指導する科目である。					
学習到達目標	<p>本講義の学習到達目標を以下の4点とする。</p> <p>(1) 言語発達の阻害要因を理解し、支援に応用できる。</p> <p>(2) 障害の特性(知的障害・自閉症スペクトラム障害)を理解し、説明できる。</p> <p>(3) 知的機能の評価方法を説明できる。</p> <p>(4) 言語発達検査の結果を解釈し、言語発達段階に応じた支援計画を作成できる。</p>					
授業の概要	特別支援教育の対象には、ことばの遅れや発音の不明瞭さのある児童・生徒が多くみられる。本講義では、「障害児の病理と心理Ⅰ」で学んだ言語評価法を基礎に、代表的な知能検査の活用について学ぶ。特別支援教育の中でことばの指導を効果的に行うことを目的に、障害特性を理解した上での言語発達障害への具体的な支援方法について学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス 言語発達の阻害要因</li> <li>2 自閉症(1) 自閉症児の言語行動</li> <li>3 自閉症(2) 自閉症児の言語指導</li> <li>4 知能研究の歴史</li> <li>5 知的機能の評価(1) 田中ビネー知能検査V：概要(改訂版鈴木ビネー知能検査法と比較して)</li> <li>6 知的機能の評価(2) 田中ビネー知能検査V：結果の整理</li> <li>7 知的機能の評価(3) 知能検査のまとめ</li> <li>8 国リハ式&lt;S-S法&gt;言語発達遅滞検査の復習</li> <li>9 言語発達遅滞児の支援(1) 指導の種類を選択する 指導前の事例の様子を整理する</li> <li>10 言語発達遅滞児の支援(2) 文献講読「ひらがな指導」</li> <li>11 言語発達遅滞児の支援(3) 指導目標と指導期間を設定する 具体的指導を計画する</li> <li>12 言語発達遅滞児の支援(4) 事例解説・文献解説</li> <li>13 言語発達遅滞児の支援(5) 言語指導の実際・まとめ</li> <li>14 知的機能の評価(4) 認知機能検査 日本版DN-CAS：理論</li> <li>15 知的機能の評価(5) 認知機能検査 日本版DN-CAS：概要</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	前期授業で学習した国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査を復習し、論理的支援内容・方法を計画する準備をすること。			90分	
	復習	各回の要点をまとめること。各検査法については、概要をまとめること。			90分	
授業の留意点	特別支援学校教諭免許に関わる講義であるため、障害児教育実習を念頭において理解を深めることが望ましい。本講義で学習する知的機能検査の内容と関連付けた論理的な支援内容・方法を積極的に考えてほしい。 受講者の関心や理解のようす、状況等の変化により順番を変更することがある。 対面授業での実施を予定しているが、状況によっては遠隔授業へ変更する可能性がある。					
学生に対する評価	講義内課題 40点、定期試験 60点 ※状況により、定期試験を成績評価レポート(60点)に変更する可能性がある。					
教科書(購入必須)	テキストは使用せず、プリントを参考資料として配付する。					
参考書(購入任意)	東田直樹(著) 『自閉症の僕が跳びはねる理由』 角川文庫					

科目名	心理学		担当教員名	糸田 尚史	
学年配当	2年	単位数	2単位		開講形態 講義
開講時期	前期	必修選択	栄養：選択 社会福祉：必修		資格要件 教職(高公)・社福士・精保士：必修
対応するティポロマ・ポリシー					
実務経験及びそれに関わる授業内容	児童相談所・知的障害者更生相談所・身体障害者更生相談所・児童家庭支援センターなどにおいて心理職として心理臨床の実務経験を有する教員が、人間の心と行動に関する科学的理解と心理学的支援の方法について指導する科目				
学習到達目標	①人間の心の基本的なしくみとはたらき、環境との相互作用によって生じる心理と行動について理解し、臨床や実践に応用できる。②人間の発達段階に応じた心理的課題について理解し、臨床や実践が行える。③日常生活と心の健康との関係性について理解し、臨床や実践に活かすことができる。④心理学的なものの方や考え方に基いたアセスメントなどの諸方法について理解し、対象者を支援することができる。				
授業の概要	人間(動物)の心と行動を客観的・科学的に研究する学問としての「心理学」について、日常生活にひそむ心理学的な現象を実際に体験していただきながら進める。脳にハッキングをかけたり、心理系の映画や映像などを視聴したりして、体系的かつ実践的に学習する。また、多数の写真・イラスト・マンガなどのビジュアル・プラクティスも活用し、人間の認知、子どもから大人までの生涯発達、心理的支援などについて考えていく。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 心理学の歴史・対象・方法：心理学史、哲学的心理学、要素主義・構成主義、機能主義、精神分析、行動主義、認知バイアス、ゲシュタルト心理学、認知心理学、生態学的心理学、進化心理学、自制心の熟達化、行動(諸)科学、履修上の注意事項、成績評価の方法</li> <li>2 感覚・知覚・認知①：脳、神経システム、感覚遮断(SD)、順応、関(いき)、サブリミナル効果、プライミング効果、ニュー・ロック心理学、文脈効果、知覚的セット(構え)、選択的注意、非注意による見落とし、目、盲点の実験、視覚</li> <li>3 感覚・知覚・認知②：色彩視、色覚多様性、図と地、ルビンの盃、多義図形(曖昧図形)、ゲシュタルト知覚、両眼視差、立体視、奥行知覚、エイムズの部屋</li> <li>4 感覚・知覚・認知③：錯視、錯覚、ミュラー・リヤー錯視、サッチャー(トンプソン)錯視、シェパード錯視、カフェウォール錯視、恒常性、共感覚(異感性間協応)、擬態</li> <li>5 感覚・知覚・認知④：耳、聴覚、音源定位、腹話術効果、錯聴、マカーク効果、感覚の相補性、鼻、嗅覚、舌、味覚、umami(うまみ)、味覚嫌悪学習(条件づけられた味覚忌避)</li> <li>6 感覚・知覚・認知⑤：触覚、ホムンクルス(身体地図)、アリストテレスの錯覚、バクシオン(視覚誘導性自己運動感覚)、アフオーダンス、応用心理学、認識(認知)と文化、ツァイガルニック効果</li> <li>7 記憶と忘却：記憶の種類、感覚記憶、残像、残効、直観像、多重(二重)記憶モデル、系列内位置効果、H・M氏、ワーキングメモリー(短期記憶)、リハーサル、チャンク、記憶方略、長期記憶、プライミング記憶、フラッシュバルブ記憶、スキーマ理論、記憶術、忘却、虚偽記憶</li> <li>8 思考・言語・知能：思考、概念、推論、問題解決、ウェイソン選択課題、演繹、帰納、ヒューリスティックス、認知バイアス、言語発達、言語相対性仮説、言語獲得、失語症、言語検査、知能理論、知能検査(ビネー法・ウェクスラー法)、IQ(知能指数)、知的能力障害(知的発達症)</li> <li>9 学習：学習理論、アクティブ・ラーニング、刺激・反応(反射)、古典的(レスポナドント)条件づけ、強化、消去、自発的回復、般化、弁別(分化)、実験神経症、味覚嫌悪学習、生物学的制約、オペラント(道具的)条件づけ、問題箱、試行錯誤学習、動因低減説、潜在学習、洞察学習、アハ!体験、認知バイアス、間歇強化、行動形成、社会的認知(社会的学習)理論、模倣、正統的周辺参加、認知的徒弟制、発達の最近接領域</li> <li>10 感情と動機づけ：感情生起のメカニズム、原因帰属理論、顔面フィードバック説、コンフリクト(葛藤)、フラストレーション(欲求不満)、動機づけ(モチベーション)、内発的動機づけ、欲求階層説、原因帰属理論、自己効力感、学習性無力感、アンダーマイニング効果</li> <li>11 性格とパーソナリティ：気質、類型(タイプ)論、似非科学的(目迷信的)類型、特性論、バーナム効果、ビッグ・ファイブ、力動論、防衛メカニズム、状況論、相互作用論、心理検査法、人格検査、質問紙法、投影法、ロールシャッハ検査、TAT(主観統覚検査)、P-Fスタディ(絵画欲求不満検査)、Y-G性格検査、Baumtest(樹木画検査)、作業検査法</li> <li>12 社会と集団：社会的促進、社会的抑制、社会的手抜き、援助行動・愛他的行動、社会的比較過程理論、自己開示、対人魅力、帰属理論、リーダーシップ、集団浅慮、態度、バランス理論、同調、服従、偏見・差別、流言、パニックの心理、説得、心理的リアクタンス、認知的不協和</li> <li>13 発達と障害：生涯発達、発達段階、発達課題、遺伝・環境、輻輳説、相互作用説、行動遺伝学、エソロジー(動物行動学)、アタッチメント(愛着)、発生的認識論(認知発達理論)、道徳性の発達、アイデンティティ(自我同一性)、中年期の危機、結晶性知能・流動性知能、高齢者心理、認知症、神経発達症(発達障害)、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症</li> <li>14 心理臨床と心理的支援①：不適応(適応障害)、ストレス理論、汎適応症候群、タイプA、トラウマ、心的外傷後ストレス症(PTSD)、サバイバーズ・ギルト、依存症、レジリエンス、首尾一貫感覚、心理アセスメント、ケース・フォーミュレーション(事例定式化)、ソーシャル・ワーク、社会構成主義</li> <li>15 心理臨床と心理的支援②：カウンセリング(支持的精神療法)、サイコセラピー(心理療法/精神療法)、系統的脱感作(脱鋭敏化)法、精神分析療法、交流分析(エゴグラム)、応用行動分析、認知行動療法、ソーシャル・スキル・トレーニング(SST)、家族療法、解決志向アプローチ(SFA)、心理劇、遊戯療法、公認心理師、まとめ</li> </ol>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業計画にある心理学的トピックスは事前に山村豊・高橋一公共著『心理学 [カレッジ版]』(医学書院)、子安増生・丹野義彦・箱田裕司監修『有斐閣 現代心理学辞典』(有斐閣)、インターネットなどで予習した上で授業に臨む。			90分
	復習	授業後は配布されたPowerPoint資料とそれへのメモ書きをもとに復習していただく。			90分
授業の留意点	スライドを用いた心理学実験も時々行うので、楽しみながらもアクティブに(主体的・対話的に深く)学修していただきたい。配布資料は順番に綴り、遺漏なく管理し、期末レポートの作成にも活用すること。				
学生に対する評価	(1) 期末レポート：70点 (2) 授業毎のリアクション・ペーパー：30点				
教科書(購入必須)	山村豊・高橋一公 共著 『心理学 [カレッジ版]』 医学書院 2017年				
参考書(購入任意)	子安増生・丹野義彦・箱田裕司 監修 『有斐閣 現代心理学辞典』 有斐閣 2021年 社会福祉学習双書編集委員会 著 『心理学と心理的支援』 全国社会福祉協議会 2022年 行場次朗・大淵憲一 共著 『心理学概論』 サイエンス社 2021年 心理学専門校ファイブアカデミー 著 『心理学 キーワード&キーパーソン事典』 ナツメ社 2020年 鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃 編 『心理学：第5版補訂版』 東京大学出版会 2020年 坂口典弘・相馬花恵 編 『ステップアップ心理学シリーズ「心理学入門」：こころを科学する10のアプローチ』 講談社 2018年 長田久雄 編 『看護学生のための心理学：第2版』 医学書院 2016年 N・C・ベンソン著(清水・大前 訳) 『マンガ 心理学入門：現代心理学の全体像が見える』 講談社(ブルーバックス) 2001年				



科 目 名	公民科指導法 I		担当教員名	三戸 尚史		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(高公)：必修		資 格 要 件	教職(高公)：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容	民間企業に勤務後、31歳で教員に転職。約30年間、高校教諭を努める。授業では、自らの経験や失敗から得た教訓を伝えるとともに、常に、「理想の教師とは…」「教師はいかにあるべきか…」を問うている。学生たちには、授業を通じて、様々な角度から考え・大いに迷い、自らが目指す教師像を創造し、構築して欲しい。					
学習到達目標	<p>&lt;到達目標&gt; 「良識ある公民としての資質」をはぐくむために必要となる見方・考え方、意識、行動、生き方・あり方を学び、それに対して適切な学習指導法を探究し、自らが社会の一員としての自覚と責任を身につける。</p> <p>&lt;授業目標&gt; 日本国憲法・教育基本法の理想とする平和で民主的な国家社会の形成者を育成する教科であるということをしっかり認識し、授業実践などを具体的に学びながら、社会科授業の理論と実際を習得させることを目標とする。</p>					
授業の概要	生徒が能動的に学ぶ意欲を引き出すための授業のあり方(年間計画内容、教材、方法など)について、学生の理解を促したい。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 社会科教師に求められるもの</li> <li>3 社会科成立の歴史(戦前の社会科、戦後の社会科)</li> <li>4 学習指導要領の変化と社会科教育</li> <li>5 公民科の目標と公民科の学力</li> <li>6 公民科授業づくりの可能性と課題</li> <li>7 公民科教育の現状と課題</li> <li>8 「公民科」の内容分析と指導方法</li> <li>9 教科の評価について</li> <li>10 学習指導案の作成について</li> <li>11 学習指導案の実践事例分析と作成実践</li> <li>12 模擬授業の実施と分析①</li> <li>13 模擬授業の実施と分析②</li> <li>14 模擬授業の総括(意見交換・レポート)</li> <li>15 前期のまとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容を事前に確認するとともに、疑問点・問題事項などを明確にしておく。			90分	
	復習	ワークシートなどで、授業内容を復習・理解するとともに、授業での気づきや感想・評価なども記録する。			90分	
授業の留意点	事前に配布する資料に基づいて、受講者への予習・復習の内容等について、その都度指示する。学習指導案づくり、模擬授業のための知識・理論など総合的的力量を身につけさせたい。学生が自主的、意欲的に授業に参加することを期待する。					
学生に対する評価	授業参加態度(ルーブリック)、試験、レポート、模擬授業等により評価する。 100点満点(授業参加態度20点、試験・レポート60点、模擬授業20点)					
教科書(購入必須)	高等学校教科用図書(『現代政治・経済』:清水書院) ※但し、高校時代に使用していた教科書が手元にある場合は、購入の必要なし 『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版 2018年(平成30年)					
参考書(購入任意)	佐藤功著『憲法と君たち』(時事通信社) 木村草太著『憲法という希望』(講談社現代新書)					

科 目 名	公民科指導法Ⅱ		担当教員名	三戸 尚史		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(高公):必修		資 格 要 件	教職(高公):必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容	民間企業に勤務後、31歳で教員に転職。約30年間、高校教諭を努める。授業では、自らの経験や失敗から得た教訓を伝えるとともに、常に、「理想の教師とは…」「教師はいかにあるべきか…」を問うている。学生たちには、授業を通じて、様々な角度から考え・大いに迷い、自らが目指す教師像を創造し、構築して欲しい。					
学習到達目標	<p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>「良識ある公民としての資質」をはぐくむために必要となる見方・考え方、意識、行動、生き方・あり方を学び、それに対して適切な学習指導法を探究し、自らが社会の一員としての自覚と責任を身につける。</p> <p>&lt;授業目標&gt;</p> <p>日本国憲法・教育基本法の理想とする平和で民主的な国家社会の形成者を育成する教科であるということをしっかり認識し、授業実践などを具体的に学びながら、社会科授業の理論と実際を習得させることを目標とする。</p>					
授業の概要	生徒が能動的に学ぶ意欲を引き出すための授業のあり方(年間計画内容、教材、方法など)について、学生の理解を促したい。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 「公共」「政治・経済」「倫理」の内容分析と指導方法①</li> <li>3 「公共」「政治・経済」「倫理」の内容分析と指導方法②</li> <li>4 創造的な授業実践から学ぶもの</li> <li>5 新聞記事を生かした授業(情報機器の活用を含む)</li> <li>6 討論授業の工夫</li> <li>7 時事問題について分析と研究協議①(情報機器の活用を含む)</li> <li>8 時事問題について分析と研究協議②(情報機器の活用を含む)</li> <li>9 学習指導案の作成と検討</li> <li>10 模擬授業の実施と分析①</li> <li>11 模擬授業の実施と分析②</li> <li>12 模擬授業の実施と分析③</li> <li>13 模擬授業の実施と分析④</li> <li>14 模擬授業の総括(意見交換・レポート)</li> <li>15 後期のまとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容を事前に確認するとともに、疑問点・問題事項などを明確にしておく。			90分	
	復習	ワークシートなどで、授業内容を復習・理解するとともに、授業での気づきや感想・評価なども記録する。			90分	
授業の留意点	事前に配布する資料に基づいて、受講者への予習・復習の内容等について、その都度指示する。学習指導案づくり、模擬授業のための知識・理論など総合的力量を身につけさせたい。学生が自主的、意欲的に授業に参加することを期待する。					
学生に対する評価	授業参加態度(ルーブリック)、試験、レポート、模擬授業等により評価する。 100点満点(授業参加態度20点、試験・レポート60、模擬授業20点)					
教科書(購入必須)	高等学校教科用図書(『現代政治・経済』:清水書院) ※但し、高校時代に使用していた教科書が手元にある場合は、購入の必要なし 『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版 2018年(平成30年)					
参考書(購入任意)	佐藤功著『憲法と君たち』(時事通信社) 木村草太著『憲法という希望』(講談社現代新書)					

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅲ		担当教員名	嘉村 藍		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開講形態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択		資格要件	教職(高福)・社福士・精保士：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容	精神科救急情報センター相談員としての実務経験あり。スクールソーシャルワーカーとしての実務経験あり。					
学習到達目標	①人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。 ②ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。					
授業の概要	ソーシャルワークの過程とそれにかかる知識を用い、特に人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについてテキストを用いて理解します。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション：人と環境の交互作用</li> <li>2 人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：システム理論①</li> <li>3 人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：システム理論②</li> <li>4 人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：生態学理論</li> <li>5 人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：バイオ・サイコ・ソーシャルモデル</li> <li>6 人と環境の交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク</li> <li>7 ソーシャルワークの過程：概要とケースの発見、インテーク</li> <li>8 ソーシャルワークの過程：アセスメント</li> <li>9 ソーシャルワークの過程：プランニング</li> <li>10 ソーシャルワークの過程：支援の実施、モニタリング</li> <li>11 ソーシャルワークの過程：支援の終結と事後評価</li> <li>12 ソーシャルワークの記録</li> <li>13 ケアマネジメント①</li> <li>14 ケアマネジメント②</li> <li>15 集団を活用した支援</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	ソーシャルワーク論Ⅰ、ソーシャルワーク論Ⅱの内容を復習したうえで、授業に臨むこと 予習箇所と復習箇所は、テキスト頁でオリエンテーション時に示します。					
学生に対する評価	レポート2回（各15点） 受講態度（リアクションペーパー）と出席状況（10点） 定期テスト：60点 出欠は、リアクションペーパーで確認します。記載された質問は、翌週の授業冒頭に回答します。					
教科書（購入必須）	社会福祉士の指定科目に関するテキストを購入していただきます。追って指示します。					
参考書（購入任意）						

科 目 名	ソーシャルワーク論V		担当教員名	小泉 隆文		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	教職(高福)・社福士:必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切に実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。</p> <p>4. 優れた社会福祉の実践から学び、自治体や社会福祉団体、教育機関や各種支援団体と連携して福祉社会の形成に寄与するとともに、諸活動を通じて地域住民との交流を図り地域課題の解決や市民生活の形成に貢献できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	社会福祉士としての障害福祉サービス事業所における実務経験をふまえ、理論と実践を結びつける講義である。					
学習到達目標	<p>①学生がソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解することができる。</p> <p>②学生がグループを活用した支援について理解することができる。</p> <p>④学生がソーシャルワークにおけるスーパービジョンとコンサルテーションについて理解することができる。</p>					
授業の概要	本講義では、学生が実践で活かせるように、ソーシャルワークにおける代表的な実践モデルとアプローチについて学ぶ。また、地域に根ざしたソーシャルワーク実践を行うために、コミュニティワークの意義と目的および展開過程を概観する。さらに、実践を振り替えるために、スーパービジョンとコンサルテーションの意義・目的・方法について理解を深める。学生はこれらの学びを通して、社会福祉士あるいは精神保健福祉士として実践するにあたって必要なソーシャルワークの理論と方法を修得できるようにする。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、ソーシャルワークの実践モデルとは</li> <li>2 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ①ー治療モデル、ストレングスモデル、生活モデル</li> <li>3 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ②ー心理社会的アプローチ、帰納的アプローチ、問題解決アプローチ</li> <li>4 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ③ー課題中心アプローチ、行動変容アプローチ、認知アプローチ</li> <li>5 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ④ー危機介入アプローチ、エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ</li> <li>6 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ⑤ー解決志向アプローチ、さまざまなアプローチ</li> <li>7 ソーシャルワークの記録の意義と目的</li> <li>8 ソーシャルワークの記録の内容</li> <li>9 ケアマネジメントの原則・意義・方法</li> <li>10 グループワークの意義と目的</li> <li>11 グループワークの展開過程</li> <li>12 コミュニティワークの意義・目的・展開</li> <li>13 ソーシャルアドミニストレーションの概念とモデル</li> <li>14 ソーシャルアクションとコミュニティ・オーガナイズング</li> <li>15 スーパービジョンとコンサルテーションの意義、目的、方法</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業の該当箇所の教科書を読み、わからない言葉などを調べておく。			45分	
	復習	授業で取り扱った箇所の教科書を読みつつ、講義資料などを用いて講義内容を整理する。			135分	
授業の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストと講義資料を中心に講義を進める。</li> <li>・ソーシャルワーク論I～IVで学んだことを十分に理解していることを前提に展開するので、よく復習しておくこと。</li> <li>・本講義の履修にあたっては、講義と同等時間の予習と復習を求める。講義・演習・実習は連続したものであることを意識して学ぶこと。</li> <li>・予習はシラバスに沿ってテキストを通度しておくこと。</li> </ul>					
学生に対する評価	学期末試験 90点、リアクションペーパー10点					
教科書(購入必須)	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座⑫『ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)』(中央法規)』					
参考書(購入任意)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フランシス・J. ターナー(1999)『ソーシャルワーク・トリートメント:相互連結理論アプローチ(上)(下)』(中央法規)</li> <li>・北島英治(2016)『グローバルスタンダードにもとづくソーシャルワーク・プラクティスー価値と理論ー』(ミネルヴァ書房)</li> </ul>					

科 目 名	医学概論		担 当 教 員 名	塚原 高広		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択		資 格 要 件	教職（高福）社福士・精保士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 人間一人ひとりの生活や健康問題、公共政策的な課題について社会的視点を持って科学的に捉え、具体的な支援をするために保健、医療、教育などの関連分野と連携・協働できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	大学病院（2年）、地域の基幹病院（3年）、クリニック・在宅医療（1年）の実務経験（臨床医）がある。					
学習到達目標	生体としての人の解剖生理学的な仕組み、重要な疾病・障害の病態生理、症状、診断治療についての基礎的な医学的知識を習得し、医学的な説明ができることを目標とする。					
授業の概要	疾病について学ぶためには、正常の人体の構造と機能の理解が不可欠である。そのため、前半では人体の解剖生理の基本的な知識を学ぶ。後半では、前半で学んだ知識を応用して、疾病や障害の原因、発症機序、病態生理、症状・合併症、検査・診断法、治療法について習得する。さらに、リハビリテーションの概要および国際生活機能分類を理解する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ライフステージにおける心身の特徴</li> <li>2 心身の加齢・老化、ライフステージ別の健康課題</li> <li>3 健康と疾病の概念、捉え方、国際生活機能分類、身体構造と心身機能（1）器官</li> <li>4 身体構造と心身機能（2）体液、循環器</li> <li>5 身体構造と心身機能（3）泌尿器・呼吸器</li> <li>6 身体構造と心身の機能（4）消化器・神経</li> <li>7 身体構造と心身の機能（5）内分泌・生殖器</li> <li>8 身体構造と心身の機能（6）筋・骨格・皮膚</li> <li>9 身体構造と心身機能（7）免疫・感覚器</li> <li>10 疾病と障害（1）疾病の発生原因と成立機序・リハビリテーション、感染症</li> <li>11 疾病と障害（2）神経疾患、脳血管疾患、心疾患</li> <li>12 疾病と障害（3）内分泌・代謝疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患</li> <li>13 疾病と障害（4）消化器疾患、骨・関節疾患、血液疾患</li> <li>14 疾病と障害（5）免疫・アレルギー疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患、口腔疾患、産婦人科疾患</li> <li>15 疾病と障害（6）精神疾患、小児疾患、高齢者疾患、緩和ケア</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の該当部分を読んでおくこと。			90分	
	復習	構造と機能の関連に注意しながら配布資料を通読し、理解できない部分をはっきりさせること。復習の際は、図書館での参考書や関連図書の利用を勧める。			90分	
授業の留意点	教科書、参考書、講義資料を中心に授業を進める。復習しても理解できない部分は、次回の講義やムードルで担当教員に質問すること。					
学生に対する評価	定期試験（100点）により評価する。 定期試験の成績が不良の場合には、課題の提出状況と内容を最終評価に加える場合がある。					
教科書（購入必須）	社会福祉士養成講座編集委員会編『医学概論』中央法規出版（2021年）					
参考書（購入任意）	エレイン N. マリーブ『人体の構造と機能 第4版』医学書院（2015年）					

科 目 名	教育心理学		担当教員名	未定	
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー					
実務経験及びそれに関わる授業内容	児童相談所・知的障害者更生相談所・身体障害者更生相談所・児童家庭支援センターなどにおいて心理臨床の実務経験を有する教員が、「教育」という営為に寄与する心理学的知見をもとに指導する科目				
学習到達目標	<p>テーマ：教育にかかわる心理学の理論や実践について学び、知識や応用力を修得する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育にかかわる心理学についての知識や理論を学び、理解できる</li> <li>・教育にかかわる心理学についての知見を教育現場に応用できる力が身につけている</li> <li>・教師としての自覚と責任をもつことができる</li> </ul>				
授業の概要	<p>学習、神経発達症（知的能力障害・ASD・ADHD・SLDなどの発達障害）、モチベーション（動機づけ）、記憶、パーソナリティ（人格）など教育と関連の深い心理学的な領域について解説する。実際の教育相談事例などにもふれる。写真や図が主体のスライドと共に映画などの視聴覚教材や教育にかかわる優れた絵本などのビジュアルなコンテンツも織り交ぜながら講義を進める。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 記憶①：感覚記憶</li> <li>2 記憶②：ワーキングメモリー（作動記憶） 長期記憶</li> <li>3 記憶③：忘却 健忘 記憶術</li> <li>4 学習①：古典的条件づけ オペラント条件づけ 認知バイアス 間歇強化</li> <li>5 学習②：社会的学習（社会的認知）理論 正統的周辺参加 発達の最近接領域</li> <li>6 モチベーション①：進化心理学 動因低減説 動機づけ 統制の所在</li> <li>7 モチベーション②：学習性無力感 自己効力 原因帰属理論 アクティブ・ラーニング</li> <li>8 発達：発達理論 発生的認識論 漸成説</li> <li>9 知能①：知能理論 ビネー法知能検査</li> <li>10 知能②：ウェクスラー法知能検査 適性処遇交互作用（ATI）</li> <li>11 パーソナリティ①：類型論 特性論 Y-G性格検査</li> <li>12 パーソナリティ②：力動論（精神分析理論） エゴグラム検査</li> <li>13 神経発達症（発達障害）と特別支援教育①：知的能力障害 / 知的発達症 自閉スペクトラム症（ASD）</li> <li>14 神経発達症（発達障害）と特別支援教育②：限局性学習症（SLD） 注意欠如多動症（ADHD） 子ども虐待</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習				
	復習				
授業の留意点	<p>心理学的実験・演習も行うので積極的に参加してほしい。  配布資料は順番に綴り、遺漏のないように管理していただきたい。  予習はシラバスに沿って教科書で行い、復習は当日配布資料をもとに為されることが期待される。</p>				
学生に対する評価	<p>試験（60点）・提出物（20点）・受講態度（20点）の合計点で評価する。提出物（20点）は毎時の「気づき・学び」にかかわるリアクションペーパーの作成・提出である。</p>				
教科書（購入必須）	<p>鎌原雅彦・竹綱誠一郎 著 『やさしい教育心理学（第5版）』 有斐閣 2019年</p>				
参考書（購入任意）	<p>N・C・ベンソン 著（清水・大前 訳） 『マンガ 心理学入門：現代心理学の全体像が見える』 講談社（ブルーバックス） 2001年</p>				

科 目 名	教育課程論		担当教員名	河合 宣孝		
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	教職：必修		資 格 要 件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容	1986年から2020年まで34年間、北海道立高校で教員（教頭職8年、校長職4年）の経験があり、高校現場の実態を踏まえた指導方法や技術を通して、教師を目指す学生たちの教職の基盤づくりに資するような講義実践に努めている。学習指導要領と教育課程編成の学習においては、学校現場における教育課程編成の実際について体験的に学ぶとともに、カリキュラム・マネジメントについて学校経営・学校運営の経験に基づく具体例を紹介しながら学びを展開していく。					
学習到達目標	① 教育課程に関する基本的事項やカリキュラム研究成果（理論）の学びを通して、教育課程・カリキュラムに関する知識を理解し、説明することができる。 ② 新しい学習指導要領の理念や改訂内容を把握し、これから学校に求められるカリキュラム・マネジメントについて論考し、自分の考えを述べるができる。 ③ 各学校における実際の教育課程表を読み取りその教育内容を考察するとともに、自らが担当する教科科目を教育課程に位置付けて教育内容を構想することができる。					
授業の概要	わが国の学校教育の教育課程は、時代や社会の変化に対応すべく、様々な変化を遂げてきた。本授業では、教育課程・カリキュラムに関する諸理論を概観するとともに、学校の教育課程の基準としての学習指導要領の基本的な性格やその変遷、新学習指導要領の理念や改訂内容を踏まえ、これからの学校教育の展開とその課題を考察する。併せて法令を踏まえた教育課程の編成・実施の実際について学び、カリキュラム・マネジメントを通じて生徒に求められる資質・能力をいかにして身に付けさせるかについて考察する。 なお、授業ではペアワークやグループワーク及び輪読発表等を実施し、「主体的・対話的で深い学び」を体験しながら学修を進める。					
授業の計画	1 ガイダンス 教育課程の意義 2 教育課程編成の思想と構造 3 近代・現代日本の教育課程の歩み 4 教育課程の編成と諸要因 5 学習指導要領と教育課程編成の実際 6 学校経営・学級経営・生徒指導と教育課程との関連 7 各教科と道徳・特別活動・総合的な学習の時間の関連 8 教育課程と評価 9 カリキュラム開発と学力向上策 10 国際学力調査の教育課程改革への影響 11 様々な教育課程の改革 12 新しい学習指導要領の検討（1）理念・キーワード 13 新しい学習指導要領の検討（2）改訂内容など 14 教育課程の現代的課題（カリキュラム・マネジメント等について） 15 講義のまとめ					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	大学設置基準の定める時間数は2単位×45時間＝90時間となっています。授業時間外での学修時間は90時間－30時間＝60時間となります。このため予習・復習にそれぞれ30時間の学修を要しますので、各講の教科書の該当ページについて事前に読んで予習をして授業に臨んでください。			各講 2時間×15回＝30時間	
	復習	講義後に授業ノートや配布資料等を見直し、復習をしてください。			各講 2時間×15回＝30時間	
授業の留意点	・学校教育をめぐる動向や社会の動きに関心を持ち、教育課題解明のために教育課程をどのように編成・実施すべきか、つねに問題意識を持ちながら受講すること。 ・教科書を輪番で解説する演習を設けるので、その役割を果たすこと（割り当てやレポート作成方法などは最初の講義にて指示する）。					
学生に対する評価	■レポートや小テストなどの講義上の課題演習（30点） ■総括課題（30点） ■グループワークを含む授業への参加状況や輪読の発表成果（40点）					
教科書（購入必須）	古川治ほか編(2019)「改訂新版 教職をめざす人のための教育課程論」北大路書房					
参考書（購入任意）	文部科学省（2018）「高等学校学習指導要領」（平成30年3月告示） 田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵（2018）「新しい時代の教育課程[第4版]」有斐閣					

科目名	生徒指導論		担当教員名	佐藤 憲夫		
学年配当	3年	単位数	1単位		開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	教職：必修		資格要件	教職：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容	学校教育教員、社会教育主事の経験から、実際に教育現場でおこった出来事を例示しながら授業を展開していく。					
学習到達目標	<p>(到達目標)</p> <p>①生徒指導の意義と役割について、基本的な概念を説明することができる。</p> <p>②生徒指導に係る教師のスタンスを理解し、場面に応じた自分の考えを持つことができる。</p> <p>③生徒理解の方法について、自分のアイデアを練り、工夫を凝らすことができる。</p> <p>④発達障害に関する知識と対応の方法について、理解をすることができる。</p> <p>(テーマ)</p> <p>生徒指導の理論及び方法</p>					
授業の概要	生き方指導、教育相談、進路指導、非・反社会的行為の対応など幅広い生徒指導の内容を学ぶとともに、教育現場において生徒指導が機能するための教師のあり方について学習を深める。教育現場の抱える課題について、ケーススタディを通して考察を行う。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 生徒指導とは何か 生徒指導の目的①－目標と課題</li> <li>2 生徒指導の目的②－発達観・指導観・新しい生徒指導の使命</li> <li>3 教育課程との関連 教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間における生徒指導</li> <li>4 生徒指導の組織と計画</li> <li>5 生徒指導の意義と機能</li> <li>6 生徒理解の内容</li> <li>7 生徒指導の方法 個別指導と集団指導</li> <li>8 教育相談の理解と進め方</li> <li>9 適応と発達 防衛機制と適応障害</li> <li>10 問題行動①－様相</li> <li>11 問題行動②－種類と原因</li> <li>12 問題行動③－処遇</li> <li>13 進路指導の目的と内容</li> <li>14 教育現場の実際にふれる（ケーススタディ）グループ協議と発表</li> <li>15 子どもたちの「生き抜く力を育てる教師」講義のまとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	次時の学習内容について、生徒指導提要（改訂版）の該当部分を予習する。			45分	
	復習	授業の内容を整理し、ノートにまとめる。			45分	
授業の留意点	教師を志す者としてのスタンスをしっかりと持つ。自分が教師となったときの場面を想定し、指導者としての立場でどう行動することが必要であるのか考えを深めてほしい。講義の内容を自分自身の中高時代の行動や思考にスライドさせることも、理解の深化に結びつく。また、常に社会の動向を注視し、教育に関する情報アンテナを高く持つことが必要である。					
学生に対する評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定期試験 85点</li> <li>2. リアクションペーパー 15点（授業の感想、課題提出など）</li> <li>3. 授業態度を加味する</li> </ol>					
教科書（購入必須）	授業ごとに資料を用意する。					
参考書（購入任意）	講義の中で適宜紹介する。生徒指導提要（改訂版）（文部科学省 令和4年12月）については、文科省のhpから閲覧できるので適宜活用すること。					



科 目 名	知的障害心理・生理・病理		担当教員名	玉重 詠子		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(特支)：必修		資 格 要 件	教職(特支)：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。 5. 地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	言語聴覚士として病院での知的障害児への臨床を経験し、児童相談所・特別支援教育センター・特別支援学校との連携を経験した教員が、知的障害の病理と心理アセスメントについて指導する科目である。					
学習到達目標	本講義の学習到達目標を以下の3点とする。 (1) 知的障害の目安となる基準を説明できる。 (2) 知的障害の目安に基づいたアセスメントの方法を説明できる。 (3) アセスメントに基づいた知的障害の特徴を理解し、知的障害教育の意義を考え、説明できる。					
授業の概要	特別支援教育の対象である知的障害の目安となる基準を理解した上で、知的障害のアセスメント方法についてより深く学習する。知的能力そのものの改善は困難であるため、知的障害教育の意義をどう捉えるかを考える。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス 知的障害とは</li> <li>2 ダウン症候群(1) 知的障害教育の意義</li> <li>3 ダウン症候群(2) 言語発達の特徴(中枢神経系の構造と機能を含む)</li> <li>4 文献「遠城寺式乳幼児分析的発達検査法」を読み、整理する</li> <li>5 知的障害の目安となる基準 知的障害の原因</li> <li>6 知的障害のアセスメント(1) 適応能力検査 S-M 社会生活能力検査第3版：概要</li> <li>7 知的障害のアセスメント(2) 適応能力検査 S-M 社会生活能力検査第3版：結果</li> <li>8 知的障害のアセスメント(3) 発達検査 遠城寺式乳幼児分析的発達検査</li> <li>9 知的障害のアセスメント(4) 知能検査 田中ビネー知能検査V：概要</li> <li>10 知的障害のアセスメント(5) 知能検査 田中ビネー知能検査V：結果</li> <li>11 知的障害のアセスメント(6) 認知機能検査 日本版 DN-CAS：理論(日本版 KABC-II と比較して)</li> <li>12 知的障害のアセスメント(7) 認知機能検査 日本版 DN-CAS：概要(「方略の評価」を中心に)</li> <li>13 知的障害のアセスメント(8) 認知機能検査 日本版 DN-CAS：結果</li> <li>14 知的障害のアセスメント(9) 認知機能検査 日本版 DN-CAS：支援</li> <li>15 知的障害児の言語発達と支援 特別支援学校での実践例</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	すでに学習した検査法について復習すること。事前配布した資料を読んでおくこと。			90分	
	復習	教育実習の準備として、各検査法についてまとめること。			90分	
授業の留意点	特別支援学校教諭免許に関わる講義であるため、知的障害教育を念頭に置いて理解を深めることが望ましい。 受講者の関心や理解のようす、状況等の変化によって順番を変更することがある。 対面授業での実施を予定しているが、状況によっては遠隔授業へ変更する可能性がある。					
学生に対する評価	講義内課題(30点)、定期試験(70点)により評価する。 ※状況により、定期試験を成績評価レポート(70点)に変更する可能性がある。					
教科書(購入必須)	テキストは使用せず、プリントを参考資料として配布する。					
参考書(購入任意)	向後利明(監修)『知的障害の子どものできることを伸ばそう!』日東書院 前川久男ほか(訳)『DN-CASによる子どもの学習支援 -PASS理論を指導に活かす49のアイデア-』日本文化科学社					

科 目 名	肢体不自由心理・生理・病理		担当教員名	中澤 幸子		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(特支)：必修		資 格 要 件	教職(特支)：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校教諭、心理臨床における実務経験を基に、現場経験の中で得た知見を活用した実践的な講義内容					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体不自由による発達への影響について説明できる。</li> <li>・肢体不自由者の心理・生理・病理に関連する障害特性を理解し、当事者や家族への支援方法について考えることができる。</li> </ul>					
授 業 の 概 要	人間の身体の仕組み、運動発達を理解したうえで、肢体不自由が発達に与える影響について学びます。また、肢体不自由者の教育において出会うことの多い疾患の特性について、病理学的、生理学的、心理学的観点から学び、当事者及び家族への支援について学習します。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション / 肢体不自由とは</li> <li>2 人間の身体の仕組み</li> <li>3 運動の発達</li> <li>4 肢体不自由が発達に与える影響</li> <li>5 肢体不自由者の障害特性</li> <li>6 脳性まひの理解</li> <li>7 二分脊椎の理解</li> <li>8 筋ジストロフィーの理解</li> <li>9 ペルテス病・骨系統疾患の理解</li> <li>10 手足の先天奇形・関節拘縮症の理解</li> <li>11 ダウン症整形外科的合併症・先天性股関節脱臼の理解</li> <li>12 肢体不自由者のリハビリテーション</li> <li>13 肢体不自由者のスポーツ</li> <li>14 肢体不自由者と家族の支援</li> <li>15 まとめ / 肢体不自由者を支援する際に大切なこととは</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関連する難解語句について調べ、理解を図っておく。教科書の関係する箇所を読み込む。課題発表の際には、事前準備を行う。			90分	
	復習	授業時に提示された課題がある場合には、その課題に取り組む。全ての授業内容について、授業で使用したプリント・教科書の内容をノートに整理し、知識の定着を図る。			90分	
授 業 の 留 意 点	特別支援学校教諭免許状にかかわる講義ですので、他の障害（知的障害、病弱、視覚障害、聴覚障害、発達障害等）などについても、理解を図っておいてください。					
学 生 に 対 す る 評 価	授業課題の取組状況（30点）、授業の参加状況及び振り返りレポート（30点）、最終課題レポート（40点）として、総合点に評価します。					
教 科 書 (購入必須)	肢体不自由児の医療・療育・教育 金芳堂 ISBN 978-4-7653-1628-6 その他、適宜、資料・視聴覚教材を使用します。					
参 考 書 (購入任意)	講義内で紹介します。					

科目名	病弱心理・生理・病理		担当教員名	中澤 幸子・下村 遼太郎		
学年配当	3年	単位数	2単位		開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	教職(特支)：必修		資格要件	教職(特支)：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校での教諭としての実務経験、医療機関における医師としての実務経験を基に、現場経験を活用した実践的な講義内容。					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病気の子どもの教育に携わる教員が必要とする、心理学・生理学・病理学に関する基礎的な知識について理解し、説明できる。</li> <li>・具体的な事象や事例から病弱者・障害者の心理特性や行動背景を理解し、当事者や家族への支援方法や内容について考えることができる。</li> <li>・病弱者の支援において、支援者が大切にすべき内容について説明することができる。</li> </ul>					
授業の概要	病弱教育が対象とする子どもに多くみられる疾患について、心理学・生理学・病理学的な観点から学び、理解を図ります。また、病気の子どもや家族の心理的特性と求められる心理的支援・配慮等について、具体的な事例を通して学びます。さらに、授業を通して、病気の子どもの支援で大切にすべきことについて考えていきます。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション / 病気の子どもの気持ち (中澤担当)</li> <li>2 健康、病気、障害の概念 (中澤担当)</li> <li>3 病気・障害の受容とセルフケア (中澤担当)</li> <li>4 病弱者・障害者の心理的特性 (中澤担当)</li> <li>5 病弱者・障害者と家族の支援 (中澤担当)</li> <li>6 教育・医療・保健・福祉等多職種による連携 (中澤担当)</li> <li>7 小児期の慢性疾患Ⅰ (ぜんそく・アレルギー等) (下村担当)</li> <li>8 小児期の慢性疾患Ⅱ (腎臓病・心臓病等) (下村担当)</li> <li>9 小児期の慢性疾患Ⅲ (糖尿病等) (下村担当)</li> <li>10 悪性腫瘍 (小児ガン、脳腫瘍等) (下村担当)</li> <li>11 進行性筋ジストロフィー (下村担当)</li> <li>12 てんかん、血友病、その他の疾患 (下村担当)</li> <li>13 心身症・精神疾患 (下村担当)</li> <li>14 病弱者の支援における今日的課題 (中澤担当)</li> <li>15 まとめ / 病弱者の支援で大切なこと (中澤担当)</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	病弱教育が対象とする疾患及び病気の子どもに関する語句についての基礎的な理解を図る。			90分	
	復習	授業で課題が出された場合には、その課題について必ず取り組む。全ての授業において、配布された資料、授業のメモ、授業内で提示された参考文献等を参考にして、ノートを整理し、知識の定着を図る。			90分	
授業の留意点	特別支援学校教員免許取得に関わる講義であることから、他の障害(知的障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、発達障害、等)についても理解を深めておきましょう。					
学生に対する評価	下村授業担当分 50点 (評価方法の詳細は、授業開始に確認)、中澤担当授業分 50点 (授業のまとめシート 15点、授業への参加状況及び課題への取り組み状況 15点、課題レポート 20点)、として、2名の教員の総合点 (満点は 100点) によって評価します。					
教科書 (購入必須)	適宜、資料を配布、もしくは視聴覚教材を使用する予定です。					
参考書 (購入任意)	小野次朗・西牧謙吾・榊原洋一編著：特別支援教育に生かす病弱児の心理・生理・病理 ミネルヴァ書房 ISBN:978-4623061532					

科 目 名	肢体不自由者教育課程論		担当教員名	中澤 幸子		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(特支)：必修		資 格 要 件	教職(特支)：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校教諭、心理臨床の実務経験を基に、肢体不自由教育の現場経験で得られた知見を活用した実践的な講義内容。					
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肢体不自由児教育の歴史の変遷について知り、主な対象児の障害特性や配慮事項等について説明することができる。</li> <li>・ 肢体不自由教育の教育内容・方法、教育課程の基本及び授業づくりの基本的視点について説明できる。</li> <li>・ 肢体不自由教育に必要な専門性について、自分なりの考えをまとめ、説明することができる。</li> </ul>					
授 業 の 概 要	肢体不自由教育の歴史、肢体不自由教育の制度、教育的意義について理解を図ります。また、肢体不自由児教育の対象である障害の基礎的特性について学ぶとともに、肢体不自由教育の教育課程、指導方法、配慮事項等についても、実践例等を通して学びます。これらの授業を通して、肢体不自由者の教育において必要な教員の専門性とは何か、について考えていきます。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション / 肢体不自由の定義</li> <li>2 肢体不自由教育の歴史と現状</li> <li>3 肢体不自由教育の制度と肢体不自由教育</li> <li>4 肢体不自由教育の教育課程（教育課程編成の特徴）</li> <li>5 個別の教育支援計画・指導計画の作成</li> <li>6 肢体不自由教育の内容と指導法① 自立活動</li> <li>7 肢体不自由教育の内容と指導法② 身体の動き</li> <li>8 肢体不自由教育の内容と指導法③ コミュニケーションの指導</li> <li>9 肢体不自由教育の内容と指導法④ 各教科の指導</li> <li>10 肢体不自由教育の内容と指導法⑤ 体育等の指導</li> <li>11 肢体不自由教育の内容と指導法⑥ 重度・重複障害者の特性と配慮</li> <li>12 肢体不自由教育の内容と指導法⑦ 重度・重複障害者の指導計画と実際の指導</li> <li>13 肢体不自由教育の内容と指導法⑧ キャリア教育・進路指導</li> <li>14 肢体不自由教育における新しい取り組みと課題</li> <li>15 まとめ / 肢体不自由教育における専門性</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業に関連する特別支援教育の基本的な用語や知識について整理し、理解をしておく。			90 分	
	復習	授業課題が出された時には、その課題に取り組む。全ての授業内容について、配布されたプリントや教科書を活用してノートにまとめ、知識の定着を図る。			90 分	
授 業 の 留 意 点	特別支援学校教員免許取得のために必要な必須の講義です。他の障害（知的障害、病弱、視覚障害、聴覚障害、軽度発達障害等）の教育課程、指導法、心理学・生理学・病理学的知見等についても理解を深めておいてください。					
学 生 に 対 す る 評 価	振り返りレポート（30 点）、授業への参加状況及び課題の取組状況（40 点）、課題レポート（30 点）とし、総合点に評価します。					
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別支援学校幼稚園教育要領小学部・中学部学習指導要領</li> <li>・ 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚園・小学部・中学部）</li> <li>・ 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）</li> <li>・ 特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）</li> <li>・ 特別支援学校高等部学習指導要領</li> <li>・ 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）</li> </ul> その他：適宜、資料及び視聴覚教材を提示します。					
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 杉野学 特別支援教育概論 大学図書出版 9784909655080（ISBN）</li> </ul> その他、講義内で適宜紹介します。					

科 目 名	肢体不自由教育演習		担当教員名	中澤 幸子		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(特支)：必修		資 格 要 件	教職(特支)：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校教諭、心理臨床等の実務経験を基に、肢体不自由教育における現場経験の中で得られた知見を活用した実践的な演習形式の授業内容。					
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肢体不自由教育の現状の課題について問題意識をもつことができる。</li> <li>・ 特別支援学校（肢体不自由）の学習指導要領や個別の教育支援計画・個別の指導計画について理解し、幼児児童生徒の実態に合わせた授業づくりができる。</li> <li>・ 肢体不自由者の実態に合わせた学習指導案を作成し、模擬授業を実施することができる。</li> </ul>					
授 業 の 概 要	<p>肢体不自由教育の現状について文献研究を行い、問題意識を高めます。そのうえで、学習指導要領の理解を図り、特別支援学校の授業づくりの根拠となる「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」について、さらに特別支援学校（肢体不自由）の教育課程の中核にある「自立活動」との関係学びます。そして、学習指導案の作成や授業方法・内容について、模擬授業と授業研究を通して体験的に学びます。</p>					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション / 授業の進め方</li> <li>2 肢体不自由教育に関する文献検索の方法と実際</li> <li>3 肢体不自由教育に関する文献検索の報告</li> <li>4 肢体不自由教育に関する文献研究の実際① レポートのまとめ方及び課題設定</li> <li>5 肢体不自由教育に関する文献研究の実際② 文献検索及び文献研究レポートの作成</li> <li>6 肢体不自由教育に関する文献研究の実際③ 発表資料の作成</li> <li>7 肢体不自由教育に関する文献研究の実際④ 文献研究レポートの報告</li> <li>8 学習指導要領の理解① 肢体不自由の教育課程について</li> <li>9 学習指導要領の理解② 自立活動の目標及び内容について</li> <li>10 学習指導要領の理解③ 個別の教育支援計画、個別の指導計画との関係</li> <li>11 学習指導案の作成方法</li> <li>12 学習指導案の作成と模擬授業の準備</li> <li>13 模擬授業演習①（振り返り、評価）</li> <li>14 模擬授業演習②（振り返り、評価）</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業内容に関連する特別支援教育、肢体不自由教育に関する知識を整理する。研究レポートの作成・報告会資料・模擬授業の事前準備等を行う。			135分	
	復習	授業内で提示された課題について、取り組む。全ての授業後に、授業内で使用した資料や配布物の内容をノートにまとめ、知識・技術の定着を図る。			45分	
授 業 の 留 意 点	特別支援学校教員免許に関わる講義です。他の障害（知的障害、病弱、聴覚障害、視覚障害、発達障害等）の教育課程・指導法についても理解を深めることが望ましい。					
学 生 対 する 評 価	課題への取り組み状況（30点）、レポート発表・模擬授業（50点）、レポート（20点）とし、総合点で評価します。					
教 科 書（購入必須）	適宜、資料を配布、もしくは視聴覚教材を使用する予定です。					
参 考 書（購入任意）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 杉野学 特別支援教育概論 大学図書出版 9784909655080（ISBN）</li> <li>・ 特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領</li> <li>・ 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）</li> <li>・ 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）</li> <li>・ 特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）</li> <li>・ 特別支援学校高等部学習指導要領</li> <li>・ 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）</li> </ul> <p>その他、講義内で紹介します。</p>					

科 目 名	病弱教育学		担当教員名	中澤 幸子		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(特支)：必修		資 格 要 件	教職(特支)：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校教諭、心理臨床等の実務経験を踏まえ、実際に病弱教育の中で出会う可能性のある事例等にふれながら教職理解に関する実践的で専門性の高い指導を行う。					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病弱教育の概要、病弱児の教育的ニーズ及び指導する際に必要な配慮事項等について説明することができる。</li> <li>・病弱教育に求められる専門性について、自分なりの考えをまとめ、説明することができる。</li> </ul>					
授 業 の 概 要	病弱教育の歴史を通して、病弱教育が果たしてきた役割、病弱教育の意義、ニーズや課題について学習をします。また、病弱教育の対象としている主な疾患とその特徴について理解を図ります。さらに、病気の子どもに対する教育において実際に行われている支援内容や指導方法、配慮事項等についても学びます。このような授業を通して、病弱教育に携わる教員に必要な専門性とは何か、を考えていきます。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション / 病気とは</li> <li>2 病気の子どもの教育</li> <li>3 病気の子どもの多様な学び場</li> <li>4 学習指導要領を踏まえた指導① 特別支援学校学習指導要領の概要</li> <li>5 学習指導要領を踏まえた指導② 病気の状態に応じた指導の工夫と合理的配慮</li> <li>6 各校における指導事例① 特別支援学校における指導内容・方法</li> <li>7 各校における指導事例② 小・中学校等の特別支援学級における指導内容・方法</li> <li>8 各校における指導事例③ 特別支援学校におけるセンター的機能</li> <li>9 病気等の必要に応じた指導と配慮事項① ～悪性新生物、神経筋疾患、呼吸器疾患～</li> <li>10 病気等の必要に応じた指導と配慮② ～骨・関節系疾患、内分泌疾患、アレルギー疾患～</li> <li>11 病気等の必要に応じた指導と配慮③ ～腎疾患、循環器系疾患、てんかん～</li> <li>12 病気等の必要に応じた指導と配慮④ ～心身症及び精神疾患～</li> <li>13 病気等の必要に応じた指導と配慮⑤ ～重症心身障害、医療的ケアが必要な子ども～</li> <li>14 病気等の必要に応じた指導と配慮⑥ ～ターミナル期にある子ども～</li> <li>15 まとめ / 病弱教育における専門性</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業に関連する教科書の内容を読み込む。課題発表の際には、事前準備を行う。			90分	
	復習	授業課題が出された時には、まずはその課題に取り組むこと。全ての授業内容について、配布されたプリントや教科書を活用してノートにまとめ、病弱教育についての知識・理解の定着を図る。			90分	
授業の留意点	特別支援学校教員免許取得のための必須の講義です。その他の障害（知的障害、肢体不自由、病弱、聴覚障害、軽度発達障害、等）の教育課程・指導法についても理解を深めておいてください。					
学生に対する評価	授業振り返りレポート（30）、授業の参加状況及び課題への取り組み状況（30点）、課題レポート（40点）として、総合点で評価します。					
教科書（購入必須）	特別支援学校の学習指導要領を踏まえた病気の子どものための教育必携 ジアース教育新社 ISBN 978-4-86371-520-2 その他適宜、資料・視聴覚教材を使用します					
参考書（購入任意）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・杉野学 特別支援教育概論 大学図書出版 9784909655080 (ISBN)</li> <li>・特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領</li> <li>・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）</li> <li>・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）</li> <li>・特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）</li> <li>・特別支援学校高等部学習指導要領</li> <li>・特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）</li> </ul>					

科 目 名	聴覚障害教育総論		担当教員名	玉重 詠子		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(特支)：必修		資 格 要 件	教職(特支)：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 人間の尊厳と権利を深く理解し、人間一人ひとりを大切にして実践的に対人援助ができるために必要な力を身につけている。</p> <p>5. 地域福祉の観点を持ち、保健・医療・福祉・教育の連携を図り、住民参加の要になれる力や福祉社会の形成に寄与するソーシャルワーカー、教職員、市民として活躍できる力を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	聴覚領域担当の言語聴覚士として病院・更生相談所で20年以上臨床経験を持つ教員が、聴覚の病理・補聴・言語指導・福祉制度について指導する科目である。					
学習到達目標	<p>聴覚障害児教育について、以下の4点を学習到達目標とする。</p> <p>(1) 聴覚の評価方法を説明できる。</p> <p>(2) 補聴について説明できる。</p> <p>(3) 聴覚障害領域における福祉制度を説明できる。</p> <p>(4) 聴覚障害教育の主な指導法を説明できる。</p>					
授業の概要	特別支援教育の対象である聴覚障害について学習する。聴覚障害教育の方法を理解するために、聴覚の評価方法と定型発達児の聴こえのレベルについて学習し、障害程度と福祉制度について理解する。さらに補聴について学ぶことで、聴覚障害児への支援方法について独自の工夫を考えられるようになる。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス きこえのしくみ</li> <li>2 聴覚障害の評価(1) 純音聴力検査</li> <li>3 聴覚障害の評価(2) 語音聴力検査</li> <li>4 聴覚障害児の言語指導(文献講読)</li> <li>5 難聴の種類 福祉制度</li> <li>6 補聴(1) 補聴器の種類 補聴器のしくみ</li> <li>7 補聴(2) 補聴器の調整 人工内耳のしくみ</li> <li>8 聴覚障害教育の歴史と指導法</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	事前配布する資料に目を通し、専門用語を調べておくこと。			90分	
	復習	聴覚の評価法のまとめを作成し、福祉制度、補聴などの回にも復習すること。			90分	
授業の留意点	<p>耳の聴こえづらさが発達や日常生活に及ぼす影響について考えながら受講してほしい。</p> <p>聴覚の評価法(純音聴力検査・語音聴力検査)は、福祉制度の利用や補聴(補聴器、人工内耳)の処方と関係する。学習したことを関連付けて理解してほしい。</p> <p>対面授業での実施を予定しているが、状況によっては遠隔授業へ変更する可能性がある。</p>					
学生に対する評価	<p>講義内課題 30点、定期試験 70点</p> <p>※状況により、定期試験を成績評価レポート(70点)に変更する可能性がある。</p>					
教科書(購入必須)	テキストは使用せず、プリントを参考資料として配布する。					
参考書(購入任意)						

科 目 名	障害児教育実習		担当教員名	矢口 明		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(特支)：必修		資 格 要 件	教職(特支)：必修
対応するディプロマ・ポリシー						
実務経験及びそれに関わる授業内容	障がいのある子どもたちが在籍している特別支援学校において実習を行う。現場の実習指導教諭の指導のもと、授業参観や児童生徒への授業を行うことなどをおして特別支援学校の教育の現状にふれることにより、特別支援学校教諭にとって必要不可欠な「子どもたちの障がい(特性)理解」や「障がいに応じた適切な関わり」について学ぶ。授業実践を通してチームティーチングの在り方について学ぶ。					
学習到達目標	障害のある児童生徒の教育においては、障害に関する理解や一人一人の児童生徒に応じた働きかけなど、高い実践的指導力が求められている。障害児教育実習では、社会福祉学の学びや特別支援教育に関する学びを基盤として児童生徒への指導を行い、特別支援学校教諭として必要なことを理解する。					
授業の概要	教育実習は、北海道内の特別支援学校で行うこととし、特別支援学校の教員として必要な知識・技能・態度に関する実践的能力を培う。					
授業の計画	各実習先の指導教員の監督・指導に基づいて、以下の内容を中心に実習する。 1. 教育講話の聴講 2. 学習場面・生活場面の観察 3. 学習場面・生活場面の部分的指導 4. 授業計画の作成 5. 教材研究 6. 授業の実施 7. 研究授業(指導案作成・教材研究・授業・反省会)					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	高等学校における基礎免許の教育実習の成果と反省を十分に活用して、障害のある児童生徒への教育に関する専門的な知識を生かして、授業を計画・実践・評価を行うことが望ましい。					
学生に対する評価	実習先の特別支援学校の評価及び研究授業の評価を総合的に判断して評価する。					
教科書(購入必須)	教育実習日誌(第3版)、学術図書出版社、2011年					
参考書(購入任意)						



科 目 名	感染微生物学		担当教員名	塚原 高広		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	大学病院（2年）、地域の基幹病院（3年）、クリニック・在宅医療（1年）の実務経験（臨床医）がある。					
学 習 到 達 目 標	感染とは何か、感染成立の3要素、検査、化学療法について説明できる。 感染制御、感染対策について説明できる。 主要な感染症について、原因となる病原体、感染経路、感染臓器、臨床経過、予防・治療法を説明できる。					
授 業 の 概 要	微生物学・感染症学の総論を学ぶことを重視し、将来どのような保健・福祉分野に進むにせよ必要な知識を習得する。各論では、臓器・器官別の感染症を理解することを中心とし、あわせて重要な病原体の性質について学ぶ。					
授 業 の 計 画	1 微生物総論 2 細菌総論 3 ウイルス総論 4 真菌・寄生虫総論 5 免疫とアレルギー 6 感染症総論 7 全身性ウイルス感染症・発熱性感染症 8 呼吸器感染症 9 消化器感染症・食中毒 10 血液媒介感染症・ウイルス性肝炎 11 尿路感染症・神経系感染症 12 皮膚・眼感染症 13 性感染症・高齢者の感染症・日和見感染症 14 その他の感染症 15 感染制御					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の該当部分を読んでおくこと。			90分	
	復習	配布資料や自分がとったノートを参考にして教科書を再読して知識を確認すること。			90分	
授 業 の 留 意 点	教科書を中心に授業を進めるので、予習、復習を通じて必ず通読して欲しい。単に知識を暗記するのではなく、考え方を習得することを目指す。復習しても理解できない事項は、講義後やムードルで担当教員に質問すること。					
学 生 に 対 す る 価	定期試験（100点）により評価する。 定期試験の成績が不良の場合には、課題の提出状況と内容を最終評価に加える場合がある。					
教 科 書 （購入必須）	中野隆史編『看護学テキスト 微生物学・感染症学』南江堂（2020年）					
参 考 書 （購入任意）	神谷茂監修『標準微生物学 第14版』医学書院 中込治著『ウォームアップ微生物学』医学書院					

科 目 名	医学概論		担当教員名	塚原 高広		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	大学病院（2年）、地域の基幹病院（3年）、クリニック・在宅医療（1年）の実務経験（臨床医）がある。					
学習到達目標	生体としての人の解剖生理学的な仕組み、重要な疾病・障害の病態生理、症状、診断治療についての基礎的な医学的知識を習得し、医学的な説明ができることを目標とする。					
授業の概要	疾病について学ぶためには、正常の人体の構造と機能の理解が不可欠である。そのため、前半では人体の解剖生理の基本的な知識を学ぶ。後半では、前半で学んだ知識を応用して、疾病や障害の原因、発症機序、病態生理、症状・合併症、検査・診断法、治療法について習得する。さらに、リハビリテーションの概要および国際生活機能分類を理解する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ライフステージにおける心身の特徴</li> <li>2 心身の加齢・老化、ライフステージ別の健康課題</li> <li>3 健康と疾病の概念、捉え方、国際生活機能分類、身体構造と心身機能（1）器官</li> <li>4 身体構造と心身機能（2）体液、循環器</li> <li>5 身体構造と心身機能（3）泌尿器・呼吸器</li> <li>6 身体構造と心身の機能（4）消化器・神経</li> <li>7 身体構造と心身の機能（5）内分泌・生殖器</li> <li>8 身体構造と心身の機能（6）筋・骨格・皮膚</li> <li>9 身体構造と心身機能（7）免疫・感覚器</li> <li>10 疾病と障害（1）疾病の発生原因と成立機序・リハビリテーション、感染症</li> <li>11 疾病と障害（2）神経疾患、脳血管疾患、心疾患</li> <li>12 疾病と障害（3）内分泌・代謝疾患、呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患</li> <li>13 疾病と障害（4）消化器疾患、骨・関節疾患、血液疾患</li> <li>14 疾病と障害（5）免疫・アレルギー疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患、口腔疾患、産婦人科疾患</li> <li>15 疾病と障害（6）精神疾患、小児疾患、高齢者疾患、緩和ケア</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書の該当部分を読んでおくこと。			90 分	
	復習	構造と機能の関連に注意しながら配布資料を通読し、理解できない部分をはっきりさせること。図書館での参考書や関連図書の利用を勧める。			90 分	
授業の留意点	教科書、参考書、講義資料を中心に授業を進める。復習しても理解できない部分は、次回の講義やムードルで担当教員に質問すること。					
学生に対する評価	定期試験（100 点）により評価する。 定期試験の成績が不良の場合には、課題の提出状況と内容を最終評価に加える場合がある。					
教科書（購入必須）	社会福祉士養成講座編集委員会編『医学概論』中央法規出版（2021 年）					
参考書（購入任意）	エレイン N. マリーブ『人体の構造と機能 第4版』医学書院（2015 年）					

科 目 名	食生活論		担当教員名	黒河 あおい		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択
対応するディプロマ・ポリシー	<p>4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。</p> <p>5. 地域において子どもに関わる多職種間の連携・協働におけるパートナーシップを実践できる。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	<p>栄養教諭として食に関する指導・給食管理の経験を持つ教員が、幼児・児童・生徒の生活環境に適した食教育実践および学習の効果を引き出すため、食生活の変遷や現状について理解を深め、食文化に関する知識を修得させる科目</p>					
学習到達目標	<p>幼児・児童・生徒の生活環境に適した食教育実践および学習の効果を引き出すため、食生活の変遷や現状について理解を深め、食文化に関する知識を修得する。</p>					
授業の概要	<p>前半は既存資料をもとに食生活の変遷現状および 幼児・児童・生徒の栄養・食生活状況を把握し、家庭の食事や学校給食変遷を確認する。</p> <p>後半は日本における食文化を概観し、地域家庭の食事や学校給食の変遷を確認する。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本における食生活の変遷</li> <li>2 日本における食生活の現状</li> <li>3 全国調査にみる幼児児童生徒の栄養・食生活状況</li> <li>4 地域における幼児児童生徒の栄養・食生活状況</li> <li>5 家庭食の変遷</li> <li>6 学校給食の変遷</li> <li>7 日本の食文化・地域の食文化</li> <li>8 幼児・児童生徒の食物アレルギー</li> <li>9 「食事バランスガイド」について</li> <li>10 地場産物と給食①</li> <li>11 地場産物と給食②</li> <li>12 演習①関心のある地域の地場産物を食べる</li> <li>13 演習②給食における地場産物の活用を考える</li> <li>14 演習③食に関する指導における地場産物の活用を考える</li> <li>15 演習④地場産物についての発表、レポート提出</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	授業計画に沿って新聞・ネットなどで予習する。			90分	
	復習	配布資料・GWの内容に沿って授業を振り返る。			90分	
授業の留意点	食および地域について広く関心をもって授業に臨んでほしい。					
学生に対する評価	発表レポート40点・毎回授業のGWと振り返りレポート60点により総合的評価する。					
教科書（購入必須）	適宜、資料等を配布する。					
参考書（購入任意）						

科 目 名	社会保育論演習		担当教員名	長津 詩織 他学科教員		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	児童相談所等で臨床経験を持つ教員が、保育や子どもを幅広い視野で捉え、社会と保育との関わりを理解する視点を教授する科目					
学習到達目標	体験的・能動的な学びにより、子育て環境の整備、保護者支援、保育に関する社会の責任等、「社会保育」の現状と課題を実践レベルで明らかにすることができる。					
授業の概要	「社会保育論」での学修を踏まえ、実践レベルで「社会保育」の実現に向けた取り組みを考える。社会と保育との関わりを体験的に学ぶフィールドワークを通して、社会で子どもが育つ／育てることの意味や、その現代的な課題について考える。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 演習計画作成①内容検討</li> <li>3 演習計画作成②グループワーク</li> <li>4 フィールドワーク企画</li> <li>5 フィールドワーク準備</li> <li>6 フィールドワーク実施（前半）①</li> <li>7 フィールドワーク実施（前半）②</li> <li>8 フィールドワーク実施（前半）③</li> <li>9 フィールドワーク中間報告・後半へ向けて</li> <li>10 フィールドワーク実施（後半）①</li> <li>11 フィールドワーク実施（後半）②</li> <li>12 フィールドワーク実施（後半）③</li> <li>13 フィールドワーク振り返り</li> <li>14 報告会</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	これまでの講義の学びを振り返っておく。			90分	
	復習	授業内で調べたことやフィールドワークの内容を振り返り、その内容と自分なりの考えをまとめておく。			90分	
授業の留意点	フィールドワークは教員の提案を元にして、学生の意見も取り入れながら実施する。保育をより広い視点で捉えるにあたって知りたいことを考えておくこと。 実施方法：対面、場合によっては遠隔。					
学生に対する評価	提出物 40点、フィールドワークへの取り組み 60点					
教科書（購入必須）	特になし					
参考書（購入任意）	適宜提示する					

科 目 名	教職概論（幼稚園）		担当教員名	棚橋 裕子・高島 裕美		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身に付けている。</p> <p>3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	幼稚園教諭としての実務経験を有する教員が、幼児理解を基盤とし、幼稚園教諭としての専門性や役割について、保育実践に則した指導を行う科目					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員および保育者に求められる仕事と役割の歴史の変遷について理解し、説明することができる。</li> <li>・現代の教員および保育者に求められる資質・能力、期待される役割について理解したうえで、教員および保育者の専門性について自分なりの考えを持つ。</li> <li>・学校および保育施設の役割の多様性を理解し、教職の意義や多職種との連携・協働の在り方について自分なりの考えを持つ。</li> </ul>					
授業の概要	<p>時代の移り変わりとともに、教員・保育者に期待される役割や、実際の職務内容・範囲は大きく変化してきた。一方で、教職には、いつの時代も変わらない（不易の）役割が存在する。この両面について、具体的な事例を用い学習する。</p> <p>また、学校・保育施設が担う役割や社会的要請の多様化について理解し、上記をふまえたうえで、教員・保育者の専門性、多職種との連携・協働の在り方について考察する。</p>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション</li> <li>2 教員・保育者への道：教員・保育者養成カリキュラム、教員免許・保育士資格の意義</li> <li>3 現代の子どもの生活と学校・保育施設①：子どもの生活と幼稚園・保育施設</li> <li>4 現代の子どもの生活と学校・保育施設②：幼児教育・保育と学校教育との接続</li> <li>5 教員・保育者の仕事と役割①：教育・保育実践の内容と方法</li> <li>6 教員・保育者の仕事と役割②：子どもの遊びから</li> <li>7 教員・保育者の仕事と役割③：幼稚園教諭の仕事と役割の実際（1）</li> <li>8 教員・保育者の仕事と役割④：幼稚園教諭の仕事と役割の実際（2）</li> <li>9 教員・保育者にかかわる制度・法律①：教員・保育者の身分保障と服務義務</li> <li>10 教員・保育者にかかわる制度・法律②：労働者としての教員・保育者</li> <li>11 教員・保育者をめぐる諸問題①：教育・保育に求められる役割の変化、教職における「不易と流行」</li> <li>12 教員・保育者をめぐる諸問題②：教職員集団の変化（多職種との連携・協働等）、子ども集団の変化</li> <li>13 教員・保育者をめぐる諸問題③：教員・保育者をめぐる労働問題</li> <li>14 教員・保育者の専門性とは①：グループワーク</li> <li>15 教員・保育者の専門性とは②：まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	「授業計画」にあるキーワードについて、資料やインターネット等を利用して、あらかじめ調べ情報収集しておくこと。			90分	
	復習	講義内で示した重要語句・専門用語や政策文書、トピックについて、資料やインターネット等を利用して、理解を深め課題意識を高めるようにすること。			90分	
授業の留意点	出席は前提となる。やむを得ない事情を除き欠席はしないこと。					
学生に対する評価	中間レポート（50点）、期末レポート課題（50点）により評価する。					
教科書（購入必須）	特に指定しない。適宜プリント等を配布する。					
参考書（購入任意）	授業のなかで適宜紹介する。					

科 目 名	子ども家庭福祉 I		担当教員名	長津 詩織・鈴木 勲		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。</p> <p>2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	児童相談所等での実務経験を有する教員が、子ども家庭福祉に関する基本的な知識、現状や動向、実際の具体的な支援方法について教授する科目					
学 習 到 達 目 標	<p>1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。</p> <p>2. 子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。</p> <p>3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。</p> <p>4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。</p> <p>5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。</p>					
授 業 の 概 要	「子ども家庭福祉」という考え方、理念、歴史の変遷、法律、制度や実施体系等の基本的な知識を理解し保育との関連性及び子どもの権利について学ぶ。また、子ども虐待等における事例研究・分析を通して実際の具体的な支援方法及び子ども家庭福祉の現状や動向を学び、今後の課題や展望についても考える。					
授 業 の 計 画	<p>1 子ども家庭福祉の理念と概念</p> <p>2 子ども家庭福祉の歴史の変遷</p> <p>3 子どもの人権擁護</p> <p>4 子ども家庭福祉の制度と実施体系</p> <p>5 母子保健と子どもの健全育成</p> <p>6 多様な保育ニーズへの対応</p> <p>7 子ども虐待・DV（ドメスティックバイオレンス）とその防止</p> <p>8 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応</p> <p>9 障害のある子どもへの対応</p> <p>10 少年非行等への対応</p> <p>11 少子化と地域子育て支援</p> <p>12 子育て世代の親たちの就労環境と子育て困難</p> <p>13 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進</p> <p>14 子ども家庭福祉の施設と専門性</p> <p>15 地域における連携・協働とネットワーク</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	子どもと家庭に関する日頃のニュース等に関心をもち、自分なりの考えをまとめておく。			90分	
	復習	講義の内容を振り返り、自分なりの考えをまとめておく。			90分	
授 業 の 留 意 点	前半は基本的な理念や理論を踏まえることを重点に取り上げるため、教科書を用いて授業を進める。後半は子ども虐待等様々な問題を抱える家族を考え、具体的な実践事例を取り上げて、その意義を一緒に考える機会を作る。また、新聞記事などのプリントも配布して使用する。対面、場合によっては遠隔。					
学 生 に 対 す る 評 価	最終レポート 70点、講義内での提出物等 30点					
教 科 書 (購入必須)						
参 考 書 (購入任意)	ミネルヴァ書房編集部編「社会福祉用語辞典」ミネルヴァ書房 山縣文治編「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房					

科 目 名	子ども家庭福祉Ⅱ		担当教員名	小山 貴博		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。</p> <p>2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。</p> <p>3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。</p> <p>4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。</p> <p>5. 地域において子どもに関わる多職種間の連携・協働におけるパートナーシップを実践できる。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	北海道道北地区を中心にご活躍されたソーシャルワーカーや、実務経験のある教員を招聘して、講義を行う。多様で特別な支援を必要とする子どもと家庭を理解し、地域社会に根差す視点を養うための科目					
学習到達目標	多様で特別な支援を必要とする子どもや家庭を理解して、関わり方および課題を学ぶ。子どもの最善の利益の保障がどのように地域で取り組まれているかの実践を紹介し、子ども家庭福祉の視野を広げる。					
授業の概要	多様で特別な支援を必要とする子どもや家庭の課題を理解し、介入や支援を行うことができる。子どもの最善の利益を地域で保障する実践について理解し、子ども家庭福祉の観点から対応することができる。					
授業の計画	<p>1 はじめに：子ども家庭福祉実践と援助技術</p> <p>2 子育てとは何か：心理学における個人的ドキュメントとしての育児日記の利用法</p> <p>3 地域で取り組む社会的養護(1)：児童養護施設（美深育成園長 兼 美深子ども家庭支援センター長 長野正稔）</p> <p>4 地域での実践から学ぶ(1)：子ども理解の実際—児童心理検査法（Baumtest、PF スタディ）—（美深育成園長 兼 美深子ども家庭支援センター長 長野正稔）</p> <p>5 地域で取り組む社会的養護(2)：乳児院（札幌乳児院 兼 札幌乳児院児童家庭支援センター長 吉見香）</p> <p>6 地域での実践から学ぶ(2)：乳幼児家庭支援の実際（札幌乳児院 兼 札幌乳児院児童家庭支援センター長 吉見香）</p> <p>7 地域で取り組む社会的養護(3)：児童家庭支援センター（美深子ども家庭支援センター相談員 高橋知見）</p> <p>8 地域での実践から学ぶ(3)：子ども家庭支援の実際（美深子ども家庭支援センター相談員 高橋知見）</p> <p>9 地域で取り組む社会的養護(4)：児童自立支援施設（北海道家庭学校掬泉寮長 藤原浩）</p> <p>10 地域での実践から学ぶ(4)：児童自立支援の実際（北海道家庭学校掬泉寮長 藤原浩）</p> <p>11 地域で取り組む社会的養護(5)：児童相談所（一時保護所）・里親（北海道旭川児童相談所長 渡辺典子）</p> <p>12 地域で取り組む児童虐待(1)：児童虐待相談の実際（北海道旭川児童相談所長 渡辺典子）</p> <p>13 地域で取り組む児童虐待(2)：児童虐待事例の検討</p> <p>14 家族とは何か：子ども家庭における「家族療法」</p> <p>15 まとめ：子ども家庭福祉にかかわるコンテンツの視聴</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	施設実習を行う点を考慮して、将来、実習に参加する予定の施設の種別について調べる。			90分	
	復習	講義をまとめる。			90分	
授業の留意点	積極的に授業や演習に参加し、対話的に深く学ぶことを期待する。					
学生に対する評価	期末課題レポートにより評価する。					
教科書（購入必須）	講義時に資料を配布する。					
参考書（購入任意）	<p>陳省仁・古塚孝・中島常安編著 糸田尚史ほか著 『子育ての発達心理学』 同文書院</p> <p>坂本健編著 糸田尚史ほか著 『子どもの社会的養護』 大学図書出版</p> <p>小山充道編著 糸田尚史ほか著 『必携 臨床心理アセスメント』 金剛出版</p> <p>中坪・山下・松井・伊藤・立花編集 『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』 ミネルヴァ書房</p>					

科 目 名	子ども家庭支援論		担当教員名	傳馬 淳一郎		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保育士及び児童厚生員（児童館、学童保育）の経験を持つ教員が、地域での子育て支援や保育所等での保護者支援についての知識や方法について講義し、家庭支援における保育者の役割について学ぶ科目					
学習到達目標	子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。					
授業の概要	子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解を深め、家庭支援の意義について理解する。様々な機関の家庭支援の取り組みを学び、連携・協力のあり方を考察する。また、保育者として家庭支援を行っていくために必要な基本的態度について、実際の保育場面等をイメージしながら学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 子ども家庭支援の意義と必要性</li> <li>2 子ども家庭支援の目的と機能</li> <li>3 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進</li> <li>4 子育て家庭の福祉を図るための社会資源</li> <li>5 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義</li> <li>6 子どもの育ちの喜びの共有</li> <li>7 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援</li> <li>8 保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等）</li> <li>9 家庭の状況に応じた支援</li> <li>10 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力</li> <li>11 子ども家庭支援の内容と対象</li> <li>12 保育所等を利用する子どもの家庭への支援</li> <li>13 地域の子育て家庭への支援</li> <li>14 要保護児童等及びその家庭に対する支援</li> <li>15 子育て支援に関する課題と展望</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書等の関連する箇所を事前に目を通しておく。			90分	
	復習	授業で取り上げられた内容に関して、実際の子育て支援等に結びつけて振り返る。			90分	
授業の留意点	講義形式ではありますが、演習や討議を含め主体的に参加することを求めます。					
学生に対する評価	期末レポート（70点）、リアクションペーパー（30点）により評価する。					
教科書（購入必須）	井村圭壮・相澤譲治編著『保育と家庭支援論』学文舎、2015					
参考書（購入任意）	松原康雄・村田典子・南野奈津子編集 基本保育シリーズ第5巻『子ども家庭支援論』中央法規（2018年度中に出版予定） 西村重稀・青井夕貴編集 基本保育シリーズ第19巻『子育て支援』中央法規（2018年度中に出版予定）					



科 目 名	社会的養護 I		担当教員名	鈴木 勲		
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身に付け、他者とのより良い関係を構築できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	児童相談所等での実務経験を有する教員が、社会的養護に関する基本的な知識、現状や動向、実際の具体的な支援方法について教授する科目					
学 習 到 達 目 標	1. 児童福祉施設における保育士の仕事と役割について学ぶ。 2. 社会的養護の原理や理念、仕組みについて理解する。 3. 社会的養護領域の事例を活用し、社会的養護を必要とする子どもについての理解を深める。					
授 業 の 概 要	社会的養護の基礎原理及び社会的養護下にある子どもの現状、児童福祉施設の役割を学び、養護を必要とする子どもの自立支援のための基礎知識を身に付けていくことを目的とする。また、社会的養護の基礎理念、社会的養護の法制度、子どもの権利擁護などの観点から授業を進めていく。					
授 業 の 計 画	1 ガイダンス 2 子どもと家庭を取り巻く環境と社会的養護 3 社会的「養護」と子どもの権利「擁護」とは 4 要保護児童や要保護児童とは何か 5 児童福祉施設の機能と役割について 6 家庭と同様の養育環境の保障について 7 社会的養護の変遷について 8 社会的養護の理念と概念 9 社会的養護の基本原則 10 社会的養護の理論について 11 社会的養護のしくみと実施体制 12 社会的養護の専門職に求められる専門性と役割 13 被措置児童等の虐待防止 14 社会的養護の課題と地域福祉 15 全体のまとめと振り返り					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	これまでの講義の学びを振り返る。			90分	
	復習	講義での学びを整理し、その内容と自分なりの考えを深める。			90分	
授 業 の 留 意 点	授業展開については、授業の進度などにより、内容などが変更される場合もある。対面授業を基本とするが、状況によってはオンラインでの実施もある。授業では自分の意見を大切にすると共に、他者の意見も大切にしよう心がけること。参考資料、配布資料等を用いて、復習、予習を行うこと。					
学 生 に 対 す る 価 値	学期末試験 100点 定期試験では全体的な基礎知識を問う。社会的養護に関する今日的な課題について、問題意識を持って受講するようにして下さい。					
教 科 書 (購入必須)	中山正雄 監修 浦田雅夫 編著「よりそい支える社会的養護 I 第2版」教育情報出版 (ISBN 9784909378224)					
参 考 書 (購入任意)	幼稚園教育要領・保育所保育指針 チャイルド本社 (ISBN9784805401224) 社会福祉小六法 ミネルヴァ書房編集部 ※教育要領、保育指針、小六法とも、どの出版社のものでも構いませんが、新年度のものとする。その他の参考書については、授業内で適宜、紹介する。					

科 目 名	保育者論		担当教員名	傳馬 淳一郎・長津 詩織		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保育士の経験を持つ教員が、子どもの育ちを支える保育者としての知識や方法について講義し、保育における保育者の役割について学ぶ科目					
学 習 到 達 目 標	(1) 保育者の役割と倫理について理解する (2) 保育士の制度的な位置づけを理解する (3) 保育士の専門性について考察し、理解する (4) 保育者の協働について理解する (5) 保育者の専門職的成長について理解する					
授 業 の 概 要	保育者の社会的役割や倫理、職務内容について理解を深めるとともに、保育士の制度的な位置づけや専門性、保育者に求められる連携や協働について学ぶ。また、保育実践から専門職者としての成長について考え、自らの目指すべき保育者像を追求する。 現代社会における保育者の役割について、制度や他の専門機関、家庭との関わりなどを踏まえながら学修する。また、保育者として必要とされる知識・技術や保育者の専門職としての成長について、事例等を通じながら学ぶことによって、社会的役割を果たすための保育者像について考える。					
授 業 の 計 画	1 保育者の役割と倫理（担当 傳馬） 2 保育士の制度的な位置づけ（担当 傳馬） 3 保育士の専門性 養護と教育（担当 傳馬） 4 保育士の専門性 保育士の資質・能力（担当 傳馬） 5 保育と保護者支援にかかわる協働（担当 傳馬） 6 保育者の協働 専門職観及び専門機関との連携（担当 傳馬） 7 保育者の協働 保護者及び地域社会との連携（担当 傳馬） 8 保育者の協働 家庭的保育者等との連携（担当 傳馬） 9 保育士の専門性 知識・技術及び判断（担当 長津） 10 保育士の専門性 保育の省察（担当 長津） 11 保育者の専門職的成長 専門性の発達（担当 長津） 12 保育者の専門職的成長 生涯発達とキャリア形成（担当 長津） 13 保育職場の諸課題：保育者集団とリーダーシップ（担当 長津） 14 保育職場の諸課題：保育者集団と労働条件（担当 長津） 15 まとめ より良い保育者を目指して（担当 傳馬）					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	自ら受けた保育の記憶や実習で出会った保育者を思い出しながら「保育者とは」との視点で予習を行う。			90分	
	復習	講義内容を振り返り、ノートなどにまとめる。			90分	
授 業 の 留 意 点	講義形式ではありますが、演習や討議を含め主体的に参加することを求めます。					
学生に対する評価	期末レポート 70点、リアクションペーパー 30点。					
教 科 書 (購入必須)	講義時に資料を配布する。					
参 考 書 (購入任意)	岸井・無藤・柴崎監修『保育者論—共生へのまなざし—』同文書院 中島常安・清水玲子編著『事例から見える 子どもの育ちと保育』同文書院					

科 目 名	子どもの保健		担当教員名	看護学科教員・塚原 高広		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。</p> <p>2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。</p> <p>5. 地域において子どもに関わる多職種間の連携・協働におけるパートナーシップを実践できる。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	<p>医学的知識のある医師の資格を有する教員と小児看護の臨床経験をもつ教員が、子どもの成長発達、健康状態の把握の仕方について講義を通して指導する</p>					
学習到達目標	<p>1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解することができる。</p> <p>2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解することができる。</p> <p>3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解することができる。</p> <p>4. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解することができる。</p> <p>5. 子どものこころとからだ、「虐待」から現代の問題を理解することができる。</p>					
授業の概要	<p>子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義と現在の健康問題について、ディスカッションを通して理解・考察していく。子どもの身体発育や生理・運動機能については、成長発達の変化から捉えられるように、また子どもの健康問題とその対応、疾病については、子どもに特異的なものを中心として写真・イラストなどを用いて解説する。</p>					
授業の計画	<p>1 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的、健康の概念と健康指標</p> <p>2 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題、地域の保健活動と子ども虐待の防止</p> <p>3 子どもの身体的発育・発達と保健（1）身体発育及び運動機能の発達と保健</p> <p>4 子どもの身体的発育・発達と保健（2）生理機能の発達と保健</p> <p>5 子どもの身体的発育・発達と保健（3）生理機能の発達と保健</p> <p>6 子どもの身体的発育・発達と保健（4）生理機能の発達と保健</p> <p>7 子どもの心身の健康状態とその把握（1）</p> <p>8 子どもの心身の健康状態とその把握（2）</p> <p>9 子どもの心身の健康状態とその把握（3）</p> <p>10 子どもの疾病とその対応（1）</p> <p>11 子どもの疾病とその対応（2）</p> <p>12 子どもの疾病とその対応（3）</p> <p>13 子どもの疾病の予防（4）</p> <p>14 子どもの疾病の予防（5）</p> <p>15 子どものこころとからだ 虐待と脳への影響</p>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	次回の授業について毎回提示する。関連する教科書の章・文献を読み込んでくる			90分	
	復習	本時の目標に沿って、資料などを振り返りまとめる			90分	
授業の留意点	<p>子どもの健康や安全を守り、心身ともに健やかに育てること、また子どもに自分の健康や安全を守る力を獲得させ、その力を育むための指針を示すものである。積極的な授業参加を期待したい。</p>					
学生に対する評価	定期試験 100点					
教科書（購入必須）	子どもの保健 遠藤郁夫/三宅捷太 編集 学建書院					
参考書（購入任意）						

科 目 名	保育指導論		担当教員名	棚橋 裕子		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修 幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。</p> <p>4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	幼稚園教諭としての実務経験を有する教員が、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている「ねらい」「内容」を基に、具体的な保育計画作成についての方法や作成における留意点、また、実践の系統性や計画と実践の往還性についてカリキュラムマネジメントの観点から指導を行う科目					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法の基礎理論の理解を基底に、カリキュラムの意義、目的、内容について理解し論じることができる。</li> <li>・幼児期の発達特性や行動特性に基づき、子ども理解の重要性を論じることができる。</li> <li>・保育記録の意義や内容について理解し、分析的、実践的にまとめることができる。</li> </ul>					
授業の概要	幼稚園教育要領の理解を基に、教育方法の基礎理論について具体的な事例を取り上げながら、指導・援助のあり方など保育技術について理解する。また、教育課程・指導計画と保育の関連性についての理解とともに、実践に根ざした指導のあり方を学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 幼稚園、保育園、認定こども園における保育</li> <li>2 保育3法令と保育内容</li> <li>3 保育施設におけるカリキュラムの意義と目的</li> <li>4 子どもの遊びと保育者の援助① 遊びの意義と必要性</li> <li>5 子どもの遊びと保育者の援助② 遊びのおもしろさの探究</li> <li>6 子どもの遊びと保育者の援助③ 子どもが遊びで得る経験とその意味</li> <li>7 環境を通して行う保育の意義① 子どもの姿に学ぶ</li> <li>8 環境を通して行う保育の意義② 子どもの実態把握から計画へ</li> <li>9 保育記録の意味</li> <li>10 指導計画の意義と必要性</li> <li>11 行事の捉えと意義① 日常から行事へのつながり</li> <li>12 行事の捉えと意義② 行事を通して得る経験とその後の保育</li> <li>13 家庭との連携① 育ち合う親と保育者</li> <li>14 家庭との連携② 子どもを中心とした支援体制づくり</li> <li>15 まとめ 子どもを取りまく社会と今後の課題</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回の内容をシラバスにて確認し、各自で必要箇所について調べたり、質問をまとめたりしておくこと。			90分	
	復習	毎回の授業の内容をまとめ、理解が不十分な点について、資料を参考に学習の補完を行うこと。			90分	
授業の留意点	講義科目であるが、グループワーク等での積極的な参加態度と協同的な学びの姿勢を求める。さらに、自分の興味や疑問点を追求しつつ、他者の視点を取り入れながら形成的に理解を深めていくことを期待する。 授業の進度により内容が前後、変更する場合がある。					
学生に対する評価	授業内レポート 20点、期末試験 70点、授業態度 10点					
教科書（購入必須）	幼稚園教育要領解説『フレーベル館』 その他、適宜資料を配布する。					
参考書（購入任意）						

科 目 名	保育内容・表現Ⅱ（造形）		担当教員名	堀川 真		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 3. 子どもに向き合い、子どもに寄りそうことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	絵本作家として活動中であり、言葉や造形あそびを研究している教員が、保育の現場における創作活動や造形あそびの事例等を通して、内面世界の発達と心の理解を指導する科目					
学習到達目標	「保育内容・表現Ⅰ」での学修を踏まえて造形表現活動を実践し、月齢に応じた指導上での留意点や工夫について考えながら、より高度な知識・技能を身につけて子どもとかかわることができる。					
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの感性を高めることを目的として、前半の「多様な素材」においては、材料や環境に向き合いながら、子どもの反応を想定した造形活動支援ができるようにする。</li> <li>・多様な子どもに向き合うことを想定し、後半の「絵本づくり」においては、着想から製本までの総合的な制作を通して、こどもの発達に対応した絵本づくりや絵本理解を身につける。</li> </ul>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 風とあそぶ</li> <li>2 多様な素材 (1) 厚紙：ハンペルマン</li> <li>3 多様な素材 (2) 箱：カメラ</li> <li>4 多様な素材 (3) 土：石膏型取り</li> <li>5 多様な素材 (4) 水：染めあそび</li> <li>6 多様な素材 (5) 古紙：新聞紙であそぶ</li> <li>7 多様な素材 (6) 廃材：街をつくる</li> <li>8 様々な造形パフォーマンス</li> <li>9 絵本づくり (1) 構想</li> <li>10 絵本づくり (2) 下絵～彩色</li> <li>11 絵本づくり (3) 彩色～仕上げ</li> <li>12 絵本づくり (4) 製本の技法</li> <li>13 絵本づくり (5) 糊付け</li> <li>14 絵本づくり (6) 製本</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	ICTを活用した実践例などの情報を収集しつつ、当日にむけた計画を立てる。			25分	
	復習	講義内容を振り返りノートにまとめる。			20分	
授業の留意点	子どもとの共感について理解する授業であるため、道具・材料の準備を怠らず、予習復習を行い、積極的に取り組んでほしい。					
学生に対する評価	提出物(70点)、発表(30点)。					
教科書 (購入必須)	必要に応じてその都度プリントを配布する。					
参考書 (購入任意)	特になし					

科 目 名	就学児保育A（思春期の支援）		担当教員名	佐々木 彰・鈴木 勲		
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士（選択）
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。</p> <p>4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身に付け、他者とのより良い関係を構築できる。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	児童相談所等での実務経験をもとに、思春期の子どもたちが抱える課題への支援について教授する。					
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における就学児保育の意義と歴史の変遷について理解する。</li> <li>2. 就学児保育と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。</li> <li>3. 就学児保育の制度や実施体系等について理解する。</li> <li>4. 就学児保育における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。</li> <li>5. 就学児保育の現状と課題について理解する。</li> <li>6. 就学期の子どもたちの心の問題をよく理解した上での支援が行える。</li> </ol>					
授業の概要	思春期は、心身ともに大きな成長を遂げる時期であるが、それ故にまた、それまでの心と育ちの課題がいじめや、非行、不登校などのいわゆる「問題行動」として現れやすい時期でもある。それら「問題行動」への対応は、その後の子どもの成長に大きな影響を与える。この授業では、この時期の子どもたちをどのように理解し、支援していくかを学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 就学児を取り巻く状況</li> <li>2 神経発達症（発達障害）（担当佐々木彰）</li> <li>3 愛着障害（担当佐々木彰）</li> <li>4 ストレス因関連障害（適応障害、PTSD等）（担当佐々木彰）</li> <li>5 心身症、身体症状症（身体表現性障害）（担当佐々木彰）</li> <li>6 反抗挑発症、素行症、窃盗症（担当佐々木彰）</li> <li>7 うつ、情緒障害、不安症（担当佐々木彰）</li> <li>8 嗜癖性障害（インターネットゲーム障害、電子メディア依存症等）（担当佐々木彰）</li> <li>9 摂食障害、緘黙、チック症/トゥレット症など（担当佐々木彰）</li> <li>10 虐待を受ける子どもたち</li> <li>11 児童養護施設等の子どもたち</li> <li>12 非行少年</li> <li>13 ひきこもり・不登校児童</li> <li>14 情緒障害児</li> <li>15 スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	これまでの講義の学びを振り返る。			15分	
	復習	講義での学びを整理し、その内容と自分なりの考えを深める。			30分	
授業の留意点	<p>授業展開については授業の進度などにより、内容などが変更される場合もある。</p> <p>対面授業を基本とするが、状況によってはオンラインでの実施もある。</p> <p>授業では自分の意見を大切にすると共に、他者の意見も大切にしよう心がけること。</p> <p>参考資料、配布資料等を用いて、復習、予習を行うこと。</p>					
学生に対する評価	提出物 80点、講義における取組 20点					
教科書（購入必須）	適宜資料等を配布する。					
参考書（購入任意）	社会福祉小六法 2022 令和4年版 / ミネルヴァ書房編集部（ISBN9784623093090）小六法は、どの出版社のものでも構いませんが、新年度のものとする。その他の参考図書については、適宜授業の中で紹介する。					

科 目 名	就学児保育B（学童保育）		担当教員名	河野 和枝		
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	共同学童保育所勤務や一般社団法人日本学童保育士協会の実施する「学童保育士」認証講座講師の経験を持つ教員が、学童保育所の目的や社会的存在意義・役割を示し、利用する子どもや保護者を理解し、実践者・学童保育士を養成する授業である。					
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学童保育の理念・歴史・制度について理解する。</li> <li>・学童保育所を利用する子どもの生活と発達について理解する。</li> <li>・学童保育所を利用する保護者の生活実態と共同の子育て観を理解する。</li> <li>・学童保育士の業務内容と専門性について理解する。</li> </ul>					
授 業 の 概 要	学童保育とは、児童福祉法で、「放課後児童健全育成事業」といい、保護者が就労等で家庭にいない小学生を対象に、放課後や学校の休業日の生活を豊かにすることを目的とした事業の総体を指す。近年、学童保育のニーズは、高まっているが、保育内容や専門職の養成など多くの課題がある。本講義では、学童保育の成り立ちや目的、関連法について学ぶとともに、学童保育における生活づくりの進め方や学童保育士の専門性について理解し現場で発揮できる力量を獲得する。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学童保育の目的と役割～放課後児童クラブ運営指針の概要について</li> <li>2 保育に活かす関係法と施策の歴史的変遷</li> <li>3 学童保育の役割と家族支援</li> <li>4 学童期の子どもの生活と発達</li> <li>5 学童保育所に通う子どもの理解</li> <li>6 子どもの健康・安全・衛生</li> <li>7 学童保育の保育計画と生活づくり</li> <li>8 障がいのある子どもを含めた生活づくり</li> <li>9 保護者との連携・地域との連携</li> <li>10 学校や関係機関との連携</li> <li>11 学童保育での食事</li> <li>12 学童保育士の専門性と子ども観</li> <li>13 学童保育所視察（1）公設学童保育所</li> <li>14 学童保育所視察（2）私設学童保育所</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	各回の授業テーマに合わせて『放課後児童クラブ運営指針』の内容を予習しておくこと。				
	復習	毎回配付する資料に「まとめ（課題）」を提起するので、基づき復習しておく。				
授 業 の 留 意 点	授業テーマに関する課題についてグループディスカッションを行い発表を促すことがある。					
学 生 対 する 評 価	課題の取組状況（50点）、レポート（50点）等で評価する。					
教 科 書 （購入必須）	資料を授業テーマに合わせて毎回配布する。					
参 考 書 （購入任意）	『学童保育を哲学する一子どもに必要な生活・遊び・権利保障』増山均著 自治体研究社 『静かだったら、学校と同じじゃんー学童クラブの窓から』石田かづ子・増山均著、編集 新日本出版社					

科 目 名	病児・病後児保育		担当教員名	看護学科 小児看護学担当教員		
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。 2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 5. 地域において子どもに関わる多職種間の連携・協働におけるパートナーシップを実践できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	小児看護の経験を持つ教員が、子どもが病児・病後児の施設・事業所などによる保育、臨床の場の保育について教授する。					
学習到達目標	1. 病気と共に生活する子どもたちを理解する 2. 病気の子ども、病気の回復期の子どもの保育を行う際、保育士として求められる観察や対応方法を修得する 3. 家族への支援、多職種（医師、看護師など）との連携の在り方について学ぶ					
授業の概要	病児・病後児保育の現状と課題および代表的な子どもの疾病について学習したうえで、症状を観察しながらの保育について考える。また、国内外における様々な取り組みから闘病生活を送る子どもや家族への支援の実際について学ぶ。事例による演習を多く取り入れることにより実践的な学びを深め、現場の様々な問題解決にも対応できる保育士としての専門性や実践力の獲得を目指す。					
授業の計画	1 病児・病後児保育とは 2 病児・病後児保育の概要 3 病児の理解 4 保育施設における病児保育1 5 保育施設における病児保育2 6 医療・病院施設における病児保育1 7 医療・病院施設における病児保育2 8 特別な配慮を必要とする子どもと家族への対応 9 特別な配慮を必要とする子どもと家族への対応 10 病児・病後児保育における子どものケア ケーススタディ1 11 病児・病後児保育における子どものケア ケーススタディ2 12 病児・病後児保育における子どものケア ケーススタディ2 13 専門職との連携 14 保護者との連携 15 病児・病後児保育のリスクマネジメント					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	保育の専門職者として、病気の子どもの生命を守り成長発達を促す保育とは何か、保育が担う責任を考えながら授業に参加することを望みます。					
学生に対する評価	課題を提出、その内容により評価 100点 課題レポート5回 各20点配点					
教科書 (購入必須)	資料を配付する					
参考書 (購入任意)						



科 目 名	子どもの健康と安全		担当教員名	看護学科 小児看護学担当教員		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 5. 地域において子どもに関わる多職種間の連携・協働におけるパートナーシップを実践できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	小児看護の経験を持つ教員が、子どもの養護、身体計測、緊急時の対応を教授する					
学習到達目標	1. 乳幼児をこころよくできる養護について理解して実施できる。 2. 乳幼児の身体計測、体温・呼吸・脈拍の測定方法がわかり実施できる。 3. 乳幼児の緊急時の応急手当てについて理解して実施できる。 4. 安全な保育環境・衛生管理について理解することができる。					
授業の概要	乳幼児の日常生活の養護、発育・健康状態の観察と評価、病気やケガなどに緊急時の対応について、演習を通して学ぶ。					
授業の計画	1 授業概要と演習についてのオリエンテーション 2 子どもの日常における養護1 3 子どもの日常における養護2 4 保育環境の整備と保育現場の衛生管理1 5 保育環境の整備と保育現場の衛生管理2 6 子どもの健康に関する個別対応と集団全体の健康1 7 子どもの健康に関する個別対応と集団全体の健康2 8 子どもの健康に関する個別対応と集団全体の健康3 9 子どもの健康に関する個別対応と集団全体の健康4 10 傷害が発生した時の対応1 11 傷害が発生した時の対応2 12 保育の場における薬の管理1 13 保育の場における薬の管理2 14 いざというときの応急処置1 15 いざというときの応急処置2					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	次回の授業について提示する。関連する教科書の章・文献を読み込んでくる			15分	
	復習	本時の目標に沿って、資料などを振り返りまとめる			30分	
授業の留意点	演習時は、教員がデモンストレーションを行います。事前に教科書で手順を確認し積極的に実施できるように準備することが必要です。毎回、演習に関連した課題の提出があります。					
学生に対する評価	演習課題の提出と記載内容 100点					
教科書 (購入必須)	松本峰雄 監修 子どもの保健と安全 演習ブック ミネルヴァ書房					
参考書 (購入任意)						

科 目 名	社会的養護Ⅱ		担当教員名	小山 貴博		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸問題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。 2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	社会的養護の実際について理解を深め、子ども達や保護者の置かれた状況について、多方面から考える。そのうえで、望ましい支援について教員と学生が一体となって考察を加える。					
学習到達目標	児童福祉領域における社会的養護の体系や実情について学ぶ。とりわけ、児童福祉施設における支援や処遇の歴史、現状、将来展望などについて探求すると共に、自らがよき支援者となることを目標として、実践的に学習する。					
授業の概要	児童養護施設を中心に、他の児童福祉施設や里親制度など、社会的養護の法制度、支援のシステム、生活している子どもたちの実情などを学び、自立支援のあり方などについて考える。児童問題全体にわたり取り上げたいが、特に被虐待児童の理解と支援について重点をおいてすすみたい。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス（講義の概要と進め方）</li> <li>2 社会的養護の体系Ⅰ～社会的養護の歴史と現状</li> <li>3 社会的養護の体系Ⅱ～社会的養護の法制度、支援のシステム</li> <li>4 施設養護の実際Ⅰ～児童養護系の施設（乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設）の現状</li> <li>5 施設養護の実際Ⅱ～児童養護施設の生活形態と支援の実際</li> <li>6 施設養護の実際Ⅲ～児童養護施設における支援のあり方と児童の権利擁護</li> <li>7 家庭的養護の実際～里親制度と養子縁組制度</li> <li>8 施設養護の実際Ⅳ～施設養護と家庭的養護の比較</li> <li>9 施設養護の実際Ⅴ～児童自立支援施設、自立援助ホームにおける支援</li> <li>10 施設養護の実際Ⅵ～障害のある子どもの施設①（知的障害児施設、情緒障害児短期治療施設）</li> <li>11 施設養護の実際Ⅶ～障害のある子どもの施設②（肢体不自由児施設・重症心身障害児施設）</li> <li>12 ケース記録・生活記録の意義と記録法</li> <li>13 自立支援計画の策定の意義と方法</li> <li>14 児童福祉施設の職員になるために～実習や就職活動の心構えと職員に求められるもの</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	資料の事前検討			90分	
	復習	講義の振り返り			90分	
授業の留意点	(1) 社会的養護関連のニュースや動向などに興味・関心を持って授業に臨むことを求めます。 (2) 講義中に関係無い私語は、他学生の講義を受ける権利を侵害するため、厳禁とする。					
学生に対する評価	筆記試験（100%）※3分の2以上の出席が大前提である。					
教科書（購入必須）	適宜資料を配布する。					
参考書（購入任意）						

科 目 名	子育て支援		担当教員名	鈴木 勲		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身に付け、他者とのより良い関係を構築できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	児童相談所等での実務経験をもとに、子育て支援の基礎、応用について教授する。					
学 習 到 達 目 標	1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。					
授 業 の 概 要	子育て支援の概要、体系及び方法と技術、関係機関との連携や協働について基本的な知識を理解したうえで、子育て支援の具体的展開事例、保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。子育て支援の個々の課題についても、理論と実際の双方から具体的に考える。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 子どもの保育とともに行う保護者の支援</li> <li>2 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成</li> <li>3 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解</li> <li>4 子ども及び保護者の状況・状態の把握</li> <li>5 支援の計画と環境の構成</li> <li>6 支援の実践・記録・評価・カンファレンス</li> <li>7 職員間の連携・協働</li> <li>8 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働</li> <li>9 保育所等における支援</li> <li>10 地域の子育て家庭に対する支援</li> <li>11 障害のある子ども及びその家庭に対する支援</li> <li>12 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援</li> <li>13 子ども虐待の予防と対応</li> <li>14 要保護児童等の家庭に対する支援</li> <li>15 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	これまでの講義の学びを振り返る。			15分	
	復習	講義での学びを整理し、その内容と自分なりの考えを深める。			30分	
授 業 の 留 意 点	授業展開については授業の進度などにより、内容などが変更される場合もある。対面授業を基本とするが、状況によってはオンラインでの実施もある。授業では自分の意見を大切にすると共に、他者の意見も大切にしよう心がけること。参考資料、配布資料等を用いて、復習、予習を行うこと。					
学 生 に 対 す る 価 値	学期末試験 100 点 定期試験では全体的な基礎知識を問う。子育て支援に関する今日的な課題について、問題意識を持って受講するようにして下さい。					
教 科 書 (購入必須)	適宜資料等を配布する。					
参 考 書 (購入任意)	幼稚園教育要領・保育所保育指針 チャイルド本社 (ISBN9784805401224) 社会福祉小六法 ミネルヴァ書房編集部 ※教育要領、保育指針、小六法とも、どの出版社のものでも構いませんが、新年度のものとする。その他の参考書については、授業内で適宜、紹介する。					

科 目 名	児童文化演習		担当教員名	堀川 真・石本 啓一郎																															
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習																													
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択・幼稚園：選択																													
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 3. 子どもに向き合い、子どもに寄りそうことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。																																		
実務経験及びそれに関わる授業内容	児童文化を研究している教員が、保育の現場における読み聞かせ等の読書活動やことばあそびの事例等を通して、児童文化の発達と表現力の向上を指導する科目																																		
学習到達目標	演習を通して児童文化への理解を深め、遊びの指導者としての技術・技能を身につけるとともに、創造することの喜びと感動を体験し、保育場面に活用することができる。																																		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの感性を高めることを目的として、絵本読み聞かせの実演を全員に課す。</li> <li>・子どもの感性を高めることを目的として、展開可能な工作指導の技術を身につける。</li> <li>・子どもに向き合うことを想定し、パネルシアターの制作と上演を通して、保育士としての表現力の向上をめざす。</li> <li>・適切な作品理解のために、絵本作家による講義を通して絵本の理解を深める。</li> </ul>																																		
授業の計画	<table border="1"> <tr> <td>1 オリエンテーション (担当:堀川)</td> <td>16 あそびを組織する(1) 「あそびの大会」計画づくり (担当:堀川)</td> </tr> <tr> <td>2 お店屋さんごっこ(1) お弁当、たべもの (担当:堀川)</td> <td>17 あそびを組織する(2) 「あそびの大会」ゲームづくり (担当:堀川)</td> </tr> <tr> <td>3 お店屋さんごっこ(2) ケーキ (担当:堀川)</td> <td>18 あそびを組織する(3) 「あそびの大会」景品づくり (担当:堀川)</td> </tr> <tr> <td>4 お店屋さんごっこ(3) アクセサリー (担当:堀川)</td> <td>19 あそびを組織する(4) 「あそびの大会」準備 (担当:堀川)</td> </tr> <tr> <td>5 お店屋さんごっこ(4) 各グループ任意制作 (担当:堀川)</td> <td>20 あそびを組織する(5) 「あそびの大会」発表会 (担当:堀川)</td> </tr> <tr> <td>6 お店屋さんごっこ(5) 発表会準備 (担当:堀川)</td> <td>21 動物を見つめる(1) 鳥類 (担当:石本)</td> </tr> <tr> <td>7 お店屋さんごっこ(6) 発表会 (担当:堀川)</td> <td>22 動物を見つめる(2) 類人猿 (担当:石本)</td> </tr> <tr> <td>8 紙芝居大会(1) 前半3グループ、3会場にて実演 (担当:堀川)</td> <td>23 動物を見つめる(3) 哺乳類 (担当:石本)</td> </tr> <tr> <td>9 紙芝居大会(2) 後半3グループ、3会場にて実演 (担当:堀川)</td> <td>24 動物を見つめる(4) 爬虫類 (担当:石本)</td> </tr> <tr> <td>10 パネルシアター(1) しかけの理解 (担当:堀川)</td> <td>25 動物を見つめる(5) 北海道産動物 (担当:石本)</td> </tr> <tr> <td>11 パネルシアター(2) 制作の実践・内容の検討 (担当:堀川)</td> <td>26 動物絵本を知る(1) 構想 (担当:石本)</td> </tr> <tr> <td>12 パネルシアター(3) 制作の実践・材料の選択 (担当:堀川)</td> <td>27 動物絵本を知る(2) 各場面を考える (担当:石本)</td> </tr> <tr> <td>13 パネルシアター(4) 制作の実践・効果の確認 (担当:堀川)</td> <td>28 動物絵本を知る(3) 完成に至るまで (担当:石本)</td> </tr> <tr> <td>14 パネルシアター(5) 発表会準備 (担当:堀川)</td> <td>29 動物絵本を知る(4) 動物学と民俗学 (担当:石本)</td> </tr> <tr> <td>15 パネルシアター(6) 発表会 (担当:堀川)</td> <td>30 動物絵本を知る(5) まとめ (担当:石本)</td> </tr> </table>					1 オリエンテーション (担当:堀川)	16 あそびを組織する(1) 「あそびの大会」計画づくり (担当:堀川)	2 お店屋さんごっこ(1) お弁当、たべもの (担当:堀川)	17 あそびを組織する(2) 「あそびの大会」ゲームづくり (担当:堀川)	3 お店屋さんごっこ(2) ケーキ (担当:堀川)	18 あそびを組織する(3) 「あそびの大会」景品づくり (担当:堀川)	4 お店屋さんごっこ(3) アクセサリー (担当:堀川)	19 あそびを組織する(4) 「あそびの大会」準備 (担当:堀川)	5 お店屋さんごっこ(4) 各グループ任意制作 (担当:堀川)	20 あそびを組織する(5) 「あそびの大会」発表会 (担当:堀川)	6 お店屋さんごっこ(5) 発表会準備 (担当:堀川)	21 動物を見つめる(1) 鳥類 (担当:石本)	7 お店屋さんごっこ(6) 発表会 (担当:堀川)	22 動物を見つめる(2) 類人猿 (担当:石本)	8 紙芝居大会(1) 前半3グループ、3会場にて実演 (担当:堀川)	23 動物を見つめる(3) 哺乳類 (担当:石本)	9 紙芝居大会(2) 後半3グループ、3会場にて実演 (担当:堀川)	24 動物を見つめる(4) 爬虫類 (担当:石本)	10 パネルシアター(1) しかけの理解 (担当:堀川)	25 動物を見つめる(5) 北海道産動物 (担当:石本)	11 パネルシアター(2) 制作の実践・内容の検討 (担当:堀川)	26 動物絵本を知る(1) 構想 (担当:石本)	12 パネルシアター(3) 制作の実践・材料の選択 (担当:堀川)	27 動物絵本を知る(2) 各場面を考える (担当:石本)	13 パネルシアター(4) 制作の実践・効果の確認 (担当:堀川)	28 動物絵本を知る(3) 完成に至るまで (担当:石本)	14 パネルシアター(5) 発表会準備 (担当:堀川)	29 動物絵本を知る(4) 動物学と民俗学 (担当:石本)	15 パネルシアター(6) 発表会 (担当:堀川)	30 動物絵本を知る(5) まとめ (担当:石本)
1 オリエンテーション (担当:堀川)	16 あそびを組織する(1) 「あそびの大会」計画づくり (担当:堀川)																																		
2 お店屋さんごっこ(1) お弁当、たべもの (担当:堀川)	17 あそびを組織する(2) 「あそびの大会」ゲームづくり (担当:堀川)																																		
3 お店屋さんごっこ(2) ケーキ (担当:堀川)	18 あそびを組織する(3) 「あそびの大会」景品づくり (担当:堀川)																																		
4 お店屋さんごっこ(3) アクセサリー (担当:堀川)	19 あそびを組織する(4) 「あそびの大会」準備 (担当:堀川)																																		
5 お店屋さんごっこ(4) 各グループ任意制作 (担当:堀川)	20 あそびを組織する(5) 「あそびの大会」発表会 (担当:堀川)																																		
6 お店屋さんごっこ(5) 発表会準備 (担当:堀川)	21 動物を見つめる(1) 鳥類 (担当:石本)																																		
7 お店屋さんごっこ(6) 発表会 (担当:堀川)	22 動物を見つめる(2) 類人猿 (担当:石本)																																		
8 紙芝居大会(1) 前半3グループ、3会場にて実演 (担当:堀川)	23 動物を見つめる(3) 哺乳類 (担当:石本)																																		
9 紙芝居大会(2) 後半3グループ、3会場にて実演 (担当:堀川)	24 動物を見つめる(4) 爬虫類 (担当:石本)																																		
10 パネルシアター(1) しかけの理解 (担当:堀川)	25 動物を見つめる(5) 北海道産動物 (担当:石本)																																		
11 パネルシアター(2) 制作の実践・内容の検討 (担当:堀川)	26 動物絵本を知る(1) 構想 (担当:石本)																																		
12 パネルシアター(3) 制作の実践・材料の選択 (担当:堀川)	27 動物絵本を知る(2) 各場面を考える (担当:石本)																																		
13 パネルシアター(4) 制作の実践・効果の確認 (担当:堀川)	28 動物絵本を知る(3) 完成に至るまで (担当:石本)																																		
14 パネルシアター(5) 発表会準備 (担当:堀川)	29 動物絵本を知る(4) 動物学と民俗学 (担当:石本)																																		
15 パネルシアター(6) 発表会 (担当:堀川)	30 動物絵本を知る(5) まとめ (担当:石本)																																		
授業の予習・復習の内容と時間	予習	ICTを活用した実践例などの情報を収集しつつ、当日にむけた計画を立てる。			90分																														
	復習	講義内容を振り返りノートにまとめる。																																	
授業の留意点	子どもにかかわる技術にかかる授業であるため、道具・材料の準備を怠らず、予習復習を行い、積極的に取り組んでほしい。																																		
学生に対する評価	授業における発表(50点)、制作物(50点)																																		
教科書(購入必須)	必要に応じてその都度をプリントを配布する。																																		
参考書(購入任意)	特になし																																		

科 目 名	子どもと造形表現 I		担当教員名	堀川 真		
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。</p> <p>3. 子どもに向き合い、子どもに寄りそうことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	絵本作家として活動中であり、言葉や造形あそびを研究している教員が、保育の現場における創作活動や造形あそびの事例等を通して、内面世界の発達と心の理解を指導する科目					
学習到達目標	造形あそびと絵画制作における基礎的な技法を身につけ、豊かな感性を持ち、多様な表現に共感して楽しむことができる。					
授業の概要	子どもの感性を高めることを目的として、造形あそびと絵画指導上の留意点について実作を通して学ぶ。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 保育における造形分野の役割とかんたん工作</li> <li>2 絵画制作 (1) 描画の発達と軟筆画 (フロッタージュ)</li> <li>3 絵画制作 (2) 描画の発達と水彩画 (デカルコマニー)</li> <li>4 工作 (1) お面、かぶりもの</li> <li>5 工作 (2) 子どもの日、ハロウィンの仮装</li> <li>6 工作 (3) ストロー人形</li> <li>7 工作 (4) 凧、飛行機凧、くるくるヘビ</li> <li>8 工作 (5) 折紙飛行機、折紙ロケット</li> <li>9 工作 (6) けん玉、わりばし鉄砲、びゅんびゅんゴマ</li> <li>10 工作 (7) 紙版画、ステンシル</li> <li>11 工作 (8) とびだすカード</li> <li>12 工作 (9) 折紙</li> <li>13 工作 (10) 音を出してみる</li> <li>14 工作 (11) 壁面構成</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	ICTを活用した実践例などの情報を収集しつつ、当日にむけた計画を立てる。			25分	
	復習	講義内容を振り返りノートにまとめる。			20分	
授業の留意点	子どもにかかわる技術にかかる授業であるため、道具・材料の準備を怠らず、予習復習を行い、積極的に取り組んでほしい。					
学生に対する評価	提出物(70点)、発表(30点)。					
教科書 (購入必須)	特になし					
参考書 (購入任意)	『3・4・5歳児の保育に 作ってあそべる製作ずかん』(学研 今野道裕：著)					

科 目 名	子どもと造形表現Ⅱ		担当教員名	堀川 真		
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択 幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	<p>2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。</p> <p>3. 子どもに向き合い、子どもに寄りそうことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	<p>児童相談所と児童家庭支援センターにおいて児童文化の実務経験を有する教員が、子どもの「造形想像」発展に有効とされる技能・知見について指導する科目</p>					
学習到達目標	<p>「図画工作Ⅰ」での学修を踏まえ、応用的造形技法の制作を通し、保育活動の幅を広げる可能性と留意点を考えることができる。</p>					
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの感性を高めることを目的として、「図画工作Ⅰ」での学修を基礎とし、子どものための一般的な造形技法のみならず、より高度な制作活動を行う。</li> <li>・子どもに向き合うことを想定し、日本の昔話を題材にした人形劇、影絵劇の制作と上演を行い、舞台上における表現力、演出力の向上を目指す。</li> </ul>					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション（木工・箸をつくる）</li> <li>2 窯芸（1） 成形</li> <li>3 窯芸（2） 焼成</li> <li>4 仮装（1） 構想と制作</li> <li>5 仮装（2） 制作と発表会</li> <li>6 紙版画（1） カレンダー制作・製版</li> <li>7 紙版画（2） カレンダー制作・印刷</li> <li>8 人形劇・影絵劇をつくる（1） 構想・脚本の制作</li> <li>9 人形劇・影絵劇をつくる（2） 役割の分担</li> <li>10 人形劇・影絵劇をつくる（3） 人形をつくる</li> <li>11 人形劇・影絵劇をつくる（4） 背景をつくる</li> <li>12 人形劇・影絵劇をつくる（5） 発表準備・人形操作および光の理解と工夫</li> <li>13 人形劇・影絵劇をつくる（6） 発表準備・人形操作および光の工夫と修正</li> <li>14 人形劇・影絵劇をつくる（7） 発表会</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	ICTを活用した実践例などの情報を収集しつつ、当日にむけた計画を立てる。			25分	
	復習	講義内容を振り返りノートにまとめる。			20分	
授業の留意点	<p>子どもにかかわる技術にかかる授業であるため、道具・材料の準備を怠らず、予習復習を行い、積極的に取り組んでほしい。</p>					
学生に対する評価	<p>提出物(50点)、発表(50点)。</p>					
教科書（購入必須）	<p>必要に応じてその都度、プリントを配付する。</p>					
参考書（購入任意）	<p>特になし。</p>					

科 目 名	児童文化		担当教員名	堀川 真		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	幼稚園：選択
対応するディプロマ・ポリシー	3. 子どもに向き合い、子どもに寄りそうことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。 5. 地域において子どもにかかわる多種機関の連携・協働におけるパートナーシップを実践できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	児童文化を研究している教員が、保育の現場における読み聞かせ等の読書活動やことばあそびの事例等を通して、児童文化の発達と心の理解を指導する科目					
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童文化に関する知識と実際を知り、日本の子ども文化の特性を理解する。</li> <li>・児童文化が保育分野に果たす役割を考えつつ、その特性や実践上の留意点について理解するとともに、地域と協働する文化活動に資する力を持つ。</li> </ul>					
授業の概要	子ども理解につなげるために、伝承あそびからおもちゃ・絵本・紙芝居等まで、児童文化にかかるものを紹介し、それが果たす役割について理解する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 子どもを取り巻く文化状況</li> <li>2 あそびについて 「あそび」の持つ意味 と集団づくりに役立つ遊び</li> <li>3 伝承あそびについて 伝承遊びの紹介と実演</li> <li>4 おもちゃについて おもちゃの役割と特性、手づくりおもちゃ</li> <li>5 おもちゃについて 郷土玩具、グッドトイの紹介</li> <li>6 ゲームについて ビデオゲームのはじまりと今日のあり様</li> <li>7 紙芝居について 発達史と上演の留意点</li> <li>8 演じるあそびについて ごっこあそび、劇遊び、劇、人形劇</li> <li>9 昔話について 昔話とは何か、昔話の魅力</li> <li>10 絵本小史 絵本の歴史と20世紀初頭海外の展開</li> <li>11 絵本小史 絵本の歴史と日本戦後の展開</li> <li>12 絵本創作の背景 実作を通してみる課程と配慮</li> <li>13 読書推進活動を考える 公共図書館と地域家庭文庫</li> <li>14 テレビ論 児童向けテレビ番組に見る社会との同期性について</li> <li>15 まとめ 授業の感想と児童文化についての考察・発表</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	ICT等を活用し、テーマにかかる内容の情報を収集し、ノートにまとめる。			90分	
	復習	講義内容を振り返りノートにまとめる。			90分	
授業の留意点	科目の性格上、講義科目であるが演習的要素を含むので、実技の予習復習も行い、積極的に取り組んでほしい。					
学生に対する評価	3回の小レポート(60点)、レポート(40点)					
教科書(購入必須)	その都度必要に応じてプリントを配布する。					
参考書(購入任意)	特になし。					

科 目 名	特別な教育的ニーズの理解とその支援		担当教員名	郡司竜平	
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。				
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校や小学校教員（支援級、通常級）の経験から得た内容を話題に討論し指導する科目				
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インクルーシブ保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害等のある子ども及びその保育について理解する。</li> <li>2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。</li> <li>3. 障害等のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。</li> <li>4. 障害等のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。</li> <li>5. 障害等のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。</li> </ol>				
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) インクルーシブ保育を支える理念、</li> <li>(2) 障害等の理解と保育における発達の援助、</li> <li>(3) インクルーシブ保育の実際、</li> <li>(4) 家庭及び関係機関との連携、</li> <li>(5) 障害等のある子どもの保育にかかわる現状と課題 などについて学び、演習を行う。</li> </ol>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 障害等の理解と援助①（障害とは何か？）</li> <li>2 障害等の理解と援助②（特別のニーズと支援）</li> <li>3 障害等の理解と援助③（特別支援教育の理念、歴史、法制度）</li> <li>4 障害等の理解と援助④（討論：障害と個性）</li> <li>5 障害等のある子どもの保育の実際①（療育機関・特別支援学校の現状）</li> <li>6 障害等のある子どもの保育の実際②（小学校・中学校等の現状）</li> <li>7 障害等のある子どもの保育の実際③（保育園・幼稚園の現状）</li> <li>8 障害等のある子どもの保育の実際④（討論：差別について）</li> <li>9 連携の仕組みと支援計画①（関係機関との連携）</li> <li>10 連携の仕組みと支援計画②（保護者の支援、保護者との連携）</li> <li>11 連携の仕組みと支援計画③（個別の支援計画等の作成）</li> <li>12 連携の仕組みと支援計画④（討論：支援を繋げるために）</li> <li>13 これからのインクルーシブ保育①（特別支援教育から権利条約まで）</li> <li>14 これからのインクルーシブ保育②（インクルーシブ保育への可能性）</li> <li>15 これからのインクルーシブ保育③（討論：インクルージョンの展望と課題）</li> </ol>				
授業の予習・復習の内容と時間	予習	教科書、講義内で提示された資料を中心に予習と資料や討論で話し合われた内容の整理を復習をすること。		45分	
授業の留意点	演習科目であり、積極的な発言等を求めます。				
学生に対する評価	毎回の講義に対するリアクションペーパー30点、レポート70点で評価する。				
教科書（購入必須）	橋本創一・渡邊貴裕・林安紀子・久見瀬明日香・工藤傑史・大伴潔・安永啓司・田口悦津子編 『知的・発達障害のある子のための「インクルーシブ保育」実践プログラム』 福村出版 2012年				
参考書（購入任意）	梅永雄二、島田博祐、森下由規子編著『みんなで考える特別支援教育』北樹出版 2019 橋本創一、三浦巧也、渡邊貴裕、尾高邦生、堂山亞希、熊谷 亮、田口禎子、大伴 潔編著『キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育』福村出版 2020年				



科 目 名	肢体不自由者の心理・生理・病理		担当教員名	田中 肇		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校（肢体不自由）教諭として実務経験を有する教員と医療型障害児入所施設の院長である医師が、肢体不自由児の心理・生理・病理及び支援について指導する科目					
学習到達目標	1 肢体不自由の主な起因疾患について説明することができる。 2 肢体不自由児の障害特性や健康管理について説明することができる。 3 肢体不自由児の支援について自分の考えを述べるができる。					
授業の概要	肢体不自由児への適切な支援をするために、肢体不自由児の障害特性や健康管理、肢体不自由の起因疾患、脳性麻痺等の病態に関する知識を習得する。					
授業の計画	1 肢体不自由とは 2 運動発達の仕組み 3 運動発達と障害 4 肢体不自由の起因疾患 5 脳性麻痺の病態と支援 6 神経・筋疾患の病態と支援 二分脊椎と筋ジストロフィー 7 療育支援の考え方 生活支援の重要性 8 肢体不自由児の障害特性（1） 視知覚と知能 9 肢体不自由児の障害特性（2） 行動特性と障害受容 10 肢体不自由児の健康管理 11 肢体不自由児のリハビリテーション 12 肢体不自由児の社会性 13 肢体不自由児のコミュニケーション 14 肢体不自由児の就学 15 肢体不自由児の支援					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	シラバスを参考に教科書の関係箇所を読み、基礎的な内容を理解すること。			90分	
	復習	講義の配布資料を基にノートを整理し、知識の定着を図ること。			90分	
授業の留意点	肢体不自由児に関する基本的な事項を学習する科目であるため、予習復習を十分に行い、積極的に取り組んでいただきたい。					
学生に対する評価	毎回のリアクションペーパー（30点）、2回のレポート（70点）により評価する。					
教科書（購入必須）						
参考書（購入任意）	新訂肢体不自由児の教育：放送大学教育振興会					

科 目 名	病弱者の心理・生理・病理		担当教員名	中澤 幸子・下村 遼太郎		
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校での教諭としての実務経験、医療機関における医師としての実務経験を基に、現場経験をを通して得られてきている知見を活用した実践的な講義内容。					
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病気の子どもの教育に携わる教員が必要とする、心理学・生理学・病理学に関する基礎的な知識について理解し、説明できる。</li> <li>・具体的な事象や事例から病弱者・障害者の心理特性や行動背景を理解し、当事者や家族への支援方法や内容について考えることができる。</li> <li>・病弱者の支援において、支援者が大切にすべき内容について説明することができる。</li> </ul>					
授 業 の 概 要	病弱教育が対象とする子どもに多くみられる疾患について、心理学・生理学・病理学的な観点から学び、理解を図ります。また、病気の子どもや家族の心理的特性と求められる心理的支援・配慮等について、具体的な事例を通して学びます。さらに、授業を通して、病気の子どもの支援で大切にすべきことについて考えていきます。					
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション / 病気の子どもの気持ち (中澤担当)</li> <li>2 健康、病気、障害の概念 (中澤担当)</li> <li>3 病気・障害の受容とセルフケア (中澤担当)</li> <li>4 病弱者・障害者の心理的特性 (中澤担当)</li> <li>5 病弱者・障害者と家族の支援 (中澤担当)</li> <li>6 教育・医療・保健・福祉等多職種による連携 (中澤担当)</li> <li>7 小児科の立場からみた正常発達、新生児疾患、先天異常 (下村担当)</li> <li>8 子どもの病気：感染症、予防接種 (下村担当)</li> <li>9 子どもの病気：循環器疾患、免疫・アレルギー性疾患 (下村担当)</li> <li>10 子どもの病気：消化器疾患、呼吸器疾患 (下村担当)</li> <li>11 子どもの病気：血液・腫瘍性疾患、代謝内分泌疾患 (下村担当)</li> <li>12 子どもの病気：腎泌尿器疾患、神経筋疾患 (下村担当)</li> <li>13 小児科の立場からみた発達障害、小児精神疾患、児童虐待 (下村担当)</li> <li>14 病弱者の支援における今日的課題 (中澤担当)</li> <li>15 まとめ / 病弱者の支援で大切なこと (中澤担当)</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	病弱教育が対象とする疾患及び病気の子どもに関する語句についての基礎的な理解を図る。			90分	
	復習	授業で課題が出された場合には、その課題について必ず取り組む。全ての授業において、配布された資料、授業のメモ等、授業内で提示された参考文献等を活用して、ノートを整理し、知識の定着を図る。			90分	
授 業 の 留 意 点	特別支援学校教員免許取得に関わる講義であることから、他の障害（知的障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、発達障害、等）についても理解を深めておきましょう。					
学 生 対 する 評 価	下村授業担当分 50点（定期試験 40点、授業への参加状況及び課題への取り組み状況 10点）、中澤担当授業分 50点（授業のまとめシート 15点、授業への参加状況及び課題への取り組み状況 15点、課題レポート 20点）、として、2名の教員の総合点（満点は100点）によって評価します。					
教 科 書 (購入必須)	適宜、資料を配布、もしくは視聴覚教材を使用する予定です。					
参 考 書 (購入任意)	小野次朗・西牧謙吾・榊原洋一編著：特別支援教育に生かす病弱児の心理・生理・病理 ミネルヴァ書房 ISBN:978-4623061532					

科 目 名	知的障害者教育課程論		担当教員名	郡司 竜平		
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校（知的障害）や小学校教員（支援級、通常級）の経験から得た教育課程編成の実際や仕組みを体系的に指導する科目					
学習到達目標	「特殊教育」から現在の「特別支援教育」に至る過程を理解しながら、今後の展望を見通すことを目的とする。特別支援教育の理念を十分に理解しながら、障害特性に応じた教育の計画と評価を可能とするために、国によって定められる「学習指導要領」に基づいて、各学校で編成される教育課程の意義と立案の際の留意点等について理解をしていく。					
授業の概要	知的障害を中心とする教育について、教育史、教育の目的及び教育形態の概要と、学校が教育的活動を計画し、実践する際のよりどころとなる教育課程の概要を理解する。 あわせて、近年のノーマライゼーションやインクルージョンの潮流に基づいた、制度・教育的変遷の意義と課題を概観する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 知的障害とは（イントロダクション） 認知、学習、生活、自立</li> <li>2 障害児教育の概要(1) 特別支援学校の教育の実際</li> <li>3 障害児教育の概要(2) 特別支援学級の教育の実際</li> <li>4 障害児教育の対象の拡大と教育の本質的課題 「生きる力」を中心に</li> <li>5 障害児教育の教育形態（特別支援学校、特別支援学級、通級学級）</li> <li>6 教育課程の概念と原理 国による法令と基準</li> <li>7 学習指導要領改訂の変遷と意義 社会背景と教育内容の整備</li> <li>8 教育課程の開発と編成 個別の教育支援計画、個別の指導計画</li> <li>9 各教科の指導</li> <li>10 領域の指導 自立活動</li> <li>11 各教科等を合わせた指導 生活単元学習、総合的な学習</li> <li>12 学習指導案の作成の視点 授業改善、授業評価</li> <li>13 チームティーチングの方法 授業計画、授業反省と教材開発</li> <li>14 教育制度と法令 学校制度、教科書、学級編制</li> <li>15 障害児教育の専門性と教師キャリア 地方公務員法、教育公務員特例法、服務、研修</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	シラバスを参考にテキストの関係箇所を読み、基礎的事項を理解すること。			90 分	
	復習	講義の配布資料やテキストを基にノートを整理し、知識の定着を図ること。			90 分	
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。					
学生に対する評価	講義におけるリアクションペーパー（30 点）、試験（70 点）により評価する。					
教科書（購入必須）	橋本創一他編著『特別支援教育の新しいステージ：5つのI（アイ）で始まる知的障害児教育の実践・研究』福村出版 2019					
参考書（購入任意）	橋本創一、三浦巧也、渡邊貴裕、尾高邦生、堂山亞希、熊谷 亮、田口禎子、大伴 潔編著『キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育』福村出版 2020年 特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編）					

科 目 名	知的障害者教育方法論		担当教員名	郡司 竜平		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校（知的障害）や小学校教員（支援級、通常級）の経験から得た教育内容を方法について体系的に指導する科目					
学習到達目標	知的障害を中心とする教育において、発達の諸相と障害特性についての理解を深め、効果的な指導方法を導き、その効果を評価－改善していくプロセス（Plan-Do-Check-Action）の意義と具体的な指導について理解を深める。					
授業の概要	知的障害のある子どもの生活や学習における困難さやニーズを理解し、適切に支援するための方法論として応用行動分析学の基本的理論や原理を中心に、それらを活用するための個別の指導計画の仕組みや授業や教材の工夫について学修する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 知的障害のある子どもの理解と教育</li> <li>2 行動観察とアセスメント</li> <li>3 知的障害教育における基本的な指導・支援方法について①</li> <li>4 知的障害教育における基本的な指導・支援方法について②</li> <li>5 知的障害教育における基本的な指導・支援方法について③</li> <li>6 応用行動分析学に基づく支援（1）行動分析の理論、行動の形成と強化</li> <li>7 応用行動分析学に基づく支援（2）課題分析と連鎖化</li> <li>8 自立活動と個別の指導計画の作成（1）</li> <li>9 自立活動と個別の指導計画の作成（2）</li> <li>10 授業の工夫と改善（1）各強化の指導</li> <li>11 授業の工夫と改善（2）各教科等を合わせた指導</li> <li>12 知的障害教育における ICT の活用について</li> <li>13 自閉スペクトラム症のある人の事例で学ぶ</li> <li>14 ダウン症のある人の事例で学ぶ</li> <li>15 知的障害のある人の自立と社会参加とは（まとめ）</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	シラバスを参考にテキストの関係箇所を読み、基礎的な内容を理解すること。			90分	
	復習	講義の配布資料やテキストを基にノートを整理し、知識の定着を図ること。			90分	
授業の留意点	ディスカッションを多数行うため、積極的に参加すること。					
学生に対する評価	毎回の講義におけるリアクションペーパー（30点）と期末レポート課題の結果（70点）により評価する。					
教科書（購入必須）	橋本創一他編著『特別支援教育の新しいステージ：5つのI（アイ）で始まる知的障害児教育の実践・研究』福村出版 2019					
参考書（購入任意）	特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説（総則等編） 特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編） 郡司竜平著『特別支援教育 ONE テーマブック ICT活用新しいはじめの一步』学事出版 2019					

科目名	聴覚障害者教育総論		担当教員名	庄司 和史		
学年配当	3年	単位数	1単位		開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	選択		資格要件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校（聴覚障害）教諭として実務経験のある教員が、子どもの実態把握に基づいた具体的な指導法について扱う科目					
学習到達目標	聴覚障害の概要について生理・病理の観点から学習し、聴覚障害教育の歴史・教育課程・指導方法・評価法などに関する基本的な事柄を理解することができる。また、聴覚障害者の発達や心理的特性に関する知識を習得し、実際の指導場面を想定した模擬授業案を作成することができる。					
授業の概要	聴覚障害の心理的特徴や学習上の困難を理解するために、簡単な疑似体験を行い、ディスカッションを通して学習する。また、ことばの指導に関するいくつかの方法について、実際の教材などを使いながら体験的に学習する。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 聴覚障害の生理及び病理① 聴覚障害の定義、聴覚の構造と障害</li> <li>2 聴覚障害の生理及び病理② 聴覚機能と聴覚障害、疾患と教育的配慮</li> <li>3 聴覚障害の心理特性と発達 コミュニケーション、社会性、学習</li> <li>4 障害の早期発見と早期療育 心理的支援、保護者支援、補聴器、人工内耳</li> <li>5 聴覚障害教育の歴史と制度 聾啞学校、ろう学校、口話、手話</li> <li>6 聴覚障害教育における教育課程と指導計画① 各教科の指導</li> <li>7 聴覚障害教育における教育課程と指導計画② 各領域の指導、自立活動</li> <li>8 授業の実際 「個別の指導計画」、学習指導案、まとめ</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	(1～4 に関して) 生活の中で音や言葉が聞こえないときに起こる困難を具体的に考え、聴くことの重要性についてまとめる。 (5～8 に関して) 幼児の様々な遊びの活動において言葉がどのように使われているか、また言葉が聞こえない幼児への代替手段を考える。			6時間 6時間	
	復習	(1～2 に関して) 耳の構造の略図を描き、主要な部位の名称を覚える。 (3～4 に関して) 難聴の早期発見・早期療育の意義をまとめる。 (5～8 に関して) 聴覚障害教育における自立活動（言語指導）の意義を確認し、学習指導案の作成に取り組む。			3時間 3時間 6時間	
授業の留意点	聴覚障害の疑似体験なども行うため、積極的に参加すること。 授業資料を事前に配付するので授業日前に目を通し、流れをつかんでおくこと。 全体の復習（まとめ）として授業の中で提示する視覚教材（絵話教材）を使い、それぞれ授業計画案を立てて、レポートとして提出すること。					
学生に対する評価	講義における小レポート（20点）、提示課題の取り組み状況（20点）、レポート課題（60点）により評価する。					
教科書（購入必須）						
参考書（購入任意）	宇田二良他編「特別支援教育免許シリーズ 聞こえの困難への対応」建帛社 2021					

科 目 名	障害児教育実習事前事後指導		担当教員名	郡司 竜平・奥村 香澄		
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校教諭として実務経験を有する教員が、その知識と経験を生かした演習を主として展開する科目					
学習到達目標	1 教育実習の意義や目的について説明することができる。 2 教育実習の内容を理解し、自らの課題を設定することができる。 3 学習指導案を作成することができる。 4 教育実習の総括と自己評価をし、新たな課題を設定することができる。					
授業の概要	教育実習に取り組むために、教育実習の意義や目的、流れを理解するとともに、指導案の作成をする。また、教育実習の学びを深めるために、教育実習で学んだことを教育実習報告会において発表と協議をする。					
授業の計画	1 教育実習の意義と目的 2 教育実習の流れと内容（必要な書類や手続き） 3 幼児児童生徒の実態把握 4 個別支援と集団による授業における指導計画の立て方 5 教科における指導案の作成 6 教科における指導案の改善 7 教科等を合わせた指導の指導案の作成 8 教科等を合わせた指導の指導案の改善 9 実習前の確認事項 10 教育実習報告会① 6・7月期間の実習者 11 教育実習報告会② 8・9月期間の実習者 12 教育実習報告会③ 10月期間の実習者 13 教育実習報告会④ 11月期間の実習者 14 教育実習報告会⑤ 12月期間の実習者 15 教育実習の振り返り					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	これまで履修した特別支援教育に関する授業科目の内容を理解しておくこと。			20分	
	復習	実習後は報告会で発表する内容をまとめておくこと。			25分	
授業の留意点	教育実習の意義や目的を理解し、教育実習に対する意欲を高めること。欠席・遅刻は十分に留意すること。					
学生に対する評価	提出物（30点）、教育実習報告会の発表（70点）					
教科書（購入必須）	必要に応じて資料を配布する。					
参考書（購入任意）						

科 目 名	障害児教育実習		担当教員名	郡司 竜平・奥村 香澄		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	特別支援：必修
対応するディプロマ・ポリシー	4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	特別支援学校教諭として実務経験を有する教員が、教育実習生への指導経験を生かした指導をする科目					
学習到達目標	1 特別支援学校の役割や機能について説明することができる。 2 障害児の指導方法及び保護者への支援方法を身に付けることができる。 3 特別支援学校教諭の業務内容や職業倫理について説明することができる。					
授業の概要	障害領域に対応した指導力を身に付けるために、特別支援学校での実習を通して、対象幼児児童生徒の実態把握、指導案の作成、教材研究、研究授業をする。					
授業の計画	1 当該障害種における教育の概要（講義及び見学、活動参加実習）と教師の専門性及び服務 2 幼稚部から高等部及び専攻科を通した教育の一貫性と自立支援の実際（講義及び見学） 3 各教科等の授業参観 4 配属学級における学級経営の視点と方法 5 幼児児童生徒の実態把握 6 個別の指導計画と学級経営を基盤とした指導計画の作成 7 各教科等の指導計画の作成と教材研究 8 実習授業 9 研究授業 10 実習のまとめ					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	これまでの学習の成果を活用し、積極的な態度で取り組むこと。欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。					
学生に対する評価	学習指導、生活指導、幼児児童生徒理解、実習態度について実習校担当者が評価した評価表（80点）と実習日誌の記載内容（20点）で評価する。					
教科書（購入必須）						
参考書（購入任意）						

科 目 名	保育指導論演習		担当教員名	棚橋 裕子		
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。</p> <p>4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	幼稚園教諭としての経験をもつ教員が、幼稚園教育における幼児理解、保育記録の意義の理解と作成、全体計画の作成、指導の方法と内容について、演習や指導案作成、発表を通して幼稚園教諭としての指導法、技法等を修得させる科目					
学習到達目標	<p>1. 「保育指導論」での学修を踏まえ、子どもの発達を促す教育方法について実践的な力量を身につける。</p> <p>2. 子どもの実態に即した適切な指導・援助のあるべき方法について、事例検討や演習を通して自ら考えられる力量を身につける。</p>					
授業の概要	保育指導論で学んだ知識をさらに深めるため、いくつかの事例についてグループワークやディスカッションを通して、その理解を確かなものにする。討議にあたっては、根拠・基準が何であるかを明確にしてその実践が適切な指導方法であるかどうかについて再考する。幼児教育のカリキュラムデザインについて、討議や演習を通し実践的な理解を深める。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 保育指導論での学びの確認</li> <li>2 保育3法令と保育内容</li> <li>3 保育における環境の意義① 子どもの主体性と環境のつながり</li> <li>4 保育における環境の意義② 子どもが遊び込むための環境設定</li> <li>5 保育における環境の意義③ 遊びがひろがる環境設定</li> <li>6 子ども理解に基づく保育① 実践記録に学ぶ</li> <li>7 子ども理解に基づく保育② 子どもの経験と援助のつながり</li> <li>8 記録の意義と内容① 写真や映像を通して子どもの経験を捉える</li> <li>9 記録の意義と内容② 保育における ICT の活用</li> <li>10 記録の意義と内容③ 保育記録の作成</li> <li>11 記録の意義と内容④ 保育記録作成の振り返り</li> <li>12 保育計画の作成と保育展開① 模擬保育に向けて</li> <li>13 保育計画の作成と保育展開② 模擬保育</li> <li>14 保育計画の作成と保育展開③ 模擬保育の振り返り</li> <li>15 まとめ 子ども理解と保育者の役割についての振り返り</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	事前に各自でシラバスを確認の上、必要な情報について調べたり収集したりしておくこと。			45分	
	復習	各自、またはグループで振り返りを行い、必要な情報についてまとめたり共有したりすること。				
授業の留意点	受講者の関心動向によって、内容構成や順序等の変更がある場合がある。また、PCを使用する場合があるため、可能であれば準備をして臨むこと。その際は、メールにて事前連絡を行う。					
学生に対する評価	授業内レポート20点、期末レポート60点、グループワーク等における積極的姿勢20点					
教科書 (購入必須)	幼稚園教育要領解説『フレーベル館』 その他、適宜資料を配布する。					
参考書 (購入任意)						



科 目 名	家庭支援実践演習		担当教員名	傳馬 淳一郎		
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択
対応するディプロマ・ポリシー	4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保育士及び児童厚生員（児童館、学童保育）の経験を持つ教員が、地域での子育て支援や保育所等での保護者支援についての知識や方法について事前に講義し、子育て支援の場に演習として参加する。現場の保育士から子育て支援における保育者の役割について指導を受け、実際の親子に関わりながら家庭支援における保育士の役割を経験的に学ぶ演習科目					
学習到達目標	(1) 子育て家庭を取り巻く社会的状況を理解する。 (2) 子育ての実際に触れながら、保育士による子育て支援を理解する。 (3) 地域のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携の実際を学ぶ。 (4) 地域子育て支援センターなど家庭支援の実際に触れながら、保育士の役割と専門性について学ぶ。					
授業の概要	家庭支援は保育所のみが行うものではなく、地域には様々な取り組みがある。保育士は、時にそれらをコーディネートする役割をもつ。この演習科目では、フィールドワークを行い、名寄地域での取り組みから家庭支援のあり方を実践的に学ぶ。					
授業の計画	1 オリエンテーション 2 名寄市における子育て支援の実際 3 家庭支援の実際と保育士の役割 4 演習：フィールドワーク（1）子育て支援センターの実際、保育士の役割を知る 5 演習：フィールドワーク（2）親子の実際を知る 6 「子育て家庭の実際」と「子育て支援センターの実際」の日誌作成と振り返り 7 演習に向けての準備①フィールドワークの振り返りと課題整理 8 演習に向けての準備②コミュニケーション演習 9 演習：フィールドワーク（3）環境設定 10 演習：フィールドワーク（4）保護者とのコミュニケーション 11 「環境設定」と「保護者とのコミュニケーション」の日誌作成と振り返り 12 演習：フィールドワーク（5）保護者との関係づくり 13 演習：フィールドワーク（6）子育て支援をイメージしたかかわり 14 「保護者との関係づくり」と「子育て支援をイメージしたかかわり」の日誌作成と振り返り 15 演習の振り返りとまとめ～家庭支援における保育者の役割と専門性～					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	必修科目「子ども家庭支援論」で学んだ内容を振り返り、演習に備える。			90分	
	復習	記録（日誌）を作成して振り返る。			90分	
授業の留意点	講義、演習、実習を含め主体的に参加することを求めます。現場（主に地域子育て支援センター）での演習を行うため、日程の調整があります。子育て支援拠点等の子育てに関する社会資源について、事前学習を行ってください。フィールドワーク後は、各自日誌による振り返りを行い、提出を求めます。					
学生に対する評価	演習後の日誌（振り返り）提出（20点×3回）と期末レポート（40点）で評価する。					
教科書（購入必須）	井村圭壯・相澤譲治編著『保育と家庭支援論』学文社 ※子ども家庭支援論と共通					
参考書（購入任意）	中島常安・清水玲子編著『事例から見える 子どもの育ちと保育』同文書院					

科 目 名	教育実習指導		担当教員名	棚橋 裕子・高島 裕美		
学 年 配 当	3年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	<p>3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。</p> <p>4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。</p>					
実務経験及びそれに関わる授業内容	幼稚園教諭としての経験をもつ教員が、幼稚園教育における幼児理解、保育記録の意義の理解と作成、全体計画の作成、指導の方法と内容、保護者支援等について、演習や指導案作成、発表を通して教育実習（幼稚園）の実践に備えるための内容・方法等を修得させる科目					
学習到達目標	<p>1. 教育実習の意義・目的を理解する。</p> <p>2. 実習の内容を理解しし、自らの課題を明確にする。</p> <p>3. 実習園における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。</p> <p>4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価、の方法や内容について具体的に理解する。</p> <p>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。</p>					
授業の概要	幼稚園教諭としての基礎的な知識や技能、態度等を身に付けるため、実践に即した教材を通して学ぶ。事前指導では、幼稚園教育要領に基づき、幼稚園の機能や目的、保育者の役割等についての理解を深め、保育の内容や指導計画等、実践に向けた準備を行う。事後指導においては、実習の評価、反省を通して、個々の課題を明確化する。その際、グループワークを通して、専門的視点を養う。また、学びの集大成として実習報告会を行う。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、教育実習の意義と目的</li> <li>2 教育実習に必要な視点と心構え</li> <li>3 様々な事例に基づいた援助の多様性と保育者の役割</li> <li>4 実習日誌と記録の書き方～全体の流れ、手順、PCの使用について～</li> <li>5 実習日誌と記録の書き方～グループワーク～</li> <li>6 保育における指導計画、指導案の位置づけ</li> <li>7 指導計画、指導案の作成と保育の展開～事例を通して～</li> <li>8 指導計画、指導案の作成と保育の展開～発表～</li> <li>9 実習に関する諸手続き・直前指導</li> <li>10 教育実習後の振り返りと学びのおさえ、まとめに向けて</li> <li>11 教育実習の振り返り～まとめの要点の確認～</li> <li>12 教育実習の振り返り～グループワーク 1～</li> <li>13 教育実習の振り返り～グループワーク 2～</li> <li>14 教育実習報告会（前半）</li> <li>15 教育実習報告会（後半）</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	幼稚園教育要領、並びに授業に必要なテキストを読み授業に備える。			45分	
	復習	授業内容を振り返り、まとめる。				
授業の留意点	<p>実習指導は、実習と同等に位置付けているため、欠席・遅刻をしないようにする。</p> <p>なお、実習実施に関しては別途「教育実習および保育実習の実施要件」を定めている（初回オリエンテーションにて説明）。要件に満たない場合は、実習を実施できない場合があるので注意すること。</p> <p>予習：事前に必要な情報についてまとめておくこと。</p> <p>復習：学んだことを各自でまとめておくこと。</p>					
学生に対する評価	提出物 50%、講義に臨む姿勢 50%（グループワーク・ディスカッション等）					
教科書（購入必須）	<p>（保育実習指導と共通）</p> <p>『幼稚園教育要領解説』フレーベル館</p> <p>大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『新しい講座 12 保育・教育実習』ミネルヴァ書房</p> <p>小櫃 智子編著・田中 君枝他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社</p>					
参考書（購入任意）						

科目名	保育実習 I		担当教員名	傳馬 淳一郎・及川 智博・鈴木 勲・小山 貴博		
学年配当	3年	単位数	4単位		開講形態	実習
開講時期	通年	必修選択	選択		資格要件	保育士：必修
対応するディプロマ・ポリシー	4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保育所で実習を行い、現場の保育士から指導を受けながら保育の専門性を身に付け、講義での理論と実践の統合を目指す実習科目					
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設等（保育所および保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解する。</li> <li>2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもの理解を深める。</li> <li>3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について学ぶ。</li> <li>4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。</li> <li>5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。</li> </ol>					
授業の概要	児童福祉施設等（保育所、居住型児童福祉施設等または障がい児通所施設等）で所定の期間実習を行う。児童福祉施設等の役割や機能、子どもの理解、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。職員間の役割と連携について学ぶ。記録を通じて省察し、自己評価する。子ども家庭福祉や社会的養護の理解を深める。					
授業の計画	<p>&lt;保育実習&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育所の役割と機能（保育所保育士指針の理解と保育の展開）</li> <li>2 子ども理解（1）子どもの観察とその記録による理解（2）子どもの発達の理解と援助</li> <li>3 保育内容・保育環境（1）保育の計画に基づく保育内容（2）子どもの発達過程に応じた保育内容（3）子どもの生活や遊びと保育内容（4）子どもの健康と安全</li> <li>4 保育の計画、観察、記録（1）保育課程と指導計画の理解と活用（2）記録に基づく省察・自己評価</li> <li>5 専門職としての保育士の役割と職業倫理（1）保育士の業務内容（2）職員間の役割分担や連携（3）保育士の役割と職業倫理</li> </ol> <p>&lt;居住型児童福祉施設等及び障がい児通所施設等における実習&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能</li> <li>2 子どもの理解（1）子どもの観察とその記録（2）個々の状態に応じた対応</li> <li>3 養護内容・生活環境（1）計画に基づく活動や援助（2）子どもの心身の状態に応じた対応（3）子どもの活動と生活環境（4）健康管理、安全対策の理解</li> <li>4 計画と記録（1）支援計画の理解と活用（2）記録に基づく省察・自己評価</li> <li>5 専門職としての保育士の役割と倫理（1）保育士の業務内容（2）職員間の役割分担や連携（3）保育士の役割と職業倫理</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。各実習先の留意事項を順守すること。					
学生に対する評価	実習先からの評価 40 点、学内評価（日誌の提出、報告会での報告、報告書の提出）40 点、レポート課題 20 点。					
教科書（購入必須）	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『保育・教育実習』ミネルヴァ書房※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ 全国保育士養成協議会北海道ブロック編著『保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）』 蒲田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社 （※幼稚園教育実習指導と共通）					
参考書（購入任意）	全国保育士養成協議会編者『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房 小野澤昇・田中利則編者『福祉施設実習ハンドブック』ミネルヴァ書房					

科目名	保育実習指導 I		担当教員名	傳馬 淳一郎・及川 智博・鈴木 勲・小山 貴博		
学年配当	3年	単位数	2単位		開講形態	実習
開講時期	前期	必修選択	選択	資格要件	保育士：必修	
対応するディプロマ・ポリシー	4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保育士の経験を持つ教員が、子どもの育ちを支える保育者としての知識や方法について指導し、保育所実習に関する事前事後指導を行う科目					
学習到達目標	1. 保育実習（保育所および保育所以外の児童福祉施設等）の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 児童福祉施設等における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通じて実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習を明確にする。					
授業の概要	保育実習の目的および内容の理解、保育所・児童福祉施設等の理解、保育所保育指針の理解、必要な保育技術の習得をその内容とする。実習先の決定にいたるまでの手続とその指導も行う。また、事後指導では、実習の総括や評価をもとに、課題を明確にし、学内での学修との統合を図る。					
授業の計画	保育実習指導 I 保育所		保育実習指導 I 施設			
	1 保育実習の概要		1 施設実習 I の目的と概要			
	2 保育実習 I 保育所の目的と概要		2 児童福祉施設等（保育園以外）の予備知識希望調査			
	3 保育実習の意義・目的・内容の理解		3 児童福祉施設等（保育園以外）の理解（児童養護施設、乳児院）			
	4 保育所・認定こども園の理解と実習内容（実習の段階、子ども理解など）		4 児童福祉施設等（保育園以外）の理解（障害児者関係等）			
	5 プライバシーの保護と守秘義務		5 児童福祉施設等（保育園以外）での実習内容と課題			
	6 実習に向けての心構え（服装、挨拶、ネット利用など）		6 児童福祉施設等（保育園以外）の記録と心構え			
	7 実習記録の意義・方法の理解（日誌の記入など）		7 子どもの人権と子どもの最善の利益の考慮			
	8 保育計画、保育指導の理解（園の保育計画、カリキュラムなど）		8 プライバシーの保護と守秘義務			
	9 実習施設（保育所・認定こども園）の理解		9 実習計画作成 実習配属先決定回答書の指示事項確認			
	10 実習に関する諸手続き（個人票の作成、検便・健診などの確認）		10 事後指導 個人の振り返り			
	11 実習課題の明確化・直前指導（欠席等の連絡方法、訪問指導などについて）		11 事後指導 グループでの振り返り			
	12 事後指導 実習内容の振り返り		12 事後指導 礼状 日誌 レポート 自己評価 アンケート等			
	13 事後指導 評価の確認（自己評価と園評価）		13 事後指導 評価の確認			
	14 事後指導 課題の整理		14 事後指導 課題の整理			
	15 実習総括		15 実習総括			
授業の予習・復習の内容と時間	予習	実習指導の予習および復習として、指定された課題および実習園とのやり取りに努めるなどして、各自が責任を持って実習への準備を進めていくこと。			45分	
授業の留意点	実習指導は、実習と同等に位置付けているので、欠席・遅刻は十分に留意すること。					
学生に対する評価	実習先理解の事前学習 20点、事前指導課題（実習計画書） 30点、事後指導課題（日誌の提出、自己課題の提出、報告書の提出） 50点。					
教科書（購入必須）	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『保育・教育実習』ミネルヴァ書房※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ 全国保育士養成協議会北海道ブロック編著『保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）』 蒲田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社 （※幼稚園教育実習指導と共通）					
参考書（購入任意）	全国保育士養成協議会編者『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房 小野澤昇・田中利則編者『福祉施設実習ハンドブック』ミネルヴァ書房					

科 目 名	保育実習Ⅱ		担当教員名	傳馬 淳一郎・及川 智博		
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択必修
対応するディプロマ・ポリシー	4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保育所で実習を行い、現場の保育士から指導を受けながら保育の専門性を身に付け、講義での理論と実践の統合を目指す実習科目					
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割や機能について実践を通して理解を深める。</li> <li>2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもの理解を深める。</li> <li>3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援や地域への子育て支援について総合的に学ぶ。</li> <li>4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。</li> <li>5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。</li> <li>6. 保育士としての自己課題を明確にする。</li> </ol>					
授業の概要	保育所で所定の期間実習を行う。保育所の役割や機能、子どもの理解、保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める。保育実習Ⅰでの課題を踏まえながら、指導計画の作成、実践、評価を通して保育士としての実践力を養う。実習のまとめ、評価を通して、保育士としての自己課題を明確にする。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育所の役割や機能の具体的展開</li> <li>2 観察に基づく保育理解 (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 生活の流れや展開の把握と保育士等の支援</li> <li>3 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者及び地域の子育て家庭への支援</li> <li>4 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価</li> <li>5 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理</li> <li>6 自己課題の明確化</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。各実習先の留意事項を順守すること。					
学生に対する評価	実習先からの評価 40 点、学内評価（日誌・指導案の提出、報告会での報告、報告書の提出）40 点、レポート課題 20 点。					
教科書（購入必須）	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『保育・教育実習』ミネルヴァ書房※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ （※保育実習指導Ⅰと共通）					
参考書（購入任意）	全国保育士養成協議会編者『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房					

科 目 名	保育実習指導Ⅱ		担当教員名	傳馬 淳一郎・及川 智博		
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択必修
対応するディプロマ・ポリシー	4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	保育士の経験を持つ教員が、子どもの育ちを支える保育者としての知識や方法について指導し、保育所実習に関する事前事後指導を行う科目					
学習到達目標	1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					
授業の概要	保育実習の目的・目標および内容の理解、必要な保育技術の習得等、総合的に学ぶ。保育実習Ⅰでの課題を踏まえながら、子ども理解、子育て支援など、保育士の専門性と職業倫理について理解し保育実践力を養う。事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					
授業の計画	1 保育実習Ⅱの目的と概要 2 保育所・認定こども園での実習内容（実習の段階、子ども理解、保護者支援など） 3 子どもの最善の利益と保育 4 地域社会との連携・子育て支援の事例検討 5 実習に向けての心構え（プライバシーの保護、守秘義務、服装、挨拶など） 6 実習記録の意義・方法（日誌の記入など） 7 保育計画、保育指導の理解 その1（園の保育計画、カリキュラムなど） 8 保育計画、保育指導の理解 その2（指導案の作成） 9 保育計画、保育指導の理解 その3（模擬保育） 10 保育計画、保育指導の理解 その4（指導案の作成と模擬保育の振り返り） 11 実習課題の明確化（欠席等の連絡方法、訪問指導などについて） 12 事後指導 礼状、日誌、レポート、自己評価（事務確認を含む実習内容の振り返りなど） 13 事後指導 評価の確認（自己評価と園評価との検討から今後の実習課題の検討） 14 事後指導 課題の整理 15 実習総括					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	実習指導の予習および復習として、指定された課題および実習園とのやり取りに努めるなどして、各自が責任を持って実習への準備を進めていくこと。			45分	
授業の留意点	復習					
学生に対する評価	実習先理解の事前学習 20点、事前指導課題（実習計画書） 30点、事後指導課題（日誌・指導案の提出、自己課題の提出、報告書の提出） 50点。					
教科書（購入必須）	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平編著『保育・教育実習』ミネルヴァ書房※ 小櫃智子編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社※ （※保育実習指導Ⅰと共通）					
参考書（購入任意）	全国保育士養成協議会編者『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房					

科 目 名	保育実習Ⅲ		担当教員名	鈴木 勲・小山 貴博		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択必修
対応するディプロマ・ポリシー	4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	児童養護施設等での実務経験を有する教員が、児童福祉施設等の役割や機能を理解し、実践的な学びについて指導する科目					
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解を深める。</li> <li>2. 子どもの施設利用に至る経過について、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、子ども支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。</li> <li>3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。</li> <li>4. 保育士としての自己の課題を明確化する。</li> </ol>					
授業の概要	児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について実践を通して学び、保育士としての専門性、自己の課題を明確化する。また、子どもの日常生活やケースファイル等を通して施設入所に至る背景や生育史及び現状を理解し、子ども支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。保育実習Ⅰ（施設実習）を踏まえてさらに深める。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能</li> <li>2 施設における支援の実際 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 受容し、共感する態度</li> <li>(2) 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解</li> <li>(3) 個別支援計画の作成と実践</li> <li>(4) 子どもの家族への支援と対応</li> <li>(5) 多様な専門職との連携</li> <li>(6) 地域社会との連携</li> </ol> </li> <li>3 保育士の多様な業務と職業倫理</li> <li>4 保育士としての自己課題の明確化</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習					
	復習					
授業の留意点	実習は、社会人としての一歩であり、社会で求められる姿が必要である。したがって、欠席・遅刻に関しては十分に留意すること。各施設の留意事項を順守すること。					
学生に対する評価	実習先での評価 50 点、提出物 50 点					
教科書（購入必須）	浦田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社					
参考書（購入任意）	全国保育士養成協議会北海道ブロック編著『保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）』					

科 目 名	保育実習指導Ⅲ		担当教員名	鈴木 勲・小山 貴博		
学 年 配 当	4年	単 位 数	1単位		開 講 形 態	実習
開 講 時 期	通年	必修選択	選択		資 格 要 件	保育士：選択必修
対応するディプロマ・ポリシー	4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身に付け、他者とのより良い関係を構築できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	児童相談所等での実務経験を有する教員が、児童福祉施設等の役割や機能を理解し、実践的な学びについて指導する科目					
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。</li> <li>2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。</li> <li>3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。</li> <li>4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。</li> <li>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。</li> </ol>					
授業の概要	児童福祉施設等(保育所以外)の基本的な理解、実習の目的・目標および内容の理解、必要な保育技術の習得等、総合的に学ぶ。実際に居住型児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解、施設機能と保育士の専門性と職業倫理について理解し保育実践力を養う。実習の事後指導には、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 施設実習Ⅲのあり方</li> <li>2 児童福祉施設（保育園以外）の予備知識 希望調査</li> <li>3 児童福祉施設（保育園以外）の概要（児童養護施設、乳児院）について事例等を通して学ぶ</li> <li>4 児童福祉施設（保育園以外）の概要（障害児者関係等）について事例等で学ぶ</li> <li>5 児童福祉施設（保育園以外）での実習内容</li> <li>6 児童福祉施設（保育園以外）の記録と心構え</li> <li>7 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践</li> <li>8 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解</li> <li>9 子どもの状態に応じた適切なかわり</li> <li>10 保育士の専門性と職業倫理</li> <li>11 実習前最終確認</li> <li>12 事後指導 礼状 日誌 レポート 自己評価 アンケート等の確認</li> <li>13 第事後指導 評価の確認</li> <li>14 事後指導 課題の明確化</li> <li>15 実習総括</li> </ol>					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	児童福祉施設等に関心を持ち、施設入所児童の支援のあり方について、自分なりの考えをまとめておく			20分	
	復習	講義の内容を振り返り、自分なりの考えをまとめておく			25分	
授業の留意点	実習指導は、実習と同等に位置付けているので、欠席・遅刻は十分に留意すること。対面、場合によっては遠隔。					
学生に対する評価	講義内での課題 50 点、その他の提出物 50 点					
教科書（購入必須）	浦田雅夫編著『考え、実践する施設実習』保育出版社					
参考書（購入任意）	全国保育士養成協議会北海道ブロック編著『保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）』					



科 目 名	教職・保育実践演習		担当教員名	石本啓一郎・及川智博・鹿嶋桃子・菊池稔・高島裕美・ 棚橋裕子・傳馬淳一郎・堀川真・三国和子・三井登		
学 年 配 当	4年	単 位 数	2単位		開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修		資 格 要 件	保育士：必修・幼稚園：必修
対応するディプロマ・ポリシー	1. 社会的視野から子どもの育ちや権利に関する諸課題を発見し、その解決に向けたリーダーシップを発揮できる。 2. 多様な子どもに関して理解し、様々な困難を抱えながら育つ子どもを支援する技能を身につけている。 3. 子どもに向き合い、子どもに寄り添うことのできる、たくましくしなやかな身体と感性、フレキシビリティを備えている。 4. 子ども・家庭支援の基礎となるコミュニケーション能力を身につけ、他者とのより良い関係を構築できる。 5. 地域において子どもに関わる多職種間の連携・協働におけるパートナーシップを実践できる。					
実務経験及びそれに関わる授業内容	幼稚園教諭としての実務経験を活かし、実践的な演習を行う科目。					
学習到達目標	1年次から4年次までの学修内容を省察することで、教員および保育者として必要な専門性を確認すると同時に、引き続き、生涯学習として取り組んでいく自分なりの課題を明確化する。					
授業の概要	フィールドワークをとおして現場の実践者と語り合う会、学生主体による「シンポジウム」の開催といった多彩な演習に挑戦することで、これまでの学修内容を振り返り、自らが卒業以降も取り組んでいく・検討していくことが求められる生涯学習としての課題を発見していく。 さらに、教員および保育者として求められる4つの事項（①教育者としての使命感や責任感 / ②社会性や対人関係能力 / ③子ども理解やクラス経営、また職員・地域・家庭との連携 / ④教科・保育内容等の指導力）について、全15回を通じて総合的に学修する。					
授業の計画	1 インTRODクシヨンー4年間の学修を捉えなおす講義としてー 2 「社会保育」を考える（1）ー領域横断講義 社会編ー 3 「社会保育」を考える（2）ー領域横断講義 臨床編ー 4 幼児理解のあり方を再考する 5 家庭・地域との連携を再考する 6 児童養護に携わる職員と語りあう 7 保育・幼児教育に携わる職員と語りあう 8 保育と地域とのつながりを考える（1）ーフィールドワーク事前準備ー 9 保育と地域とのつながりを考える（2）ーフィールドワークー 10 保育と地域とのつながりを考える（3）ーフィールドワーク総括ー 11 4年間の学びを振りかえる（1）ーシンポジウム企画ー 12 4年間の学びを振りかえる（2）ーシンポジウム事前準備ー 13 4年間の学びを振りかえる（3）ー4年生最終シンポジウム 1日目ー 14 4年間の学びを振りかえる（4）ー4年生最終シンポジウム 2日目ー 15 活動・学修内容のまとめ					
授業の予習・復習の内容と時間	予習	予習・復習として、ワークシート（冊子）が位置付く。予習として、各回の活動に臨むのに先立って、活動のねらいや自分なりの課題を、ワークシートへの記載をとおしてあらかじめ明確にしておく。			90分	
	復習	復習として、各回の活動をとおして新たに身に付けたことや克服した課題についてワークシートに記載し、振り返りとする。			90分	
授業の留意点	・グループディスカッションやフィールドワークなどを伴うので、欠席・遅刻をしないよう十分に留意すること。 ・これまでの4年間の学修内容について、自ら振り返ろうとする主体的な受講態度が求められる。					
学生に対する評価	各回の活動・学修内容まとめワークシート（80点）、グループでの活動・学習内容まとめ提出課題（各10点）					
教科書（購入必須）	指定しない。					
参考書（購入任意）	各内容に応じて、その都度指示・提示する。					